令和２年度

第３回水戸市社会福祉審議会高齢福祉専門分科会　次第

日　時　令和２年 10 月 22 日（木）午後２時 00 分～
場　所　水戸市役所　４階　政策会議室

１　開　会

２　議　事

（１）報告事項
・各種調査結果について
・各種ヒアリングの実施状況について
（２）協議事項
・高齢者福祉の現状と課題を踏まえた今後の施策のあり方について
（３）その他

３　閉　会

配布資料

次　第

社会福祉審議会高齢福祉専門分科会委員名簿

資料①－１　水戸市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果報告書

資料①－２　在宅介護実態調査の集計結果

資料①－３　令和元年度水戸市介護人材の確保に関する事業所実態調査結果報告書

資料②　各種ヒアリングの実施状況について

資料③　高齢者福祉の現状と課題を踏まえた今後の施策のあり方について

水戸市社会福祉審議会　高齢福祉専門分科会　委員名簿

	団体名	役職名	氏　名
1	水戸市医師会	会長	原　毅
2	水戸市歯科医師会	委員	薄井　稔
3	水戸薬剤師会	会長	奥田　猛
4	茨城県看護協会	常任理事	中島　貞子
5	茨城県介護支援専門員協会	理事	伊藤　正
6	水戸市社会福祉協議会	常務理事	磯崎　和廣
7	水戸市民生委員児童委員連合協議会	副会長	坂口　しづ子
8	水戸市高齢者クラブ連合会	副会長	江幡　弘
9	水戸市老人福祉施設連絡会	理事長	武藤　邦彦
10	水戸市地域密着型介護サービス協議会	理事長	安藏　秀彦
11	水戸市住みよいまちづくり推進協議会	副会長	川又　一郎
12	水戸市地域女性団体連絡会	副会長	岩間　けい子
13	水戸商工会議所　女性会	会長	鈴木　律子
14	水戸女性フォーラム	副会長	豊田　光恵
15	三の丸こだまの会	副会長	池田　清美
16	茨城大学人文社会科学部	講師	土屋　和子
17	水戸市議会	議員	土田　記代美
18	水戸市議会	議員	袴塚　孝雄
19	一般公募		梅井　尚美
20	一般公募		杉下　赫子

第３回水戸市社会福祉審議会
高齢福祉専門分科会資料①-1
令 和 ２ 年 １０ 月 ２２ 日
水戸市高齢福祉課・介護保険課

水戸市
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
【結果報告書】

令和２年３月

水　戸　市

目　次

第Ⅰ部　調査の概要 1

１．調査概要 3

第Ⅱ部　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果 5

★　調査票を記入されたのはどなたですか 7
１．あなたのご家族や生活状況について 8
２．からだを動かすことについて 16
３．食べることについて 27
４．毎日の生活について 37
５．地域での活動について 55
６．たすけあいについて 65
７．健康について 73
８．認知症にかかる相談窓口の把握について 81
９．成年後見制度について 83

第Ⅲ部　生活機能判定結果 85

１．介護予防のための生活機能判定結果 87
２．その他の生活機能判定 98

第Ⅳ部　資料編（使用した調査票） 105

第Ⅰ部　調査の概要

1. 調査概要

（1）調査の目的

本調査は、「からだを動かすこと」や「食べること」「地域での活動」などの高齢者の生活実態や健康・社会活動に関する状況を、日常生活圏域ごとに把握することにより、地域の課題を抽出し、本市の介護予防に関する取り組みを評価することを目的とします。

あわせて、「(仮称) 水戸市第８期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の基礎資料として 活用することも目的としています。

（2）調査対象者

調査種別	対象
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	・65 歳以上の要介護認定を受けていない高齢者 ・介護予防・日常生活支援総合事業対象者 ・要支援認定者

（3）調査方法と調査期間

調査方法：郵送配布、郵送回収

調査期間：令和元年 12 月４日～令和２年１月 20 日

（4）回収結果

調査区分	配布件数	回収件数	回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	3,000	2,308	76.9%

（5）日常生活圏域別　回収結果

圏域	配布件数	回収件数	回収率
中央	394	292	74.1%
東部	405	306	75.6%
南部第一	360	281	78.1%
南部第二	414	318	76.8%
北部	385	302	78.4%
西部	383	294	76.8%
常澄	321	226	70.4%
内原	338	252	74.6%
不明		37	
合計	3,000	2,308	76.9%

（６）報告書をみる際の注意点

○調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点第２位を四捨五入して小数点第１位までを示しているため、その合計値が 100%にならない場合があります。

○図表中の「ｎ」とは、その設問の回答者数を表しています。

○複数回答の設問の場合、回答比率の合計は 100%を超える場合があります。

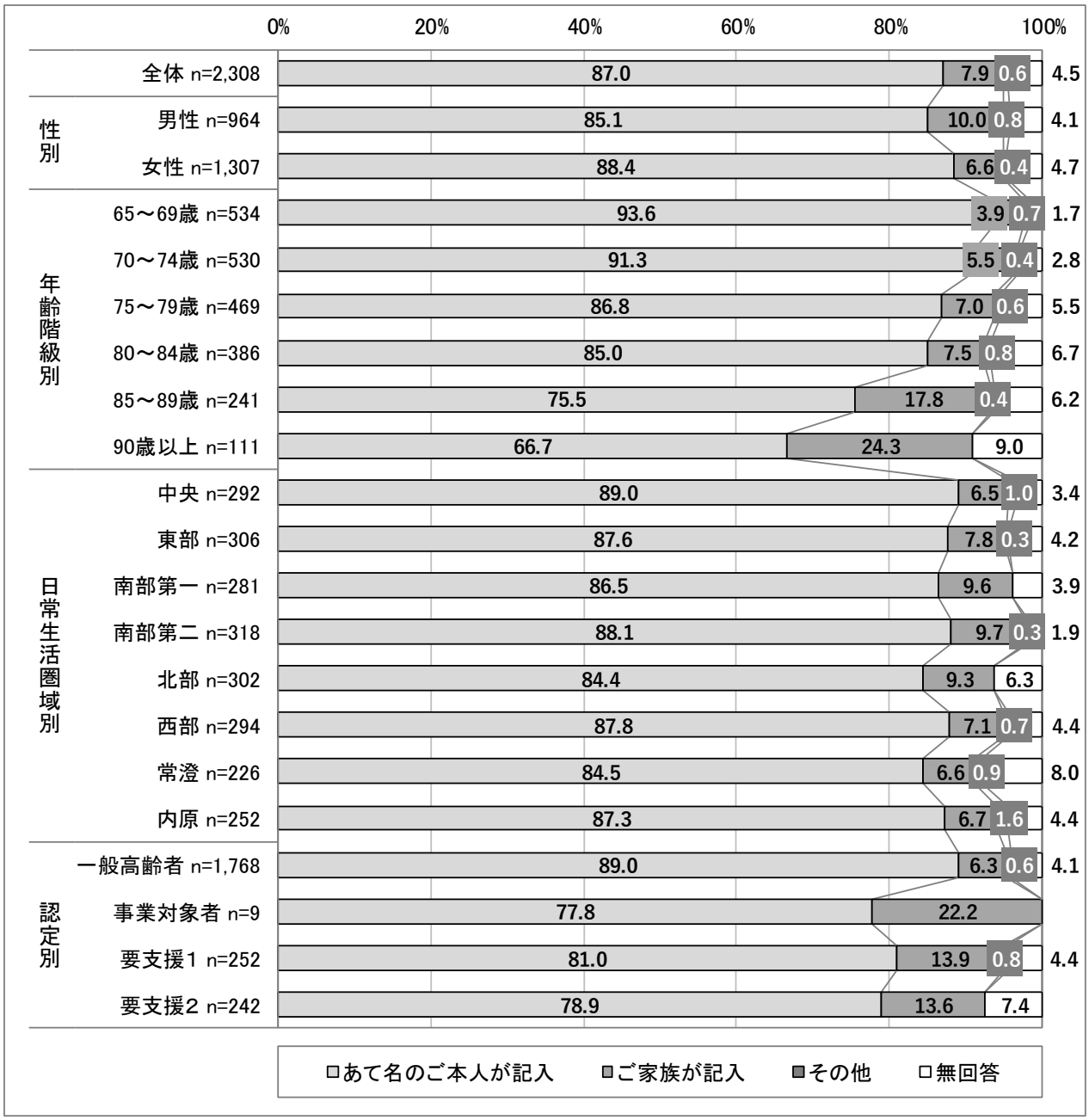
○グラフは、見やすさを確保するため、数値の掲載を割愛している場合があります。

第Ⅱ部　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

★ 調査票を記入されたのはどなたですか

調査票に回答した方については、全体では「あて名のご本人が記入」が 87.0%で最も高くなっています。

年齢階級別でみると、年齢が上がるとともに「あて名のご本人が記入」が減少しています。



1．あなたのご家族や生活状況について

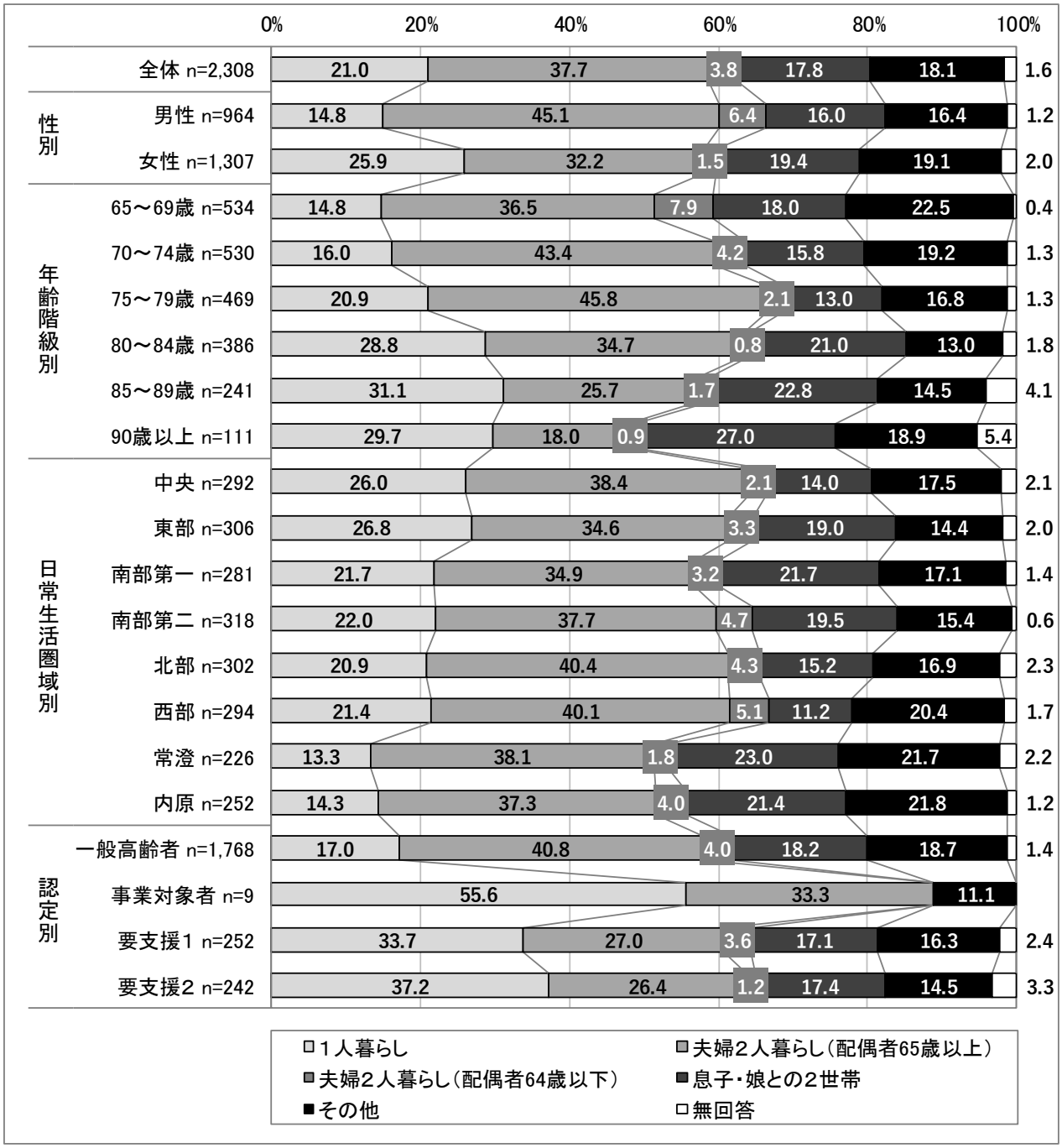
Q1．家族構成を教えてください（1つのみ）

家族構成については、全体では「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 37.7%で最も高く、次いで「１人暮らし」が 21.0%、「その他」が 18.1%、「息子・娘との２世帯」が 17.8%となっています。

性別でみると、「１人暮らし」は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、年齢が上がるとともに、「１人暮らし」が増加しています。

日常生活圏域別でみると、中央及び東部で「１人暮らし」の割合が他の圏域と比べて高くなっています。

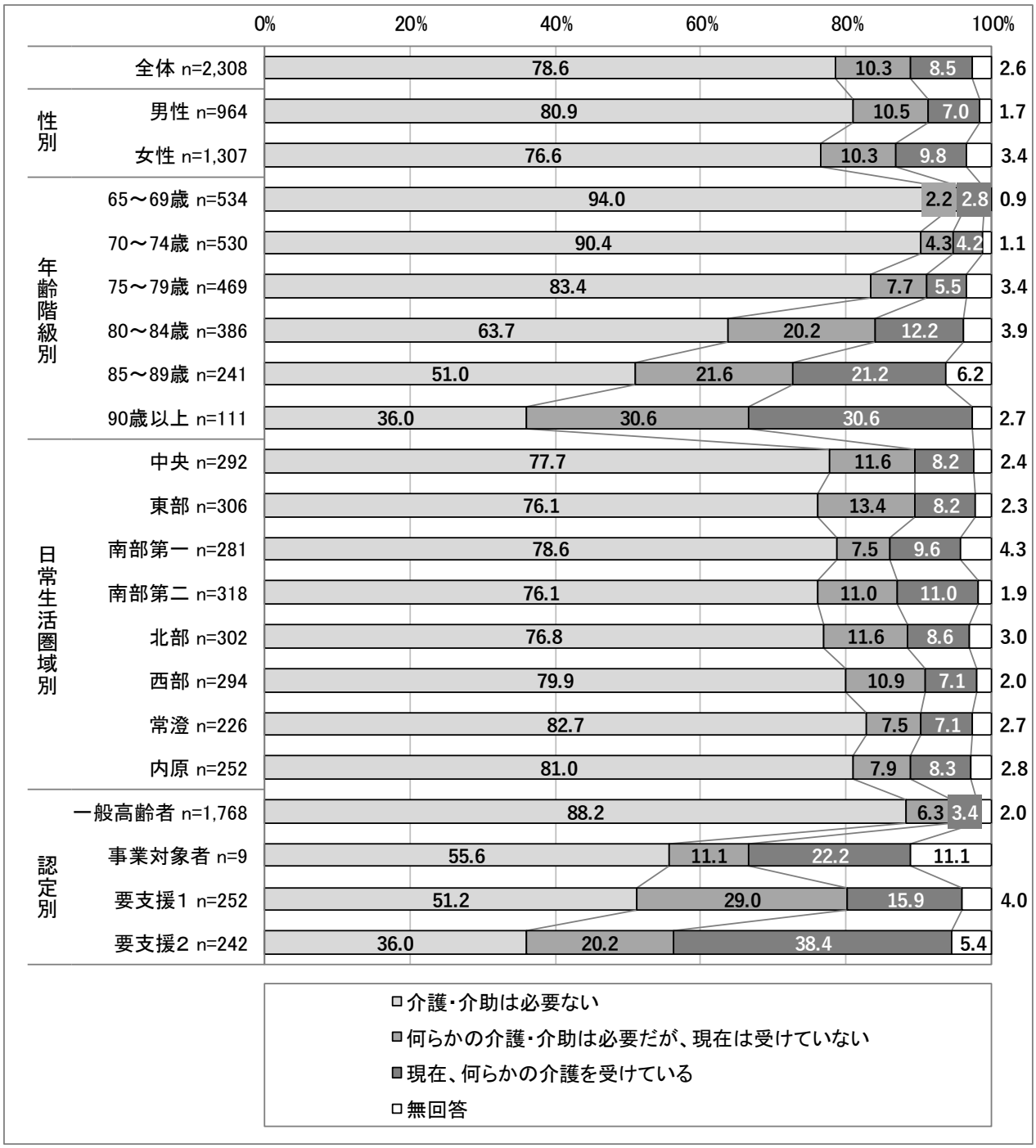


Q2．あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか（1つのみ）

普段の生活での介護・介助の必要性については、全体では「介護・介助は必要ない」が 78.6%で最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 10.3%、「現在、何らかの介護を受けている」が 8.5%となっています。

年齢階級別でみると、年齢が上がるとともに「現在、何らかの介護を受けている」が増加しています。

日常生活圏域別でみると、南部第二で「現在、何らかの介護を受けている」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。

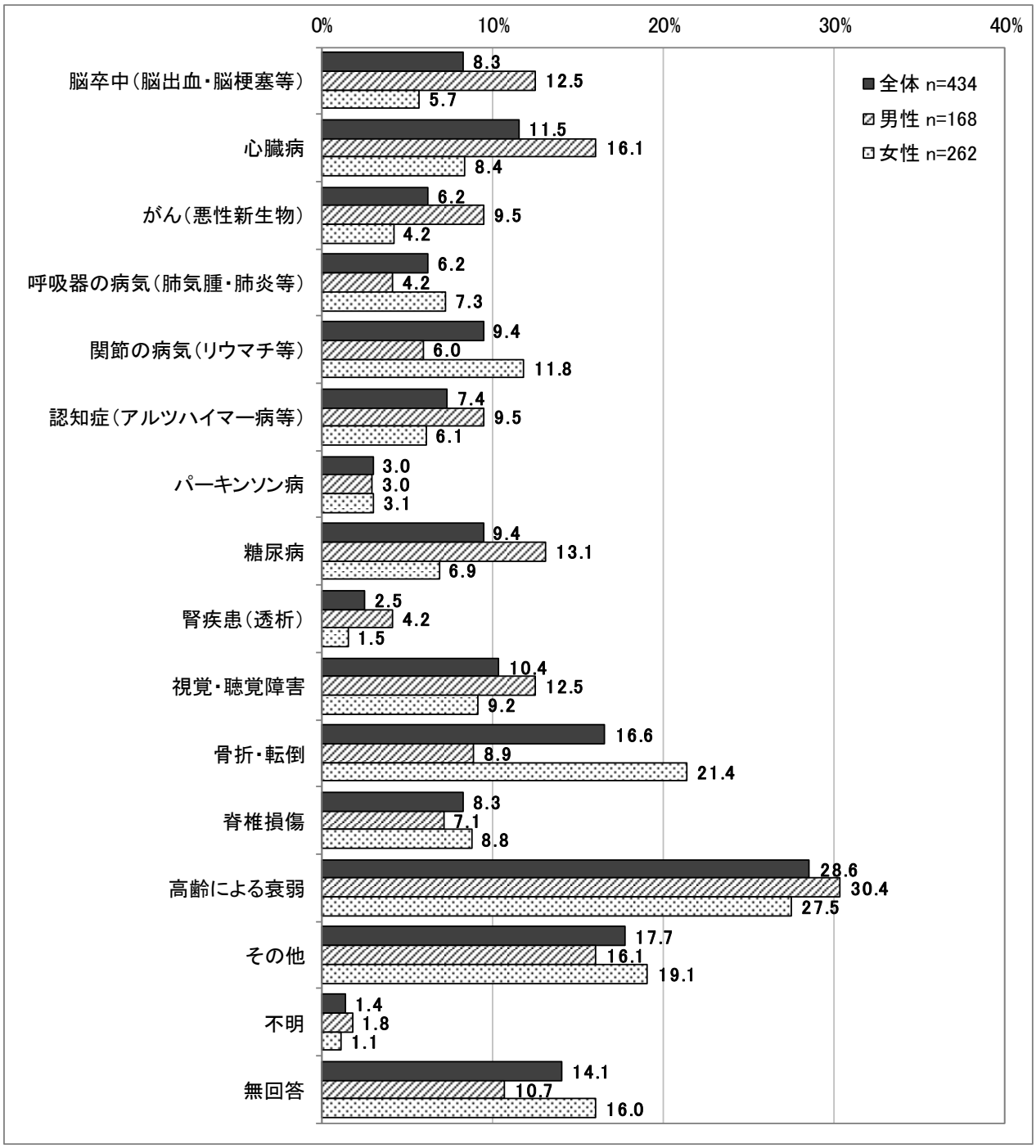


【Q２において「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

①．介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（いくつでも）

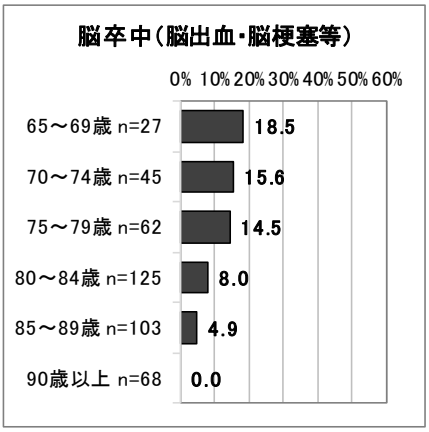
介護・介助が必要になった主な原因については、全体では「高齢による衰弱」が 28.6%で最も高く、次いで「その他」が 17.7%、「骨折・転倒」が 16.6%、「心臓病」が 11.5%、「視覚・聴覚障害」が 10.4%となっています。

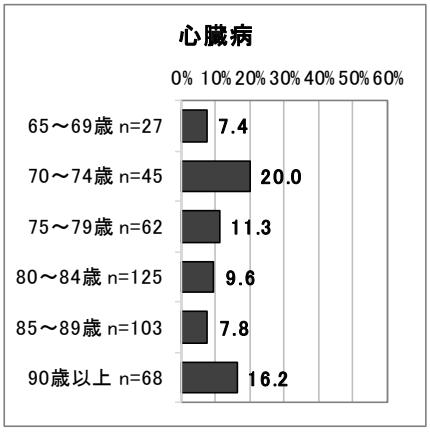
性別でみると、男性では、「高齢による衰弱」が 30.4%で最も高く、次いで「心臓病」、「その他」がともに 16.1%、「糖尿病」が 13.1%となっています。女性では、「高齢による衰弱」が 27.5%で最も高く、次いで「骨折・転倒」が 21.4%、「その他」が 19.1%となっています。

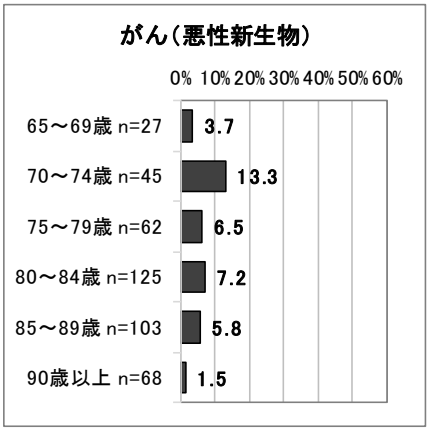


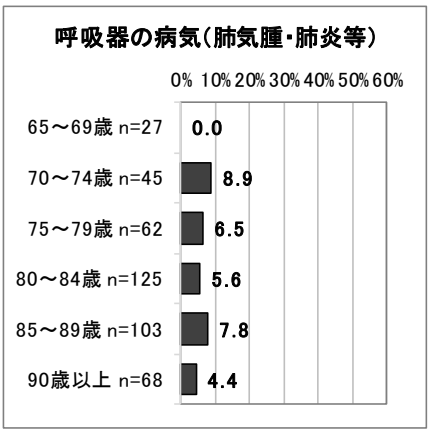
年齢階級別でみると、介護・介助が必要になった主な原因について「その他」を除き、割合が高い上位 2 項目を列記しています。

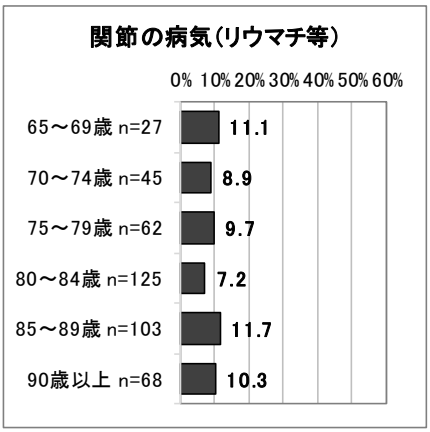
・65～69 歳：「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」18.5%、「糖尿病」14.8%
・70～74 歳：「糖尿病」24.4%、「心臓病」20.0%
・75～79 歳：「骨折・転倒」21.0%、「高齢による衰弱」19.4%
・80～84 歳：「高齢による衰弱」21.6%、「脊椎損傷」15.2%
・85～89 歳：「高齢による衰弱」40.8%、「骨折・転倒」19.4%
・90 歳以上：「高齢による衰弱」50.0%、「骨折・転倒」19.1%

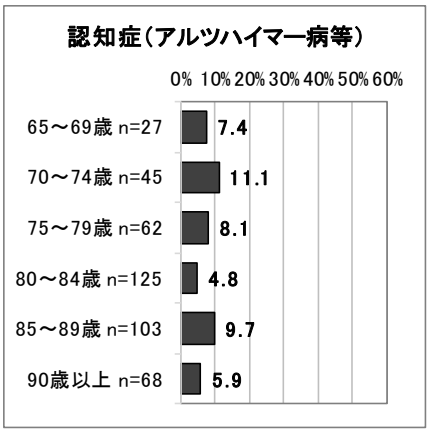


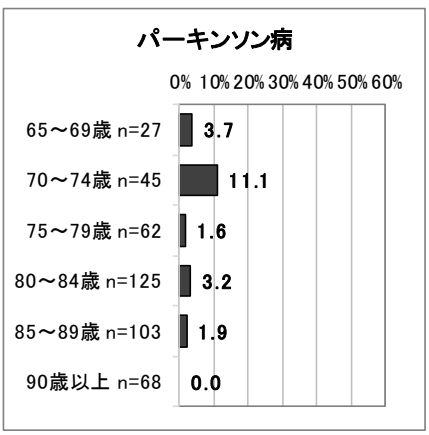


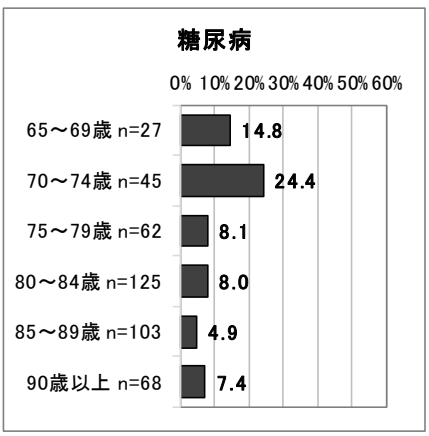


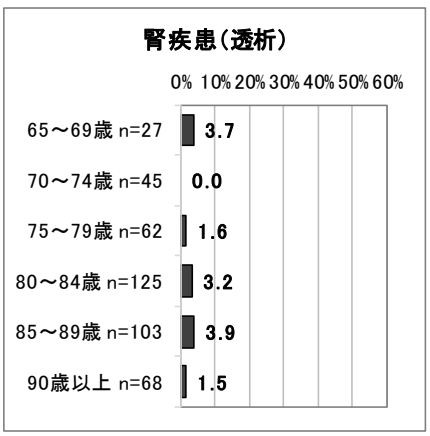


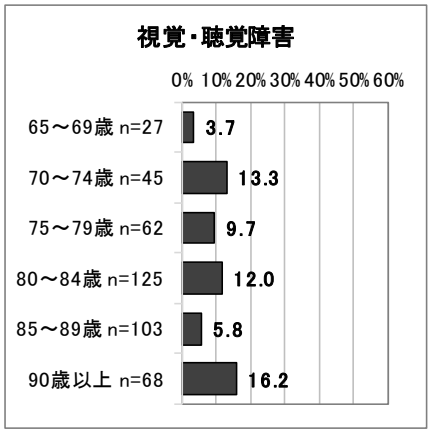


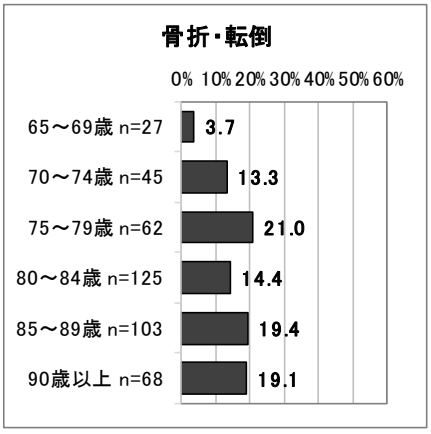


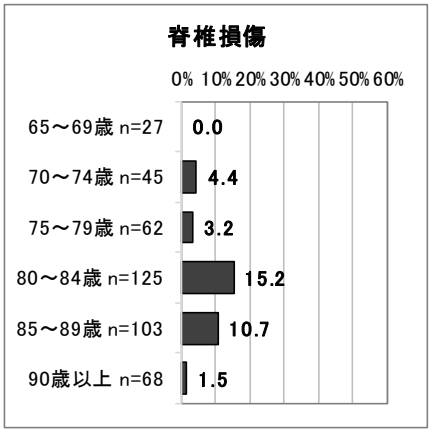


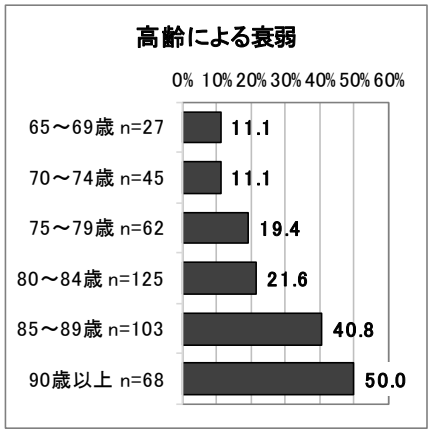





視覚・聴覚障害
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%
65～69歳 n=27
3.7
70～74歳 n=45
13.3
75～79歳 n=62
9.7
80～84歳 n=125
12.0
85～89歳 n=103
5.8
90歳以上 n=68
16.2


骨折・転倒
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%
65～69歳 n=27
3.7
70～74歳 n=45
13.3
75～79歳 n=62
21.0
80～84歳 n=125
14.4
85～89歳 n=103
19.4
90歳以上 n=68
19.1


脊椎損傷
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%
65～69歳 n=27
0.0
70～74歳 n=45
4.4
75～79歳 n=62
3.2
80～84歳 n=125
15.2
85～89歳 n=103
10.7
90歳以上 n=68
1.5

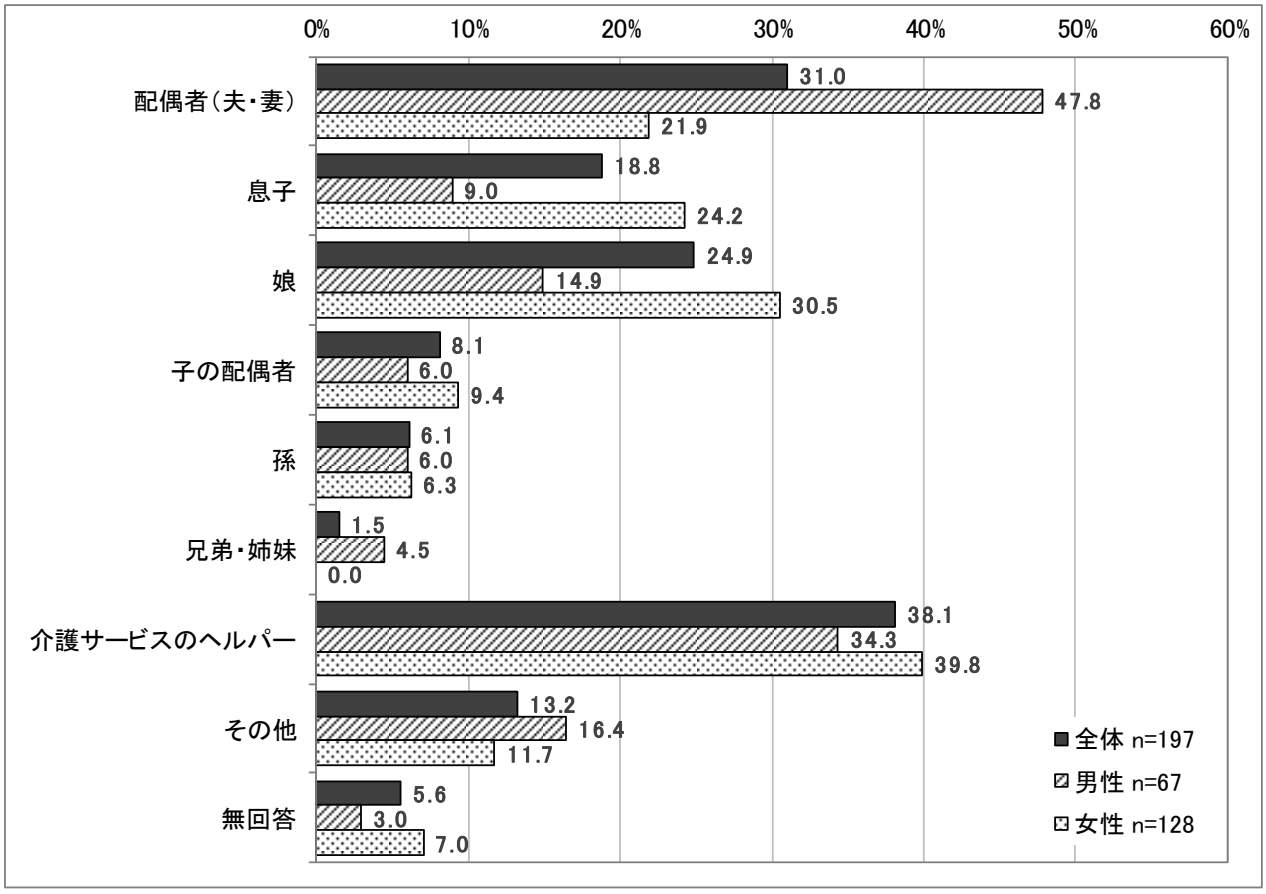

高齢による衰弱
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%
65～69歳 n=27
11.1
70～74歳 n=45
11.1
75～79歳 n=62
19.4
80～84歳 n=125
21.6
85～89歳 n=103
40.8
90歳以上 n=68
50.0

【Q２において「現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

②．主にどなたの介護・介助を受けていますか（いくつでも）

主に誰からの介護・介助を受けているかについては、全体では「介護サービスのヘルパー」が 38.1%で最も高く、次いで「配偶者（夫・妻)」が 31.0%、「娘」が 24.9%となっています。

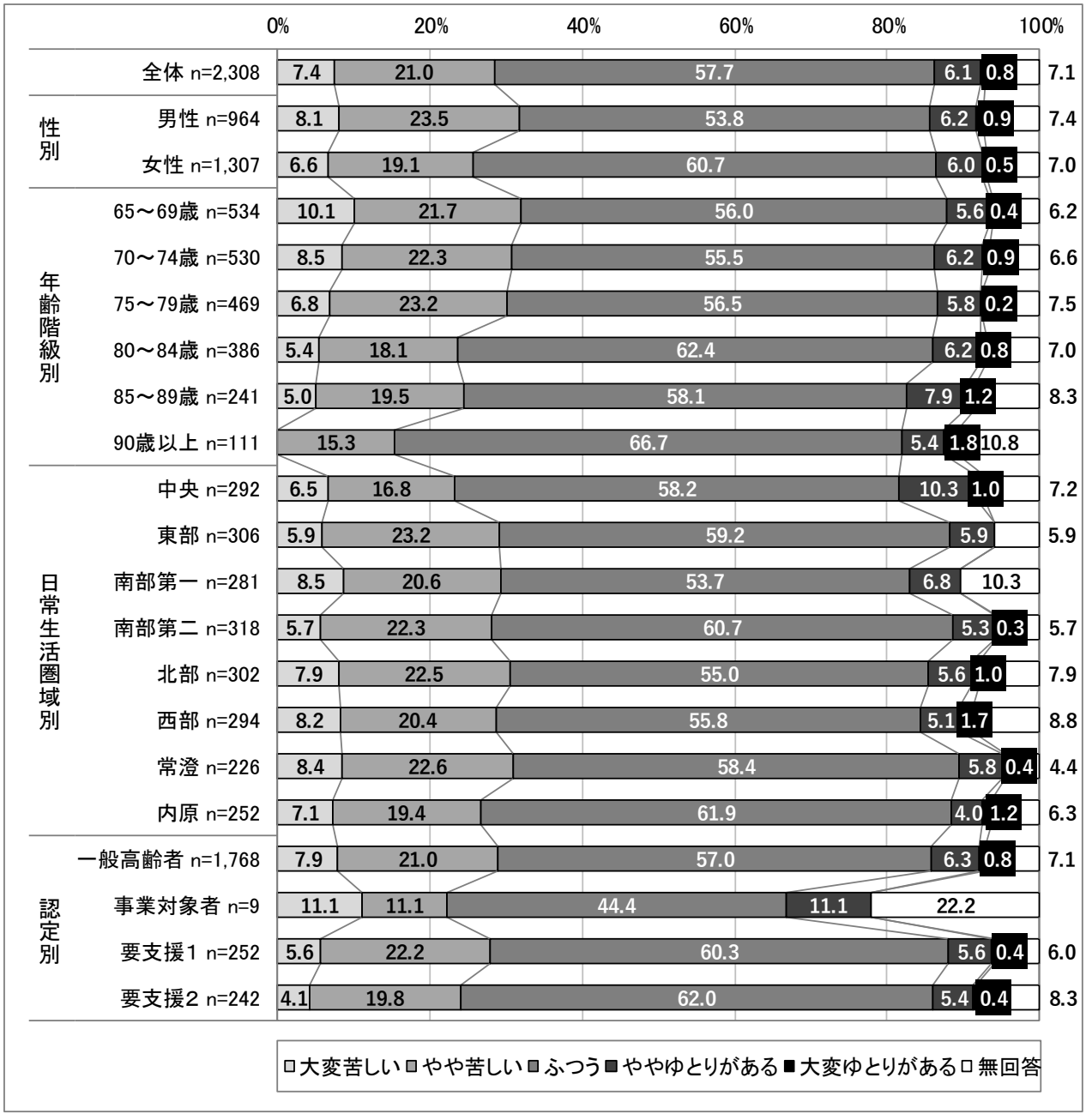
性別でみると、男性では、「配偶者（夫・妻)」が 47.8%で最も高く、次いで「介護サービスのヘルパー」が 34.3%、「その他」が 16.4%となっています。女性では、「介護サービスのヘルパー」が 39.8%で最も高く、次いで「娘」が 30.5%、「息子」が 24.2%となっています。



Q３．現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか（１つのみ）

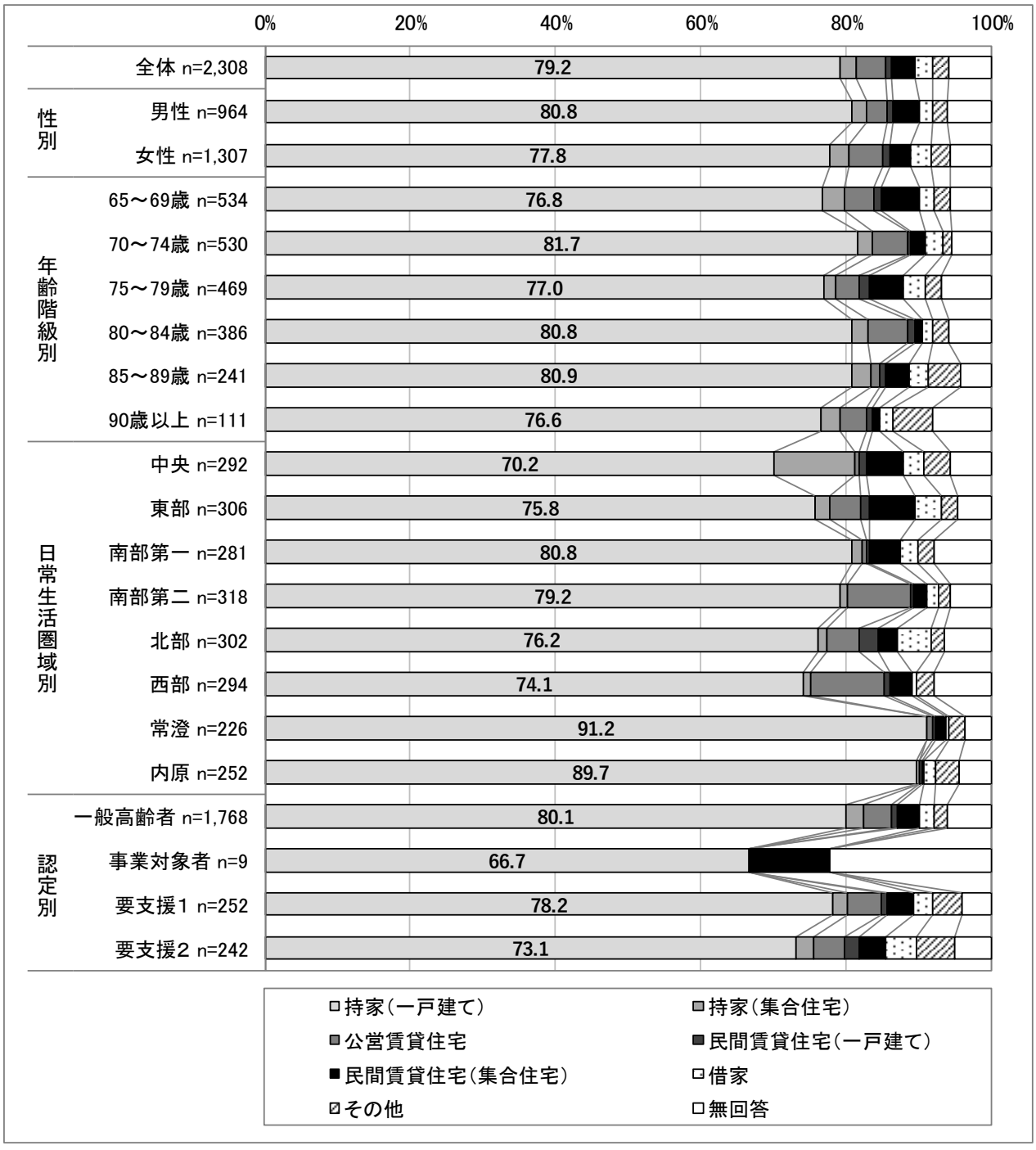
現在の暮らしの経済状況については、全体では「ふつう」が 57.7%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 21.0%、「大変苦しい」が 7.4%、「ややゆとりがある」が 6.1%となっています。

年齢階級別でみると、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』は、65～69 歳、70～74 歳、75～79 歳では約３割となっています。



Q4．お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか（１つのみ）

住まいの種類については、全体では「持家（一戸建て）」が 79.2%で最も高くなっています。属性別でみても、すべての属性で「持家（一戸建て）」が最も高い割合となっています。



2. からだを動かすことについて

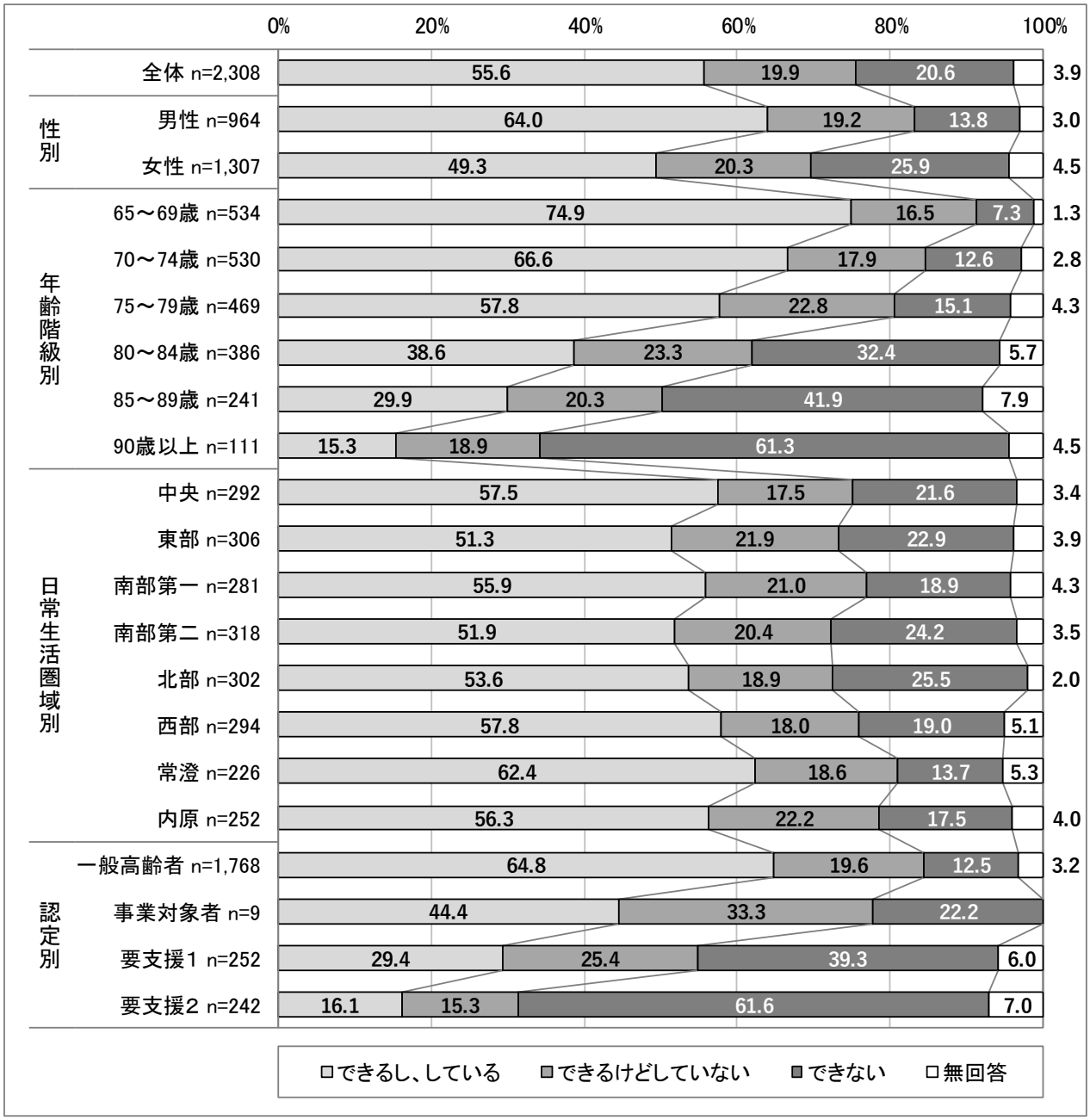
Q1．階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか（1つのみ）

階段を手すりや壁をつたわらずに昇っているかについては、全体では「できるし、している」が 55.6%で最も高く、次いで「できない」が 20.6%、「できるけどしていない」が 19.9%となっています。

性別でみると、「できない」は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、90 歳以上が 61.3%で最も高く、次いで 85～89 歳が 41.9%、80～84 歳が 32.4%となっています。

日常生活圏域別でみると、南部第二及び北部で「できない」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。



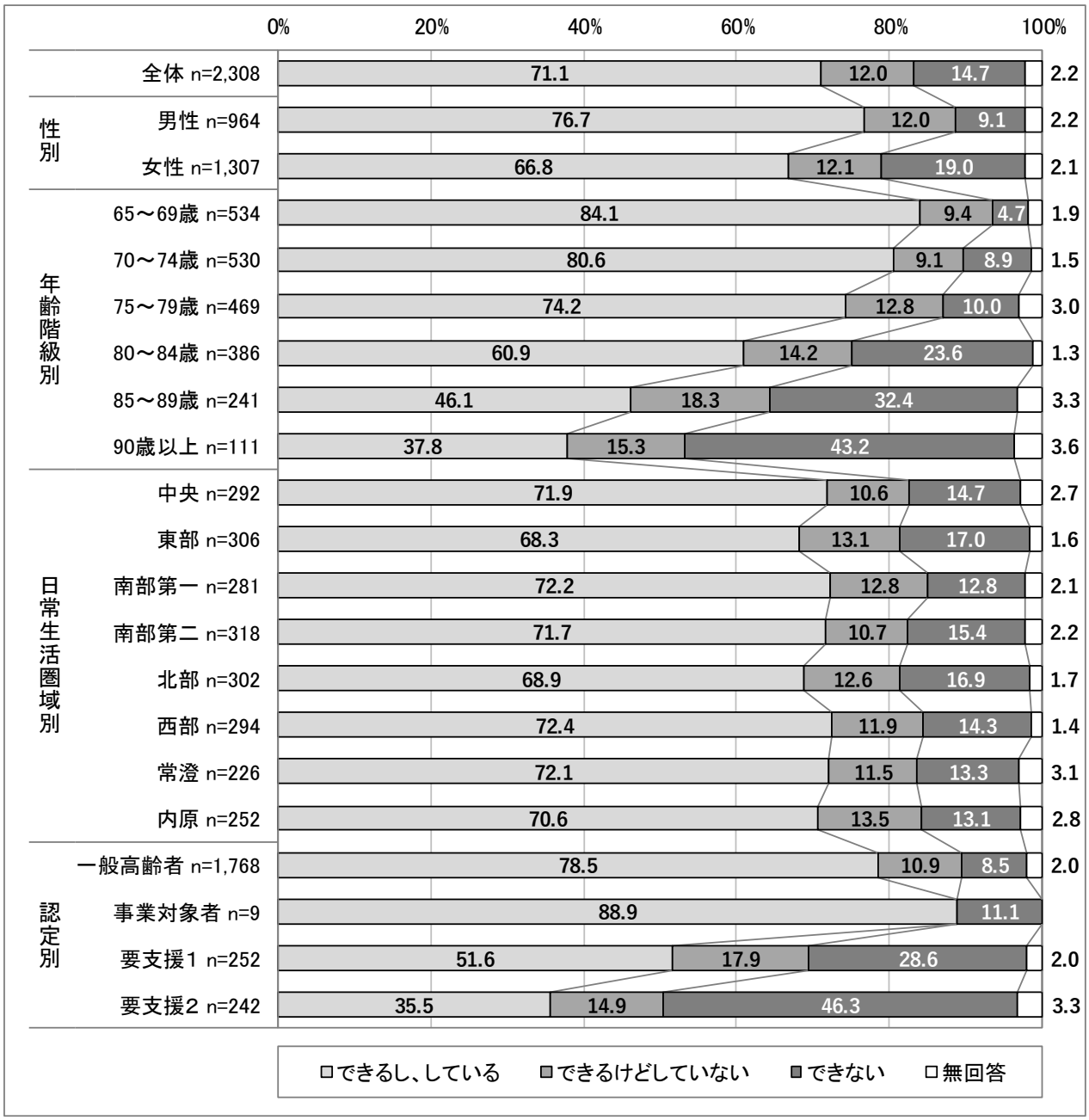
Q2．椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか（1つのみ）

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、全体では「できるし、している」が 71.1%で最も高く、次いで「できない」が 14.7%、「できるけどしていない」が 12.0%となっています。

性別でみると、「できない」は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、90 歳以上が 43.2%で最も高く、次いで 85～89 歳が 32.4%、80～84 歳が 23.6%となっています。

日常生活圏域別でみると、東部及び北部で「できない」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。



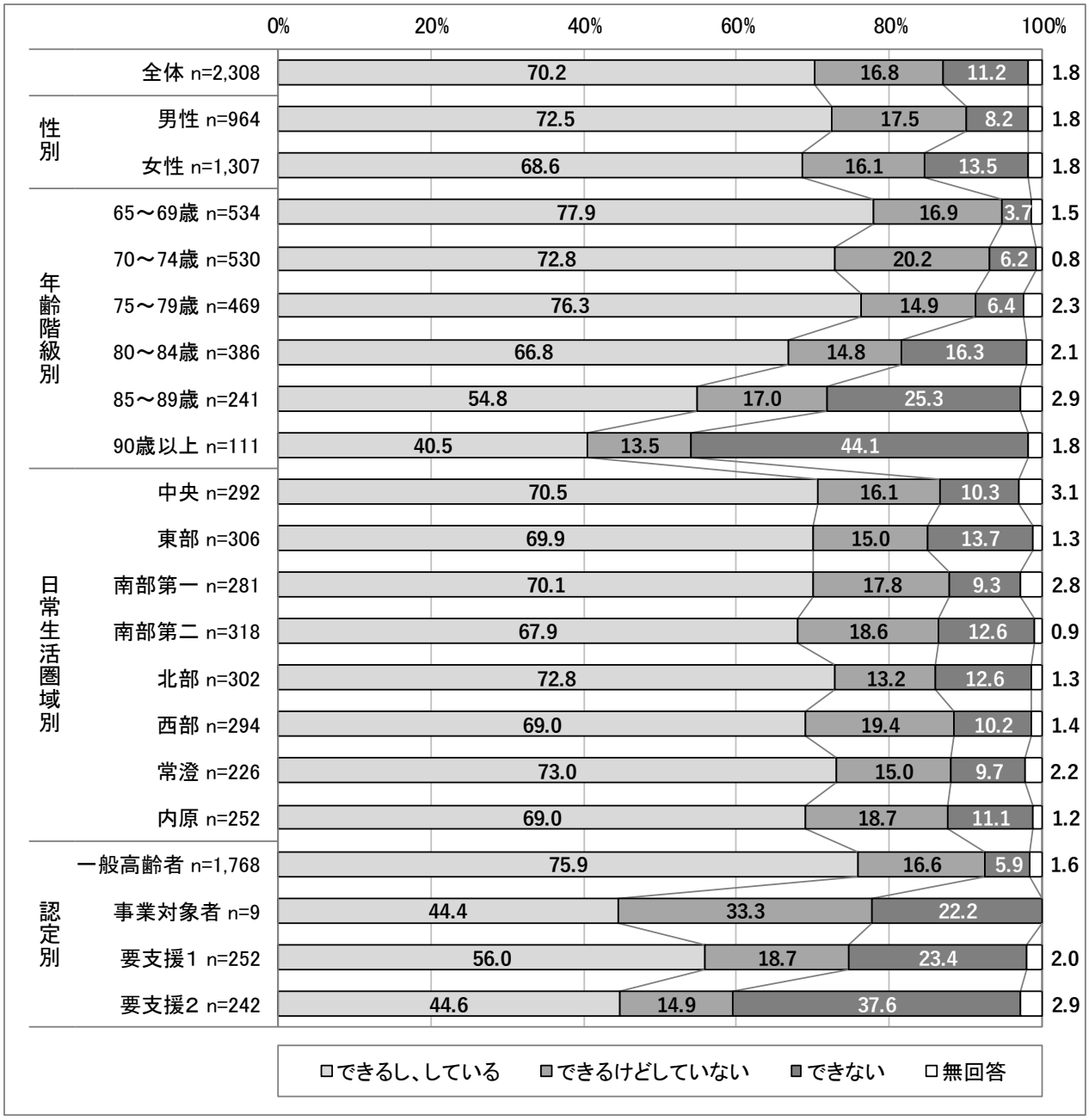
Q3．１５分位続けて歩いていますか（１つのみ）

15 分位続けて歩いているかについては、全体では「できるし、している」が 70.2%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が 16.8%、「できない」が 11.2%となっています。

性別でみると、「できない」は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、90 歳以上が 44.1%で最も高く、次いで 85～89 歳が 25.3%、80～84 歳が 16.3%となっています。

日常生活圏域別でみると、東部で「できない」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。



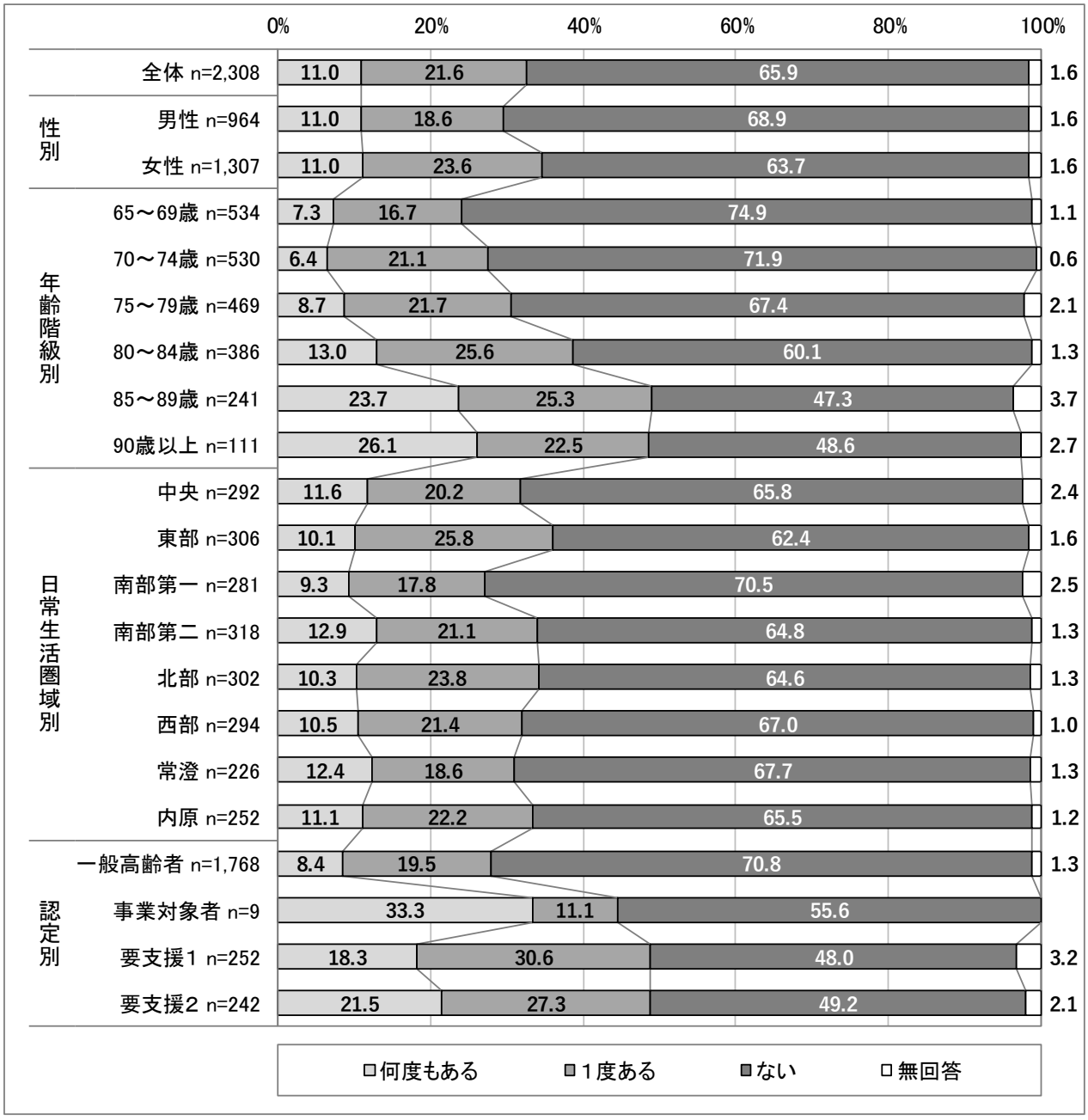
Q4．過去１年間に転んだ経験がありますか（１つのみ）

過去１年間に転んだ経験があるかについては、全体では「ない」が 65.9%で最も高く、次いで「１度ある」が 21.6%、「何度もある」が 11.0%となっています。

性別でみると、「１度ある」は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「何度もある」は、90 歳以上が 26.1%で最も高く、次いで 85～89 歳が 23.7%、75～79 歳が 13.0%となっています。

日常生活圏域別でみると、南部第二及び常澄で「何度もある」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。



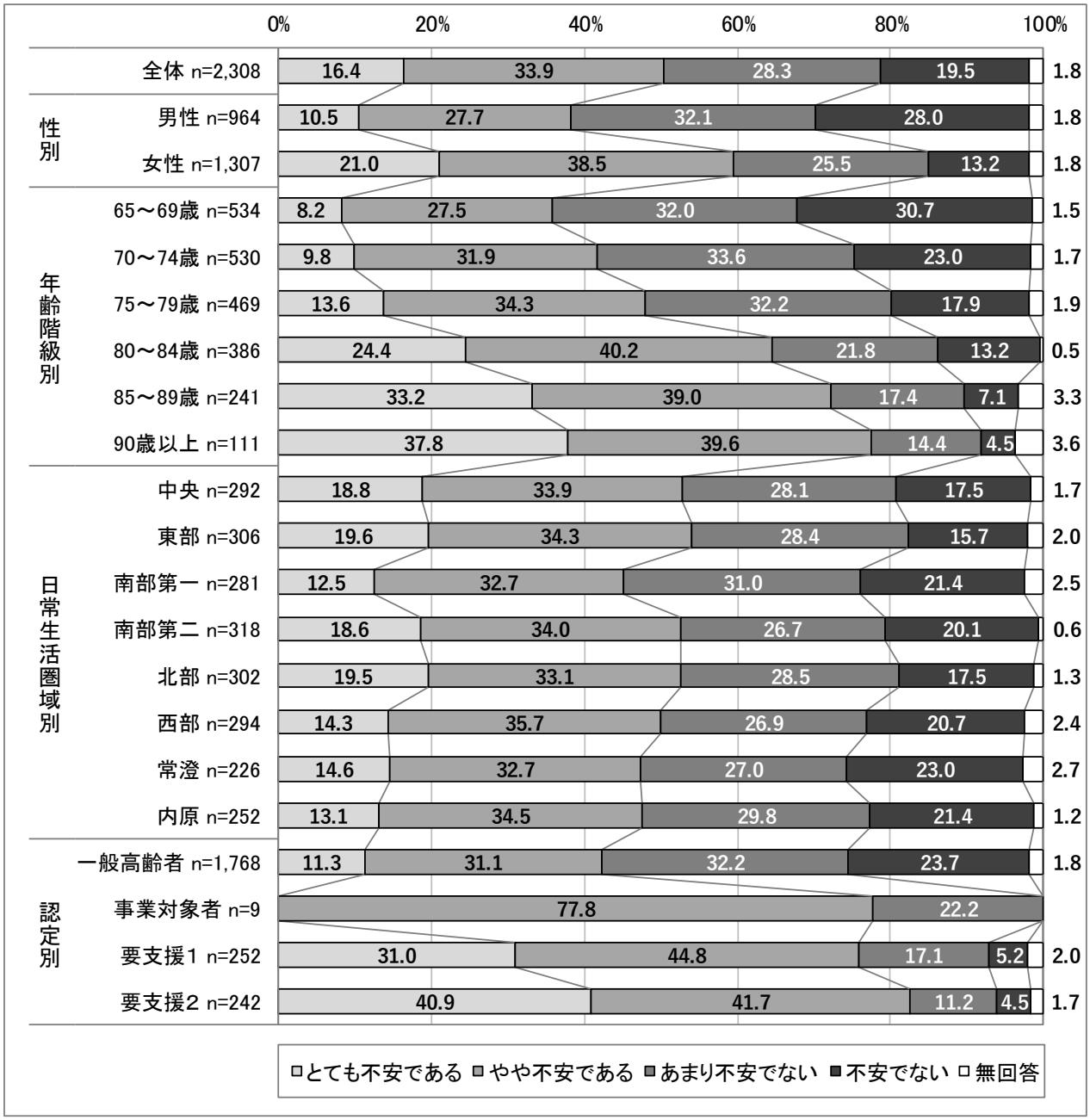
Q5．転倒に対する不安は大きいですか（1つのみ）

転倒に対する不安は大きいかについては、全体では「やや不安である」が 33.9%で最も高く、次いで「あまり不安でない」が 28.3%、「不安でない」が 19.5%、「とても不安である」が 16.4%となっています。

性別でみると、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『不安である』は、男性に比べ女性のほうが大きく上回っています。

年齢階級別でみると、『不安である』は、90 歳以上が 77.4%で最も高く、次いで 85～89 歳が 72.2%、80～84 歳が 64.6%となっています。

日常生活圏域別でみると、中央、東部、南部第二、北部で『不安である』の割合が５割を超えています。



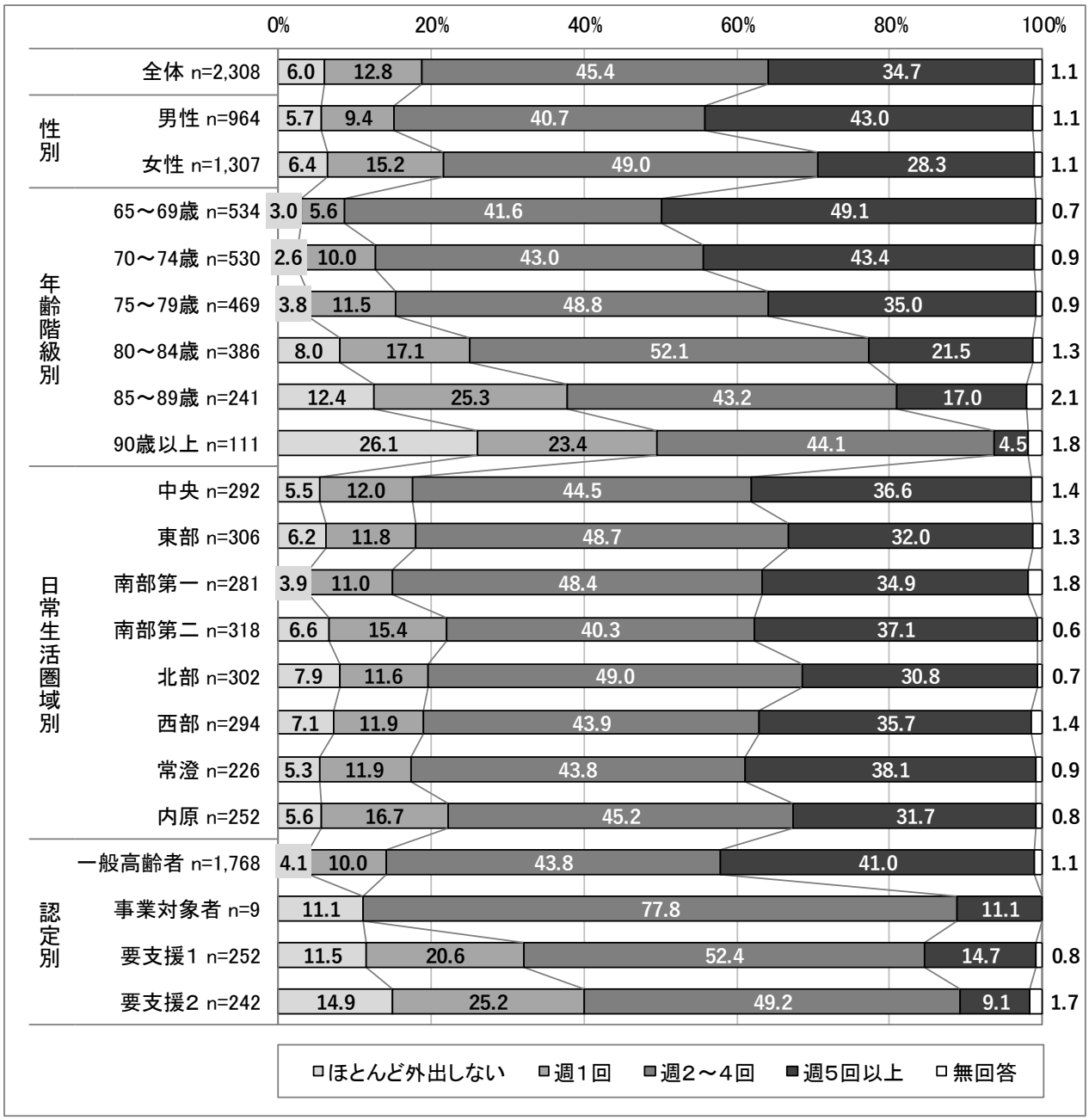
Q6．週に１回以上は外出していますか（１つのみ）

１週間の外出頻度については、全体では「週２～４回」が 45.4%で最も高く、次いで「週５回以上」が 34.7%、「週１回」が 12.8%、「ほとんど外出しない」が 6.0%となっています。

性別でみると、「ほとんど外出しない」「週１回」の合計値は、男性が 15.1%、女性が 21.6%で、女性が 6.5 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「ほとんど外出しない」は、90 歳以上が 26.1%で最も高く、次いで 85～89 歳が 12.4%、80～84 歳が 8.0%となっています。

日常生活圏域別でみると、北部及び西部で「ほとんど外出しない」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。



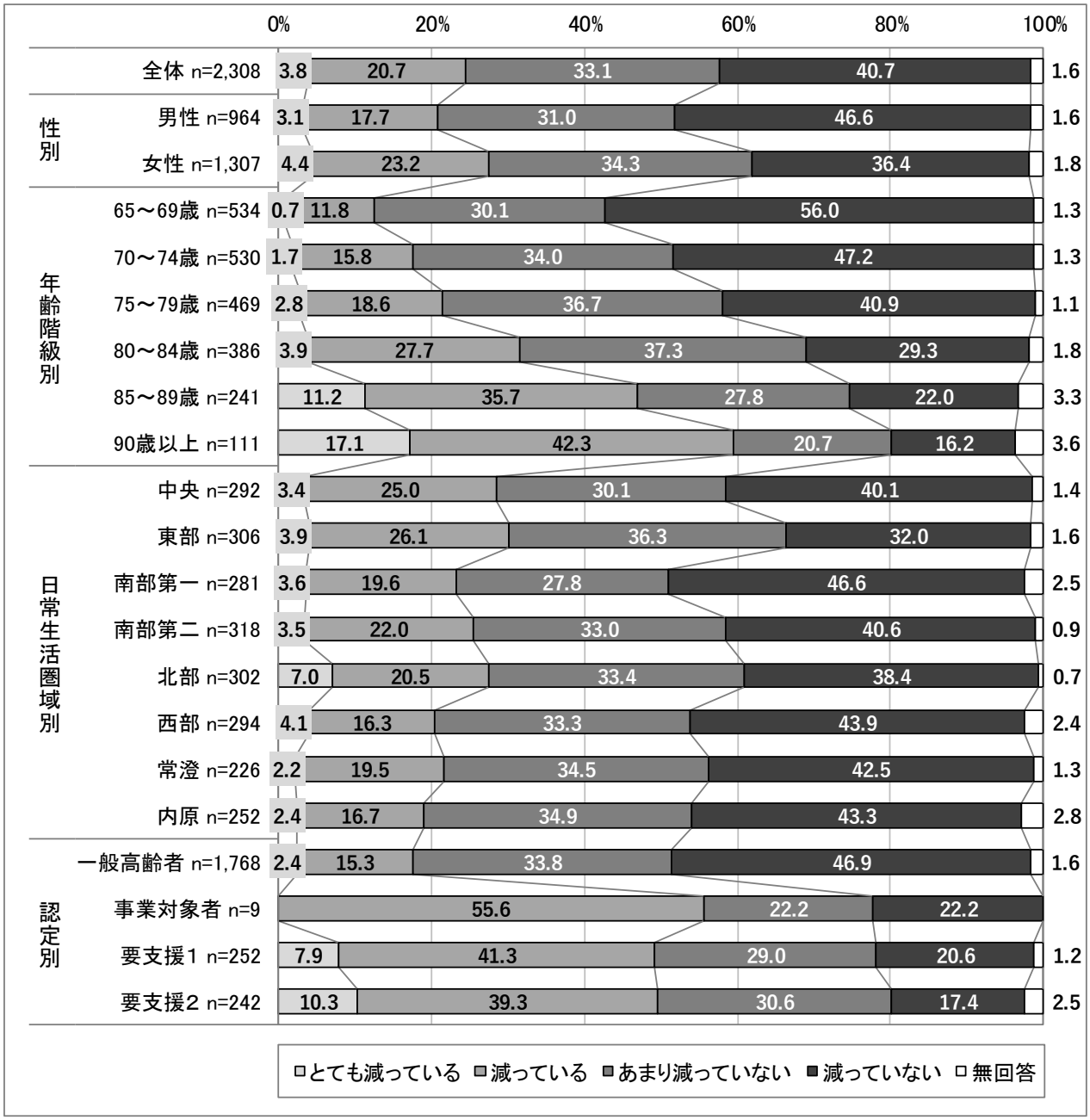
Q7．昨年と比べて外出の回数が減っていますか（１つのみ）

昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、全体では「減っていない」が 40.7%で最も高く、次いで「あまり減っていない」が 33.1%、「減っている」が 20.7%、「とても減っている」が 3.8%となっています。

性別でみると、「とても減っている」と「減っている」を合わせた『減っている』は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『減っている』は、90 歳以上が 59.4%で最も高く、次いで 85～89 歳が 46.9%、80～84 歳が 31.6%となっています。

日常生活圏域別でみると、中央、東部、北部で『減っている』の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。

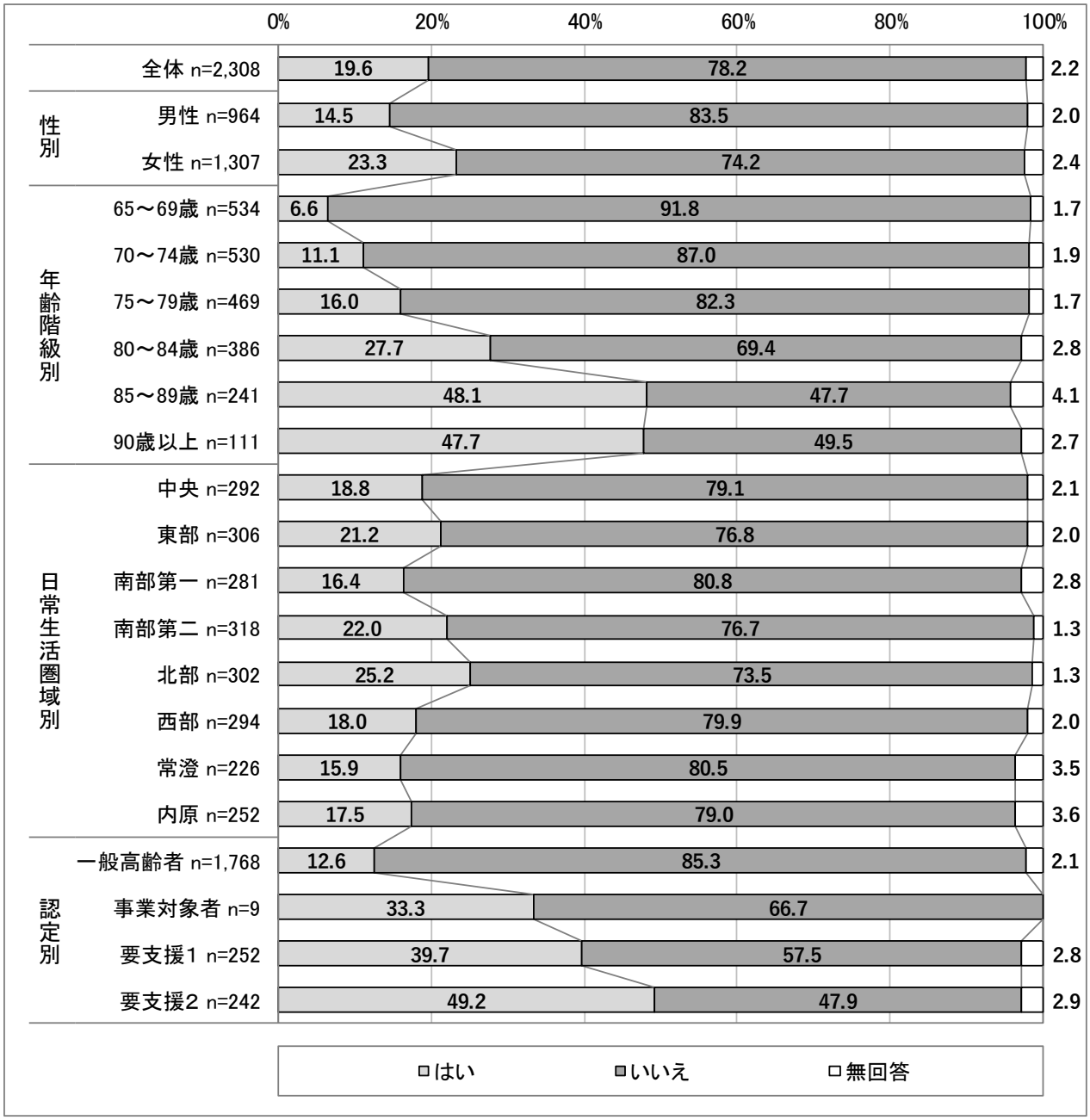


Q8．外出を控えていますか（1つのみ）

外出を控えているかについては、全体では「はい」が 19.6%、「いいえ」が 78.2%となっています。

性別でみると、「はい」は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、85～89 歳が 48.1%で最も高く、次いで 90 歳以上が 47.7%、80～84 歳が 27.7%となっています。

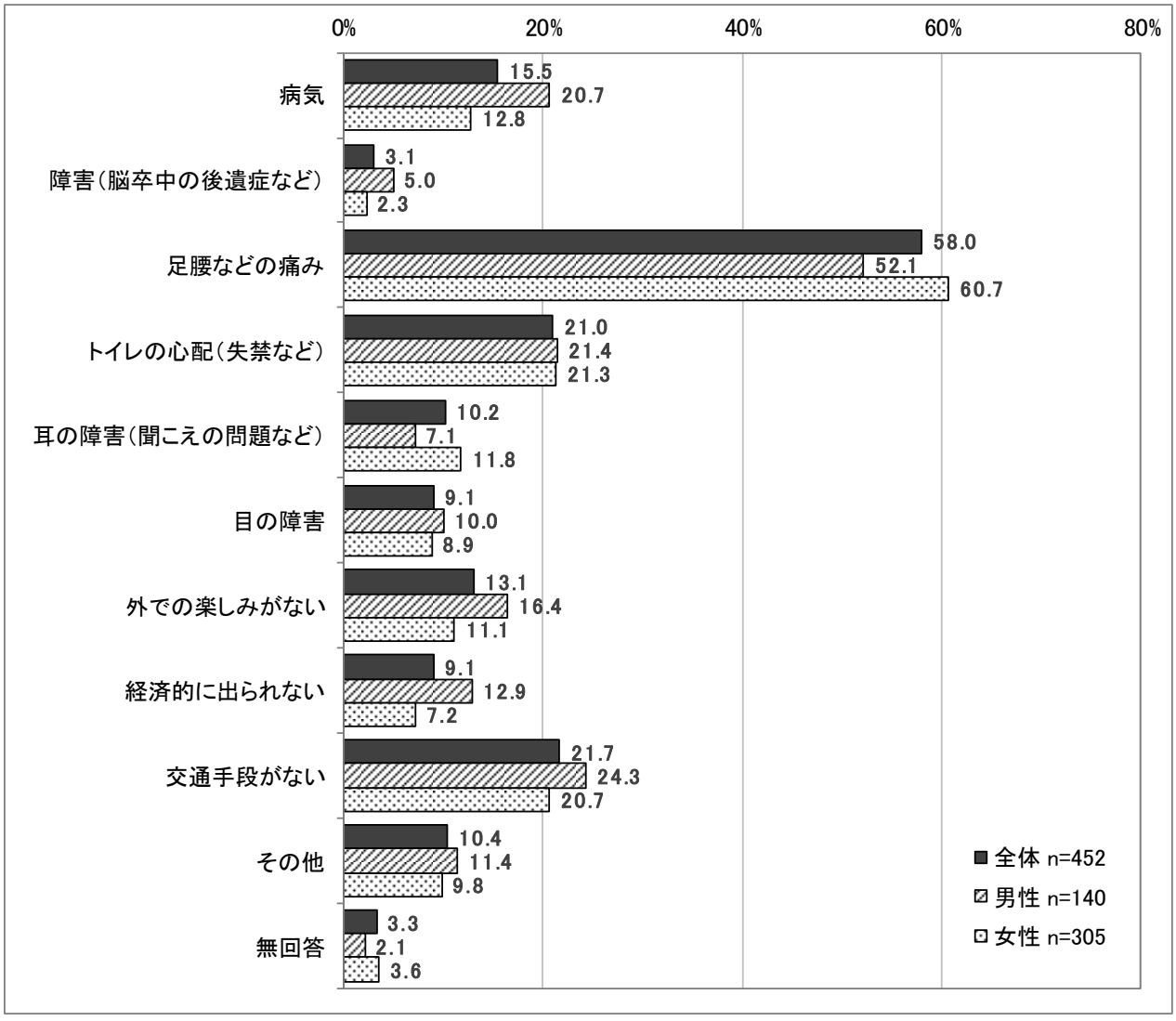


【Q8で「はい」（外出を控えている）の方のみ】

①．外出を控えている理由は、次のどれですか（いくつでも）

外出を控えている理由については、全体では「足腰などの痛み」が 58.0%で最も高く、次いで「交通手段がない」が 21.7%、「トイレの心配（失禁など）」が 21.0%となっています。

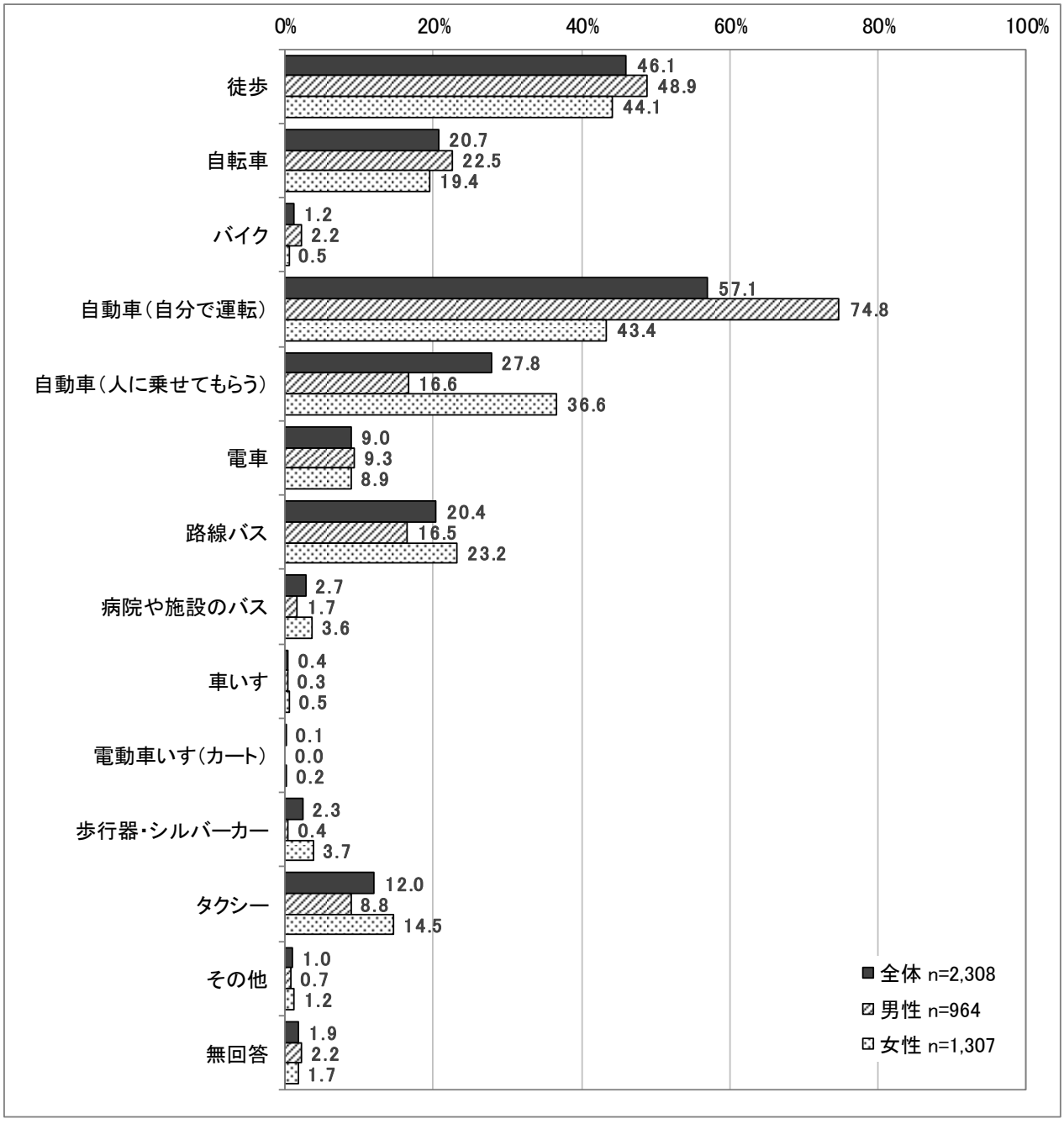
性別でみると、男性では、「足腰などの痛み」が 52.1%で最も高く、次いで「交通手段がない」が 24.3%、「トイレの心配（失禁など）」が 21.4%となっています。女性では、「足腰などの痛み」が 60.7%で最も高く、次いで「トイレの心配（失禁など）」が 21.3%、「交通手段がない」が 20.7%となっています。



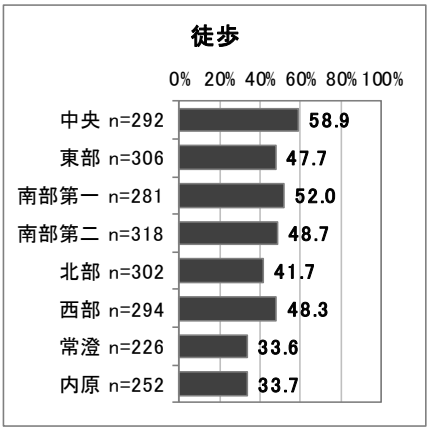
Q9．外出する際の移動手段は何ですか（いくつでも）

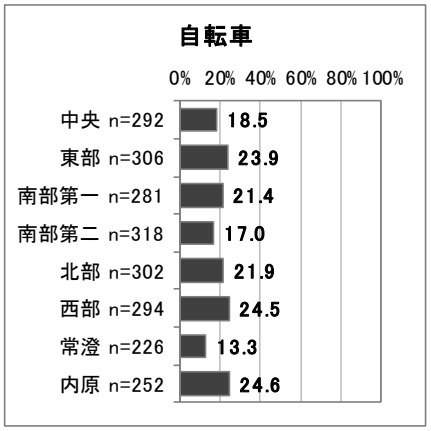
外出する際の移動手段については、全体では「自動車（自分で運転)」が 57.1%で最も高く、次いで「徒歩」が 46.1%、「自動車（人に乗せてもらう)」が 27.8%となっています。

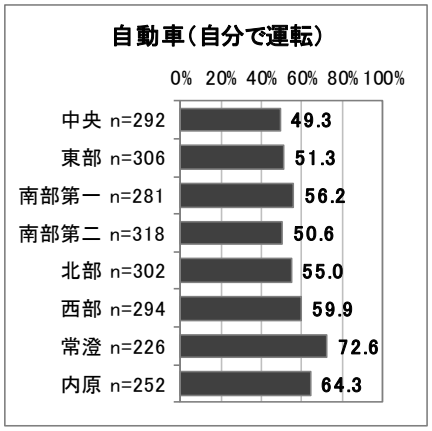
性別でみると、男性では、「自動車（自分で運転)」が 74.8%で最も高く、次いで「徒歩」が 48.9%、「自転車」が 22.5%となっています。女性では、「徒歩」が 44.1%で最も高く、次いで「自動車（自分で運転)」が 43.4%、「自動車（人に乗せてもらう)」が 36.6%となっています。

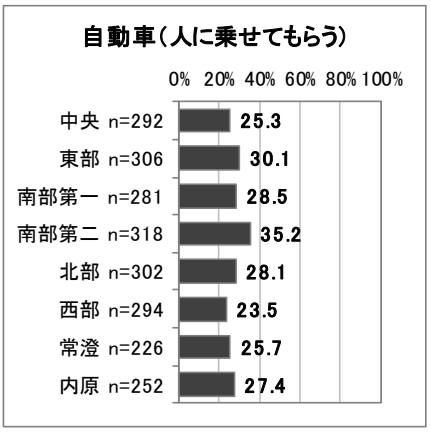


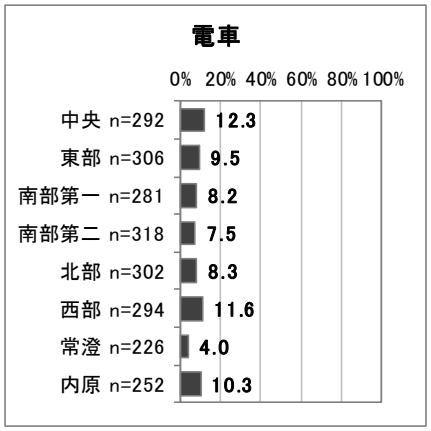
外出する際の“主要”な移動手段を日常生活圏域別でみると、「徒歩」は、中央が 58.9%で最も高く、次いで南部第一が 52.0%となっています。「自動車（自分で運転）」では、常澄が 72.6%で最も高く、次いで内原が 64.3%となっています。「自動車（人に乗せてもらう）」では、南部第二が 35.2%で最も高く、次いで東部が 30.1%となっています。「路線バス」では、中央が 35.3%で最も高く、次いで南部第二が 26.1%となっています。

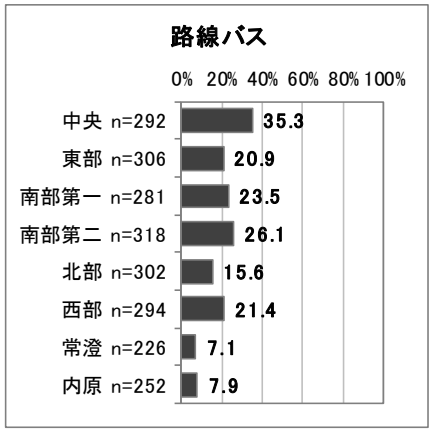


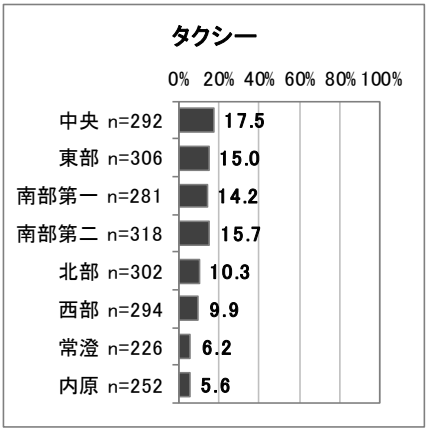










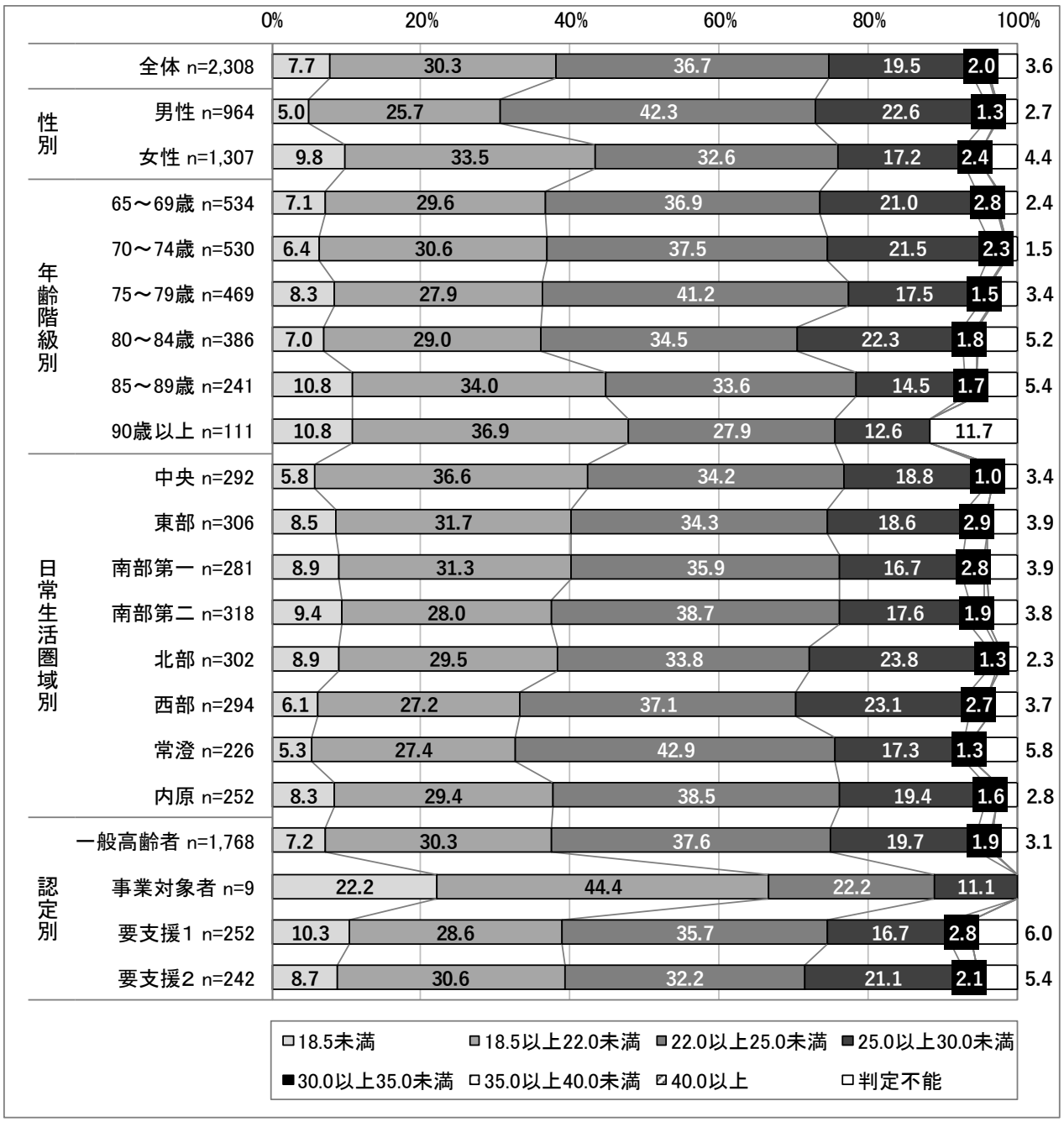


3. 食べることについて

Q1．身長・体重

身長・体重から算出されるＢＭＩについてみると、全体では「22.0 以上 25.0 未満」が 36.7%で最も高く、次いで「18.5 以上 22.0 未満」が 30.3%、「25.0 以上 30.0 未満」が 19.5%となっています。

年齢階級別でみると、「25.0 以上 30.0 未満」は、80～84 歳が 22.3%で最も高く、次いで 70～74 歳が 21.5%、65～69 歳が 21.0%となっています。



※ＢＭＩ＝体重（kg）÷（身長（m）×身長（m））

18.5 未満	18.5 以上 25.0 未満	25.0 以上 30.0 未満	30.0 以上 35.0 未満	35.0 以上 40.0 未満	40.0 以上
低体重	普通体重	肥満１度	肥満２度	肥満３度	肥満４度

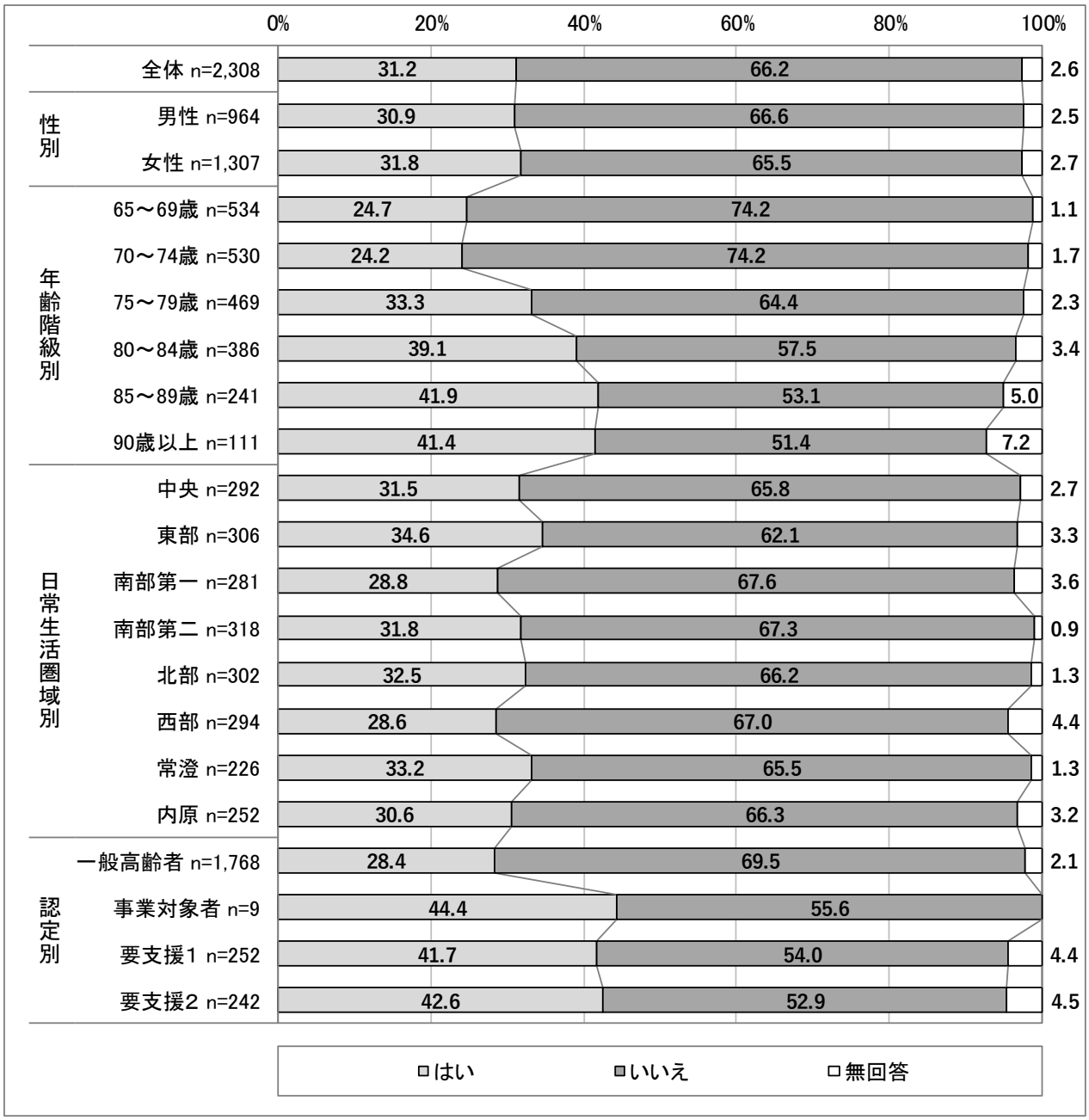
判定：日本肥満学会より

Q2．半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（1つのみ）

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、全体では「はい」が 31.2%、「いいえ」が 66.2%となっています。

年齢階級別でみると、「はい」は、85～89 歳が 41.9%で最も高く、次いで 90 歳以上が 41.4%、80～84 歳が 39.1%となっています。

日常生活圏域別でみると、東部で「はい」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。

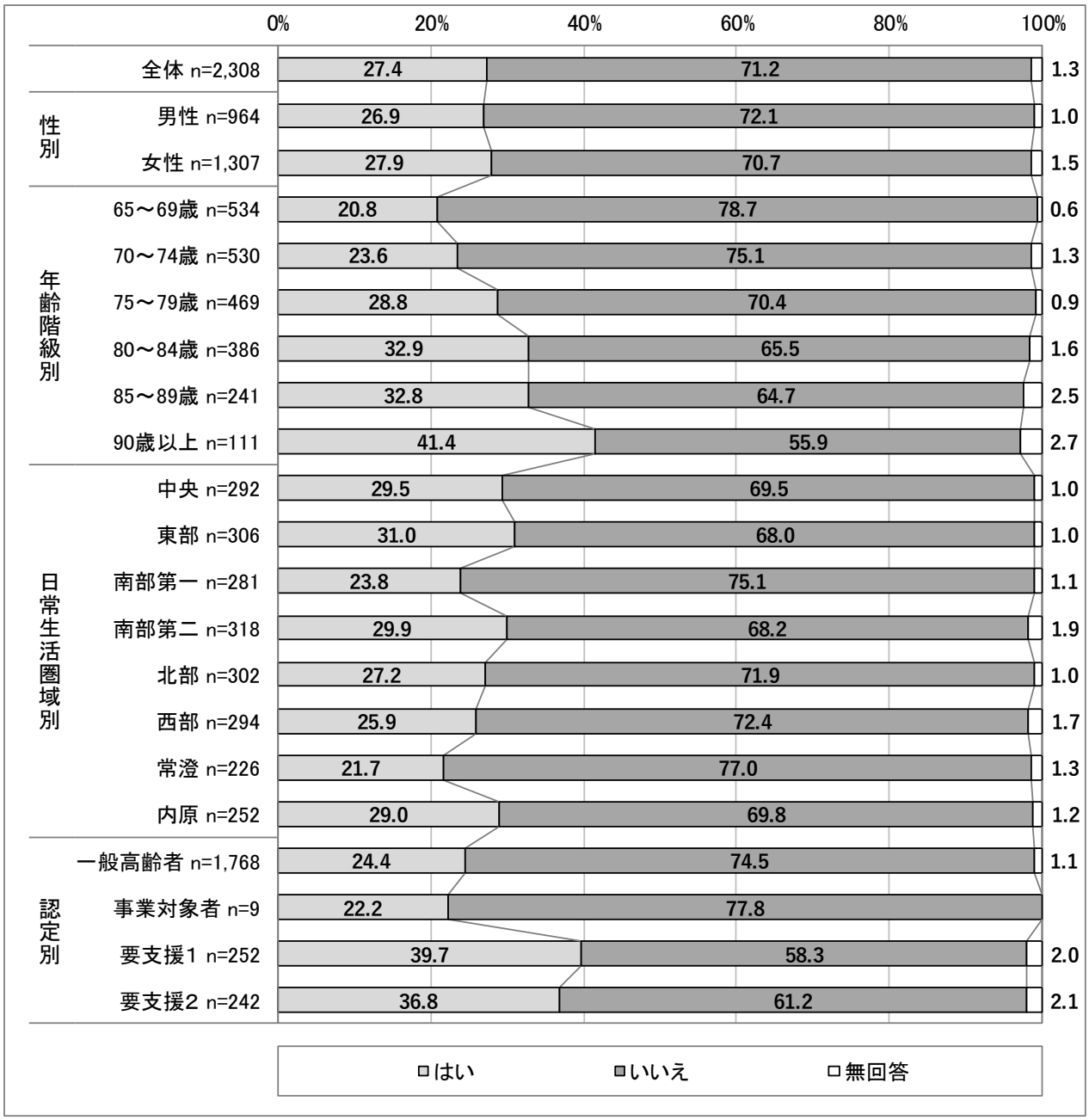


Q3．お茶や汁物等でむせることがありますか（1つのみ）

お茶や汁物等でむせることがあるかについては、全体では「はい」が 27.4%、「いいえ」が 71.2%となっています。

年齢階級別でみると、「はい」は、90 歳以上が 41.4%で最も高く、次いで 80～84 歳が 32.9%、85～89 歳が 32.8%となっています。

日常生活圏域別でみると、東部で「はい」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。

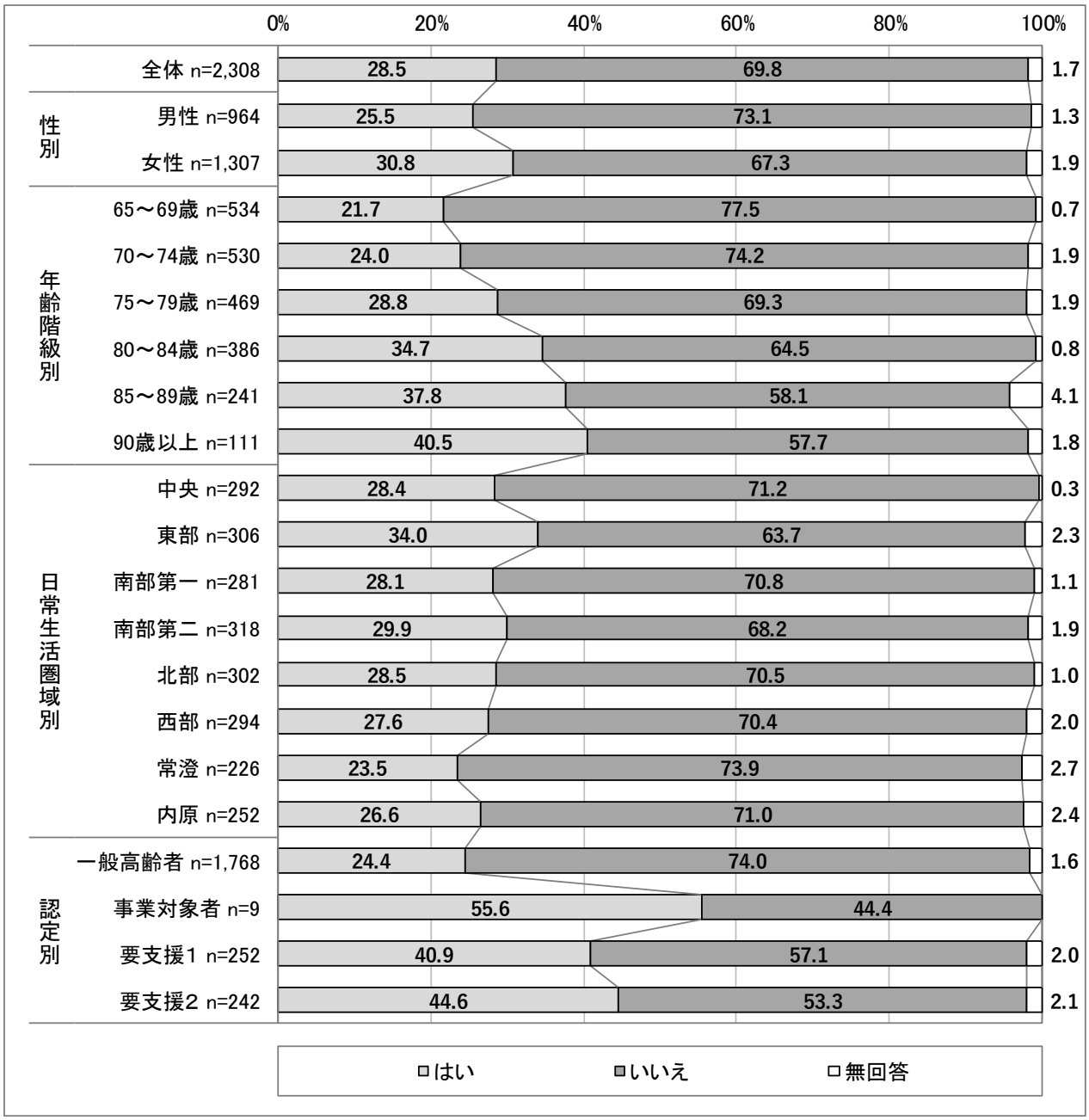


Q4．口の渇きが気になりますか（1つのみ）

口の渇きが気になるかについては、全体では「はい」が 28.5%、「いいえ」が 69.8%となっています。

年齢階級別でみると、「はい」は、90 歳以上が 40.5%で最も高く、次いで 85～89 歳が 37.8%、80～84 歳が 34.7%となっています。

日常生活圏域別でみると、東部で「はい」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。



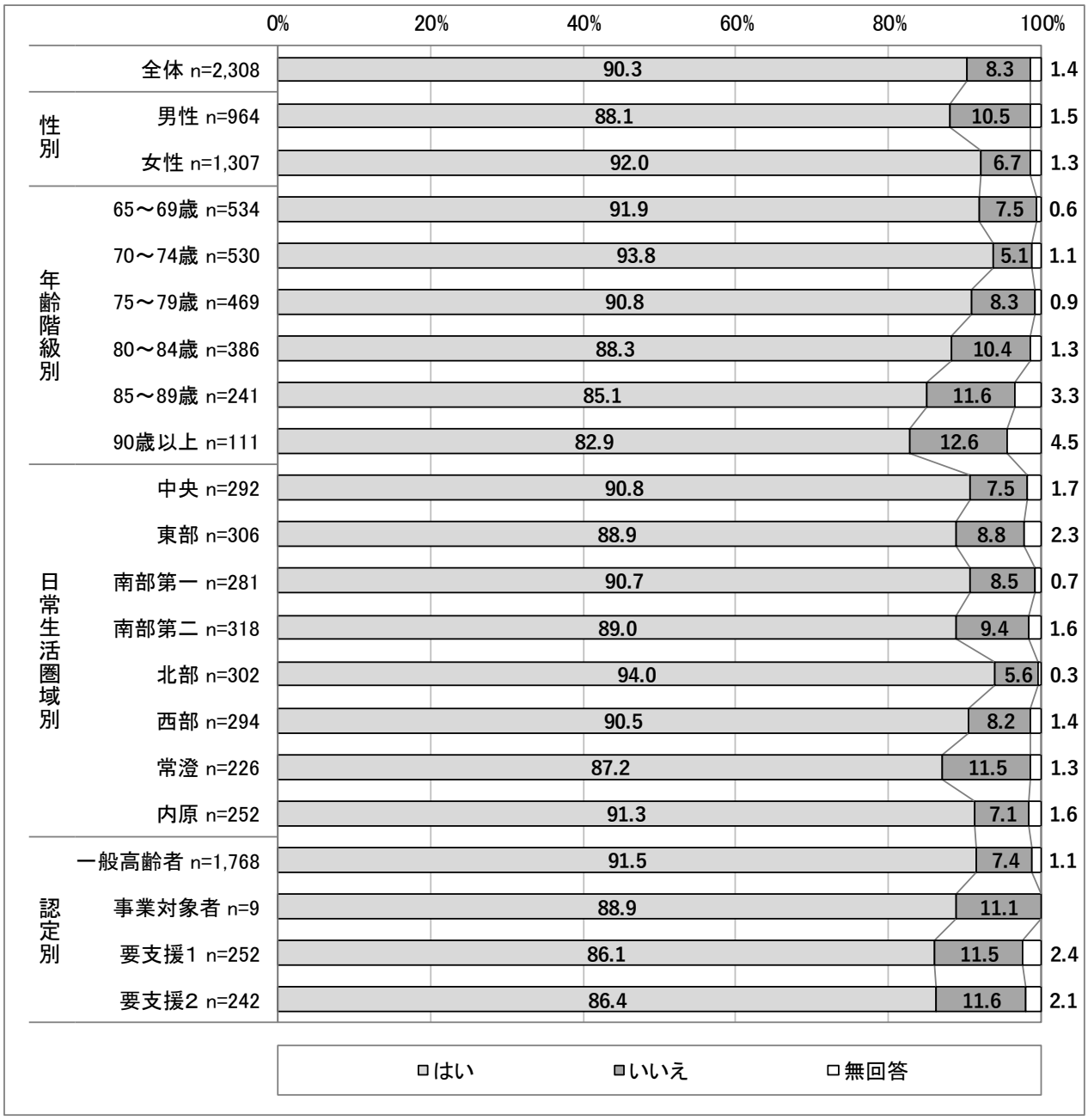
Q5．歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか（１つのみ）

歯磨きを毎日しているかについては、全体では「はい」が 90.3%、「いいえ」が 8.3%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90 歳以上が 12.6%で最も高く、次いで 85～89 歳が 11.6%、80～84 歳が 10.4%となっています。

日常生活圏域別でみると、常澄で「いいえ」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。



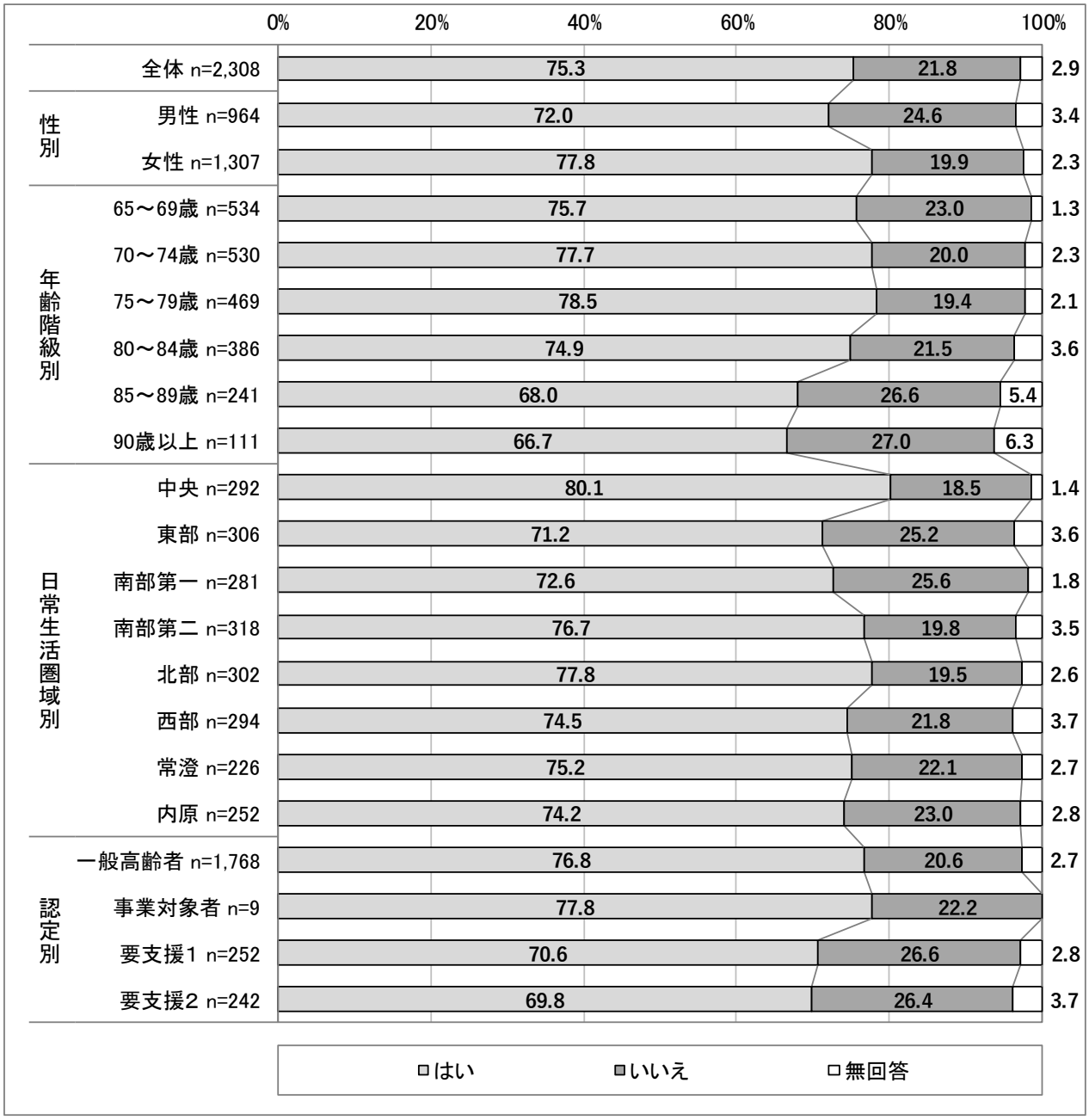
Q6．噛み合わせは良いですか（１つのみ）

噛み合わせは良いかについては、全体では「はい」が 75.3%、「いいえ」が 21.8%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90 歳以上が 27.0%で最も高く、次いで 85～89 歳が 26.6%、65～69 歳が 23.0%となっています。

日常生活圏域別でみると、東部及び南部第一で「いいえ」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。

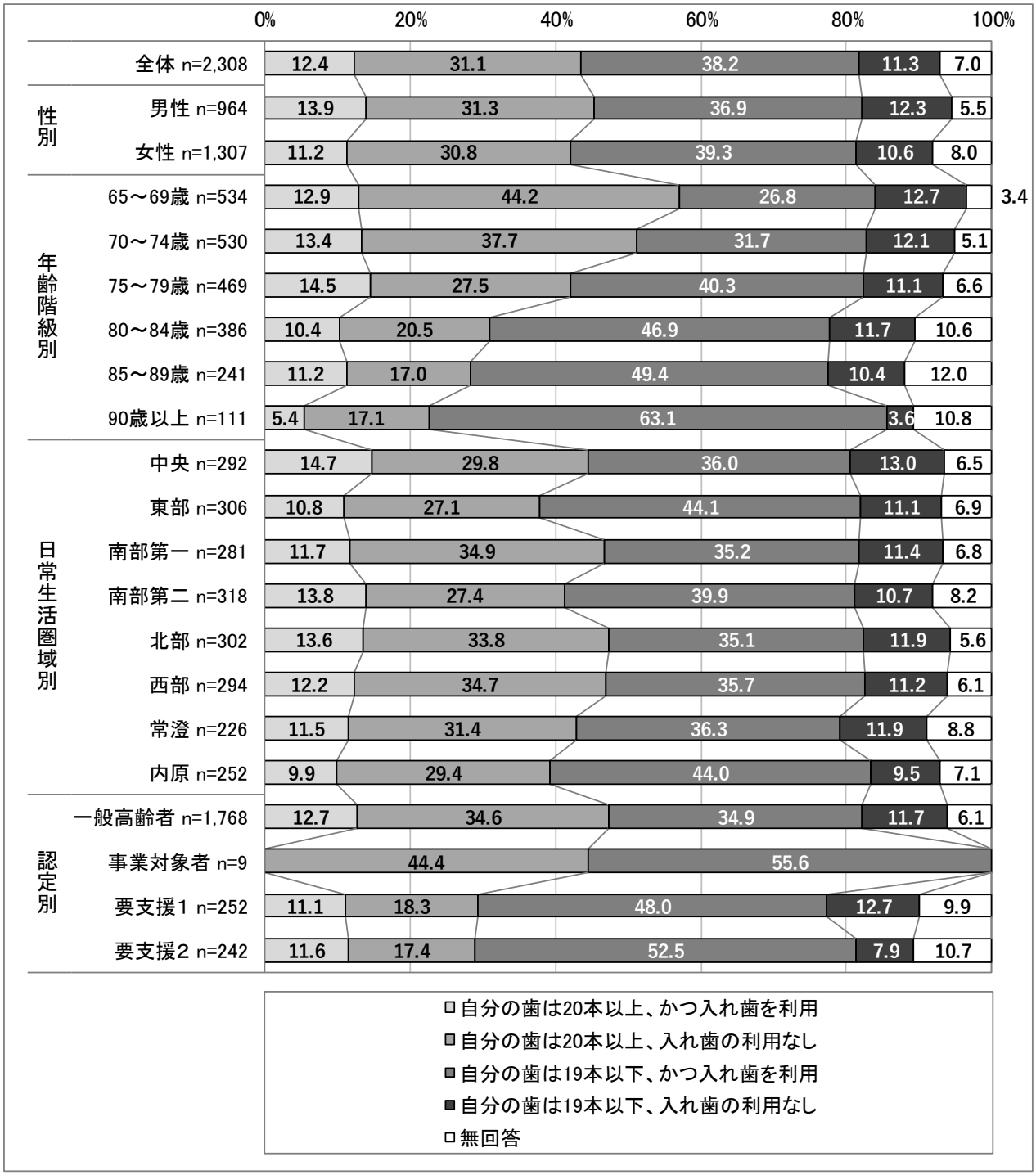


Q7．歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください。（１つのみ）

歯の数と入れ歯の利用状況については、全体では「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 38.2%で最も高く、次いで「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 31.1%、「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」が 12.4%、「自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし」が 11.3%となっています。

年齢階級別でみると、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」は、90 歳以上が 63.1%で最も高く、次いで 85～89 歳が 49.4%、80～84 歳が 46.9%となっています。

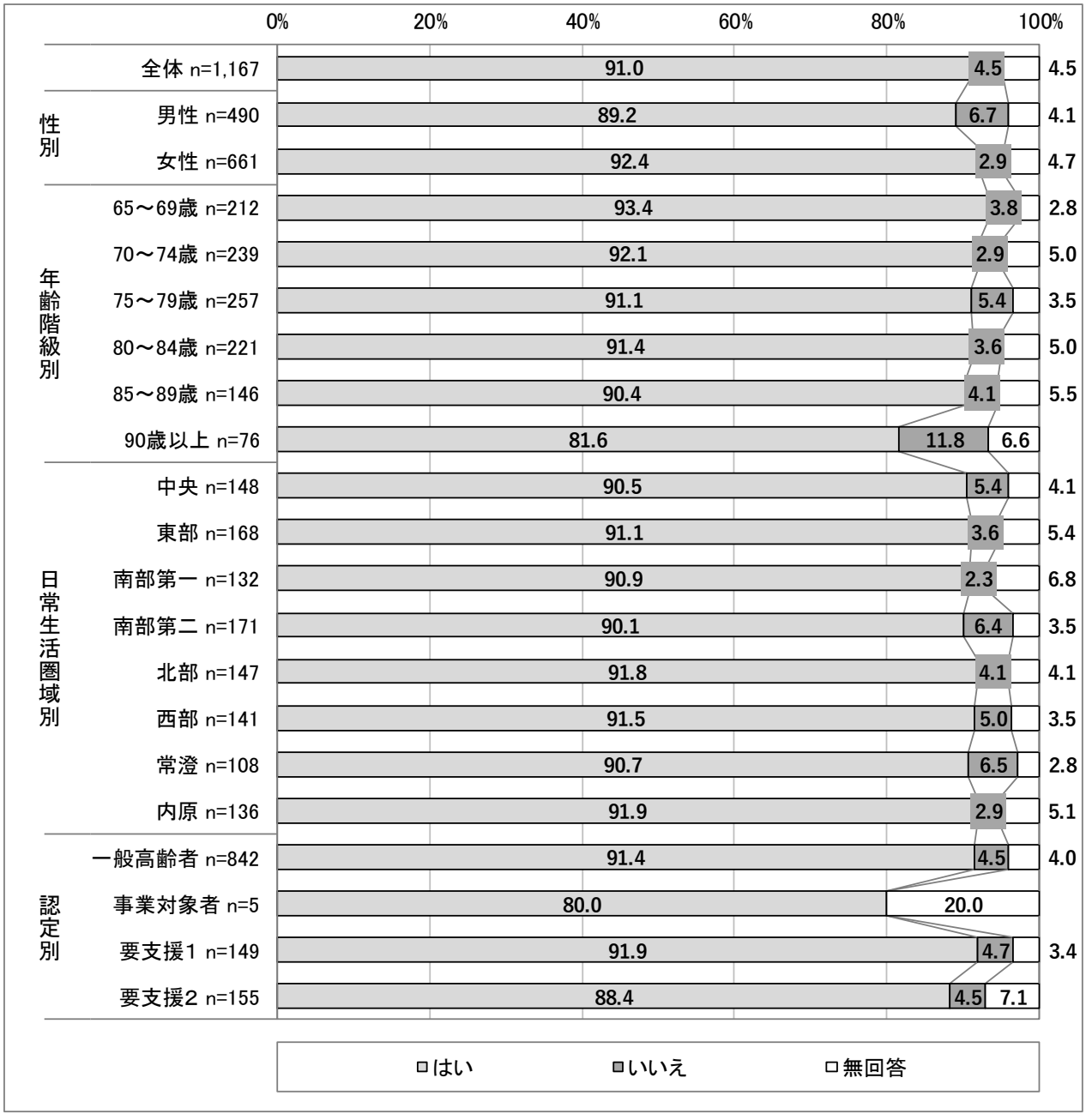
日常生活圏域別でみると、東部及び内原で「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。



【Q7で「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】

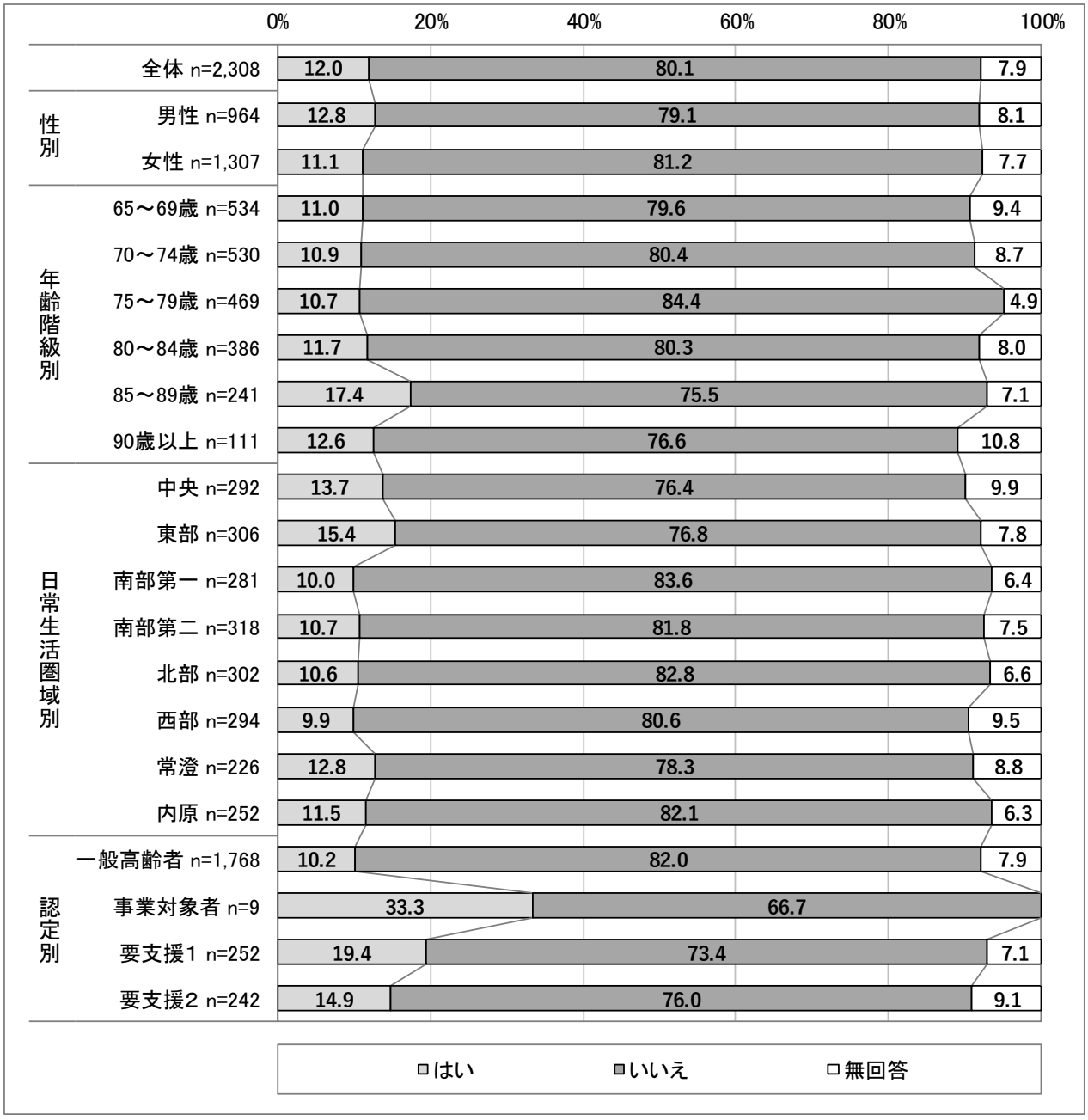
①．毎日入れ歯の手入れをしていますか（1つのみ）

毎日入れ歯の手入れをしているかについては、全体では「はい」が91.0%、「いいえ」が4.5%となっています。



Q8．6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか（1つのみ）

6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについては、全体では「はい」が 12.0%、「いいえ」が 80.1%となっています。

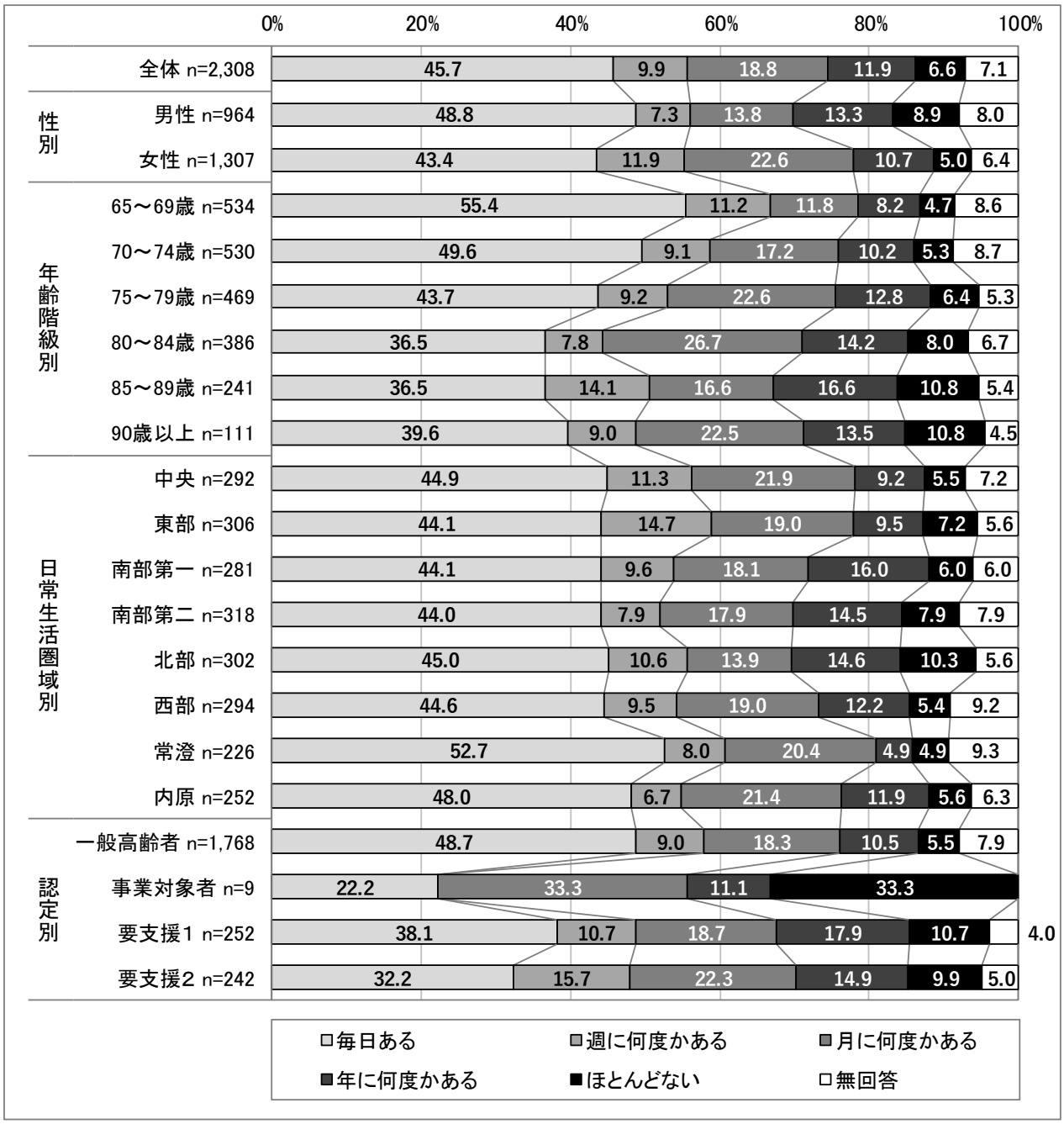


Q9．どなたかと食事をともにする機会はありますか（１つのみ）

誰かと食事をともにする機会については、全体では「毎日ある」が 45.7%で最も高く、次いで「月に何度かある」が 18.8%、「年に何度かある」が 11.9%となっています。

年齢階級別でみると、「年に何度かある」と「ほとんどない」を合わせた『あまりない』は、85～89 歳が 27.4%で最も高く、次いで 90 歳以上が 24.3%、80～84 歳が 22.2%となっています。

日常生活圏域別でみると、南部第二及び北部で『あまりない』の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。



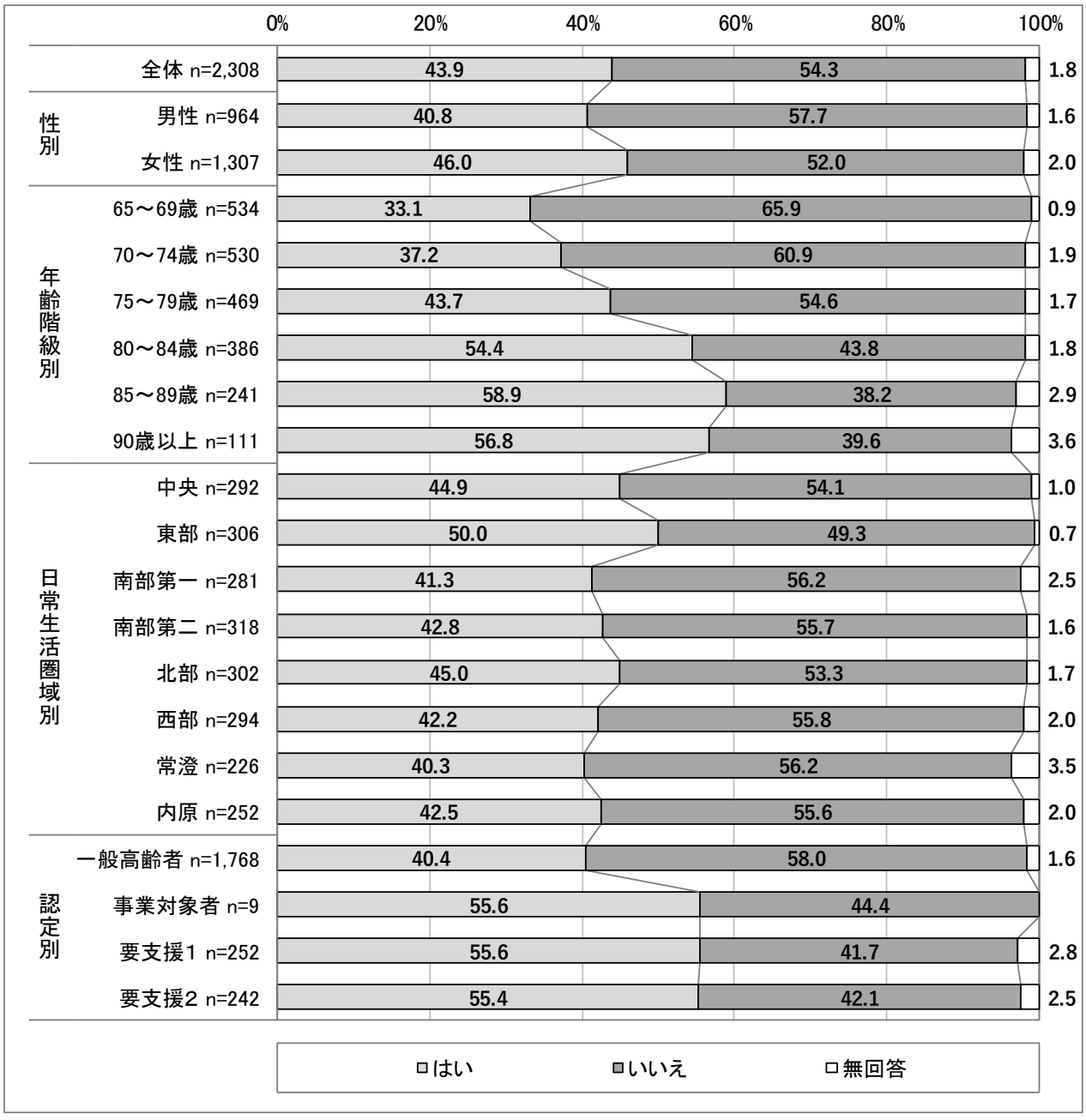
4. 毎日の生活について

Q1．物忘れが多いと感じますか（1つのみ）

物忘れが多いと感じるかについては、全体では「はい」が 43.9%、「いいえ」が 54.3%となっています。

年齢階級別でみると、「はい」は、85～89 歳が 58.9%で最も高く、次いで 90 歳以上が 56.8%、80～84 歳が 54.4%となっています。

日常生活圏域別でみると、東部で「はい」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。

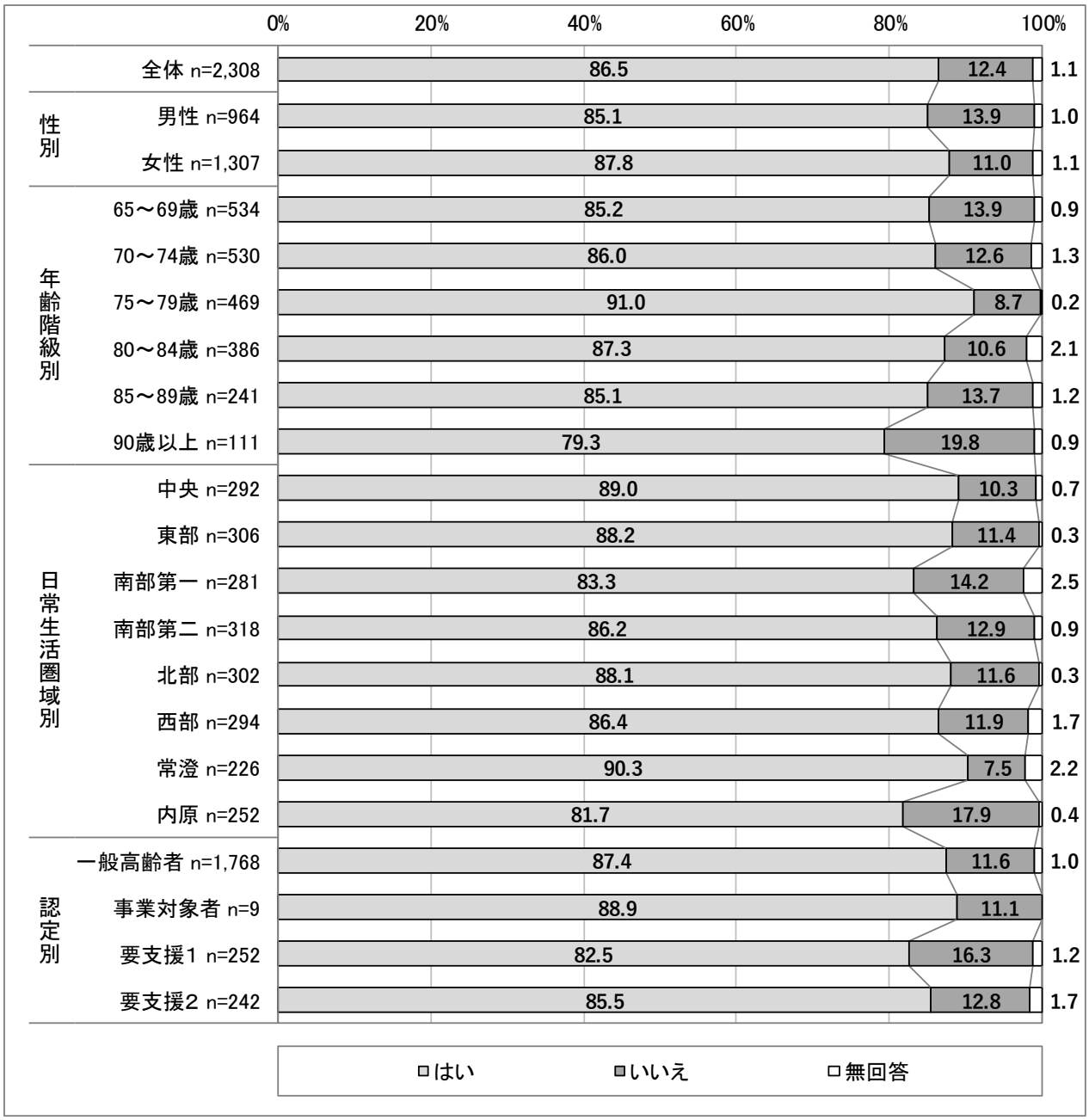


Q2．自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか（1つのみ）

自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしているかについては、全体では「はい」が 86.5%、「いいえ」が 12.4%となっています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90 歳以上が 19.8%で最も高く、次いで 65～69 歳が 13.9%、85～89 歳が 13.7%となっています。

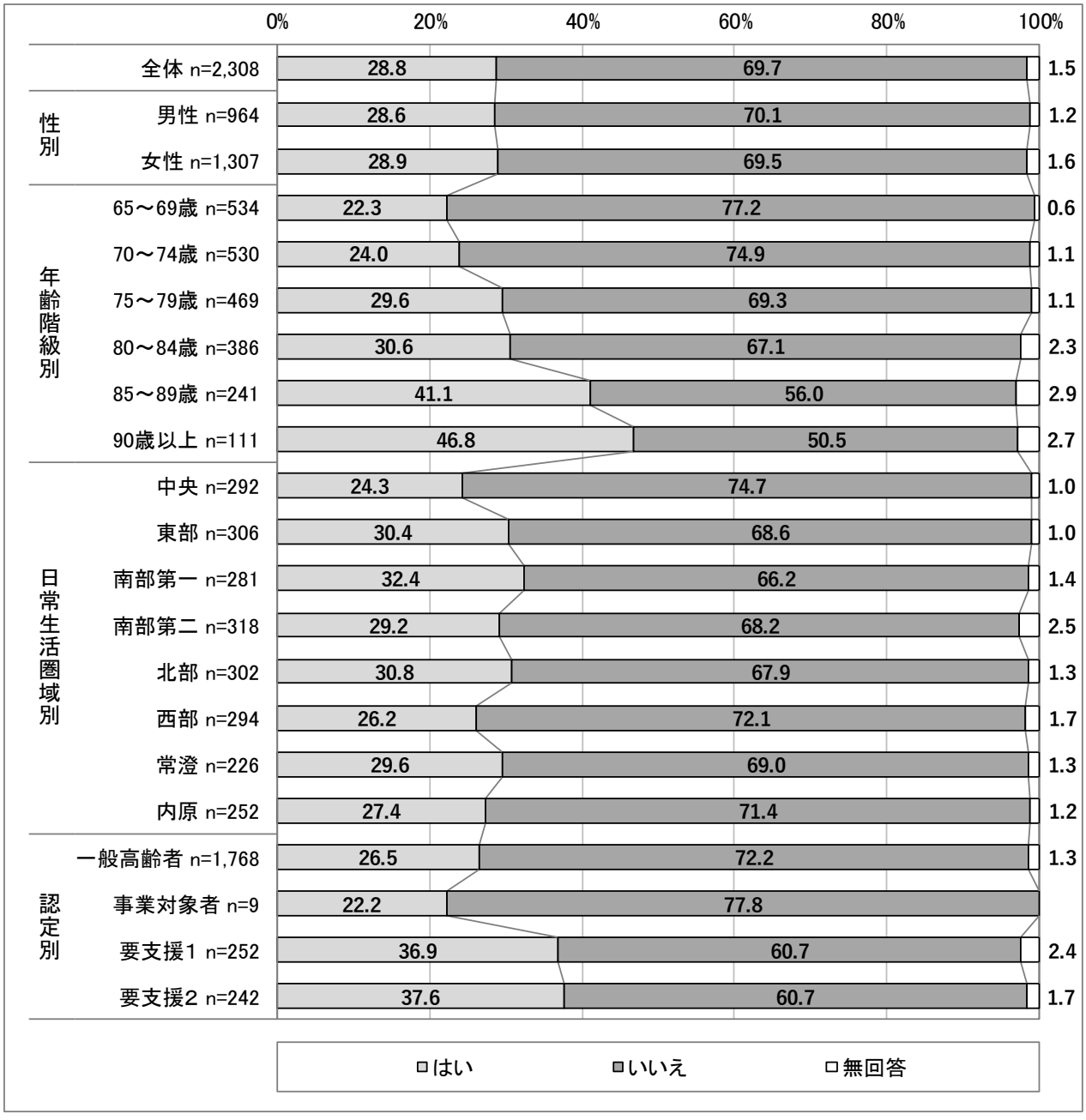
日常生活圏域別でみると、内原で「いいえ」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。



Q3．今日が何月何日かわからないときがありますか（1つのみ）

今日が何月何日かわからないときがあるかについては、全体では「はい」が 28.8%、「いいえ」が 69.7%となっています。

年齢階級別でみると、「はい」は、90 歳以上が 46.8%で最も高く、次いで 85～89 歳が 41.1%、80～84 歳が 30.6%となっています。

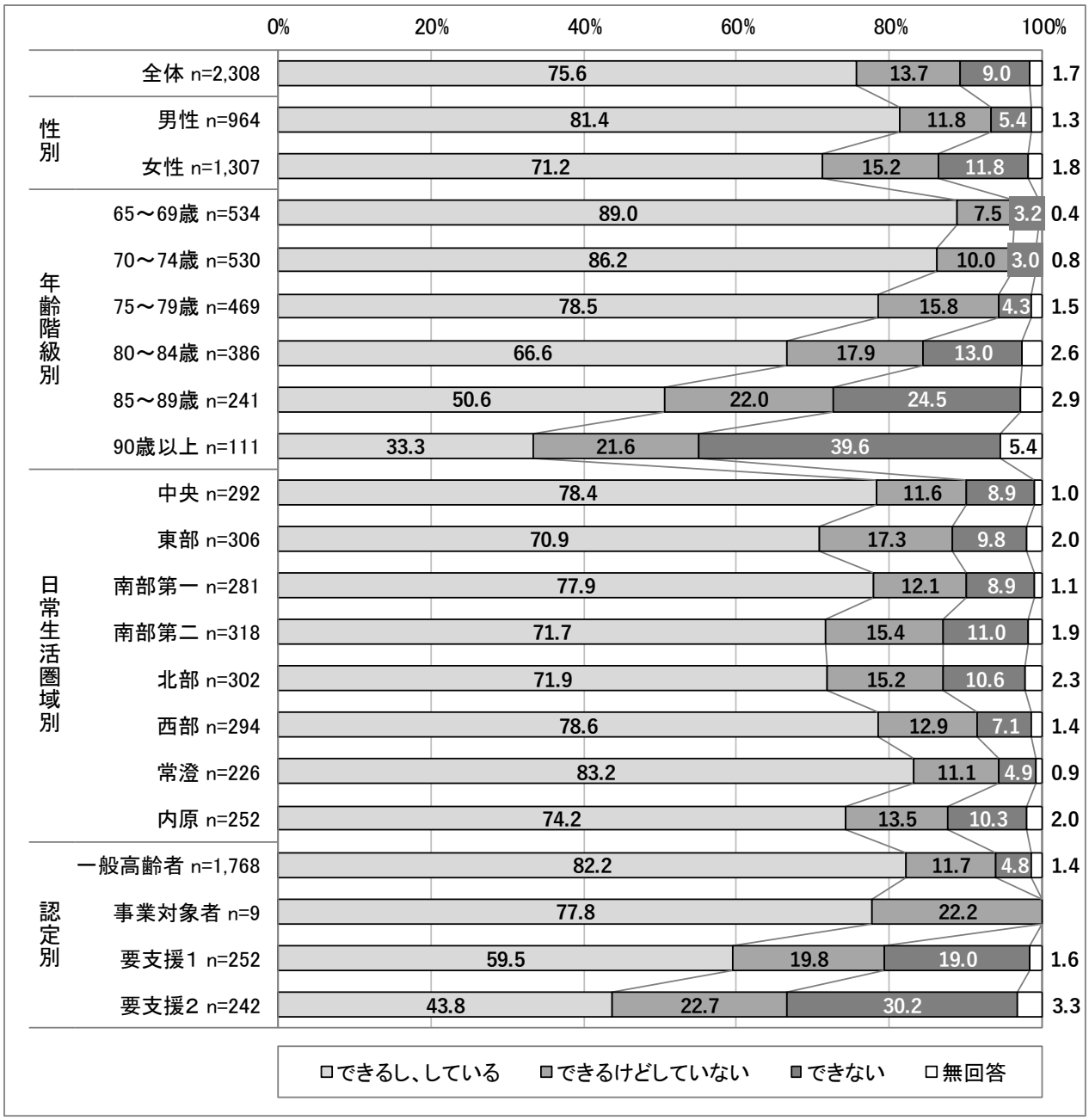


Q4．バスや電車を使って１人で外出していますか（自家用車でも可）（１つのみ）

バスや電車を使って１人で外出しているかについては、全体では「できるし、している」が 75.6%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が 13.7%、「できない」が 9.0%となっています。

性別でみると、「できない」は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、90 歳以上が 39.6%で最も高く、次いで 85～89 歳が 24.5%、80～84 歳が 13.0%となっています。

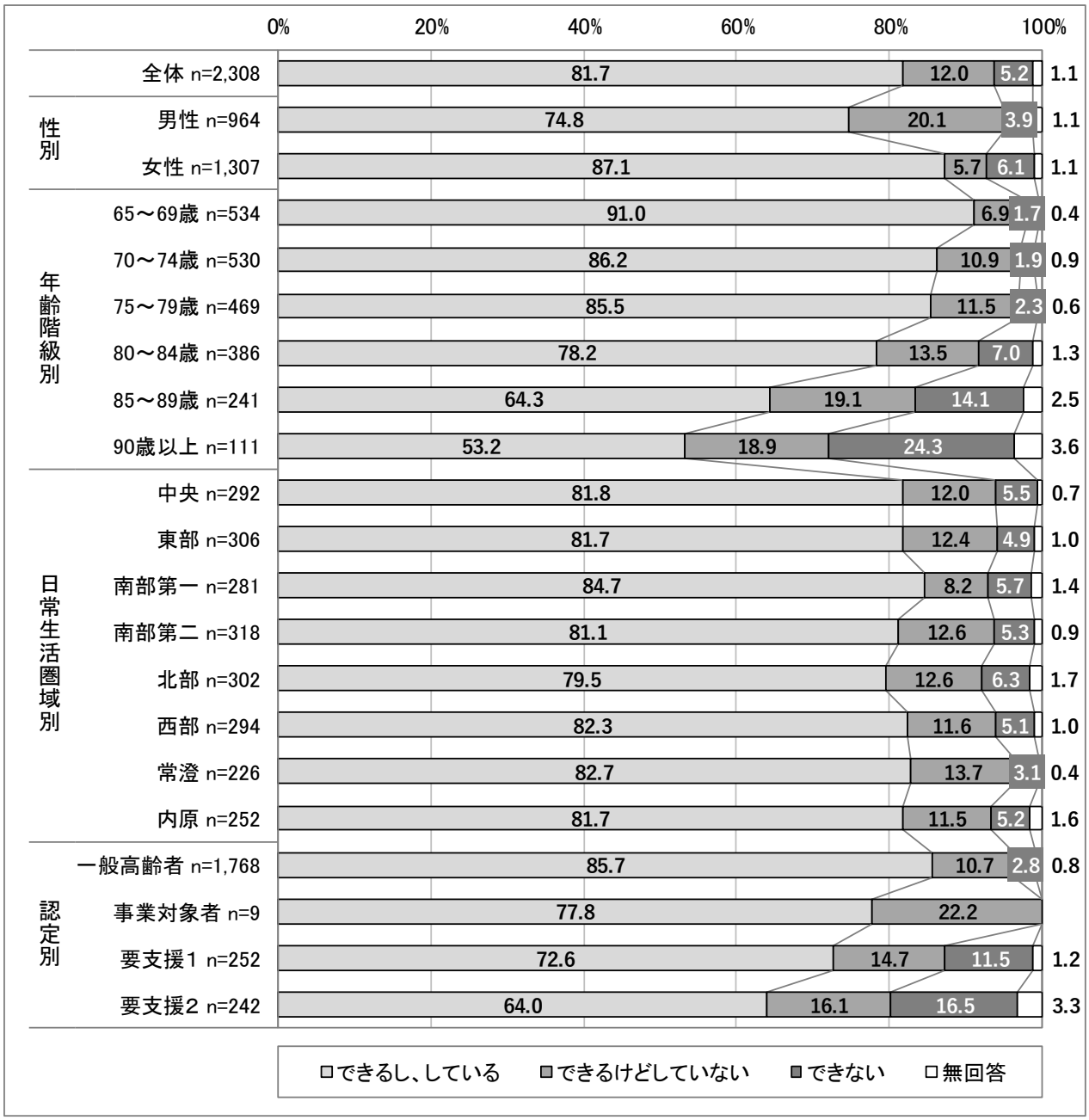


Q5．自分で食品・日用品の買い物をしていますか（1つのみ）

自分で食品・日用品の買い物をしているかについては、全体では「できるし、している」が 81.7%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が 12.0%、「できない」が 5.2%となっています。

性別でみると、「できるけどしていない」は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、90 歳以上が 24.3%で最も高く、次いで 80～84 歳が 14.1%、85～89 歳が 7.0%となっています。

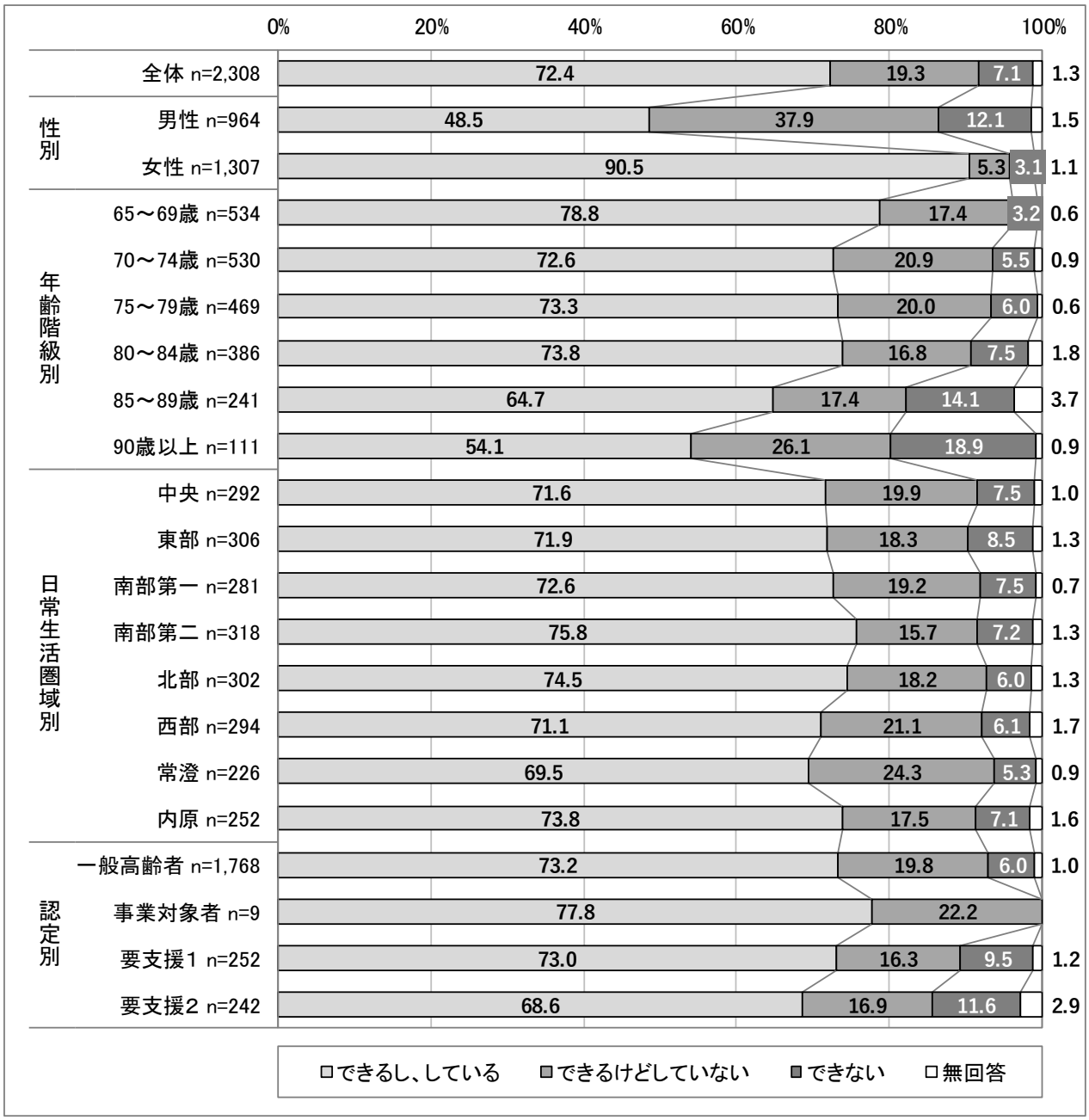


Q6．自分で食事の用意をしていますか（１つのみ）

自分で食事の用意をしているかについては、全体では「できるし、している」が 72.4%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が 19.3%、「できない」が 7.1%となっています。

性別でみると、「できるけどしていない」は、女性に比べ男性のほうが大きく上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、90 歳以上が 18.9%で最も高く、次いで 85～89 歳が 14.1%、80～84 歳が 7.5%となっています。

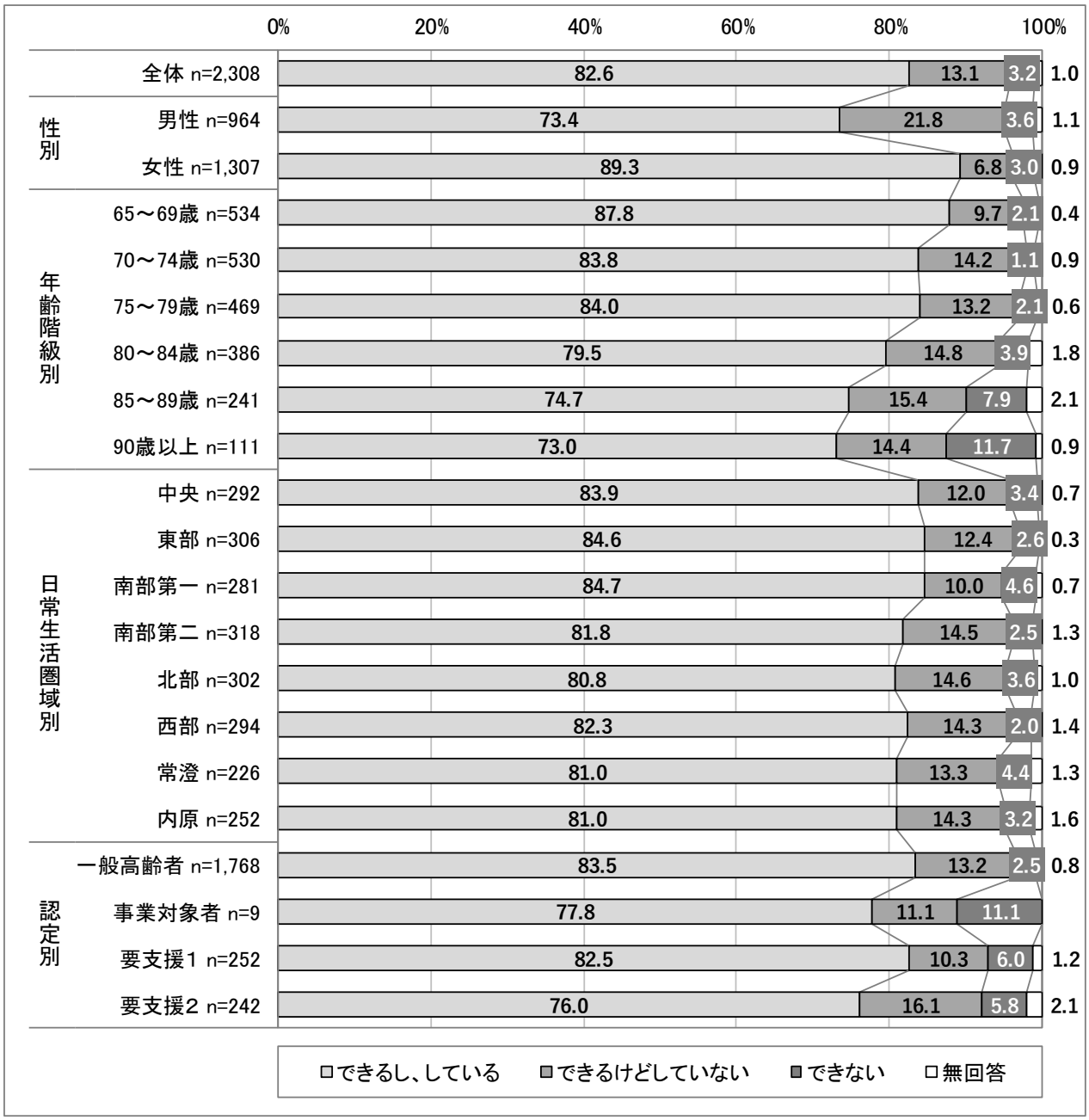


Q7．自分で請求書の支払いをしていますか（１つのみ）

自分で請求書の支払いをしているかについては、全体では「できるし、している」が 82.6%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が 13.1%、「できない」が 3.2%となっています。

性別でみると、「できるけどしていない」は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「できない」は、90 歳以上が 11.7%で最も高く、次いで 85～89 歳が 7.9%、80～84 歳が 3.9%となっています。

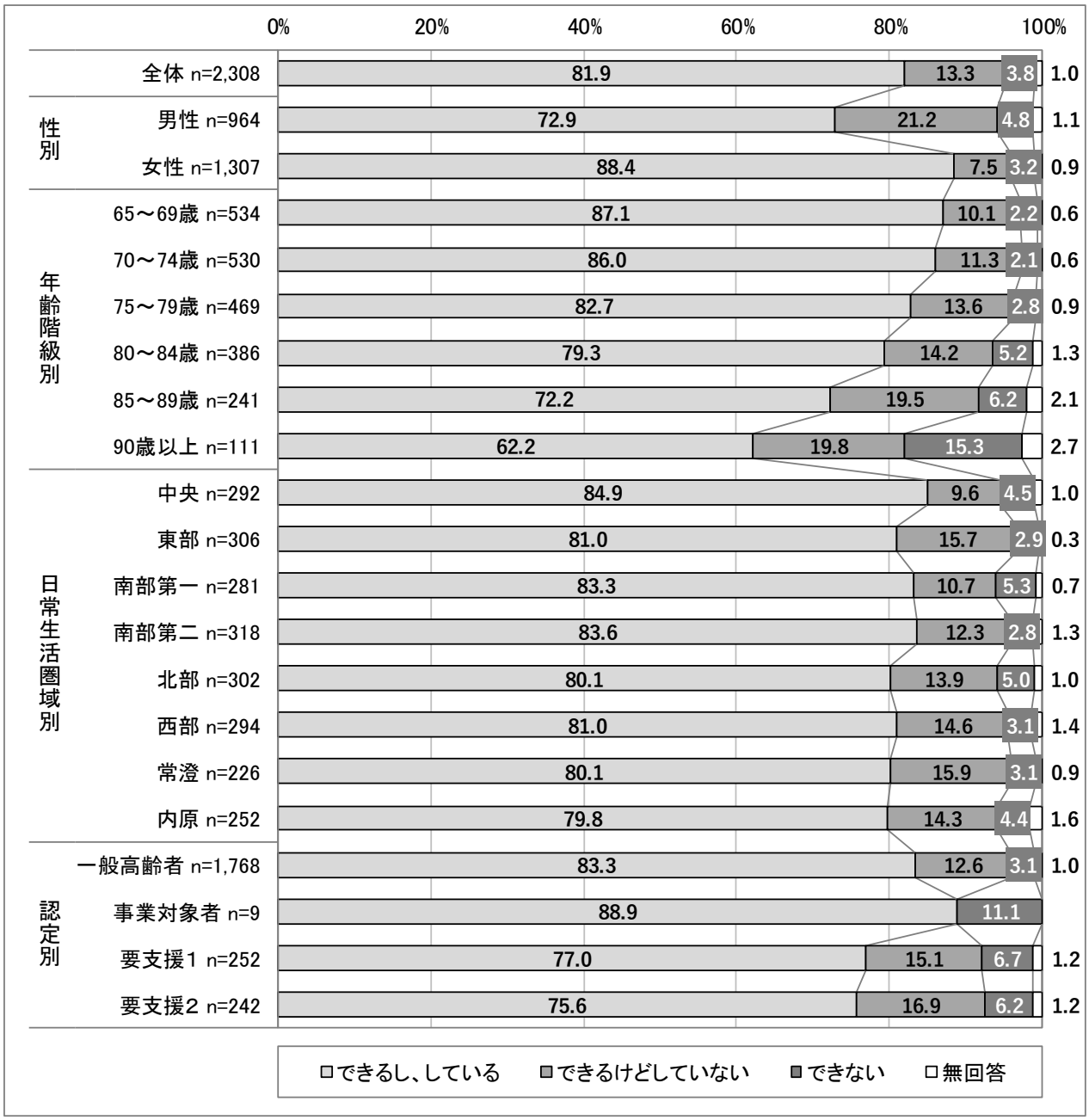


Q8．自分で預貯金の出し入れをしていますか（１つのみ）

自分で預貯金の出し入れをしているかについては、全体では「できるし、している」が 81.9%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が 13.3%、「できない」が 3.8%となっています。

性別でみると、「できるけどしていない」は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

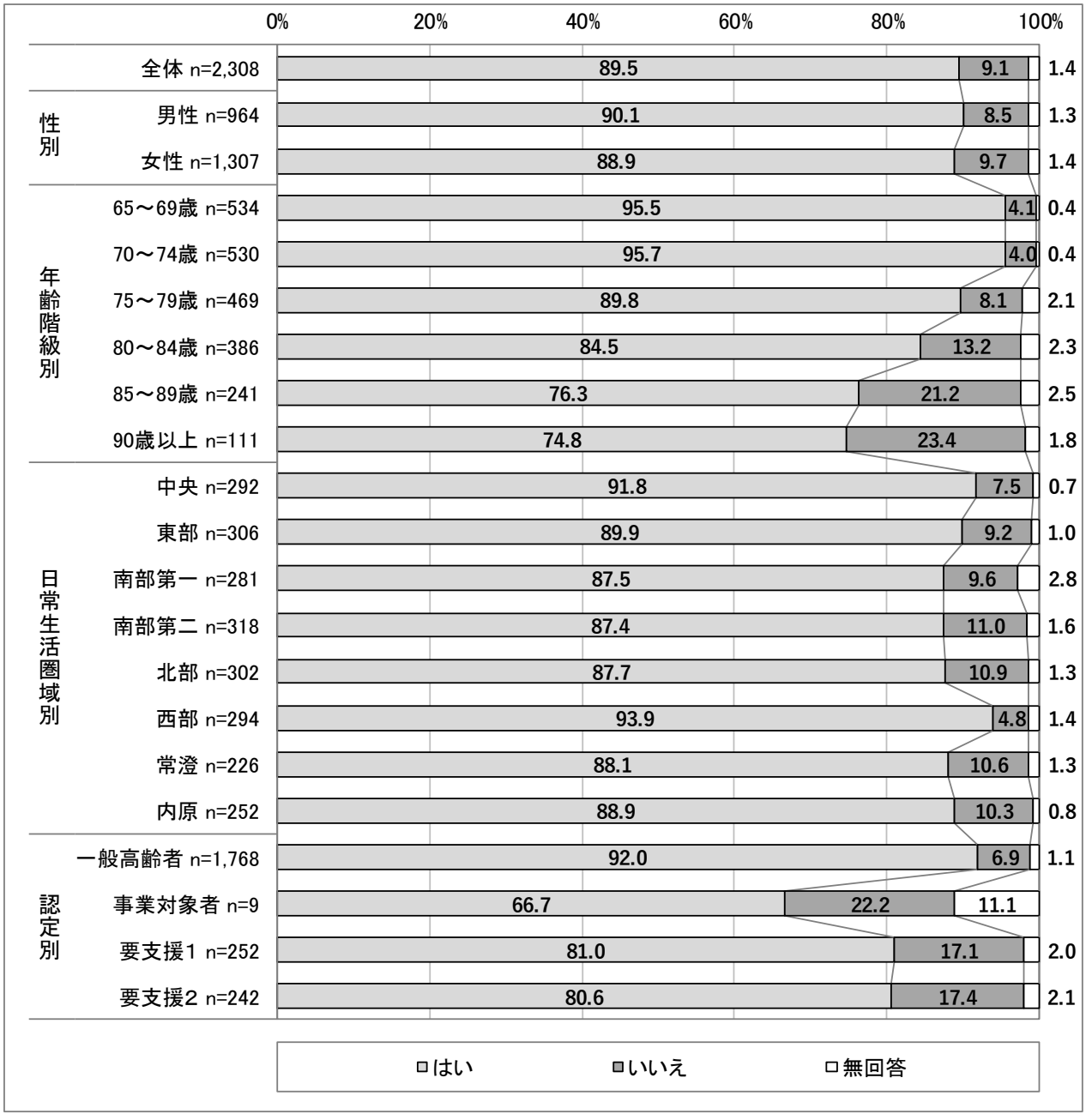
年齢階級別でみると、「できない」は、90 歳以上が 15.3%で最も高く、次いで 85～89 歳が 6.2%、80～84 歳が 5.2%となっています。



Q9．年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか（１つのみ）

年金などの書類が書けるかについては、全体では「はい」が 89.5%、「いいえ」が 9.1%となっています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90 歳以上が 23.4%で最も高く、次いで 85～89 歳が 21.2%、80～84 歳が 13.2%となっています。

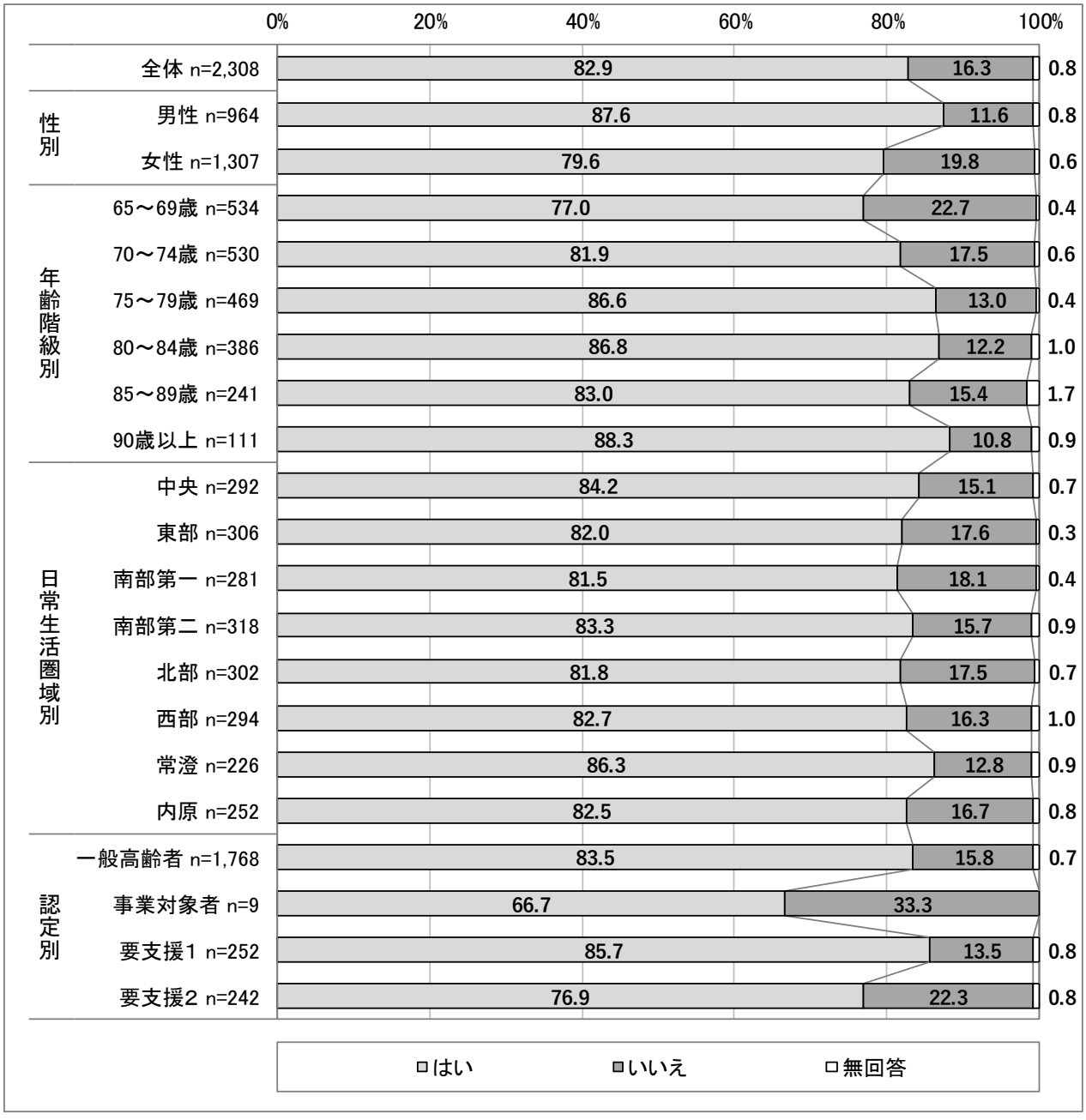


Q10. 新聞を読んでいますか（１つのみ）

新聞を読んでいるかについては、全体では「はい」が 82.9%、「いいえ」が 16.3%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、65～69 歳が 22.7%で最も高く、次いで 70～74 歳が 17.5%、85～89 歳が 15.4%となっています。

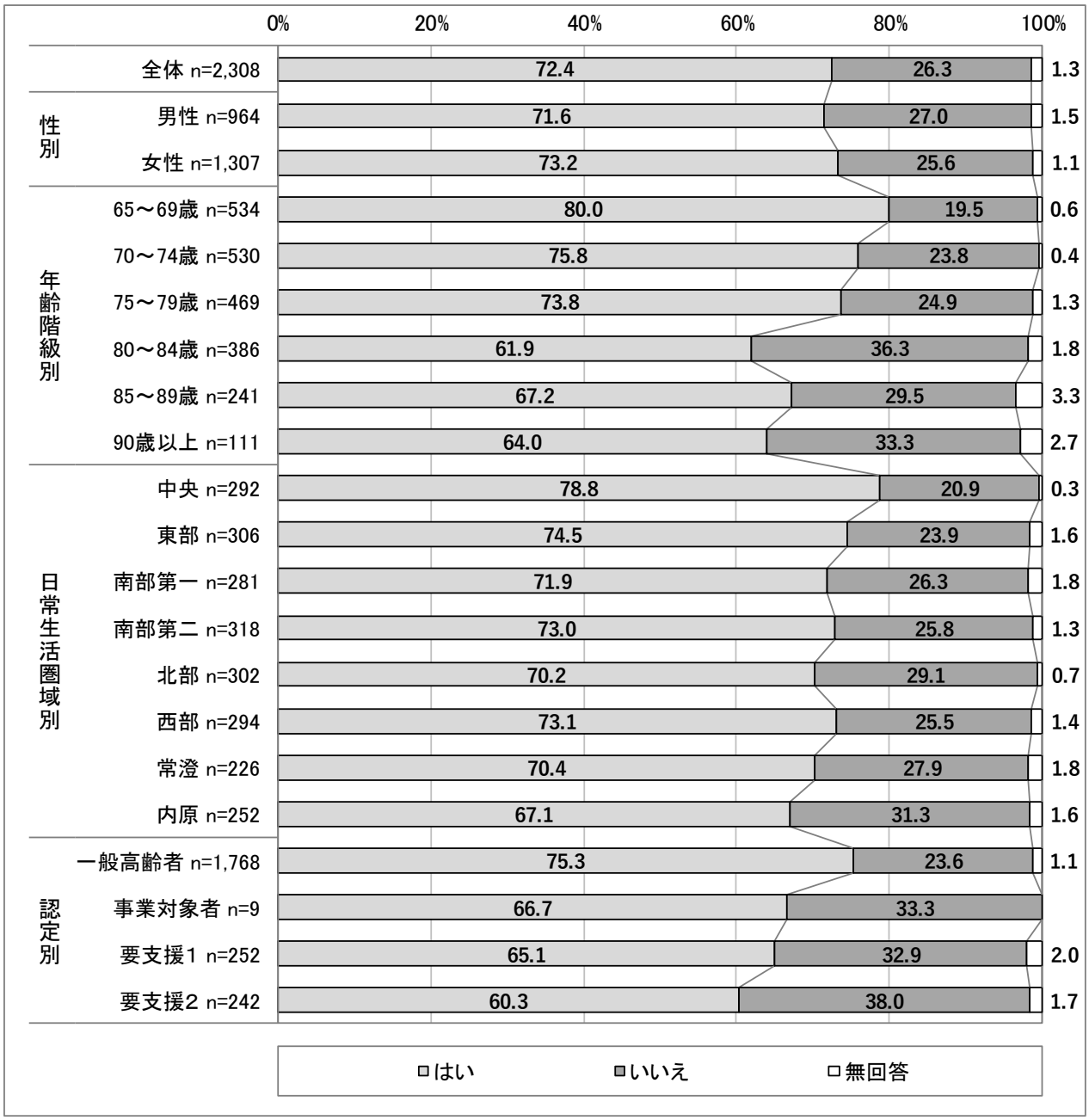


Q11．本や雑誌を読んでいますか（１つのみ）

本や雑誌を読んでいるかについては、全体では「はい」が 72.4%、「いいえ」が 26.3%となっています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、80～84 歳が 36.3%で最も高く、次いで 90 歳以上が 33.3%、85～89 歳が 29.5%となっています。

日常生活圏域別でみると、内原で「いいえ」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。



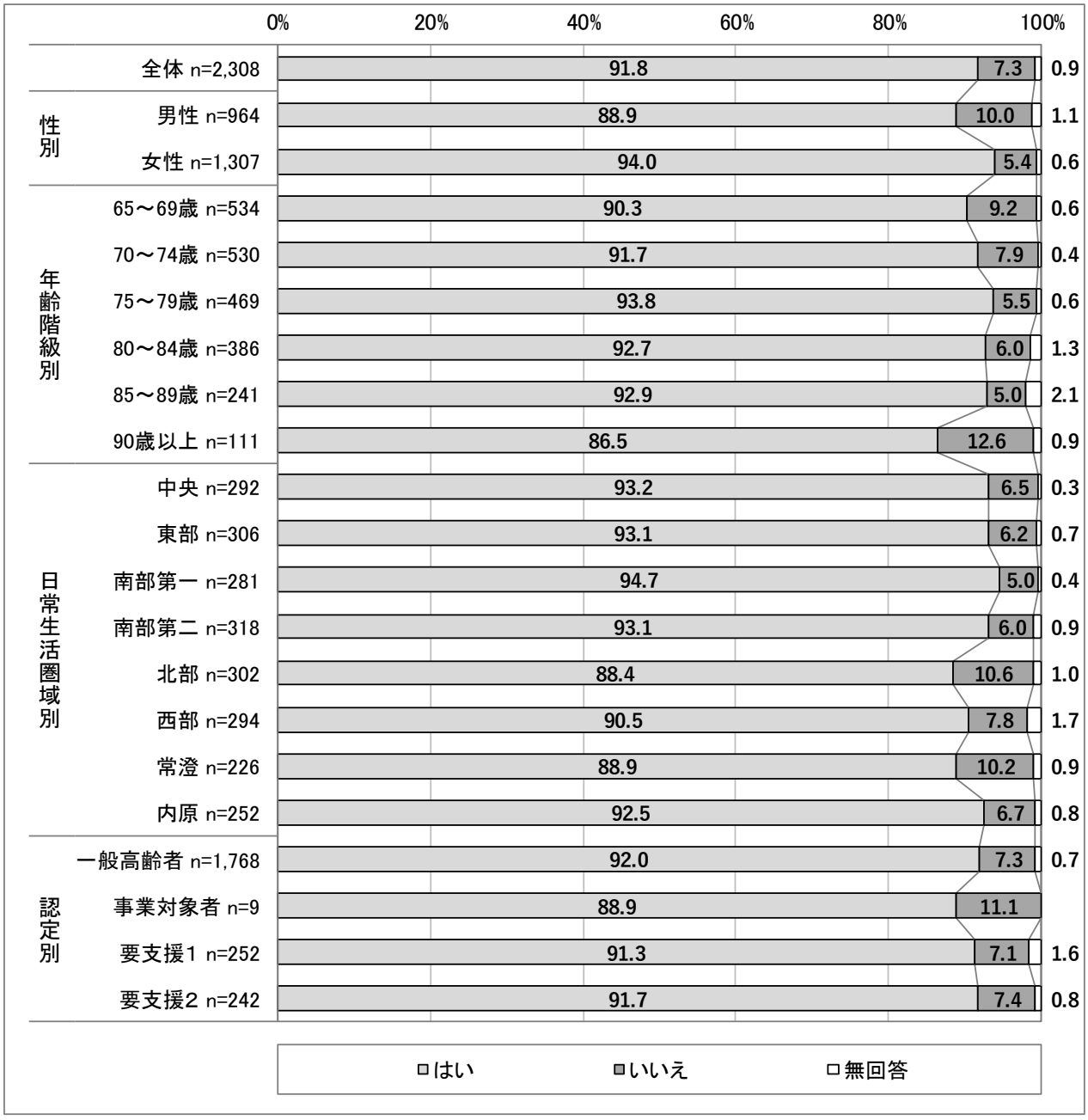
Q12. 健康についての記事や番組に関心がありますか（１つのみ）

健康についての記事や番組に関心があるかについては、全体では「はい」が 91.8%、「いいえ」が 7.3%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90 歳以上が 12.6%で最も高く、次いで 65～69 歳が 9.2%、70～74 歳が 7.9%となっています。

日常生活圏域別でみると、北部及び常澄で「いいえ」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。

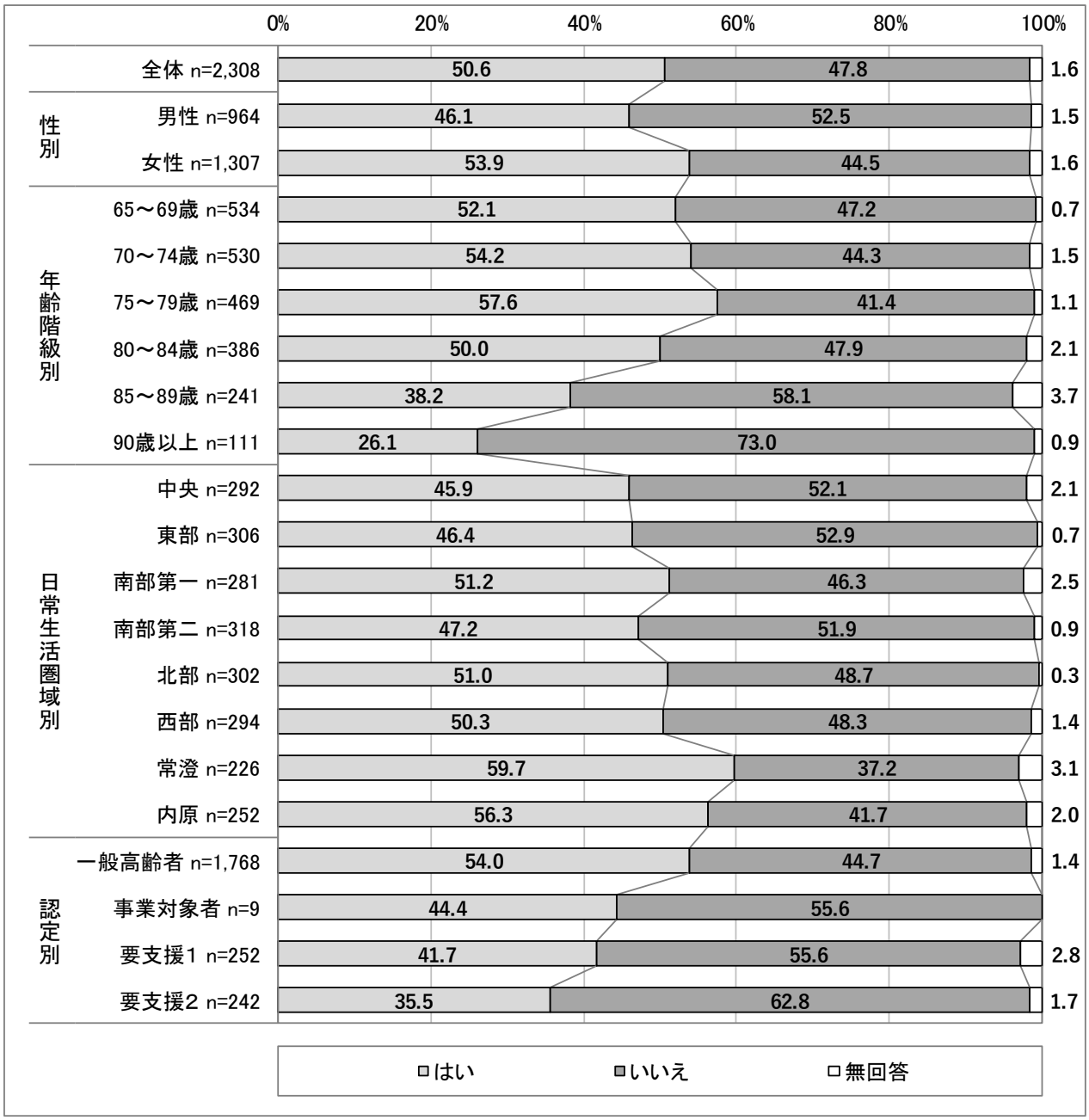


Q13. 友人の家を訪ねていますか（１つのみ）

友人の家を訪ねているかについては、全体では「はい」が 50.6%、「いいえ」が 47.8%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90 歳以上が 73.0%で最も高く、次いで 85～89 歳が 58.1%、80～84 歳が 47.9%となっています。

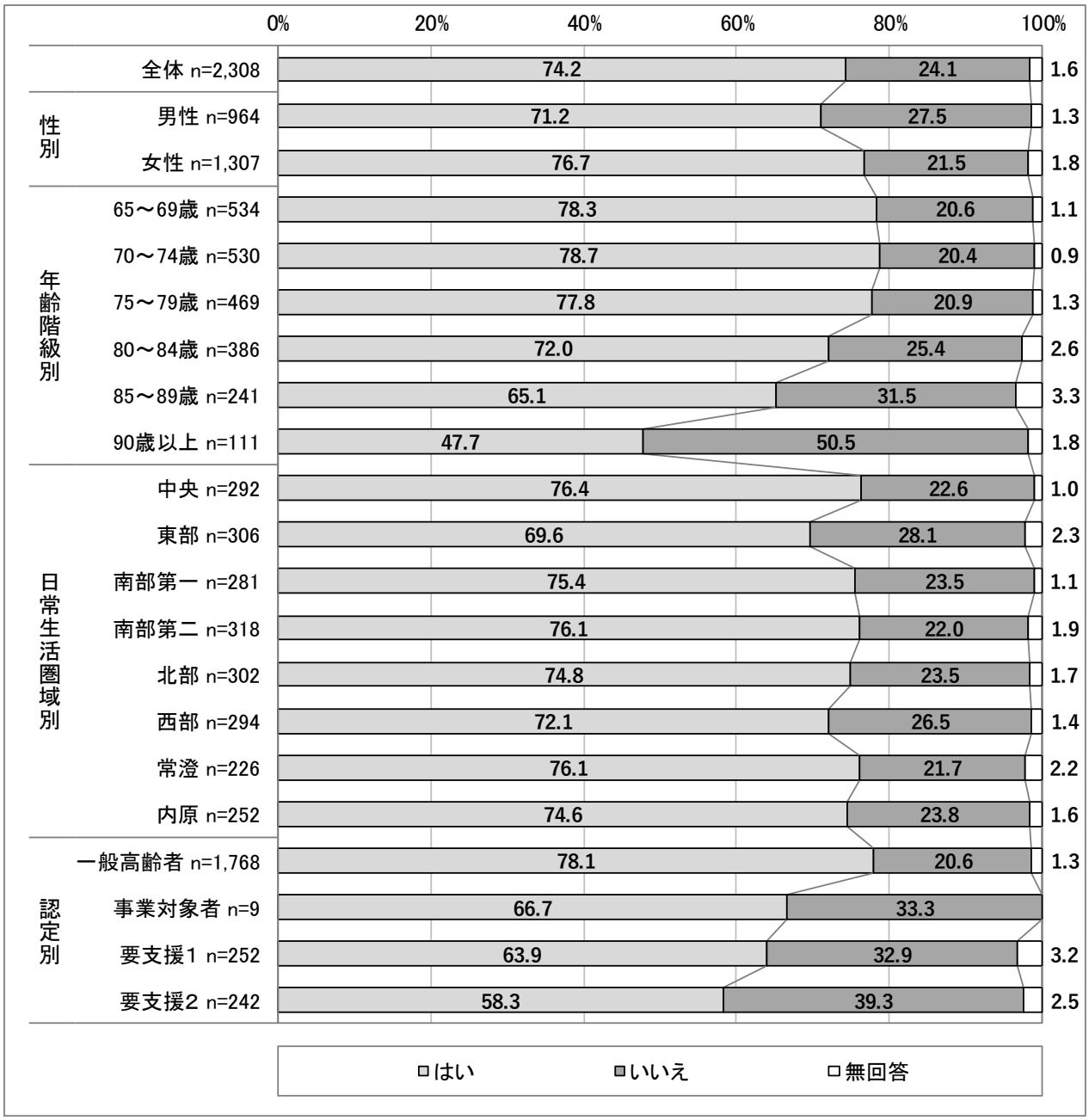


Q14. 家族や友人の相談にのっていますか（１つのみ）

家族や友人の相談にのっているかについては、全体では「はい」が 74.2%、「いいえ」が 24.1%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

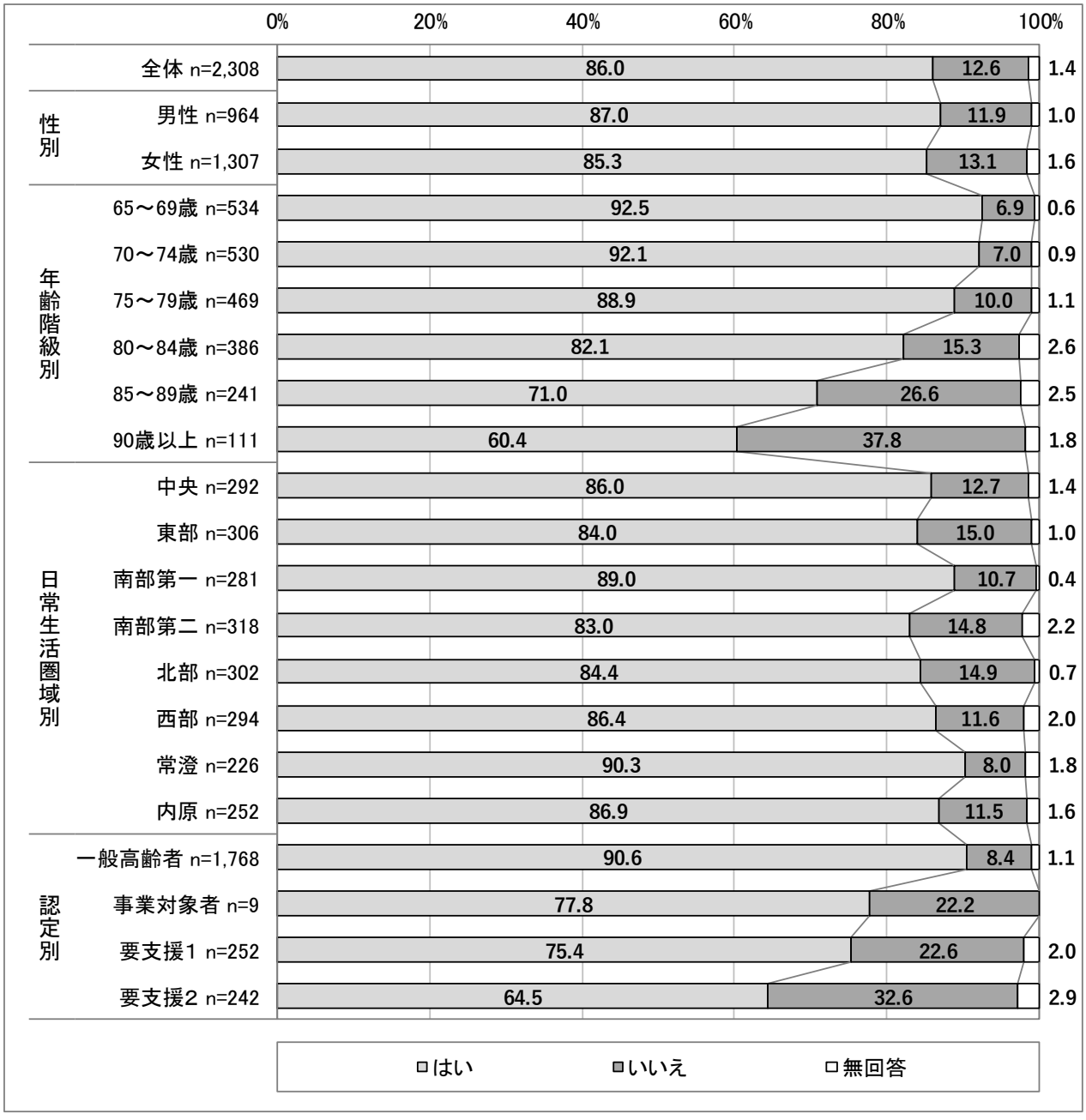
年齢階級別でみると、「いいえ」は、90 歳以上が 50.5%で最も高く、次いで 85～89 歳が 31.5%、80～84 歳が 25.4%となっています。



Q15. 病人を見舞うことができますか（１つのみ）

病人を見舞うことができるかについては、全体では「はい」が 86.0%、「いいえ」が 12.6%となっています。

年齢階級別でみると、「いいえ」は、90 歳以上が 37.8%で最も高く、次いで 85～89 歳が 26.6%、80～84 歳が 15.3%となっています。

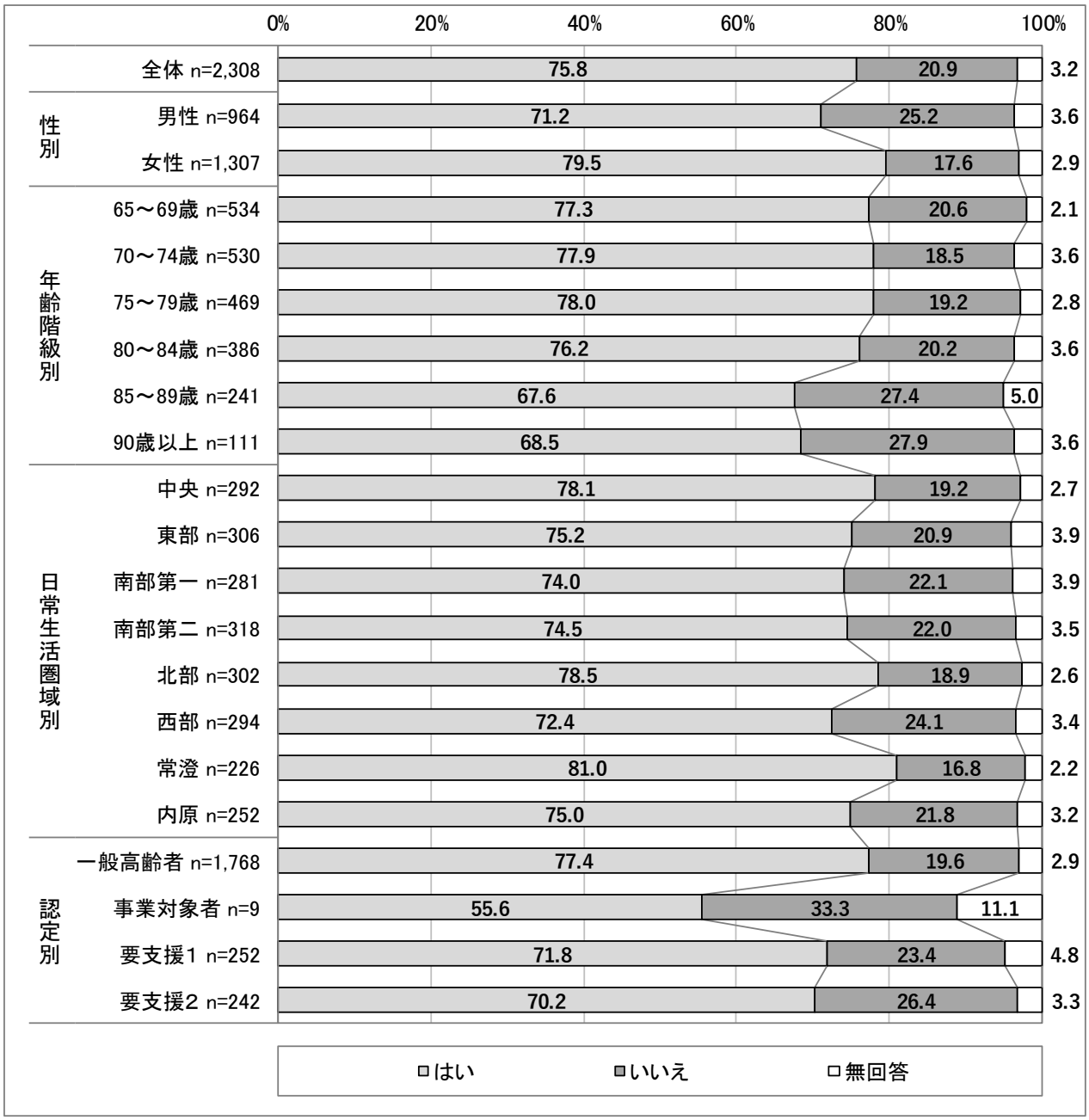


Q16. 若い人に自分から話しかけることがありますか（１つのみ）

若い人に自分から話しかけることがあるかについては、全体では「はい」が 75.8%、「いいえ」が 20.9%となっています。

性別でみると、「いいえ」は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

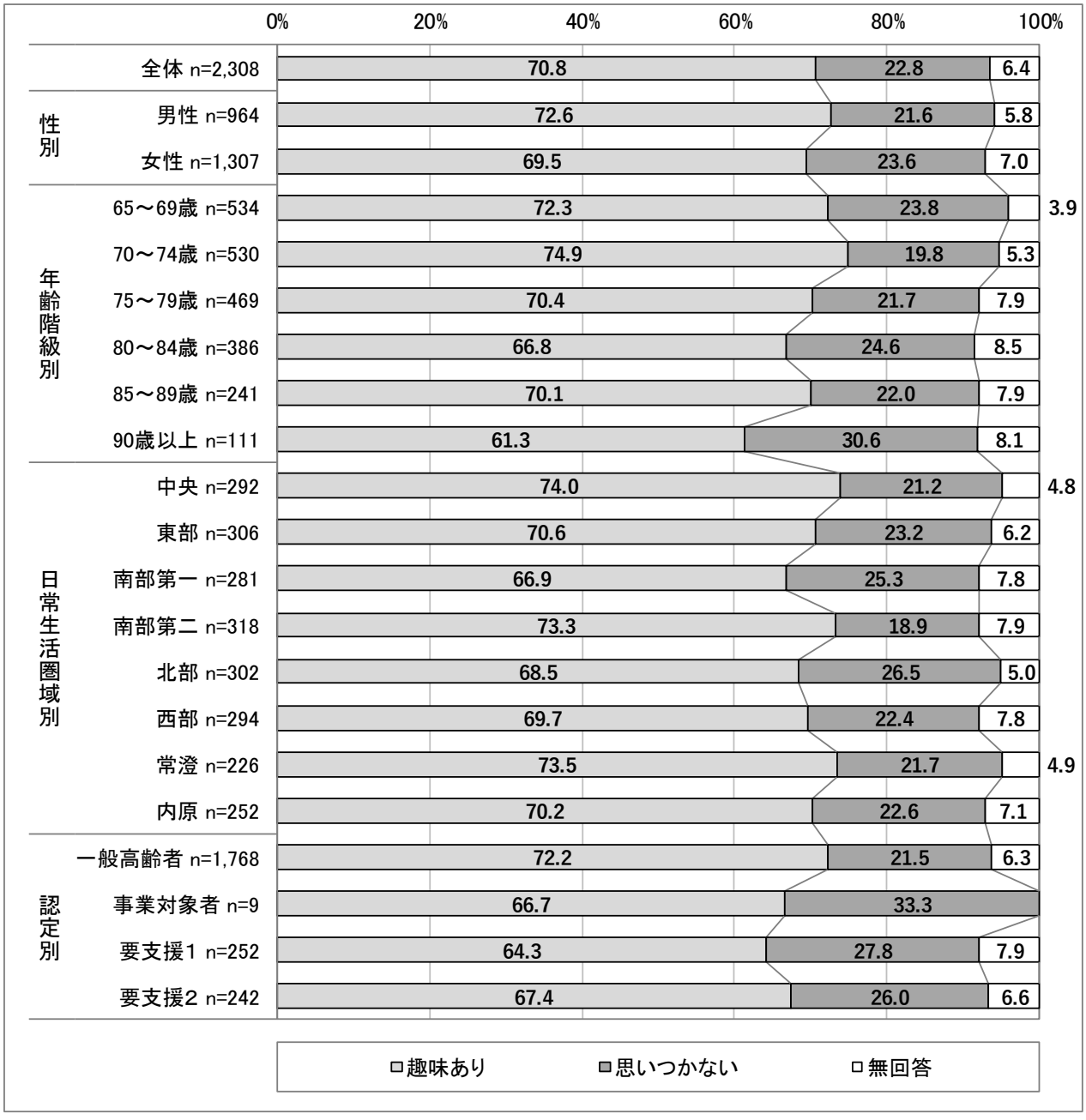
年齢階級別でみると、「いいえ」は、90 歳以上が 27.9%で最も高く、次いで 85～89 歳が 27.4%、65～69 歳が 20.6%となっています。



Q17. 趣味はありますか（１つのみ）

趣味はあるかについては、全体では「趣味あり」が 70.8%、「思いつかない」が 22.8%で、「趣味あり」が 48.0 ポイント上回っています。

年齢階級別でみると、「思いつかない」は、90 歳以上が 30.6%で最も高く、次いで 80～84 歳が 24.6%、65～69 歳が 23.8%となっています。

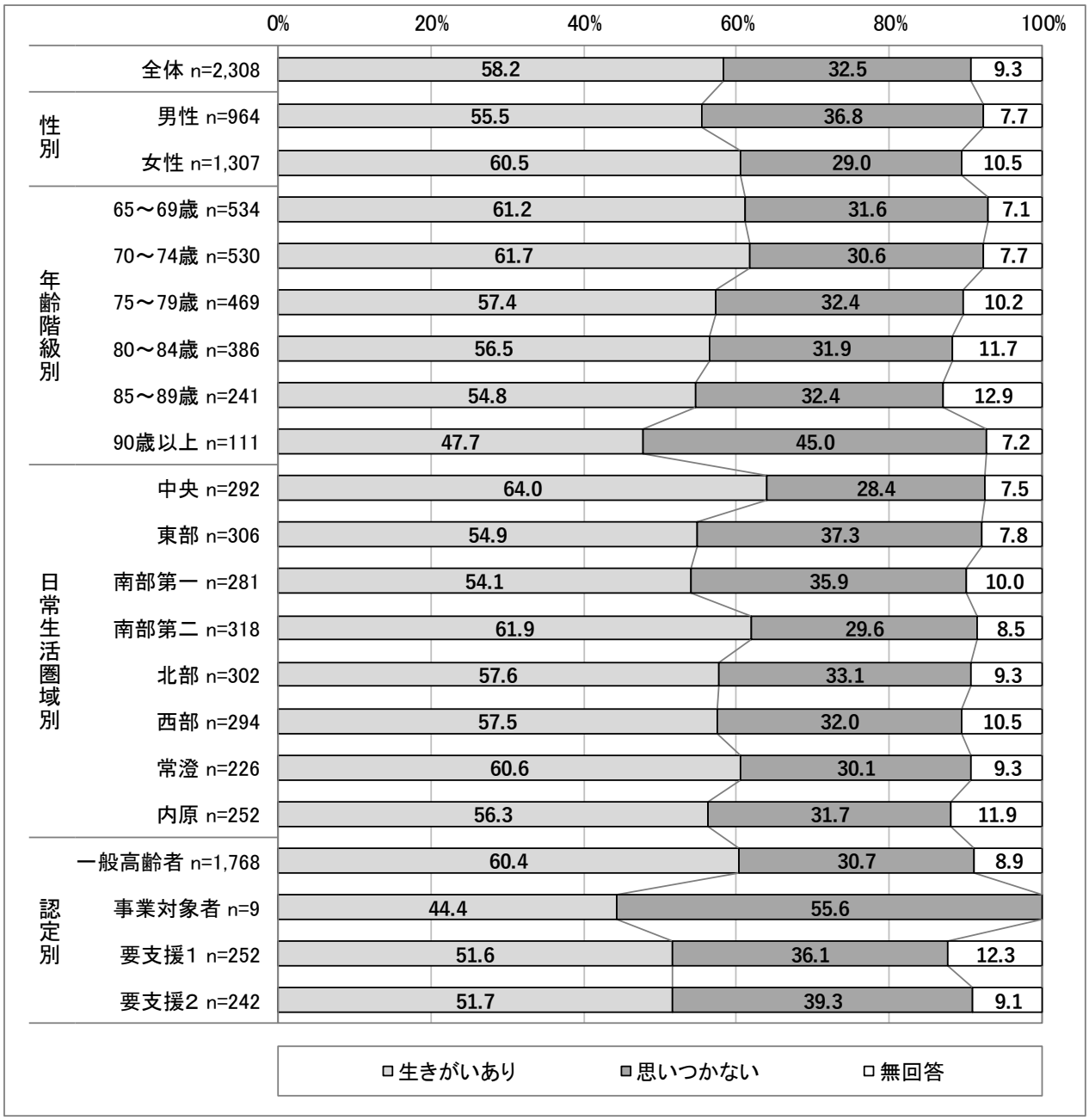


Q18. 生きがいはありますか（１つのみ）

生きがいはあるかについては、全体では「生きがいあり」が 58.2%、「思いつかない」が 32.5%で、「生きがいあり」が 25.7 ポイント上回っています。

性別でみると、「思いつかない」は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「思いつかない」は、90 歳以上が 45.0%で最も高く、次いで 75～79 歳、85～89 歳がともに 32.4%、80～84 歳が 31.9%となっています。



5. 地域での活動について

Q1．以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか（それぞれに１つのみ）

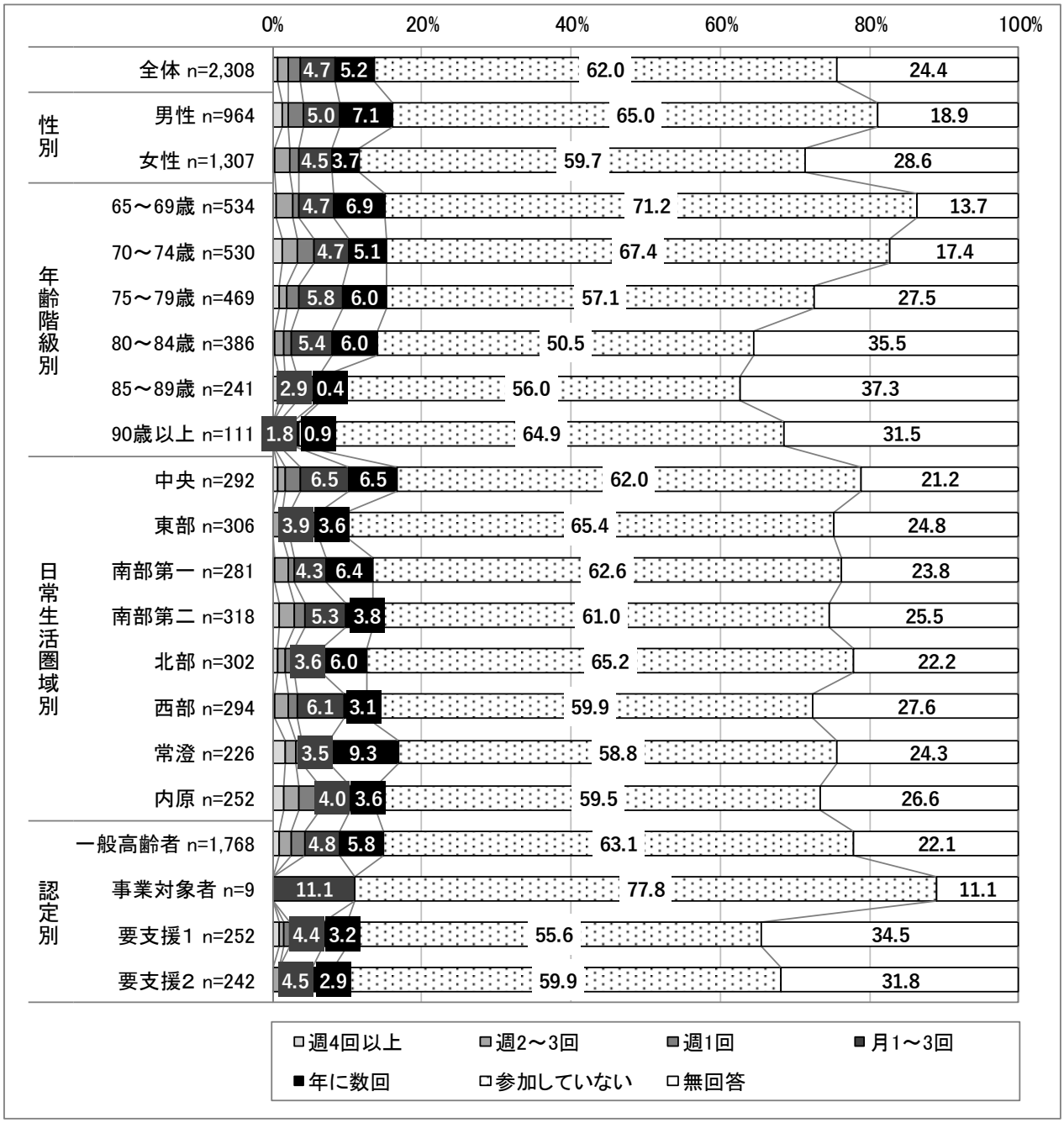
① ボランティアのグループ

ボランティアのグループへの参加状況については、全体では「参加していない」が 62.0%で最も高く、次いで「年に数回」が 5.2%、「月１～３回」が 4.7%となっています。

性別でみると、「週４回以上」、「週２～３回」、「週１回」、「月１～３回」、「年に数回」を合わせた『参加している』は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』の割合は、75～79 歳が最も高く、次いで 70～74 歳、65～69 歳となっています。

日常生活圏域でみると、『参加している』の割合は、中央、常澄が最も高くなっています。



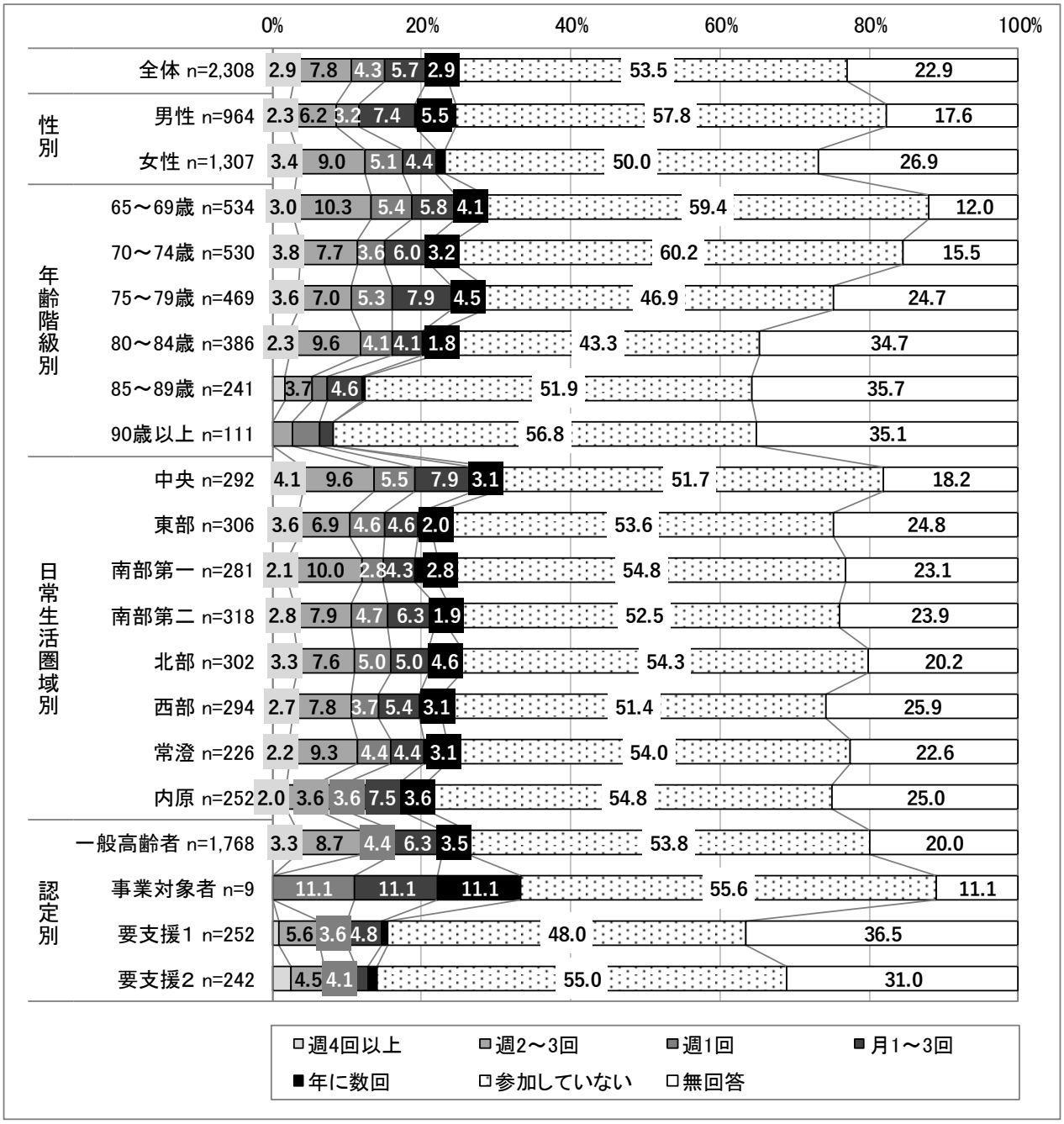
② スポーツ関係のグループやクラブ

スポーツ関係のグループやクラブへの参加状況については、全体では「参加していない」が 53.5%で最も高く、次いで「週２～３回」が 7.8%、「月１～３回」が 5.7%となっています。

性別でみると、「週４回以上」、「週２～３回」、「週１回」、「月１～３回」、「年に数回」を合わせた『参加している』は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』の割合は、65～69 歳が最も高く、次いで 75～79 歳、70～74 歳となっています。

日常生活圏域でみると、『参加している』の割合は、中央が最も高くなっています。



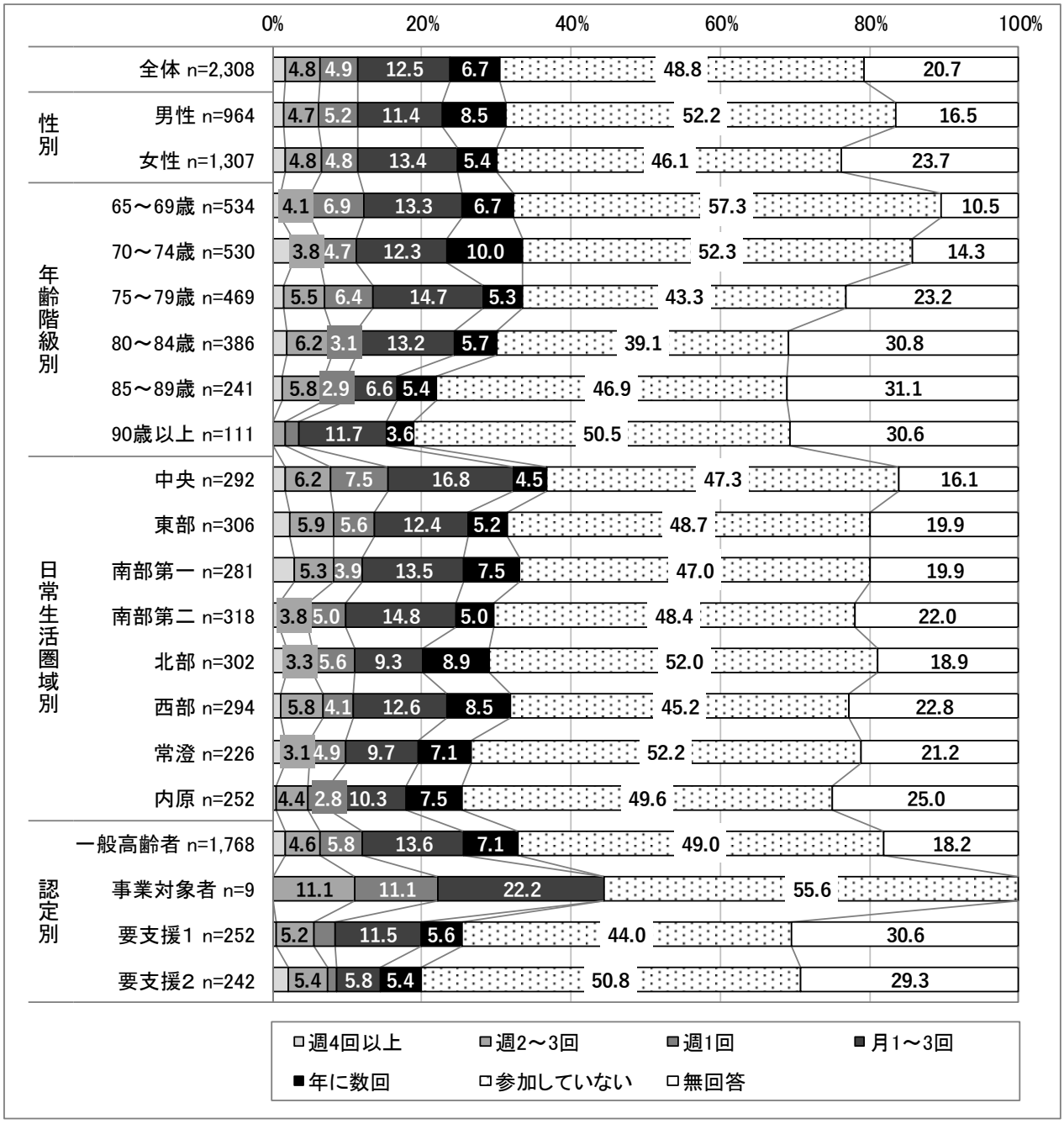
③ 趣味関係のグループ

趣味関係のグループへの参加状況については、全体では「参加していない」が 48.8%で最も高く、次いで「月１～３回」が 12.5%、「年に数回」が 6.7%となっています。

性別でみると、「週４回以上」、「週２～３回」、「週１回」、「月１～３回」、「年に数回」を合わせた『参加している』は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』の割合は、70～74 歳、75～79 歳が最も高く、次いで 65～69 歳となっています。

日常生活圏域でみると、『参加している』の割合は、中央が最も高くなっています。



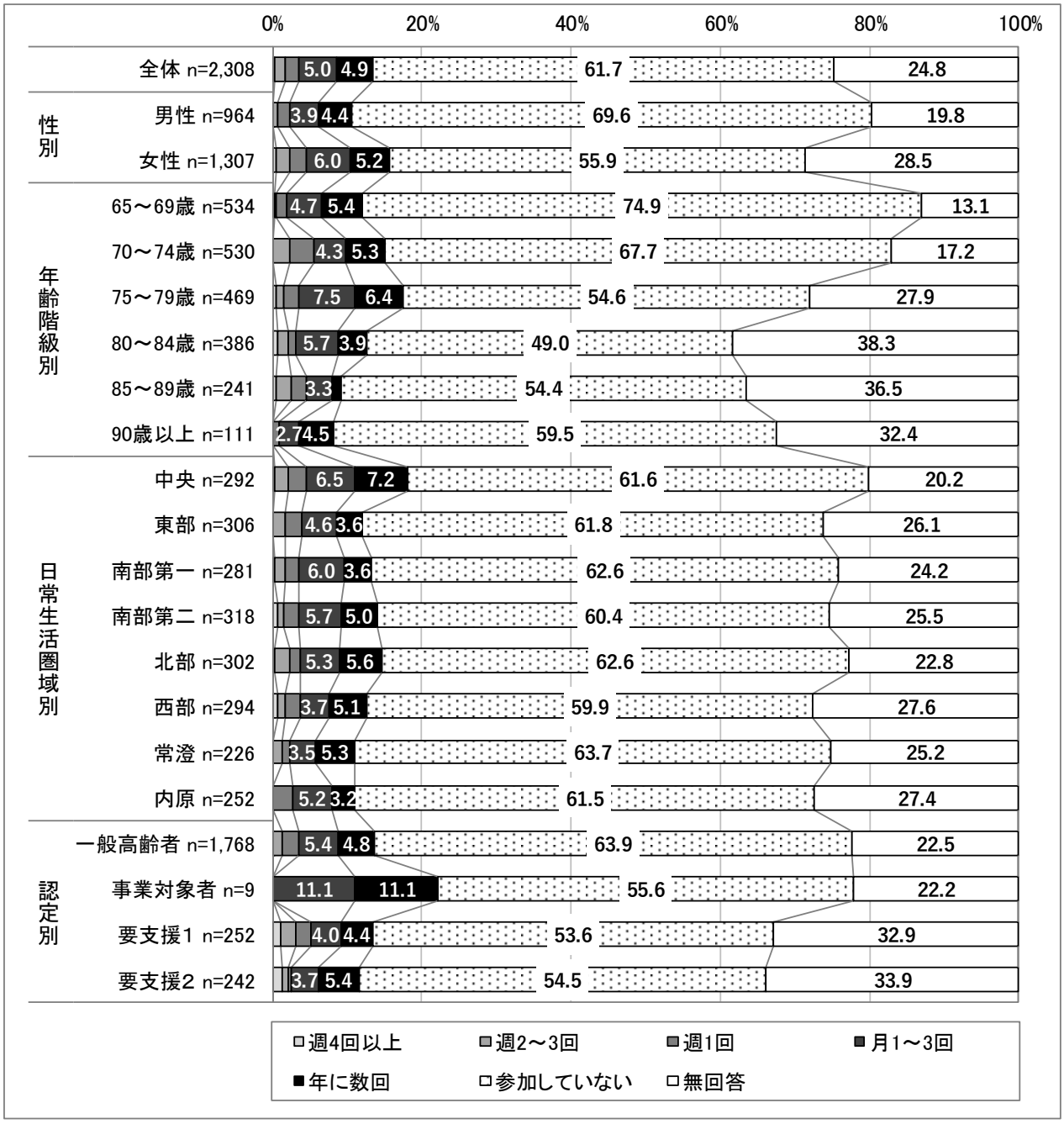
④ 学習・教養サークル

学習・教養サークルへの参加状況については、全体では「参加していない」が 61.7%で最も高く、次いで「月１～３回」が 5.0%、「年に数回」が 4.9%となっています。

性別でみると、「週４回以上」、「週２～３回」、「週１回」、「月１～３回」、「年に数回」を合わせた『参加している』は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』の割合は、75～79 歳が最も高く、次いで 70～74 歳、80～84 歳となっています。

日常生活圏域でみると、『参加している』の割合は、中央が最も高くなっています。



⑤ 介護予防のための通いの場

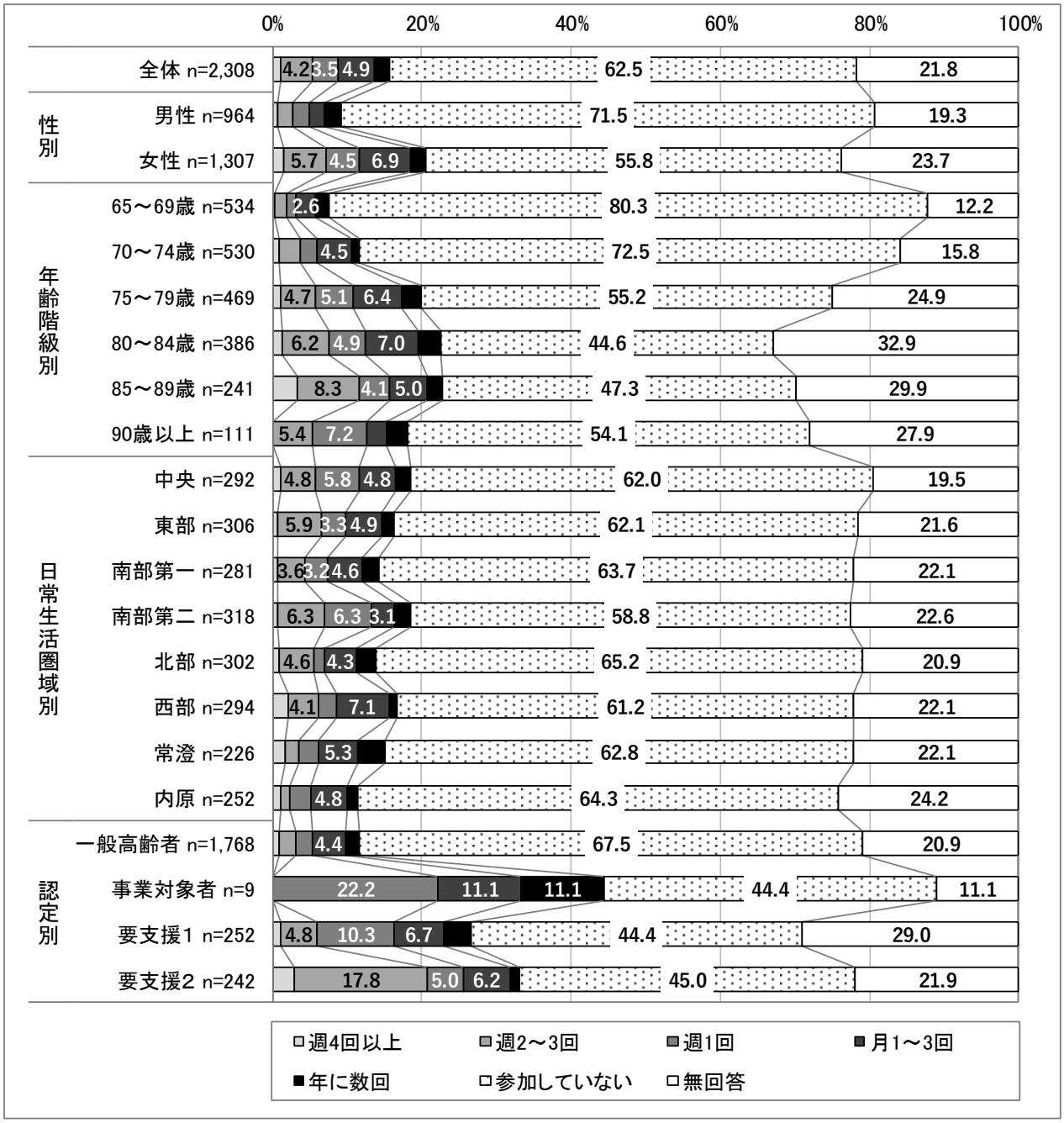
（元気アップ・ステップ運動、いきいき健康クラブ、脳の健康教室・エンジョイスクール、シルバーリハビリ体操など）

介護予防のための通いの場への参加状況については、全体では「参加していない」が 62.5%で最も高く、次いで「月１～３回」が 4.9%、「週２～３回」が 4.2%となっています。

性別でみると、「週４回以上」、「週２～３回」、「週１回」、「月１～３回」、「年に数回」を合わせた『参加している』は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』の割合は、85～89 歳が最も高く、次いで 80～84 歳、75～79 歳となっています。

日常生活圏域でみると、『参加している』の割合は、中央、南部第二が最も高くなっています。



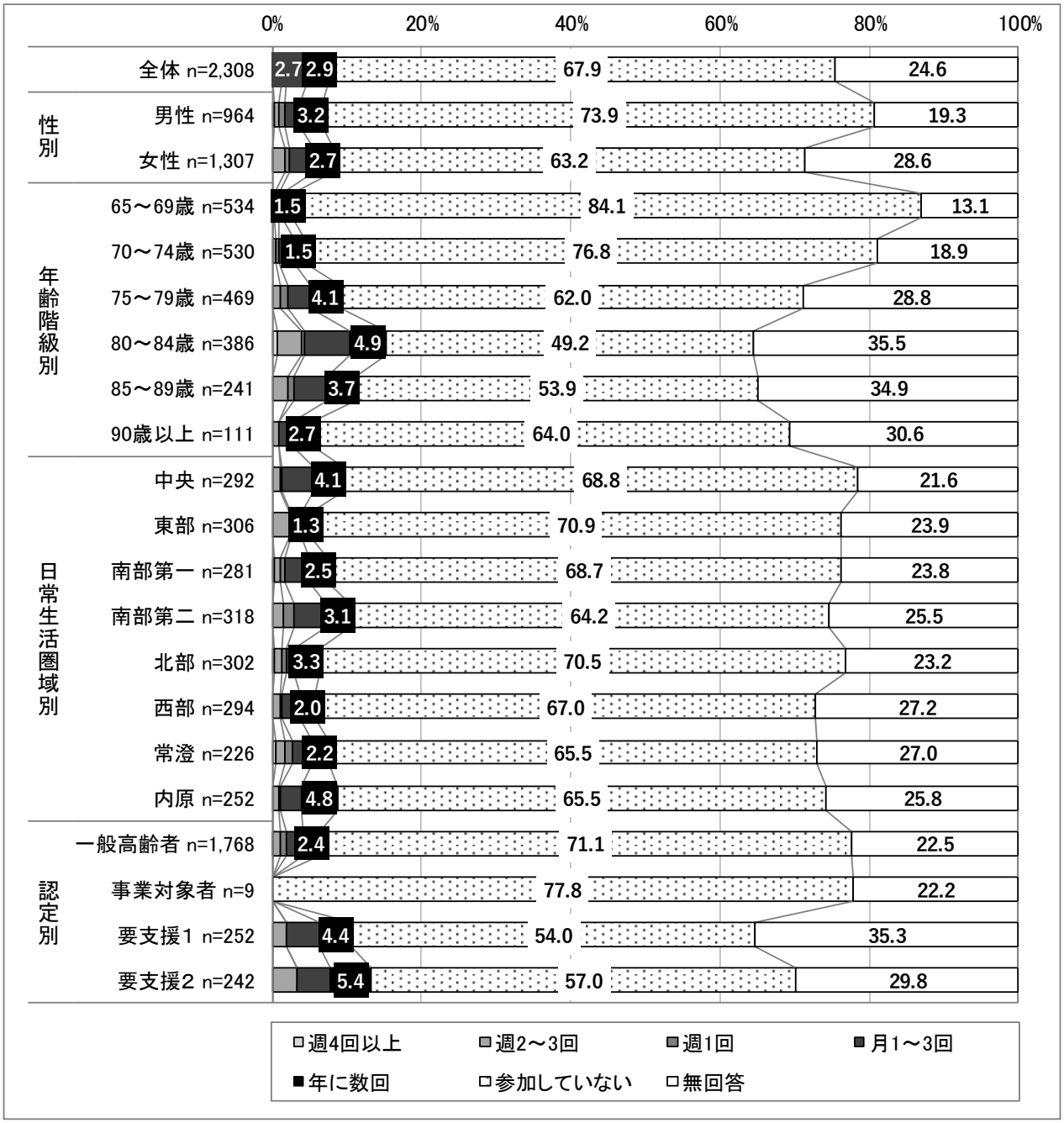
⑥ 高齢者クラブ

高齢者クラブへの参加状況については、全体では「参加していない」が 67.9%で最も高く、次いで「年に数回」が 2.9%、「月１～３回」が 2.7%となっています。

性別でみると、「週４回以上」、「週２～３回」、「週１回」、「月１～３回」、「年に数回」を合わせた『参加している』は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』の割合は、80～84 歳が最も高く、次いで 85～89 歳、75～79 歳となっています。

日常生活圏域でみると、『参加している』の割合は、南部第二が最も高くなっています。



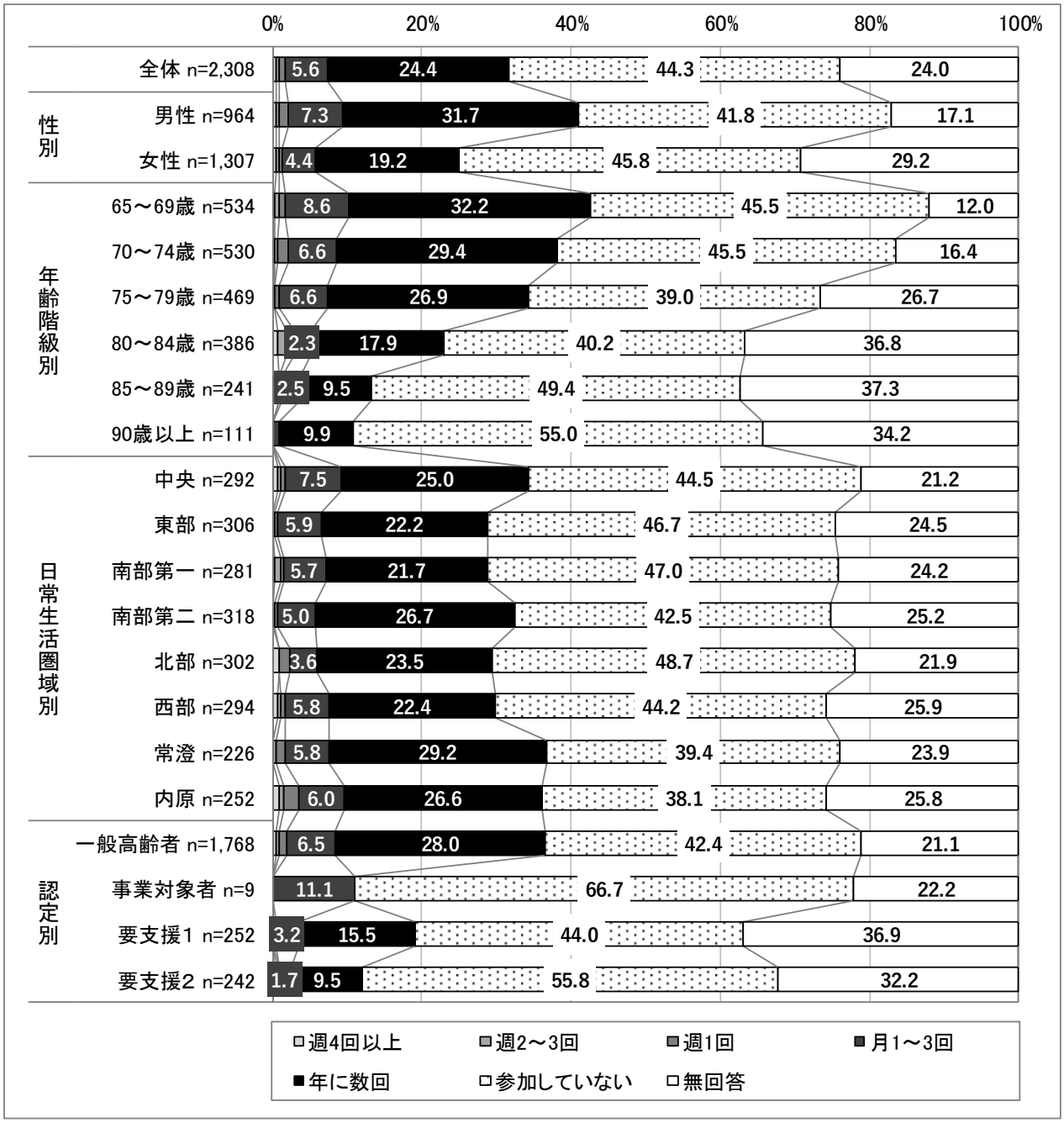
⑦ 町内会・自治会

町内会・自治会への参加状況については、全体では「参加していない」が 44.3%で最も高く、次いで「年に数回」が 24.4%、「月１～３回」が 5.6%となっています。

性別でみると、「週４回以上」、「週２～３回」、「週１回」、「月１～３回」、「年に数回」を合わせた『参加している』は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』の割合は、65～69 歳が最も高く、次いで 70～74 歳、75～79 歳となっています。

日常生活圏域でみると、『参加している』の割合は、常澄が最も高くなっています。



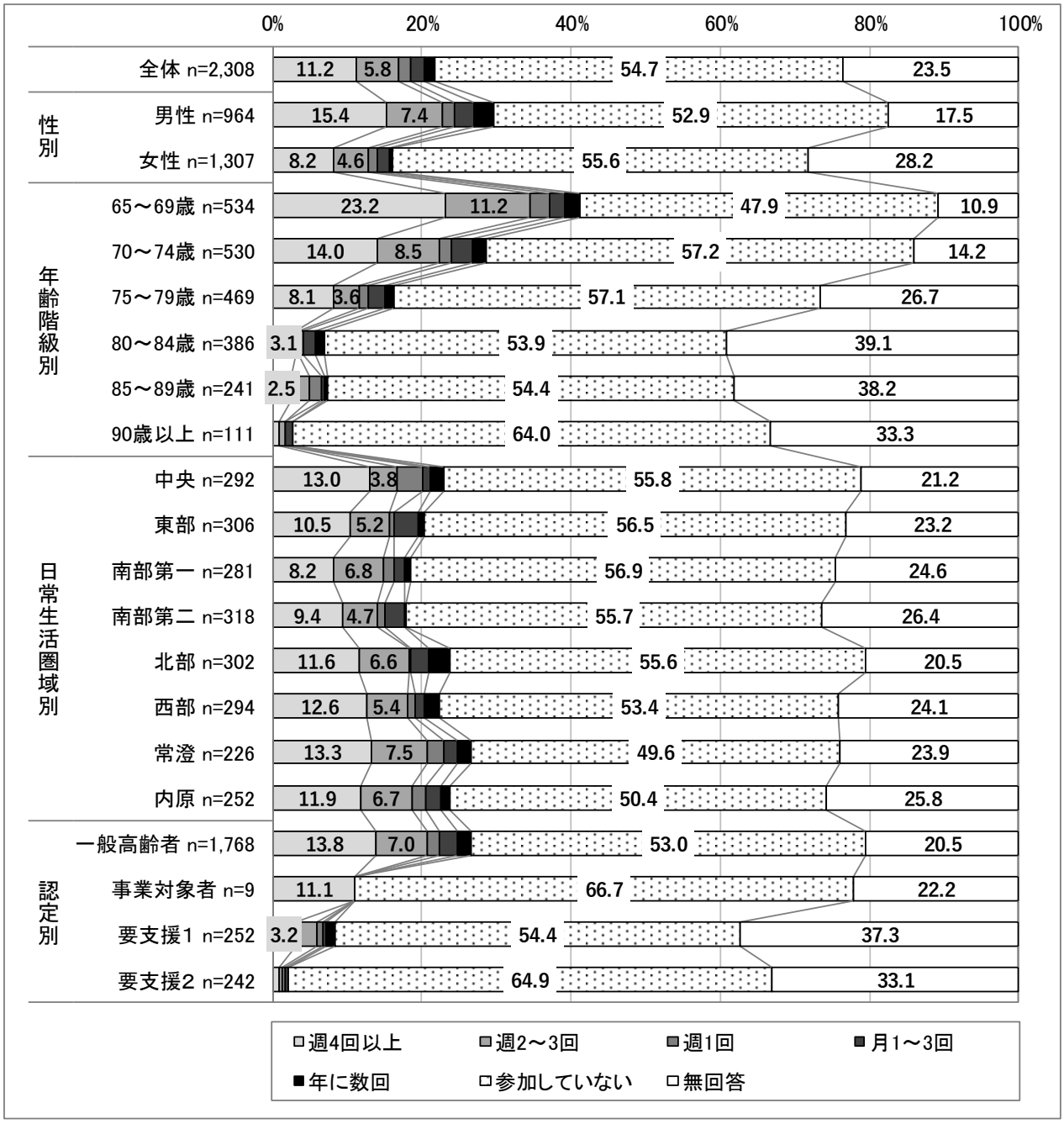
⑧ 収入のある仕事

収入のある仕事への参加状況については、全体では「参加していない」が 54.7%で最も高く、次いで「週４回以上」が 11.2%、「週２～３回」が 5.8%となっています。

性別でみると、「週４回以上」、「週２～３回」、「週１回」、「月１～３回」、「年に数回」を合わせた『参加している』は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『参加している』の割合は、65～69 歳が最も高く、次いで 70～74 歳、75～79 歳となっています。

日常生活圏域でみると、『参加している』の割合は、常澄が最も高くなっています。

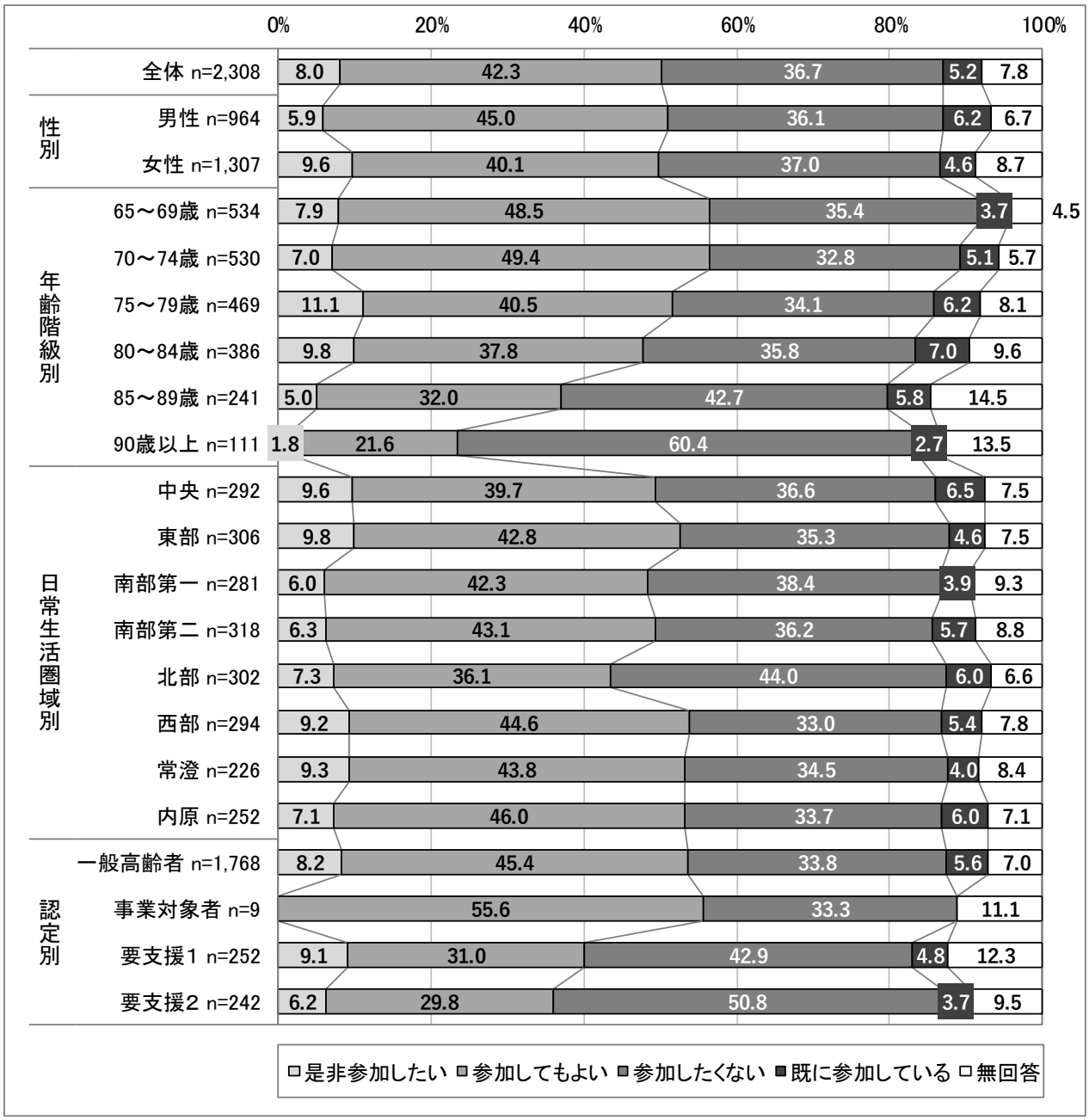


Q2．地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか（1つのみ）

健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加者として参加してみたいと思うかについては、全体では「参加してもよい」が 42.3%で最も高く、次いで「参加したくない」が 36.7%、「是非参加したい」が 8.0%となっています。

年齢階級別でみると、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『参加したい』は、65～69 歳、70～74 歳がともに 56.4%で最も高く、次いで 75～79 歳が 51.6%となっています。

日常生活圏域でみると、『参加したい』の割合は、西部が最も高くなっています。



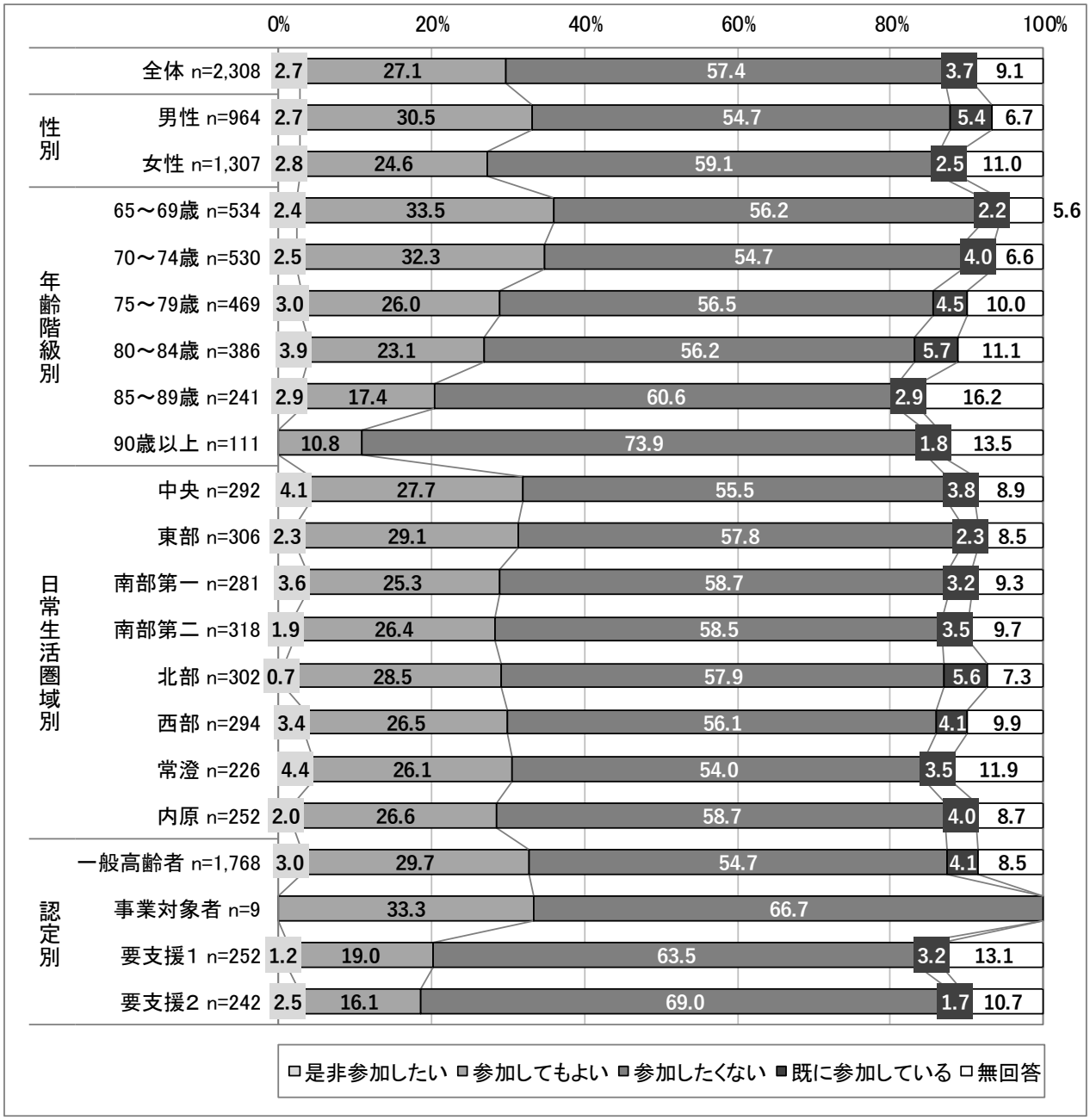
Q３．地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（１つのみ）

健康づくり活動や趣味等のグループ活動に企画・運営として参加してみたいと思うかについては、全体では「参加したくない」が 57.4%で最も高く、次いで「参加してもよい」が 27.1%、「是非参加したい」が 2.7%となっています。

性別でみると、「参加してもよい」は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『参加したい』は、65～69 歳が 35.9%で最も高く、次いで 70～74 歳が 34.8%、80～84 歳が 29.0%となっています。

日常生活圏域でみると、『参加したい』の割合は、中央が最も高くなっています。



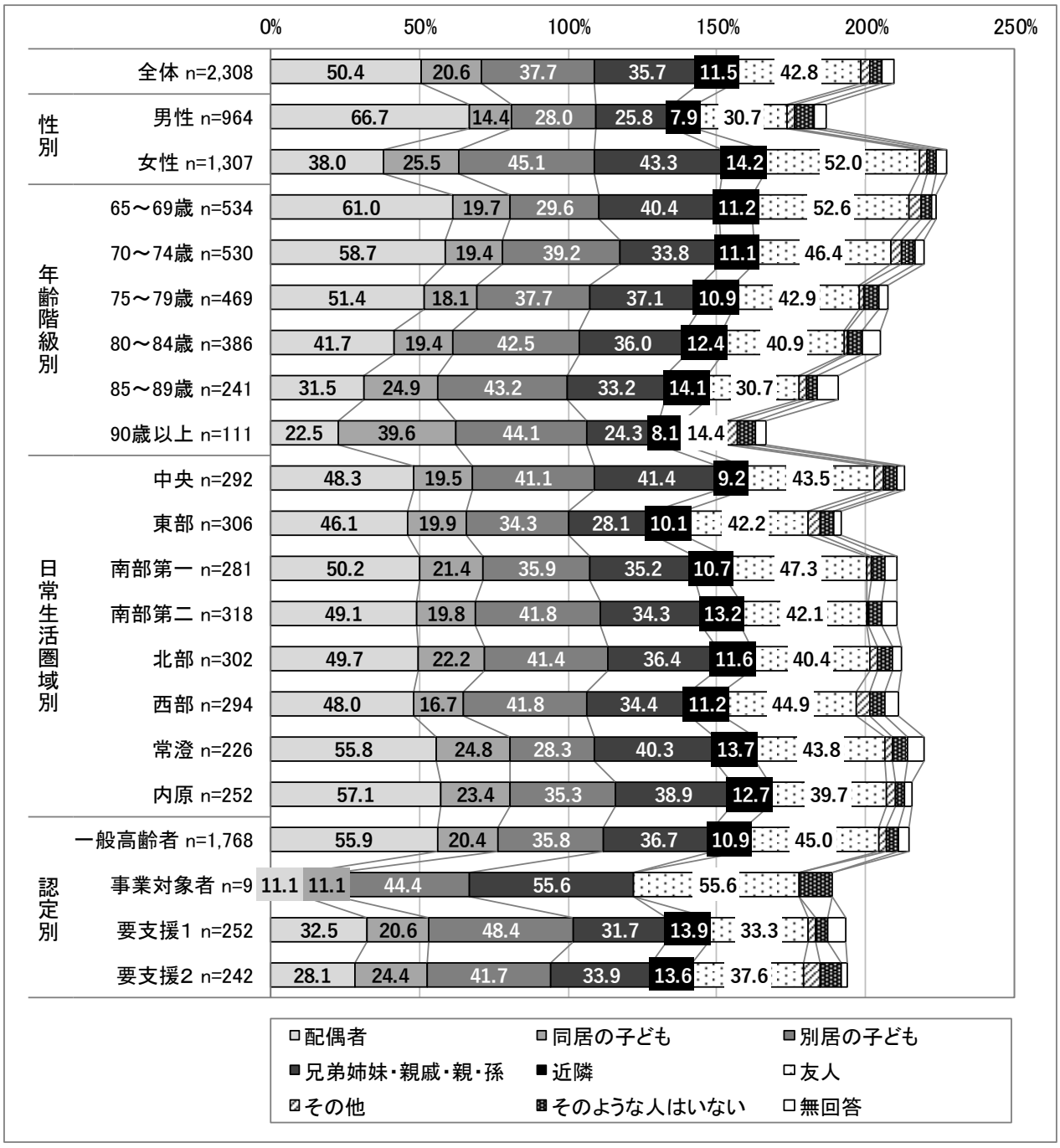
6. たすけあいについて

Q1．あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）

あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人については、全体では「配偶者」が 50.4%で最も高く、次いで「友人」が 42.8%、「別居の子ども」が 37.7%となっています。

性別でみると、男性では、「配偶者」が 66.7%で最も高く、次いで「友人」が 30.7%、「別居の子ども」が 28.0%となっています。女性では、「友人」が 52.0%で最も高く、次いで「別居の子ども」が 45.1%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 43.3%となっています。

年齢階級別でみると、年齢が上がるとともに「配偶者」は減少し、「同居の子ども」「別居の子ども」が増加しています。

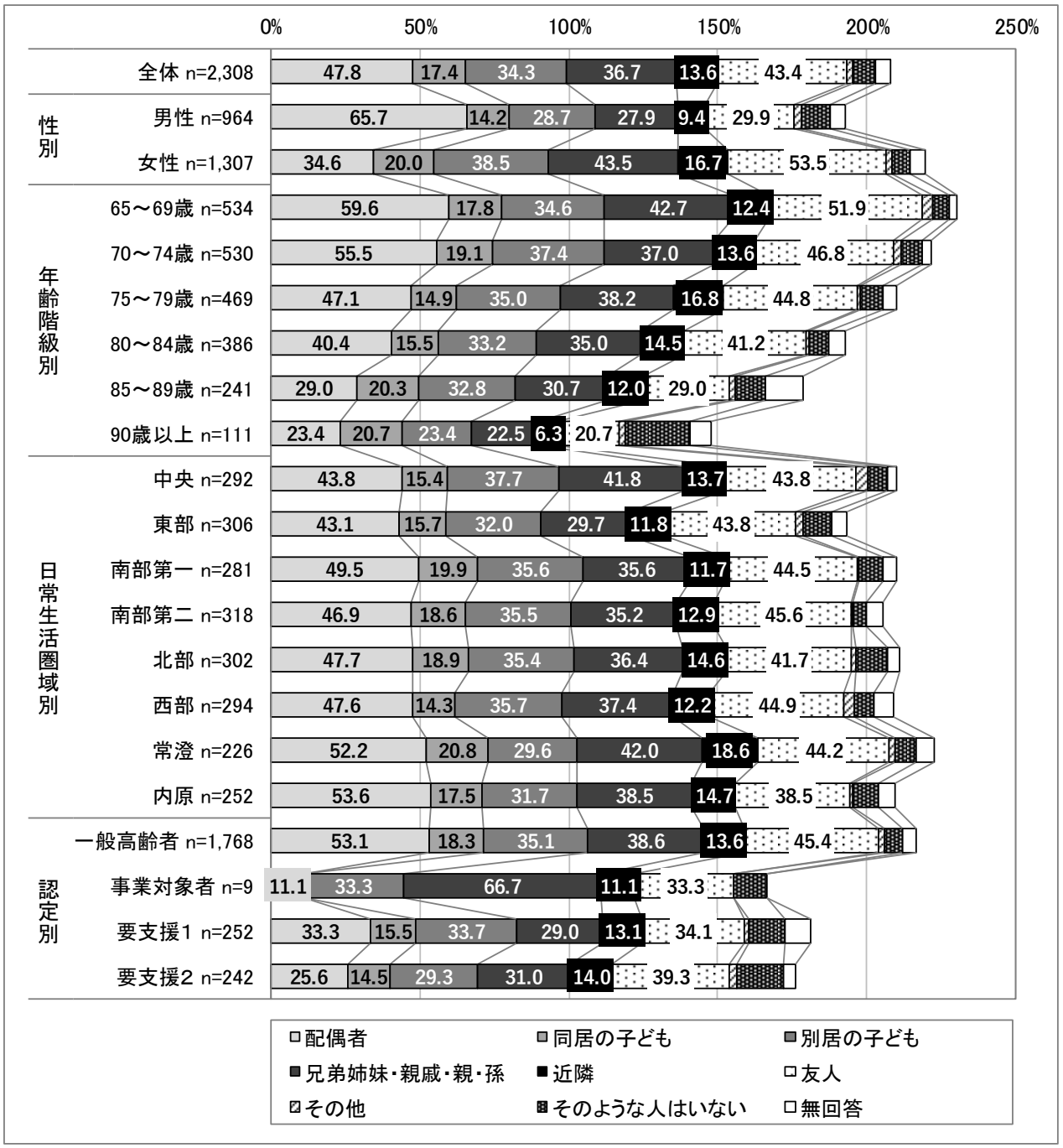


Q2．反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人については、全体では「配偶者」が 47.8%で最も高く、次いで「友人」が 43.4%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 36.7%となっています。

性別でみると、男性では、「配偶者」が 65.7%で最も高く、次いで「友人」が 29.9%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 28.7%となっています。女性では、「友人」が 53.5%で最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 43.5%、「別居の子ども」が 38.5%となっています。

年齢階級別でみると、年齢が上がるとともに「配偶者」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「友人」が減少しています。

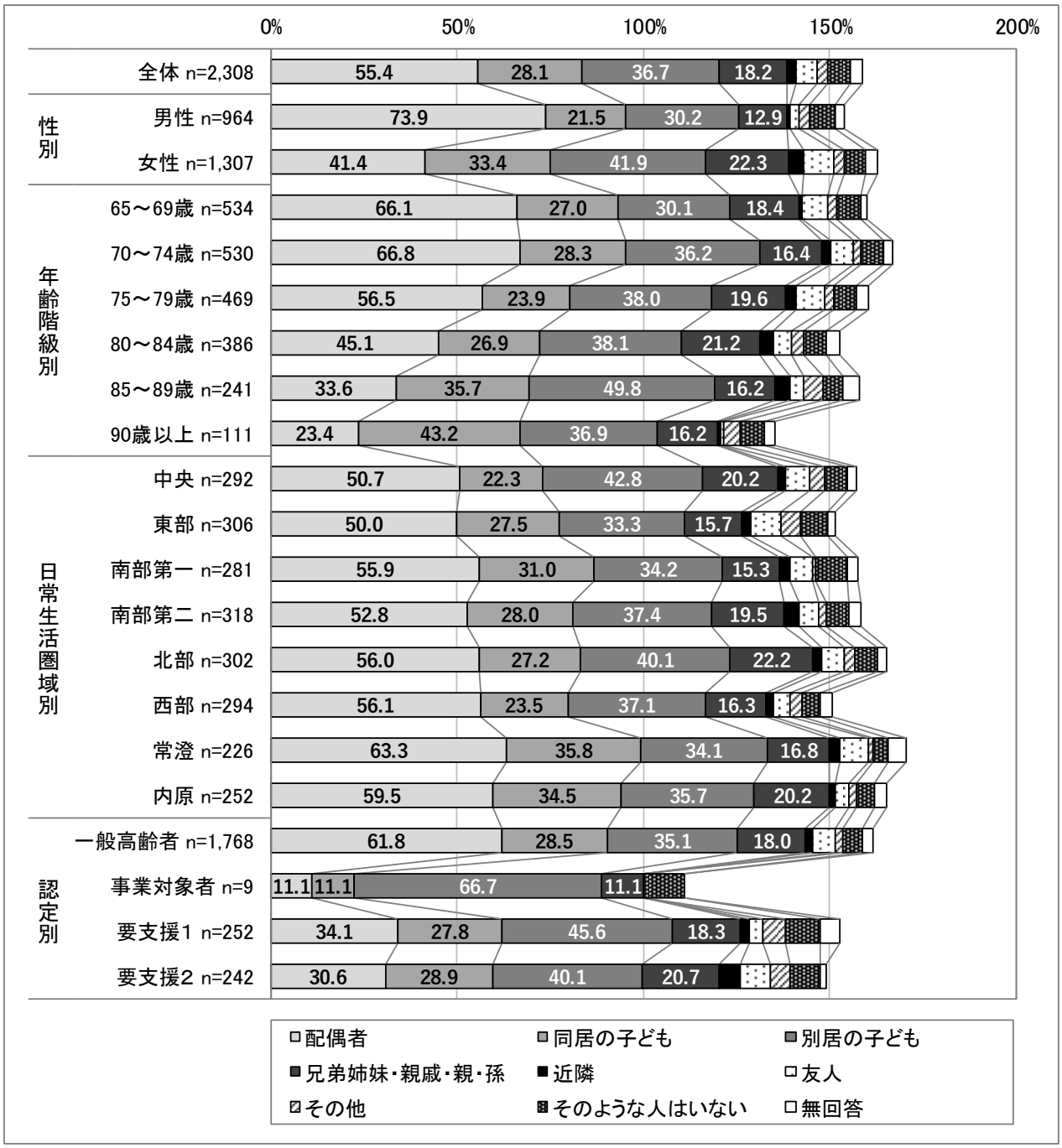


Q3．あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人については、全体では「配偶者」が 55.4%で最も高く、次いで「別居の子ども」が 36.7%、「同居の子ども」が 28.1%となっています。

性別でみると、男性では、「配偶者」が 73.9%で最も高く、次いで「別居の子ども」が 30.2%、「同居の子ども」が 21.5%となっています。女性では、「別居の子ども」が 41.9%で最も高く、次いで「配偶者」が 41.4%、「同居の子ども」が 33.4%となっています。

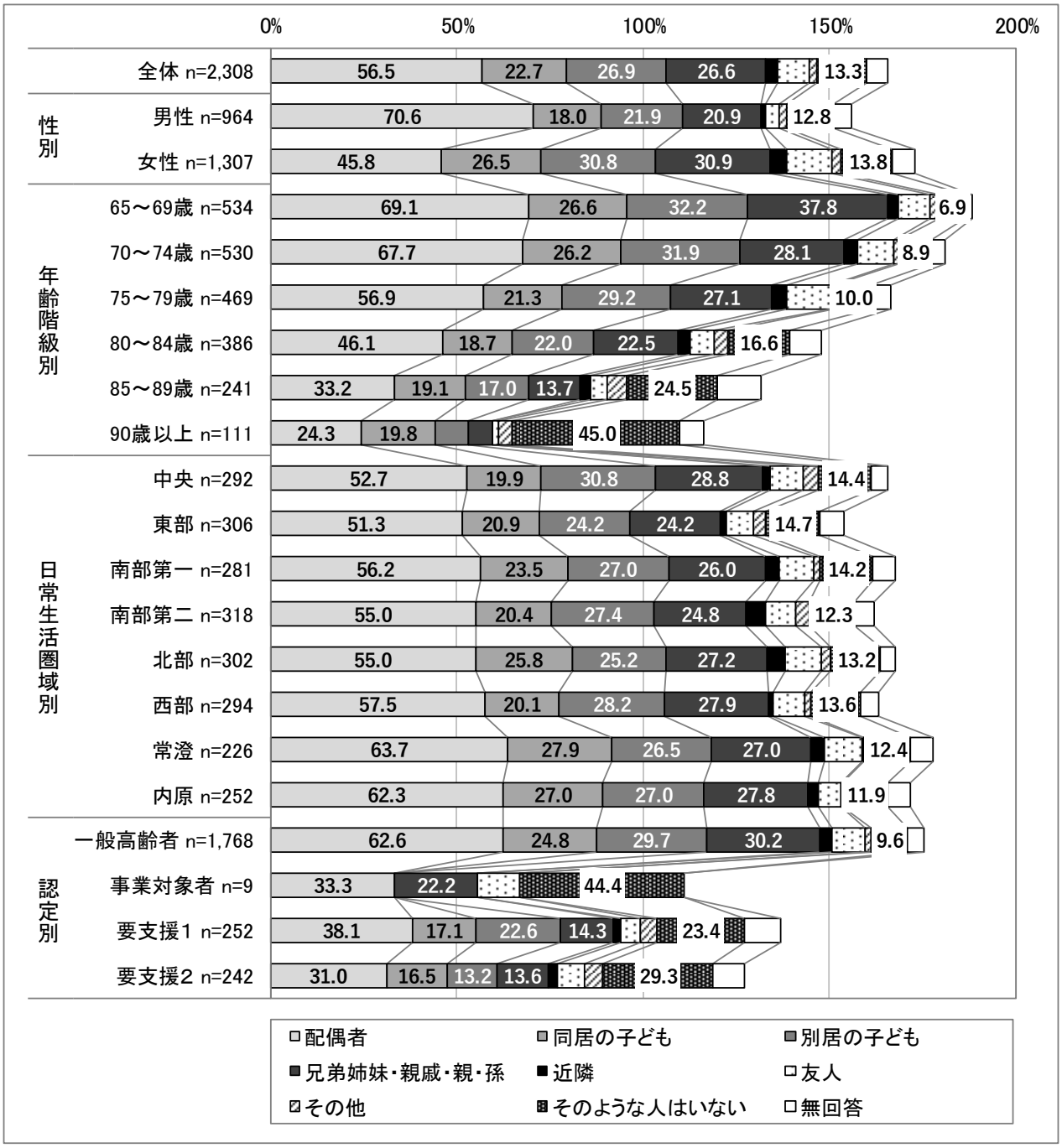
年齢階級別でみると、年齢が上がるとともに「配偶者」は減少し、「同居の子ども」が増加しています。



Q4．反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）

あなたが看病や世話をしてあげる人については、全体では「配偶者」が 56.5%で最も高く、次いで「別居の子ども」が 26.9%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 26.6%となっています。

年齢階級別でみると、年齢が上がるとともに「そのような人はいない」が増加しています。

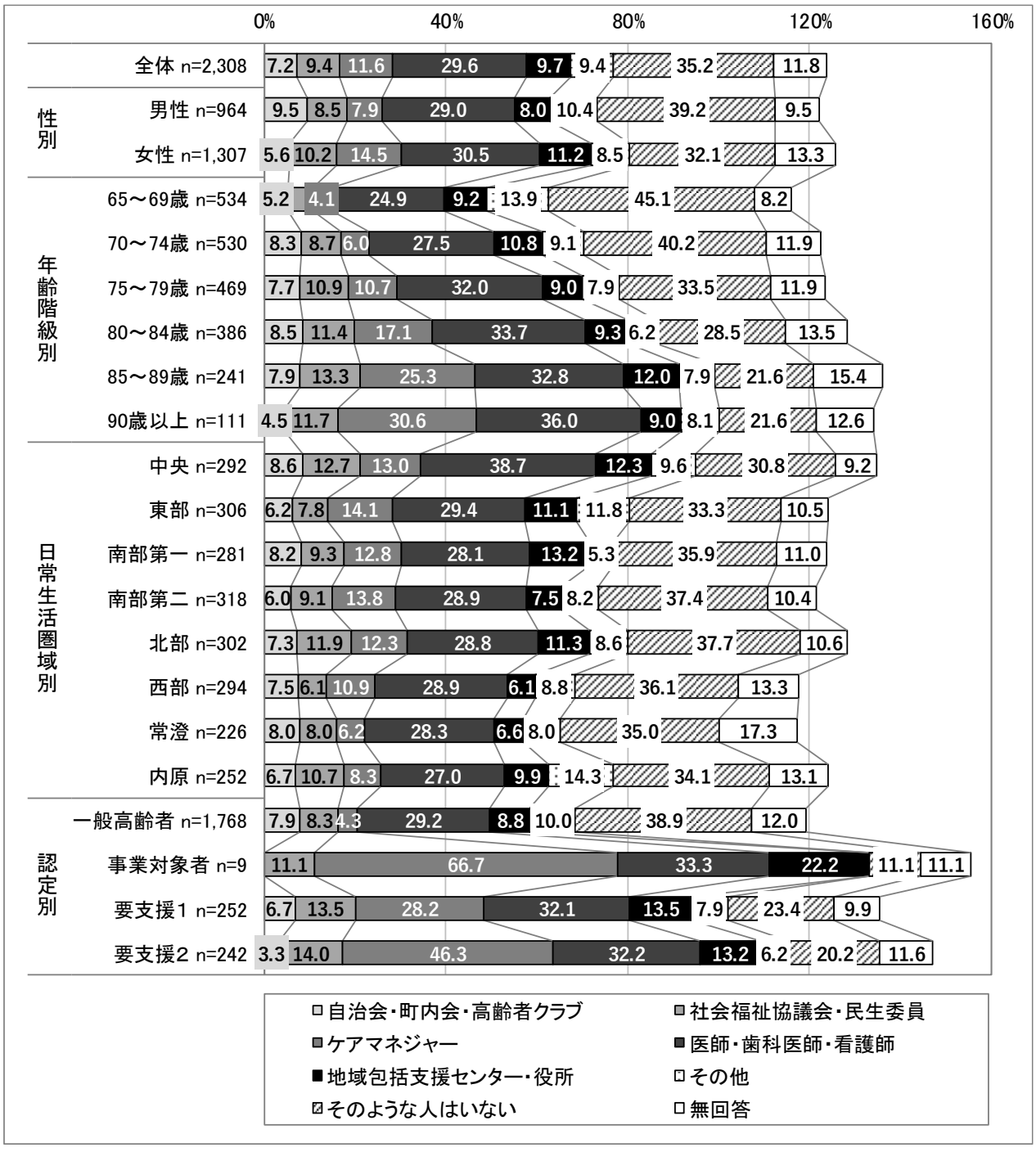


Q5．家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（いくつでも）

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手については、全体では「そのような人はいない」が 35.2%で最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が 29.6%、「ケアマネジャー」が 11.6%となっています。

性別でみると、男性では、「そのような人はいない」が 39.2%で最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が 29.0%、「その他」が 10.4%となっています。女性では、「そのような人はいない」が 32.1%で最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が 30.5%、「ケアマネジャー」が 14.5%となっています。

年齢階級別でみると、年齢が上がるとともに「ケアマネジャー」「医師・歯科医師・看護師」が増加しています。



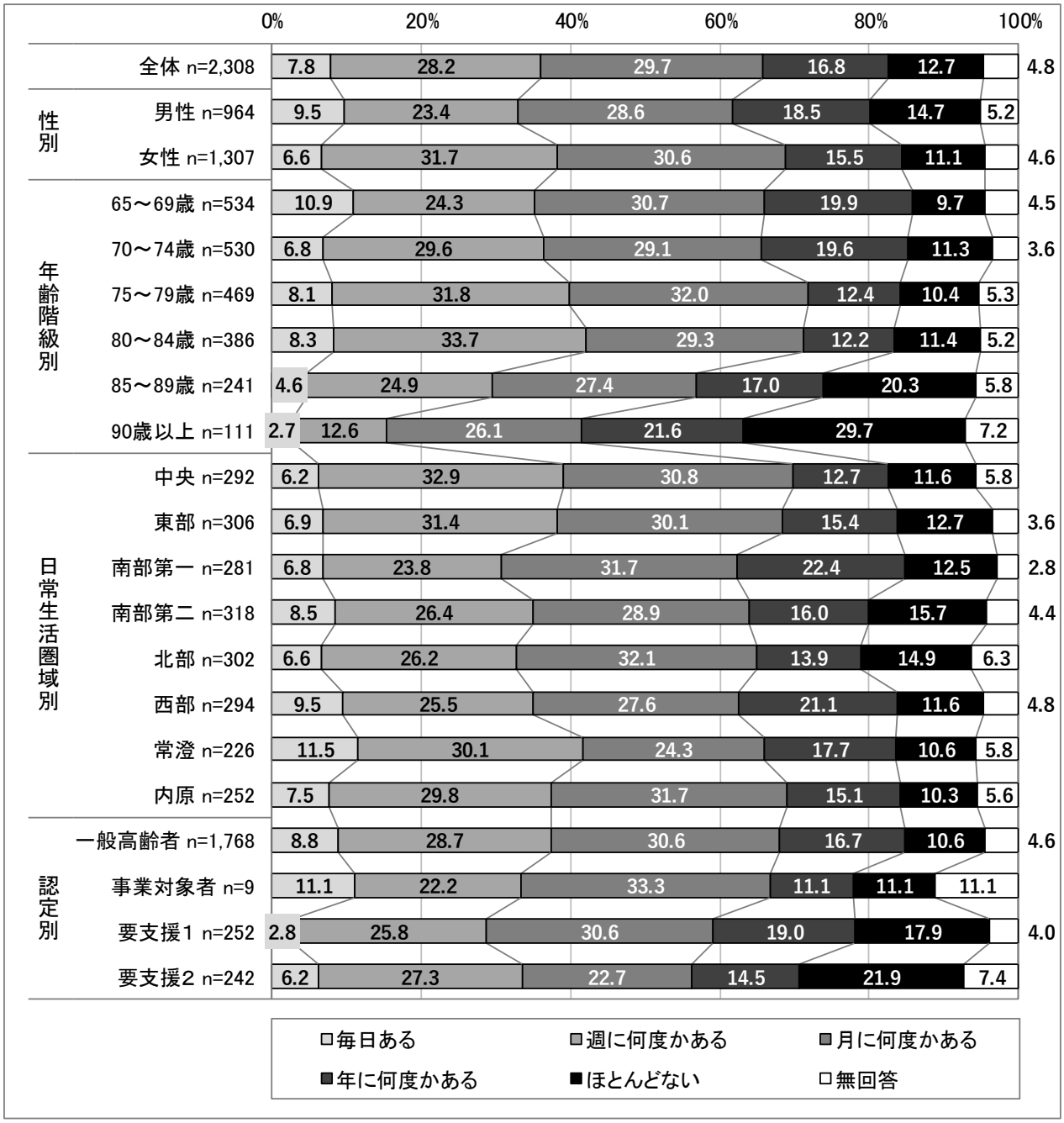
Q6．友人・知人と会う頻度はどれくらいですか（１つのみ）

友人・知人と会う頻度については、全体では「月に何度かある」が 29.7%で最も高く、次いで「週に何度かある」が 28.2%、「年に何度かある」が 16.8%、「ほとんどない」が 12.7%となっています。

性別でみると、「毎日ある」と「週に何度かある」を合わせた『よく会っている』は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『よく会っている』の割合は、80～84 歳が最も高く、次いで 75～79 歳、65～69 歳となっています。

日常生活圏域でみると、『よく会っている』の割合は、常澄が最も高くなっています。



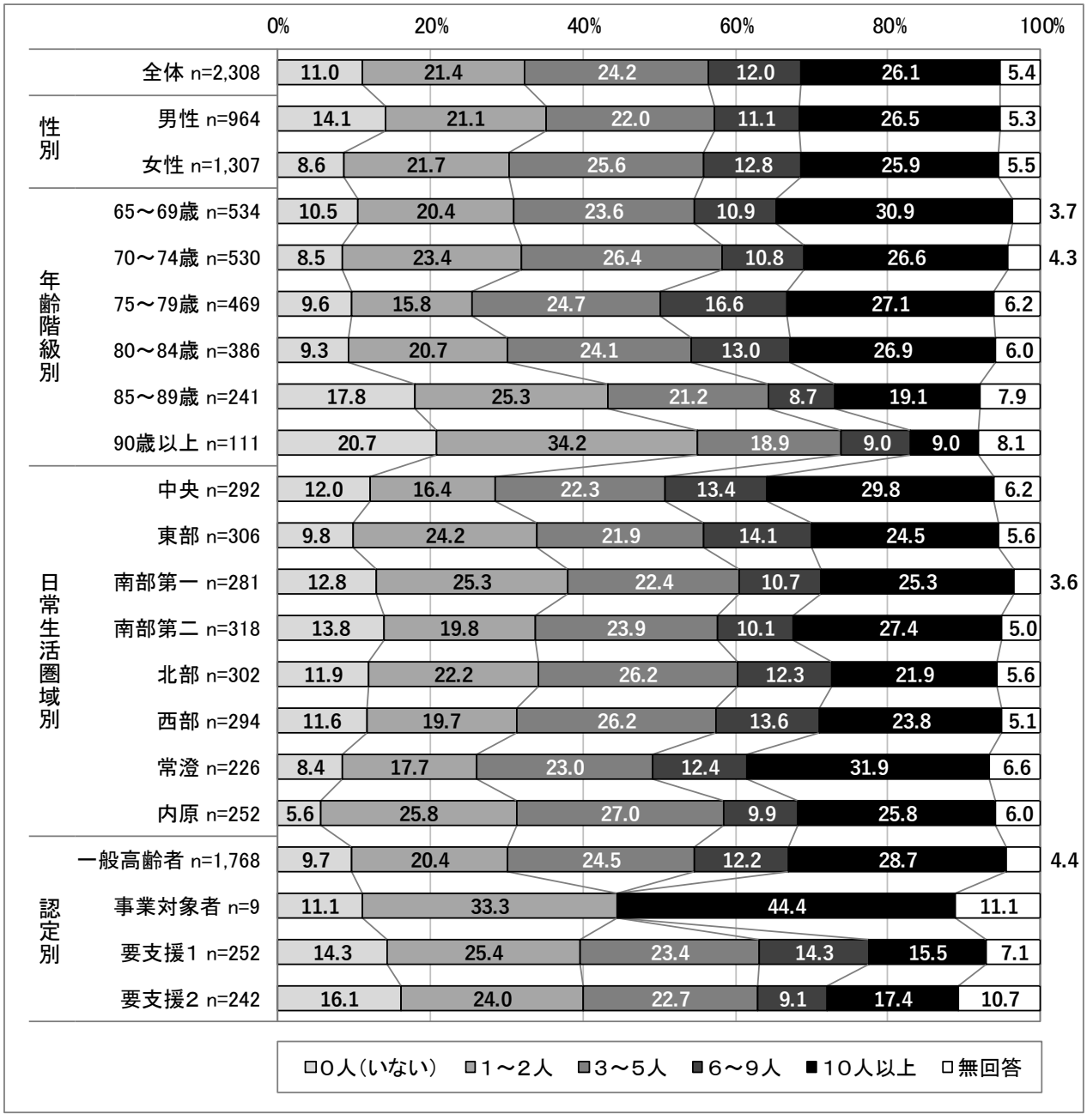
Q7．この１か月間、何人の友人・知人と会いましたか
同じ人には何度会っても１人と数えることとします（１つのみ）

この１か月間、何人の友人・知人と会ったかについては、全体では「10 人以上」が 26.1%で最も高く、次いで「３～５人」が 24.2%、「１～２人」が 21.4%、「６～９人」が 12.0%となっています。

性別でみると、「０人（いない）」は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「０人（いない）」は、90 歳以上が 20.7%で最も高く、次いで 85～89 歳が 17.8%、65～69 歳が 10.4%となっています。

日常生活圏域でみると、「０人（いない）」の割合は、南部第二が最も高くなっています。



Q8．よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（いくつでも）

よく会う友人・知人の関係性については、全体では「近所・同じ地域の人」が 47.4%で最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」が 36.7%、「仕事での同僚・元同僚」が 29.0%となっています。

性別でみると、全体の結果と同じく、男性、女性ともに「近所・同じ地域の人」「趣味や関心が同じ友人」「仕事での同僚・元同僚」の順で割合が高くなっています。

年齢階級別でみると、年齢が上がるとともに「仕事での同僚・元同僚」、「趣味や関心が同じ友人」が減少しています。

日常生活圏域でみると、「いない」の割合は、南部第二が最も高くなっています。

7. 健康について

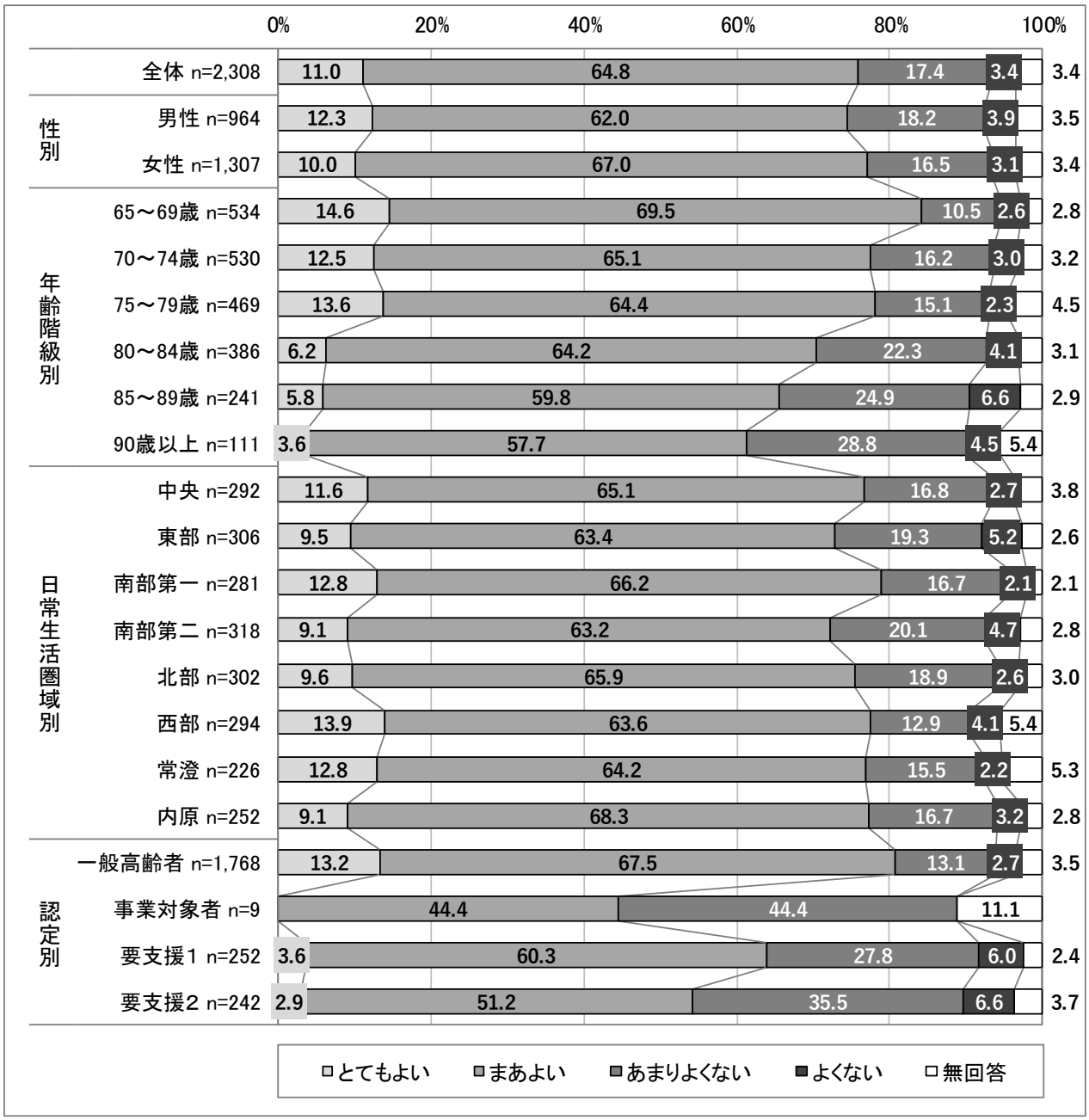
Q1．現在のあなたの健康状態はいかがですか（1つのみ）

現在の健康状態については、全体では「まあよい」が 64.8%で最も高く、次いで「あまりよくない」が 17.4%、「とてもよい」が 11.0%、「よくない」が 3.4%となっています。

性別でみると、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

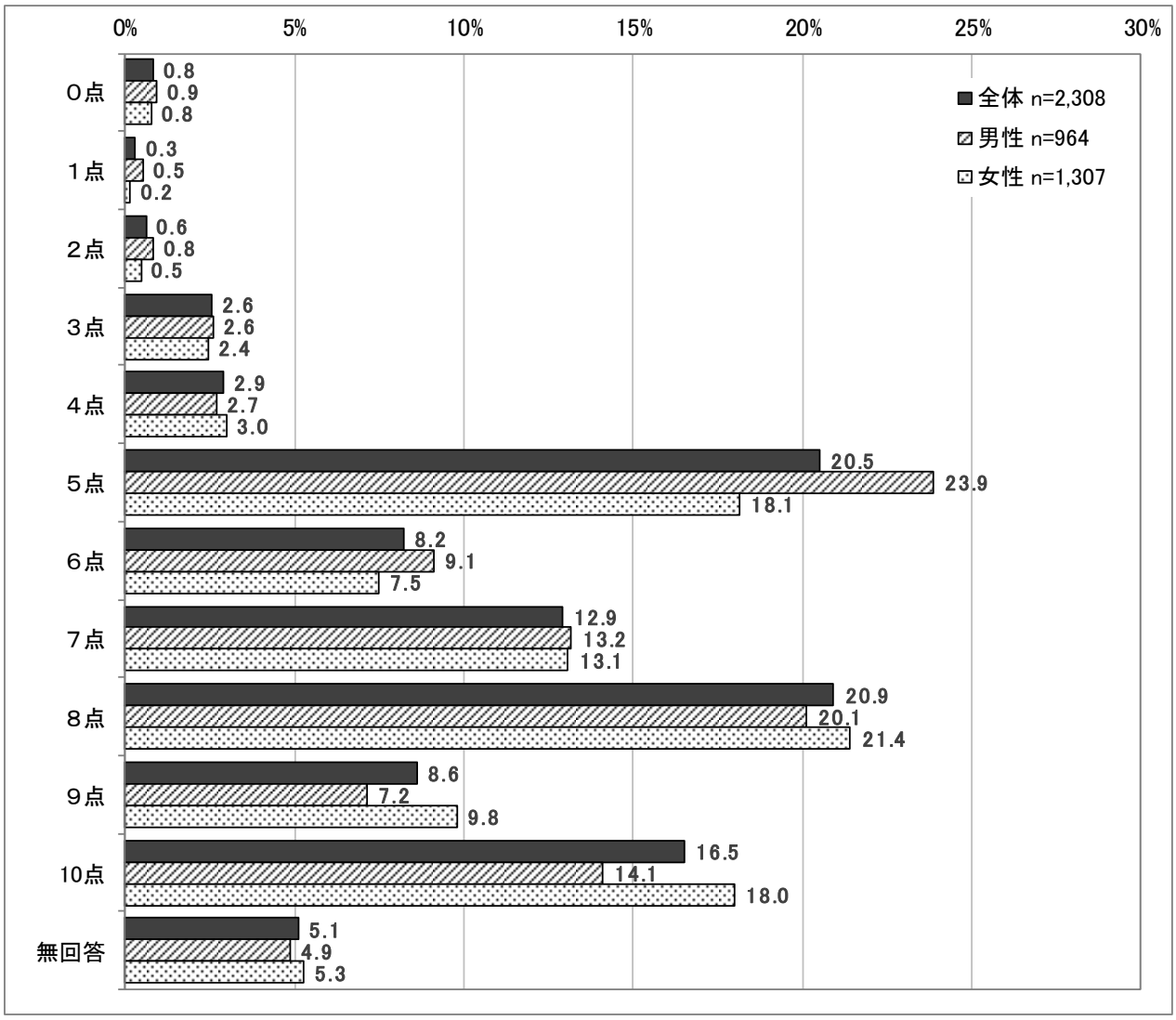
年齢階級別でみると、『よくない』は、90 歳以上が 33.3%で最も高く、次いで 85～89 歳が 31.5%、80～84 歳が 26.4%となっています。

日常生活圏域別でみると、東部及び南部第二で『よくない』の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。

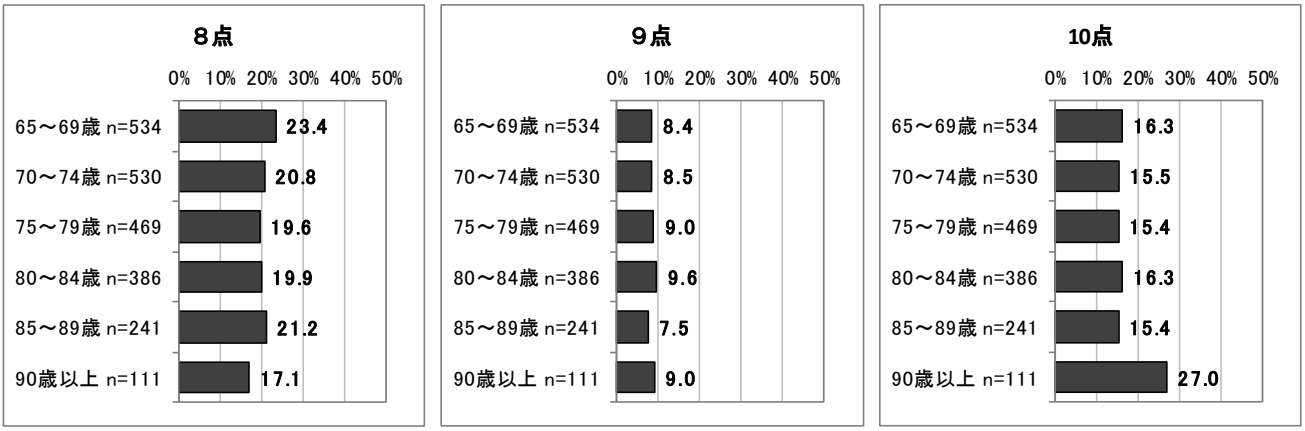


Q2．あなたは、現在どの程度幸せですか
（「とても不幸」を０点、「とても幸せ」を 10 点として、ご記入ください）

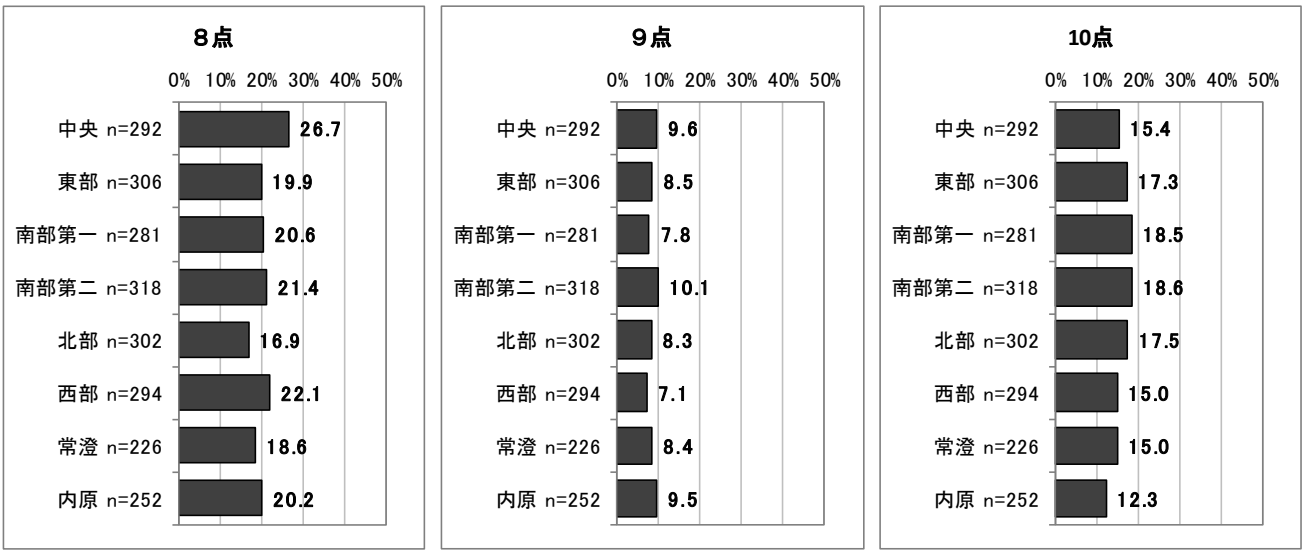
現在の幸福感については、全体では「８点」が 20.9%で最も高く、次いで「５点」が 20.5%、「10 点」が 16.5%、「７点」が 12.9%、「９点」が 8.6%となっています。「５点」～「10 点」の合計値は 87.7%となっています。



年齢階級別でみると、幸福感が高いと判断できる「８点」～「10 点」の合計値は、90 歳以上が 53.1%で最も高く、次いで 65～69 歳が 48.1%、80～84 歳が 45.8%となっています。



日常生活圏域別でみると、幸福感が高いと判断できる「８点」～「10 点」の合計値は、中央が 53.1%で最も高く、次いで南部第二が 50.1%、南部第一が 46.9%となっています。



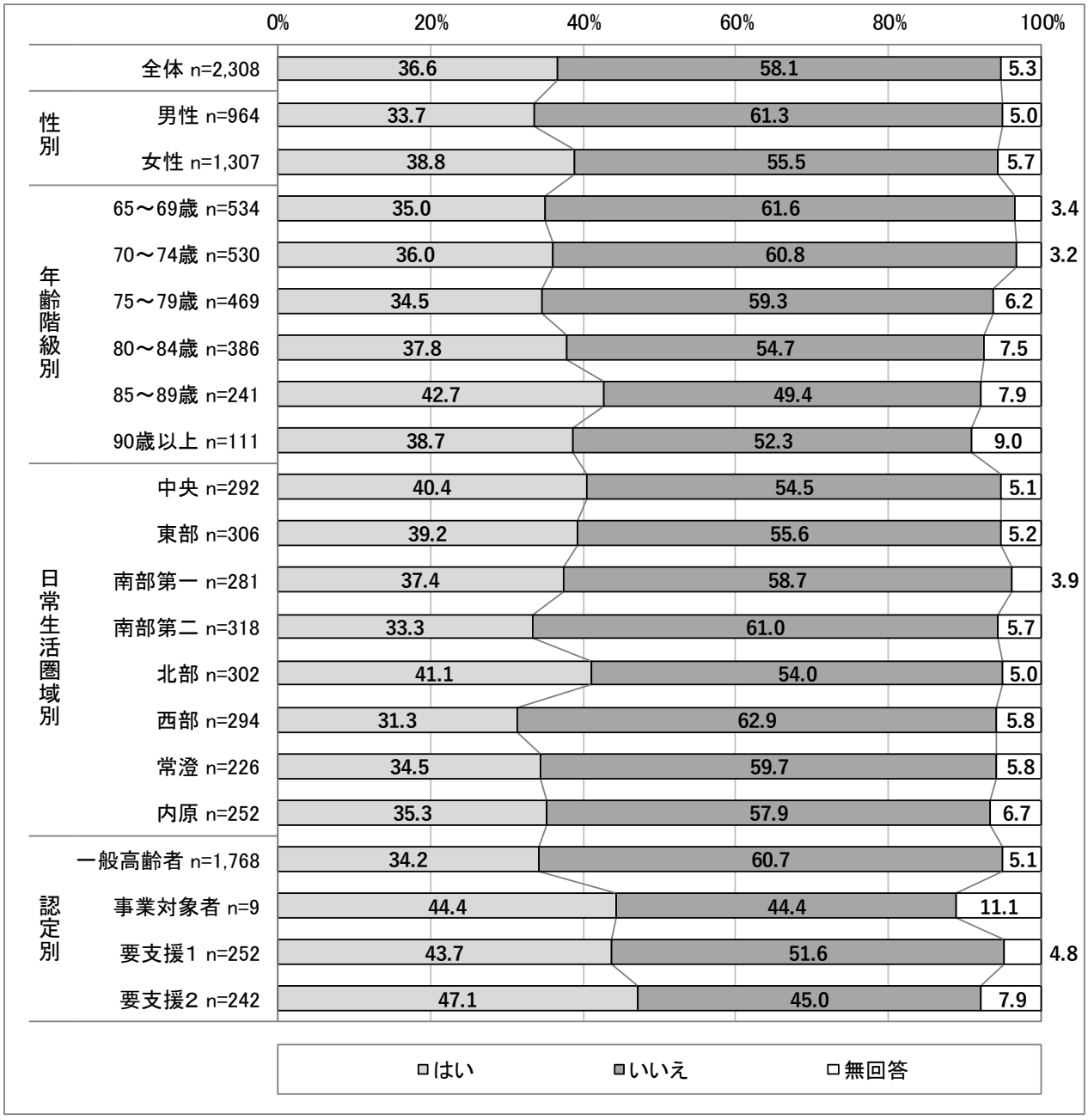
Q３．この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか（１つのみ）

この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、全体では「はい」が 36.6%、「いいえ」が 58.1%となっています。

性別でみると、「はい」は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、85～89 歳が 42.7%で最も高く、次いで 90 歳以上が 38.7%、80～84 歳が 37.8%となっています。

日常生活圏域別でみると、北部で「はい」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。

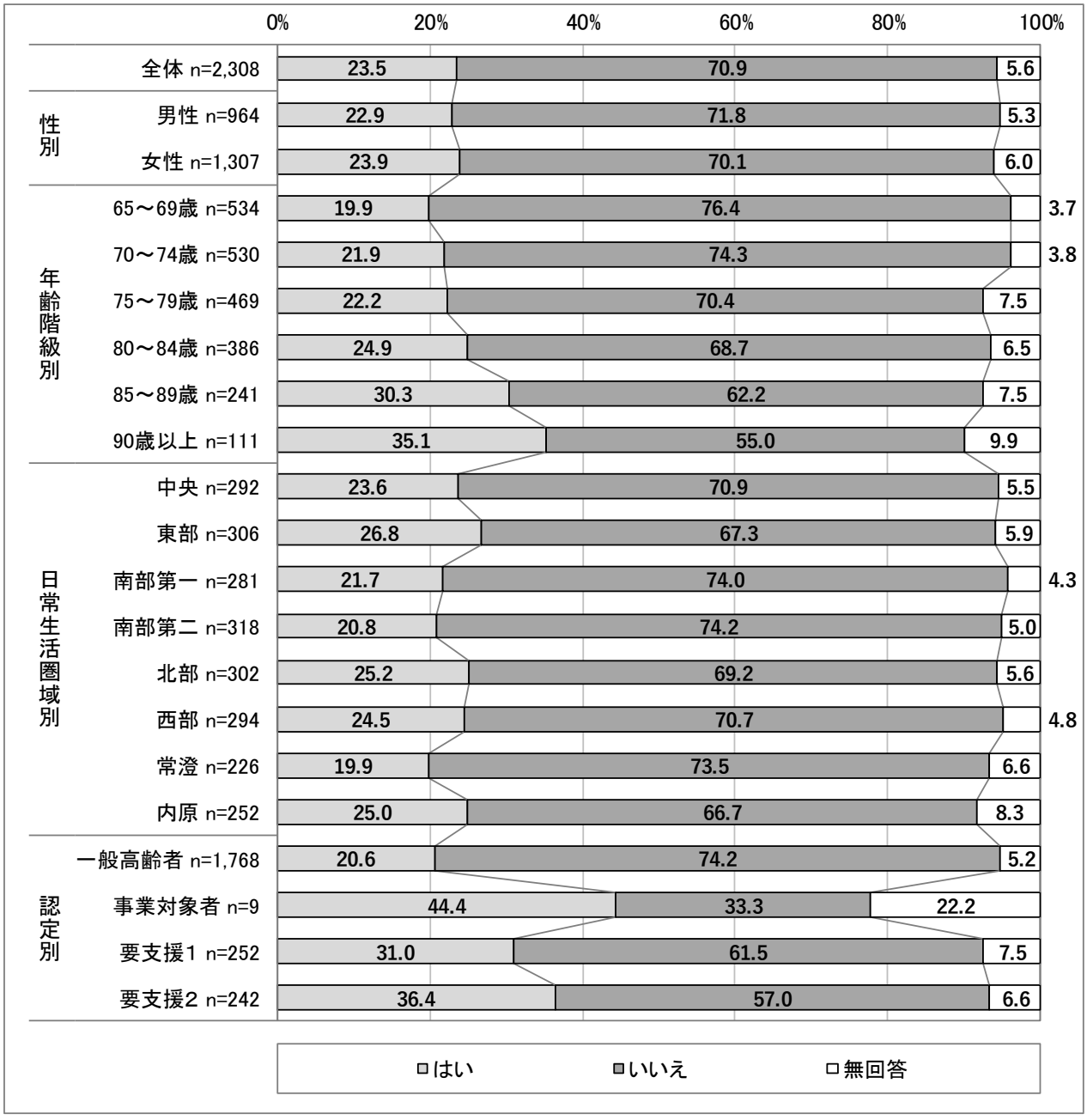


Q4．この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか（1つのみ）

この1か月間、物事に対して興味がわかない、楽しめない感じがあったかについては、全体では「はい」が 23.5%、「いいえ」が 70.9%となっています。

年齢階級別でみると、「はい」は、90 歳以上が 35.1%で最も高く、次いで 85～89 歳が 30.3%、80～84 歳が 24.9%となっています。

日常生活圏域別でみると、東部で「はい」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。



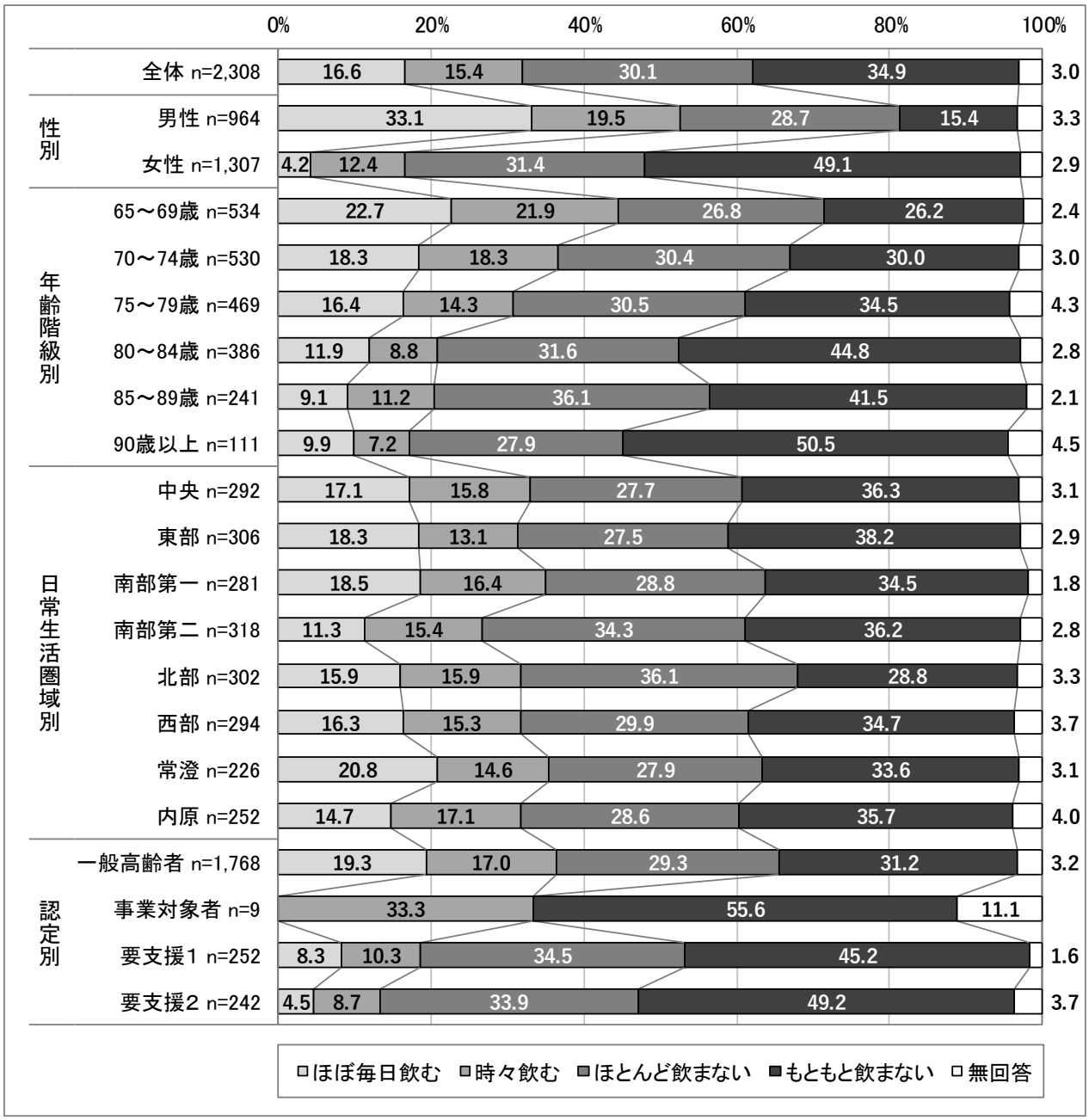
Q5．お酒は飲みますか（1つのみ）

飲酒状況については、全体では「もともと飲まない」が 34.9%で最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が 30.1%、「ほぼ毎日飲む」が 16.6%、「時々飲む」が 15.4%となっています。

性別でみると、「ほぼ毎日飲む」と「時々飲む」を合わせた『飲む』は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、『飲む』は、65～69 歳が 44.6%で最も高く、次いで 70～74 歳が 36.6%、75～79 歳が 30.7%となっています。

日常生活圏域別でみると、南部第一及び常澄で『飲む』の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。



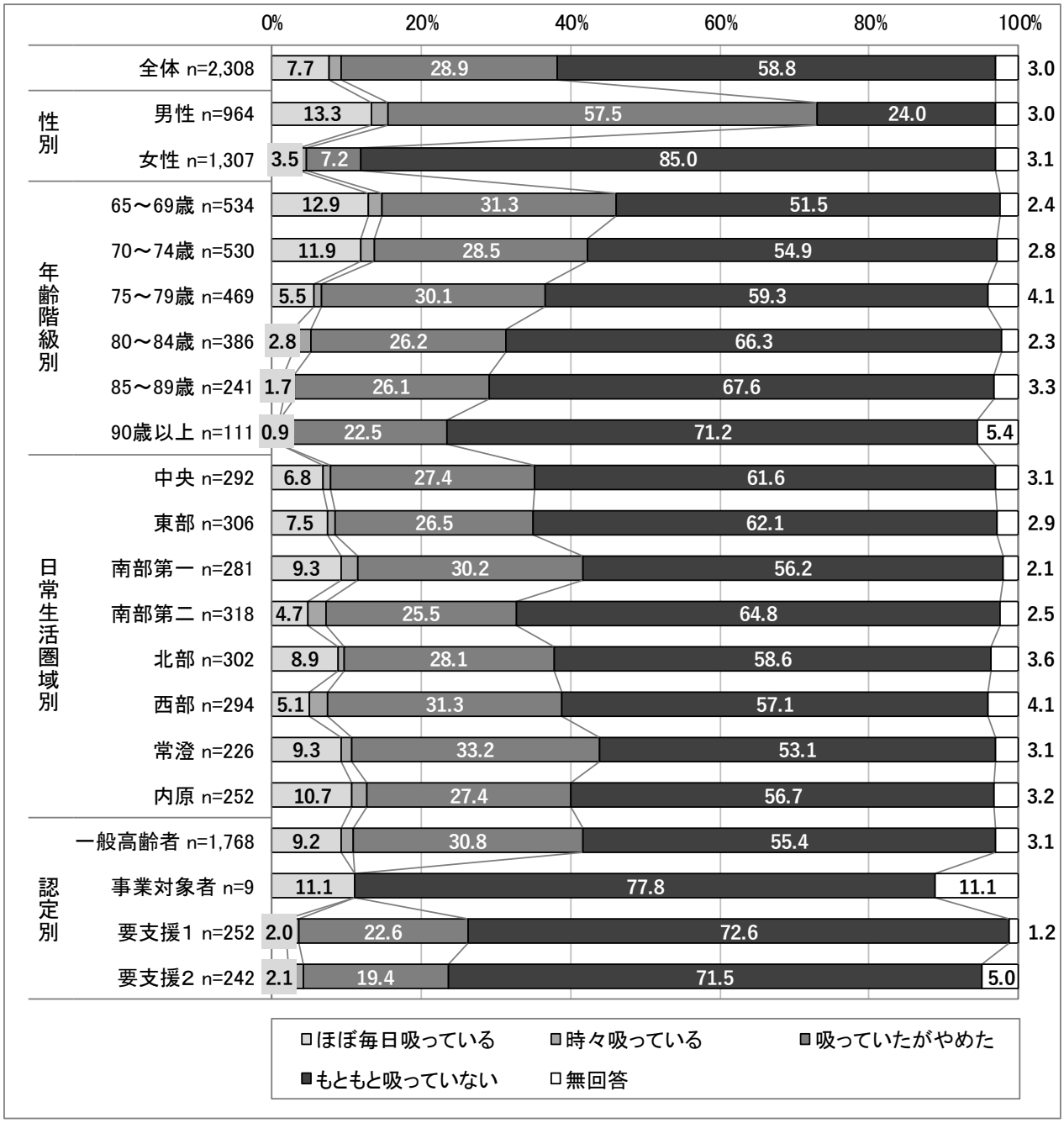
Q6．タバコは吸っていますか（１つのみ）

喫煙状況については、全体では「もともと吸っていない」が 58.8%で最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が 28.9%、「ほぼ毎日吸っている」が 7.7%となっています。

性別でみると、「ほぼ毎日吸っている」は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「ほぼ毎日吸っている」は、65～69 歳が 12.9%で最も高く、次いで 70～74 歳が 11.9%、75～79 歳が 5.5%となっています。

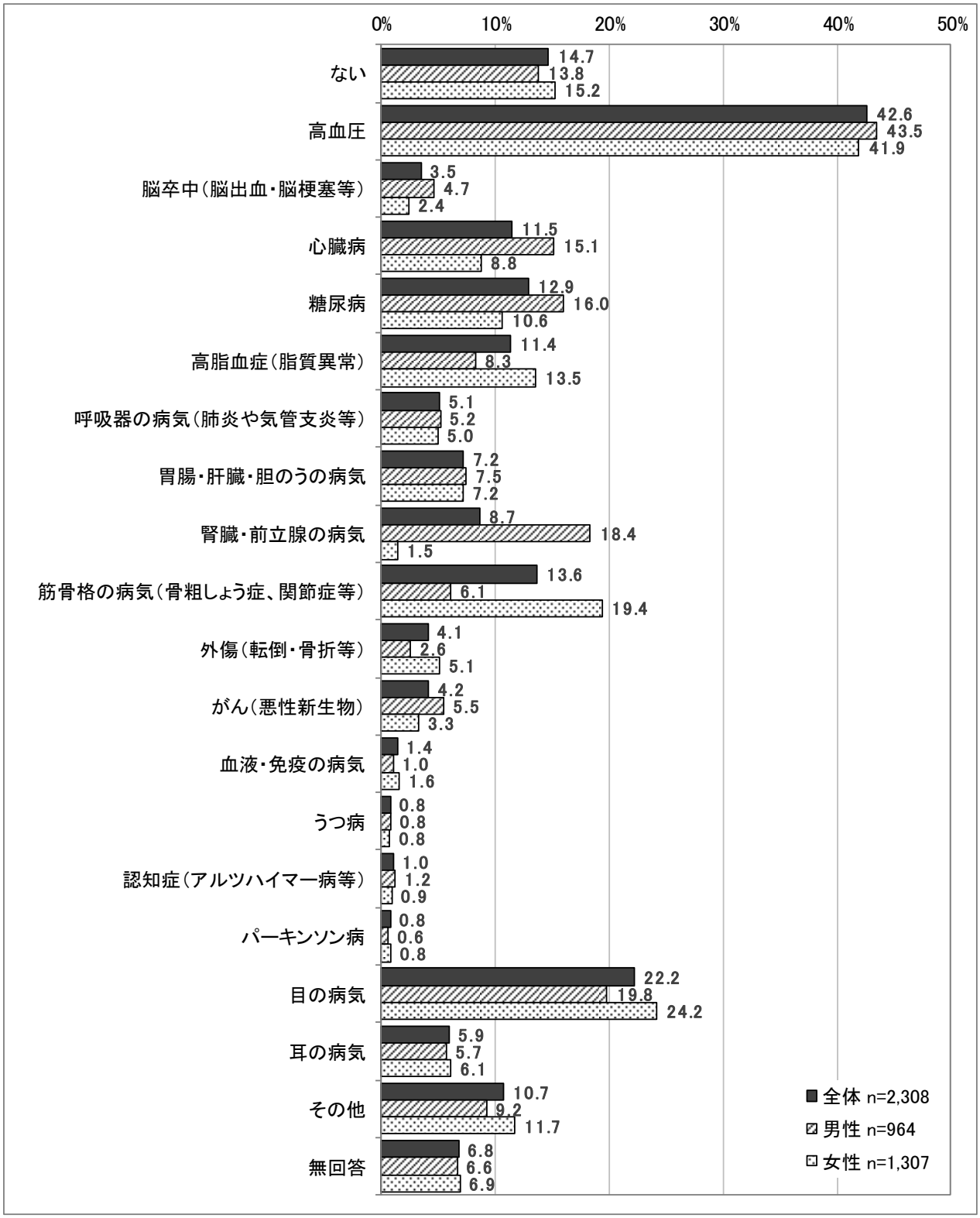
日常生活圏域別でみると、内原で「ほぼ毎日吸っている」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。



Q7．現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（いくつでも）

現在治療中、または後遺症のある病気があるかについては、全体では「高血圧」が 42.6%で最も高く、次いで「目の病気」が 22.2%、「ない」が 14.7%となっています。

性別でみると、男性では、「高血圧」が 43.5%で最も高く、次いで「目の病気」が 19.8%、「腎臓・前立腺の病気」が 18.4%となっています。女性では、「高血圧」が 41.9%で最も高く、次いで「目の病気」が 24.2%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等」が 19.4%となっています。



8. 認知症にかかる相談窓口の把握について

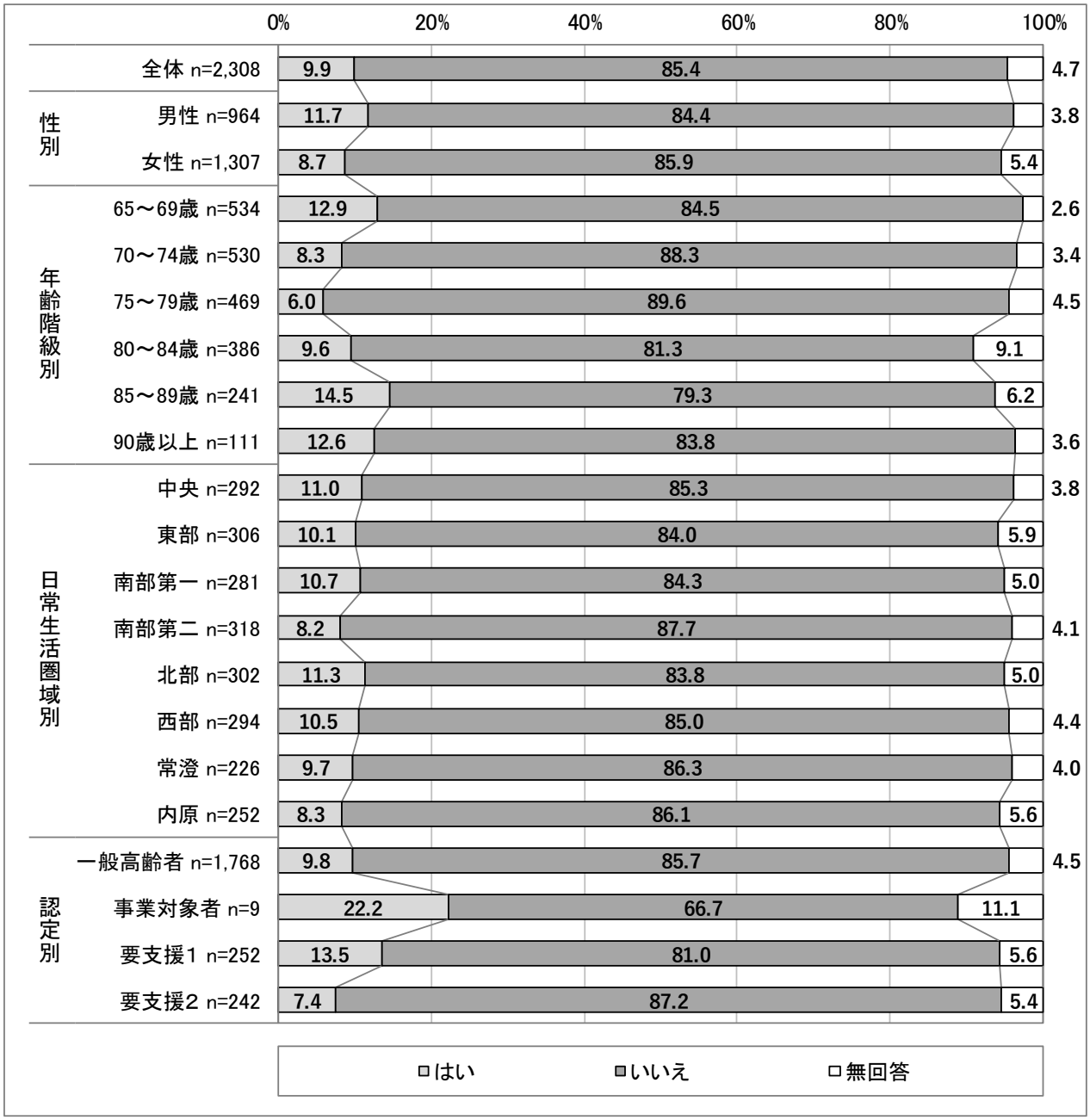
Q1．認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか（1つのみ）

認知症の症状の有無又は家族に認知症の症状があるかついては、全体では「はい」が 9.9%、「いいえ」が 85.4%となっています。

性別でみると、「はい」は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、85～89 歳が 14.5%で最も高く、次いで 65～69 歳が 12.9%、90 歳以上が 12.6%となっています。

日常生活圏域別でみると、中央及び北部で「はい」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。



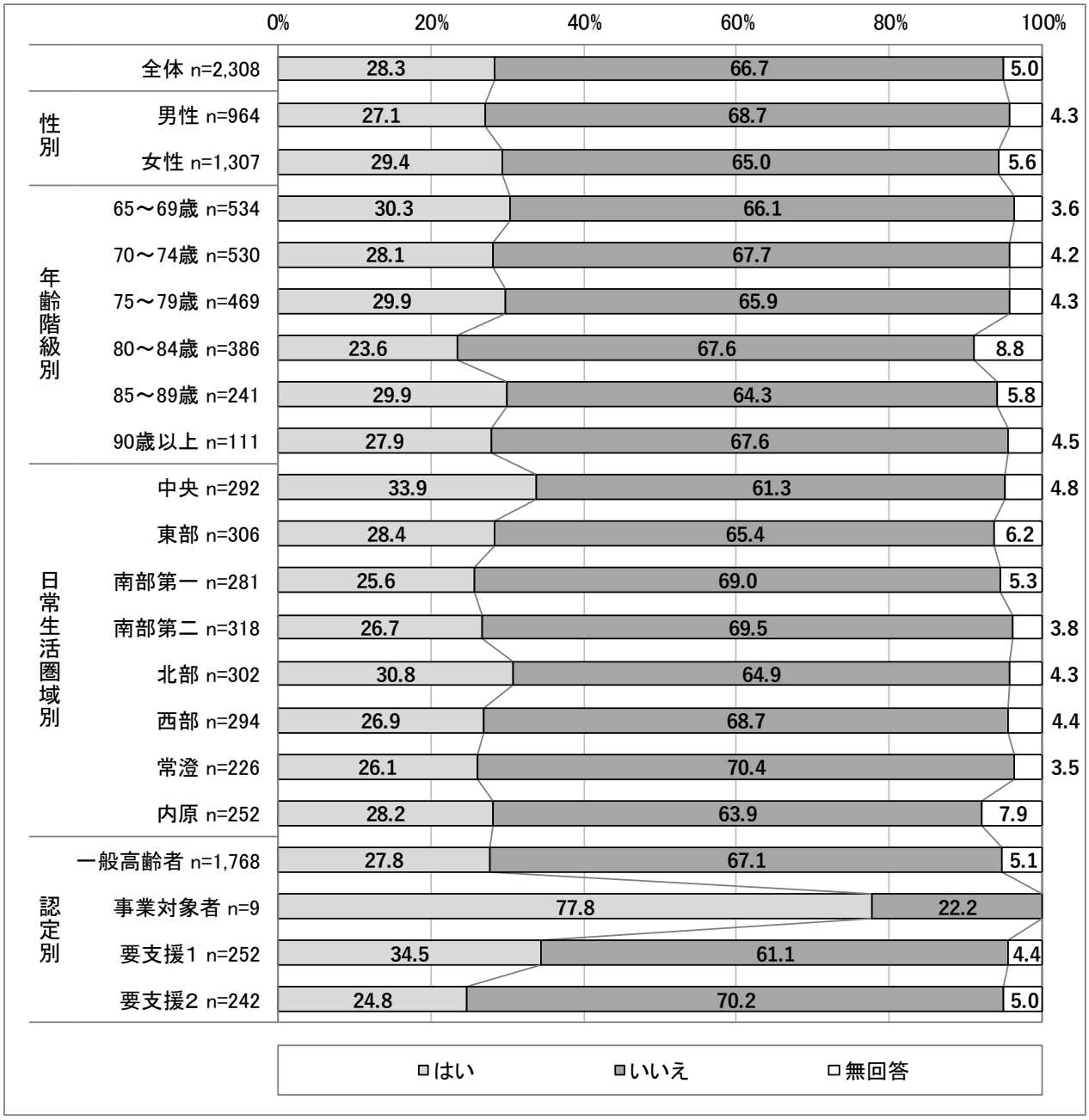
Q2．認知症に関する相談窓口を知っていますか（1つのみ）

認知症に関する相談窓口を知っているかについては、全体では「はい」が 28.3%、「いいえ」が 66.7%となっています。

性別でみると、「はい」は、男性に比べ女性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「はい」は、65～69 歳が 30.3%で最も高く、次いで 75～79 歳、85～89 歳がともに 29.9%、70～74 歳が 28.1%となっています。

日常生活圏域別でみると、中央で「はい」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。

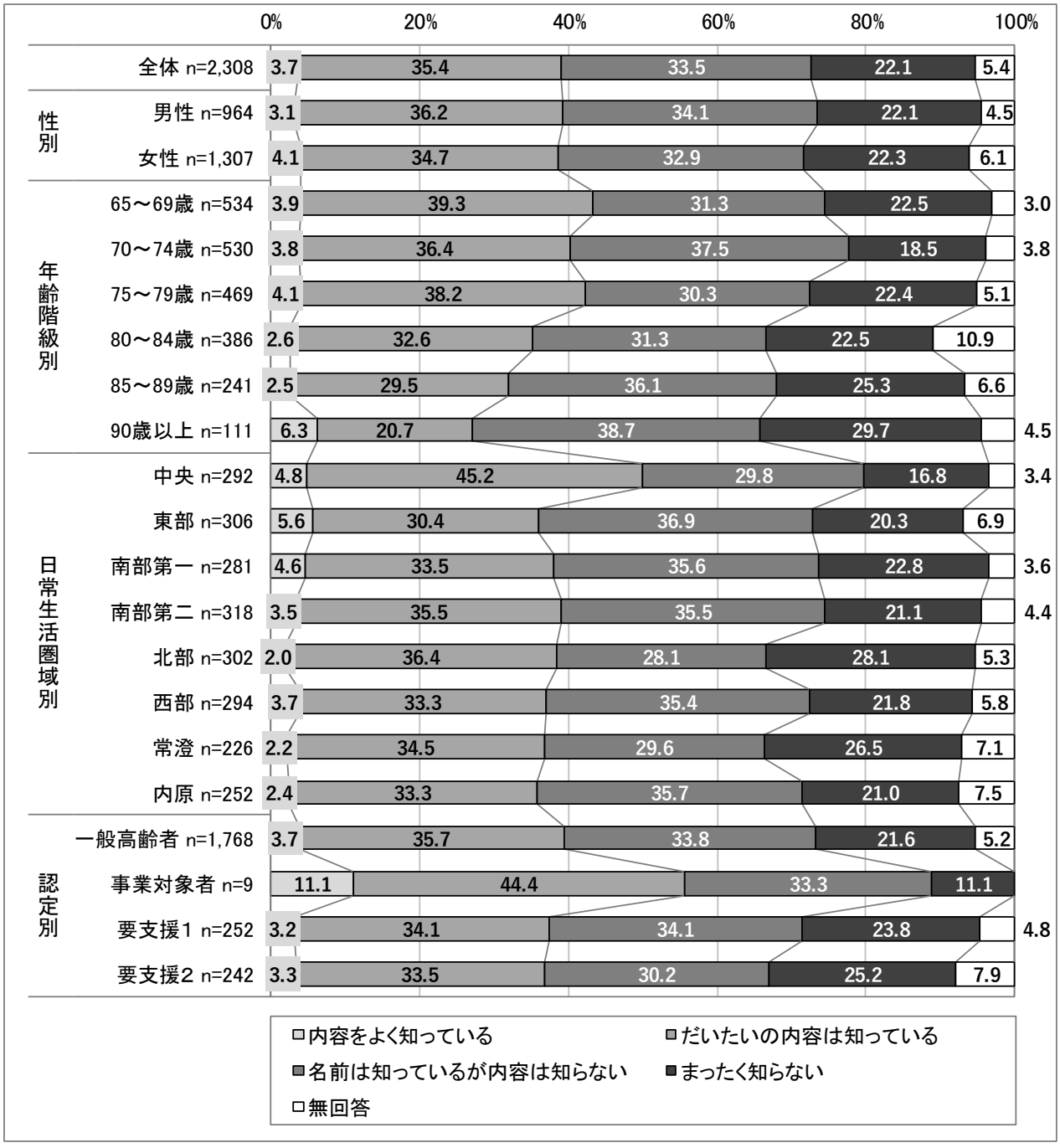


9. 成年後見制度について

Q1．成年後見制度を知っていますか（1つのみ）

成年後見制度の認知度については、全体では「だいたいの内容は知っている」が 35.4%で最も高く、次いで「名前は知っているが内容は知らない」が 33.5%、「まったく知らない」が 22.1%、「内容をよく知っている」が 3.7%となっています。

年齢階級別でみると、「名前は知っているが内容は知らない」と「まったく知らない」を合わせた『知らない』は、90 歳以上が 68.4%で最も高く、次いで 85～89 歳が 61.4%、70～74 歳が 56.0%となっています。



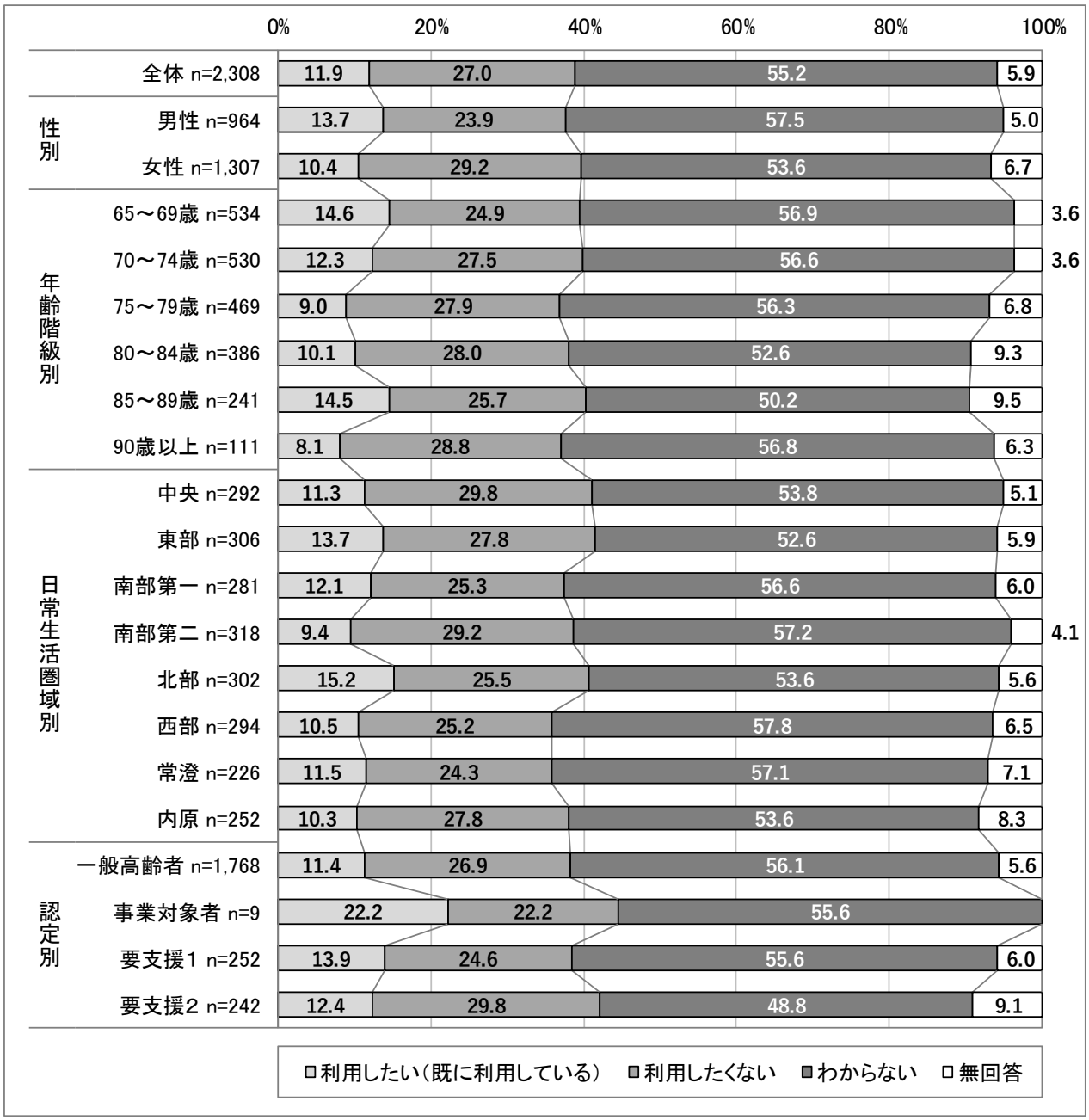
Q２．あなたが認知症などによって物事を判断する能力が十分でなくなった場合に、成年後見制度を利用したいと思いますか（１つのみ）

成年後見制度の利用希望については、全体では「わからない」が 55.2%で最も高く、次いで「利用したくない」が 27.0%、「利用したい（既に利用している）」が 11.9%となっています。

性別でみると、「利用したい（既に利用している）」は、女性に比べ男性のほうが上回っています。

年齢階級別でみると、「利用したい（既に利用している）」は、65～69 歳が 14.6%で最も高く、次いで 85～89 歳が 14.5%、70～74 歳が 12.3%となっています。

日常生活圏域別でみると、北部で「利用したい（既に利用している）」の割合が他の圏域と比べて若干高くなっています。



第Ⅲ部　生活機能判定結果

1. 介護予防のための生活機能判定結果

今回実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、介護予防のための生活機能を評価する項目が設けられており、調査項目の回答結果をもとに、各機能を評価することができます。さらには、これらの各機能の評価をもとに、事業対象者に該当するか判断できます。

○各機能の評価項目

項目	評価方法	設問番号
生活機能	生活機能判定項目（後述参照）で、うつに関する 2 項目を除いた 20 項目中、10 項目以上が該当した場合、生活機能の該当者と判定する。	問４ Q4、Q5、Q8、Q13、Q14
運動機能	生活機能判定項目 6～10 の 5 項目のうち、3 項目以上に該当した場合、運動機能の該当者と判定する。	問２ Q1～Q5
栄養状態	以下の①かつ②に該当した場合、栄養状態の該当者と判定する。 ①生活機能判定項目 11 に該当 ②生活機能判定項目 12 で BMI が 18.5 未満	問３ Q1、Q8
口腔機能	生活機能判定項目 13～15 の 3 項目のうち、2 項目以上に該当した場合、口腔機能の該当者と判定する。	問３ Q2～Q4
閉じこもり	生活機能判定項目 16 に該当した場合、閉じこもりの該当者と判定する。	問２ Q6、Q7
認知機能	生活機能判定項目 18 に該当した場合、認知機能の該当者と判定する。	問４ Q1～Q3
うつ	生活機能判定項目 21～22 の 2 項目のうち、いずれかに該当した場合、うつの該当者と判定する。	問７ Q3、Q4
事業対象者	生活機能、運動機能、栄養状態、口腔機能、閉じこもり、認知機能、うつのいずれかに該当している場合、事業対象者と判定する。 ※本報告書では、生活機能、運動機能、栄養状態、口腔機能のいずれかに該当している場合の結果も掲載しています。	

○生活機能判定項目（22 項目）

No.	質問項目	該当する回答
1	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	・できるけどしていない ・できない
2	自分で食品・日用品の買い物をしていますか	・できるけどしていない ・できない
3	自分で預貯金の出し入れをしていますか	・できるけどしていない ・できない
4	友人の家を訪ねていますか	・いいえ
5	家族や友人の相談にのっていますか	・いいえ
6	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	・できない
7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	・できない
8	15分位続けて歩いていますか	・できない
9	過去1年間に転んだ経験がありますか	・何度もある ・1度ある
10	転倒に対する不安は大きいですか	・とても不安である ・やや不安である
11	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	・はい
12	身長　　cm　体重　　kg　(BMI=　　)	・BMI=18.5 未満
13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	・はい
14	お茶や汁物等でむせることがありますか	・はい
15	口の渇きが気になりますか	・はい
16	週に1回以上は外出していますか	・ほとんど外出しない ・週1回
17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	・とても減っている ・減っている
18	物忘れが多いと感じますか	・はい
19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	・いいえ
20	今日が何月何日かわからないときがありますか	・はい
21	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	・はい
22	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	・はい

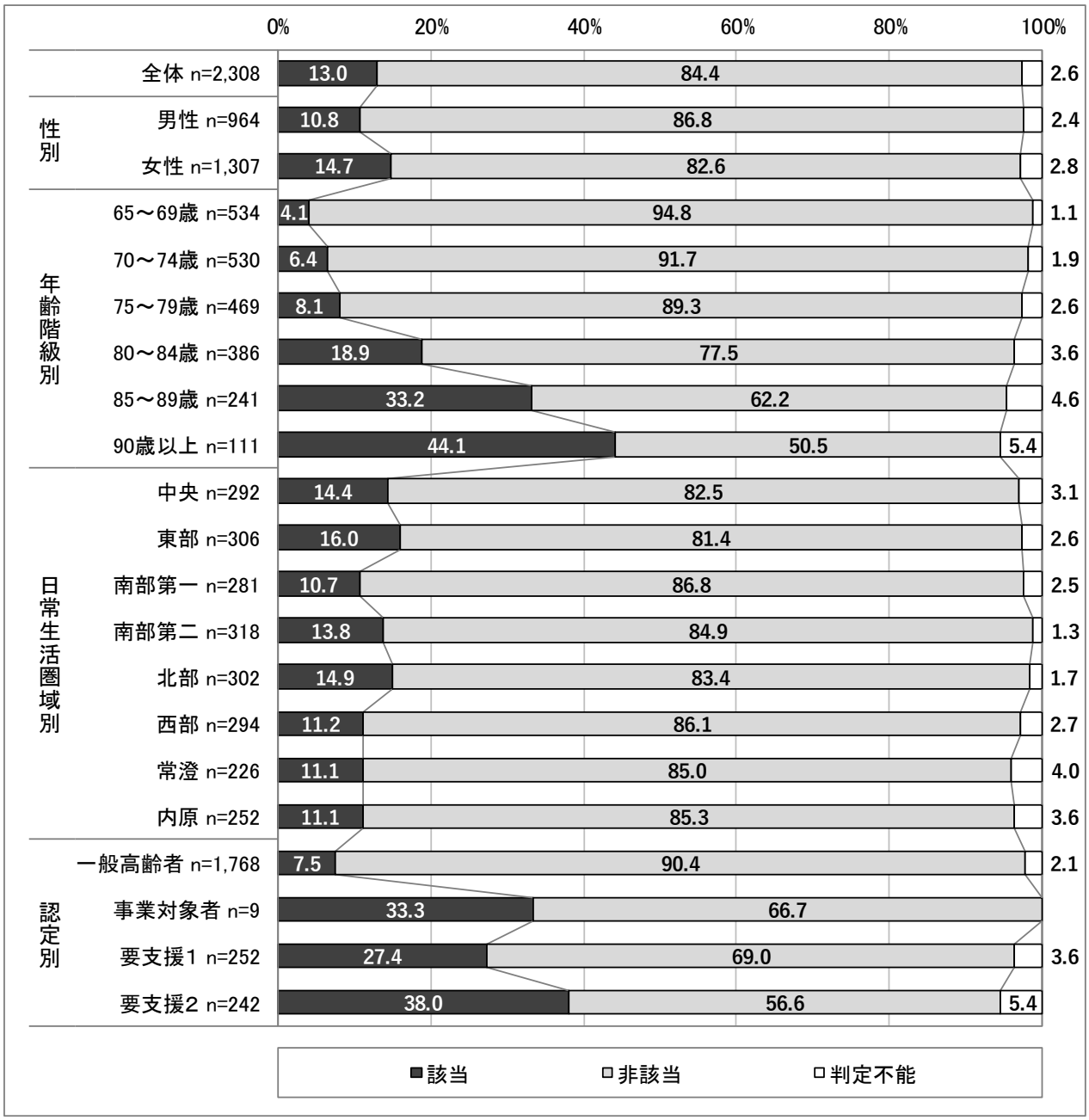
■生活機能

生活機能についての結果をみると、生活機能に低下の傾向がみられると判定された方は、全体で13.0%となっています。

性別では、男性が10.8%、女性が14.7%で、女性が男性に比べ3.9ポイント上回っています。

年齢階級別では、年齢が上がるとともに該当者の割合が増加し、85歳以上では該当者が3割を超えています。

日常生活圏域別では、該当者の割合が最も高いのは、東部で16.0%、次いで北部で14.9%となっています。



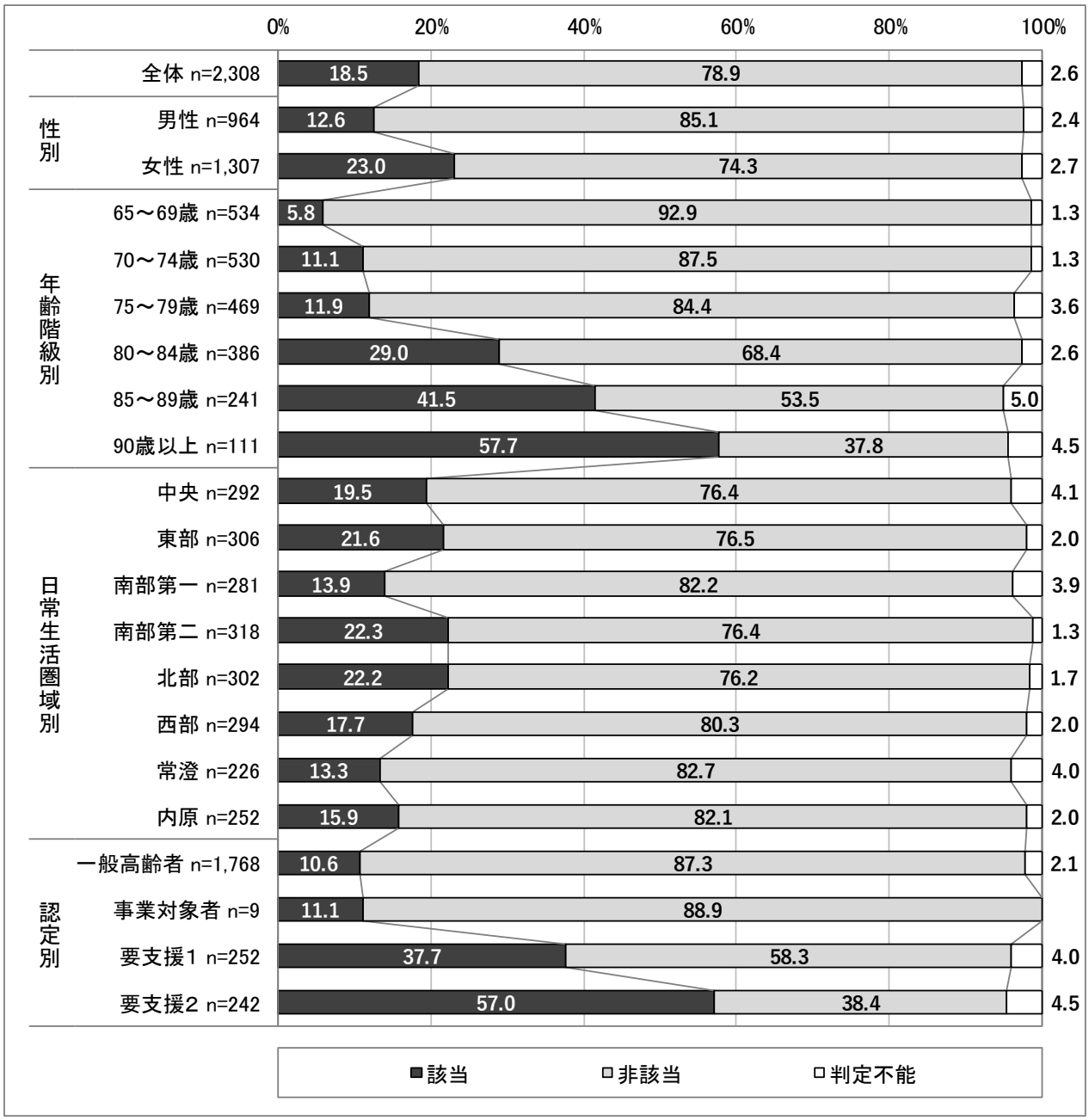
■運動機能

運動機能についての結果をみると、運動機能に低下の傾向がみられると判定された方は、全体で18.5%となっています。

性別では、男性が12.6%、女性が23.0%で、女性が男性に比べ10.4ポイント上回っています。

年齢階級別では、年齢が上がるとともに該当者の割合が増加し、85歳以上では該当者が4割を超えています。

日常生活圏域別では、該当者の割合が最も高いのは、南部第二で22.3%、次いで北部で22.2%となっています。



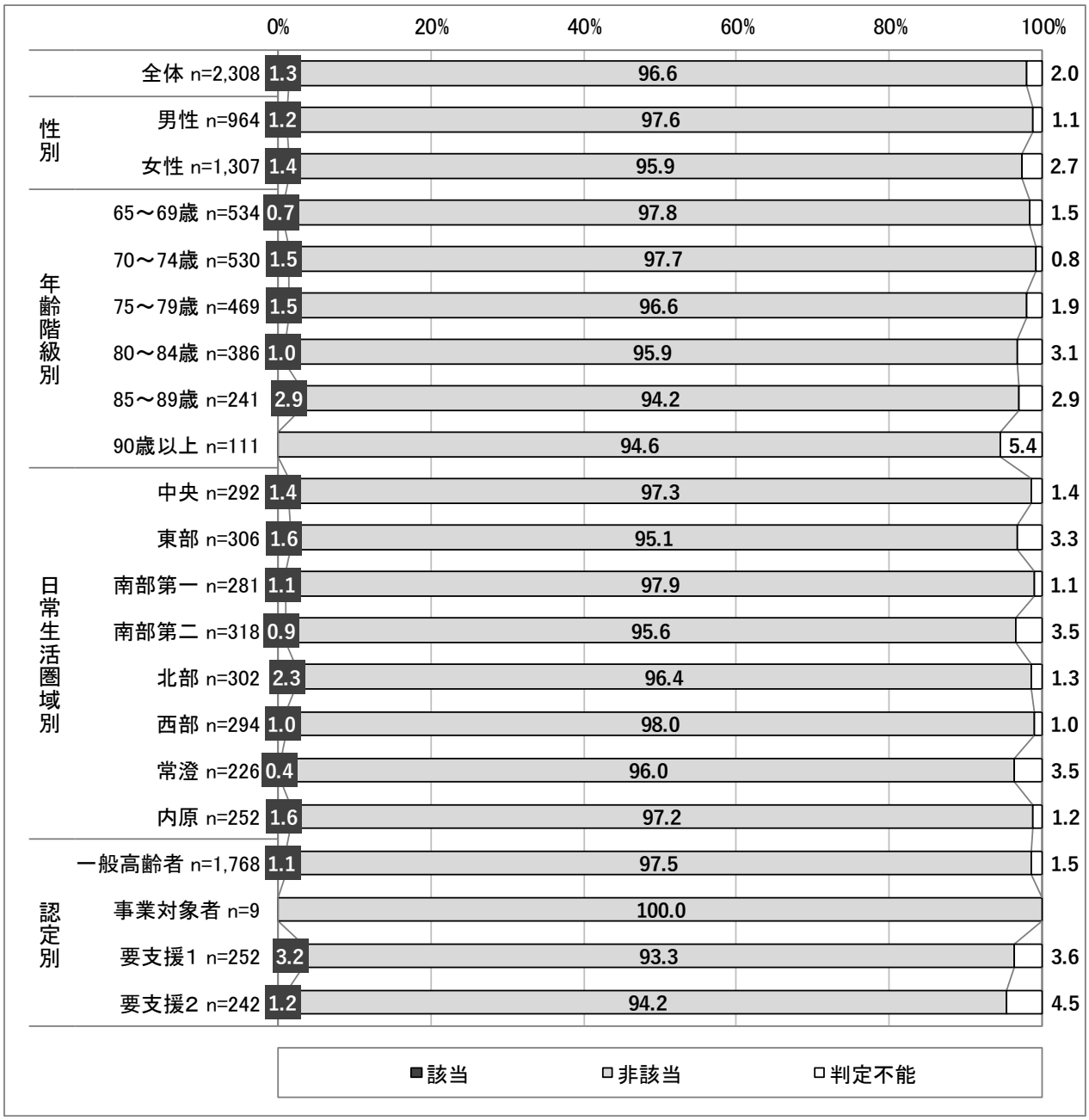
■栄養状態

栄養状態についての結果をみると、栄養状態に低下の傾向がみられると判定された方は、全体で1.3%となっています。

性別では、男性が1.2%、女性が1.4%となっています。

年齢階級別では、該当者割合が最も高いのは、85～89歳で2.9%、次いで70～74歳、75～79歳がともに1.5%となっています。

日常生活圏域別では、該当者の割合が最も高いのは、北部で2.3%、次いで東部、内原がともに1.6%となっています。



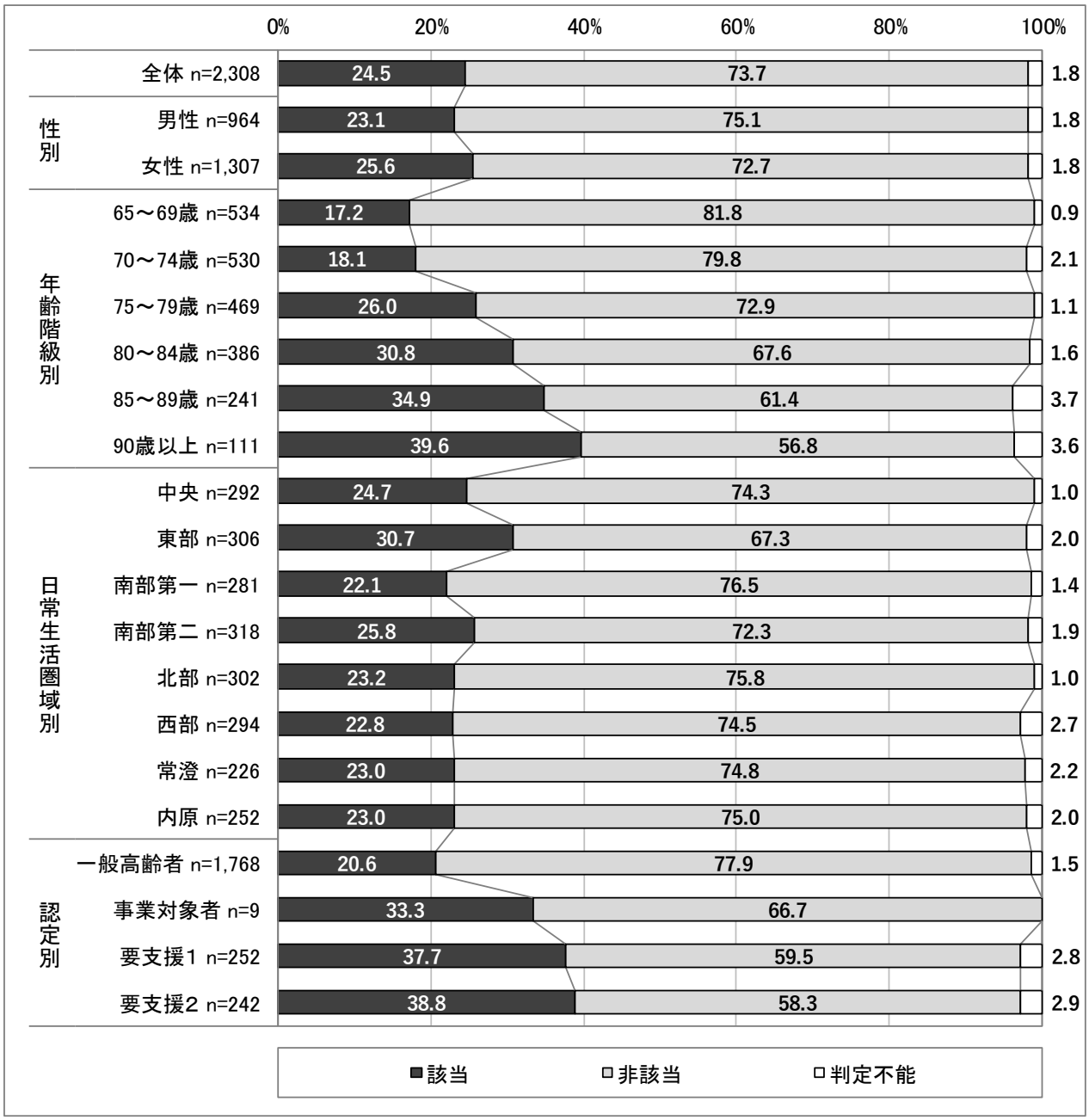
■口腔機能

口腔機能についての結果をみると、口腔機能に低下の傾向がみられると判定された方は、全体で24.5%となっています。

性別では、男性が23.1%、女性が25.6%で、女性が男性に比べ2.5ポイント上回っています。

年齢階級別では、年齢が上がるとともに該当者の割合が増加し、80歳以上では該当者が3割を超えています。

日常生活圏域別では、該当者の割合が最も高いのは、東部で30.7%、次いで南部第二で25.8%となっています。



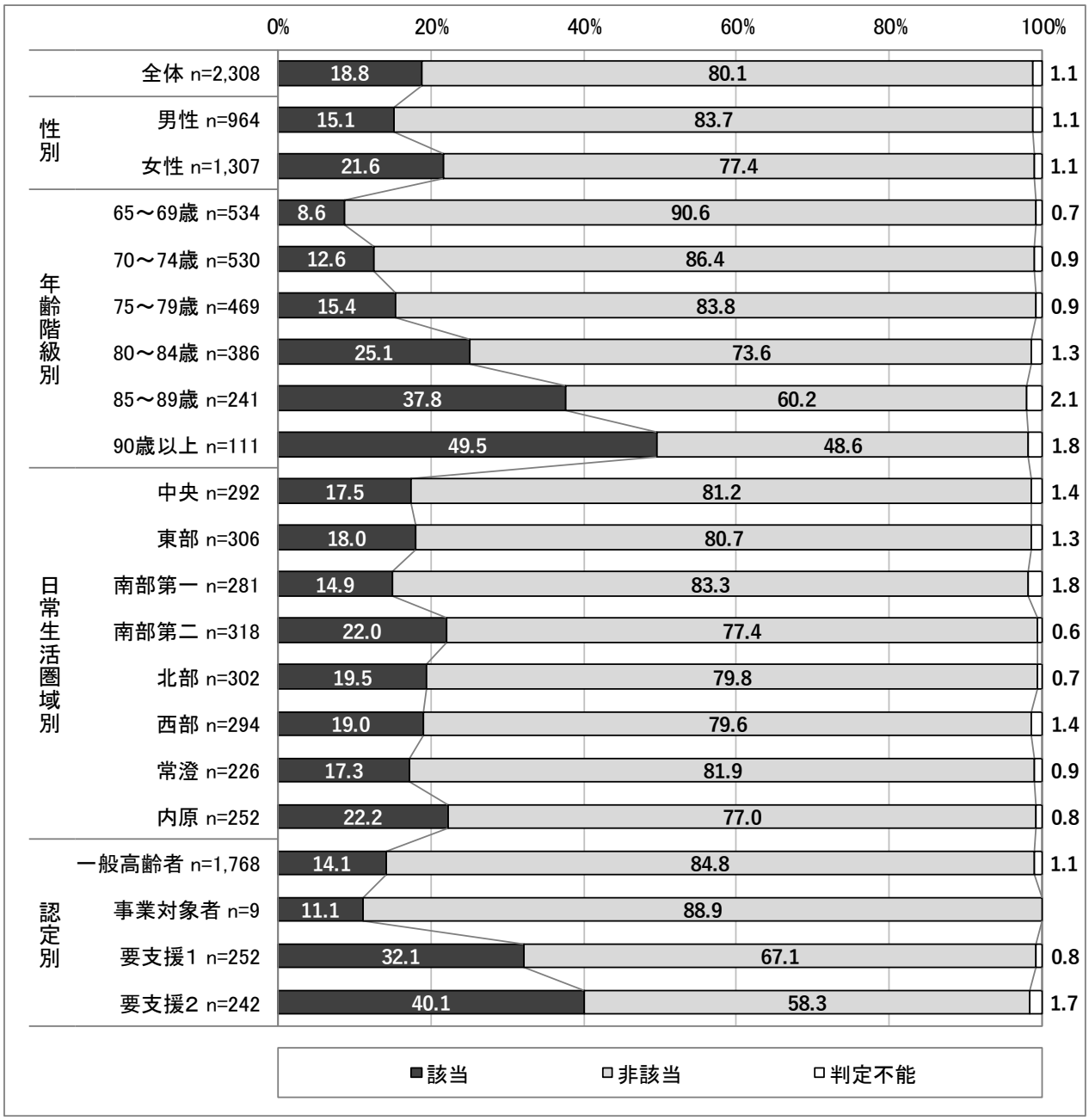
■閉じこもり

閉じこもりについての結果をみると、閉じこもりの傾向がみられると判定された方は、全体で 18.8%となっています。

性別では、男性が 15.1%、女性が 21.6%で、女性が男性に比べ 6.5 ポイント上回っています。

年齢階級別では、年齢が上がるとともに該当者の割合が増加し、80 歳以上では該当者が 2 割を超えています。

日常生活圏域別では、該当者の割合が最も高いのは、内原で 22.2%、次いで南部第二で 22.0%となっています。



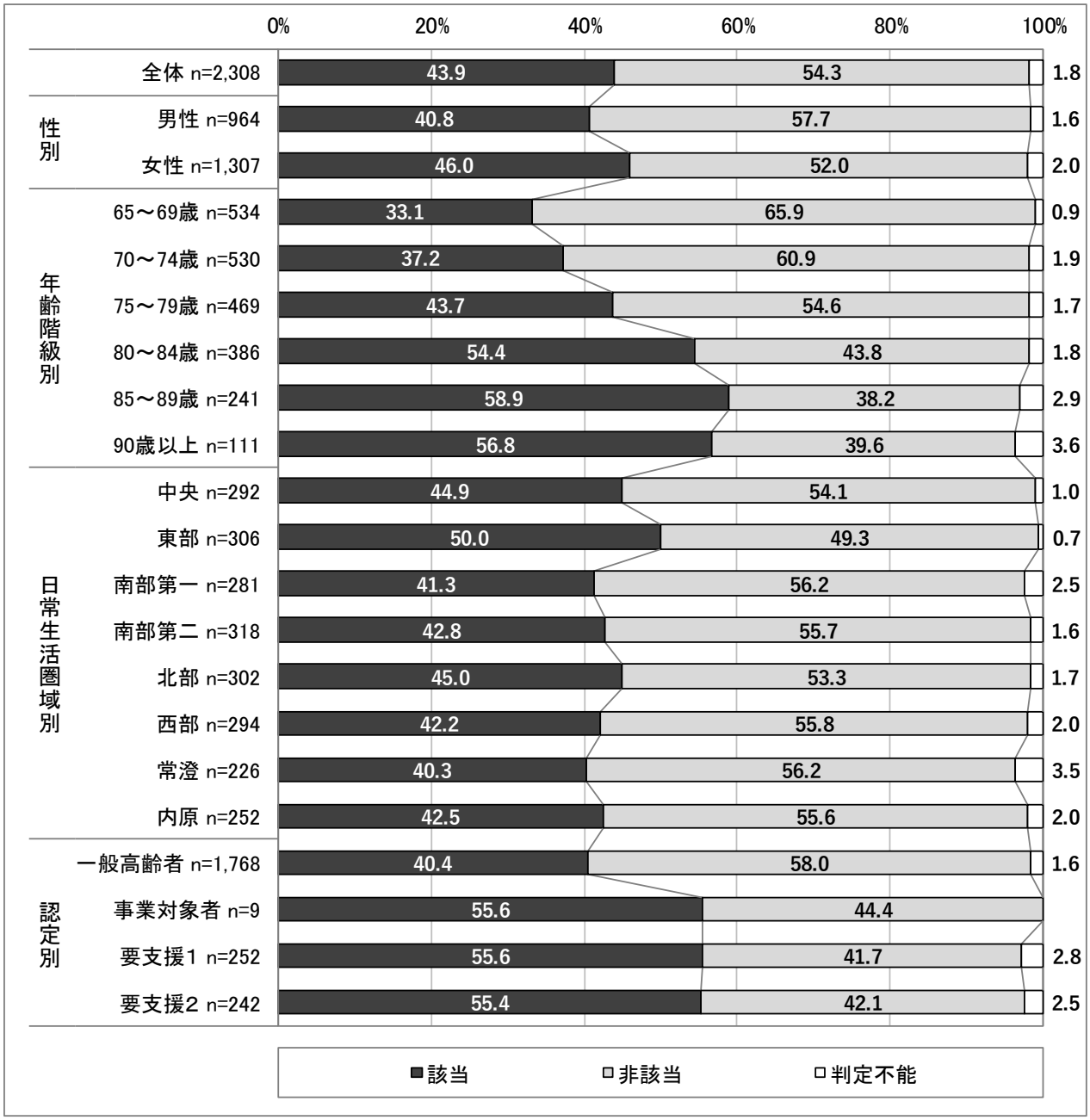
■認知機能

認知機能についての結果をみると、認知機能に低下の傾向がみられると判定された方は、全体で43.9%となっています。

性別では、男性が40.8%、女性が46.0%で、女性が男性に比べ5.2ポイント上回っています。

年齢階級別では、65～69歳で該当者が3割を超えており、80歳以上では5割を超えています。

日常生活圏域別では、該当者の割合が最も高いのは、東部で50.0%、次いで北部で45.0%となっています。



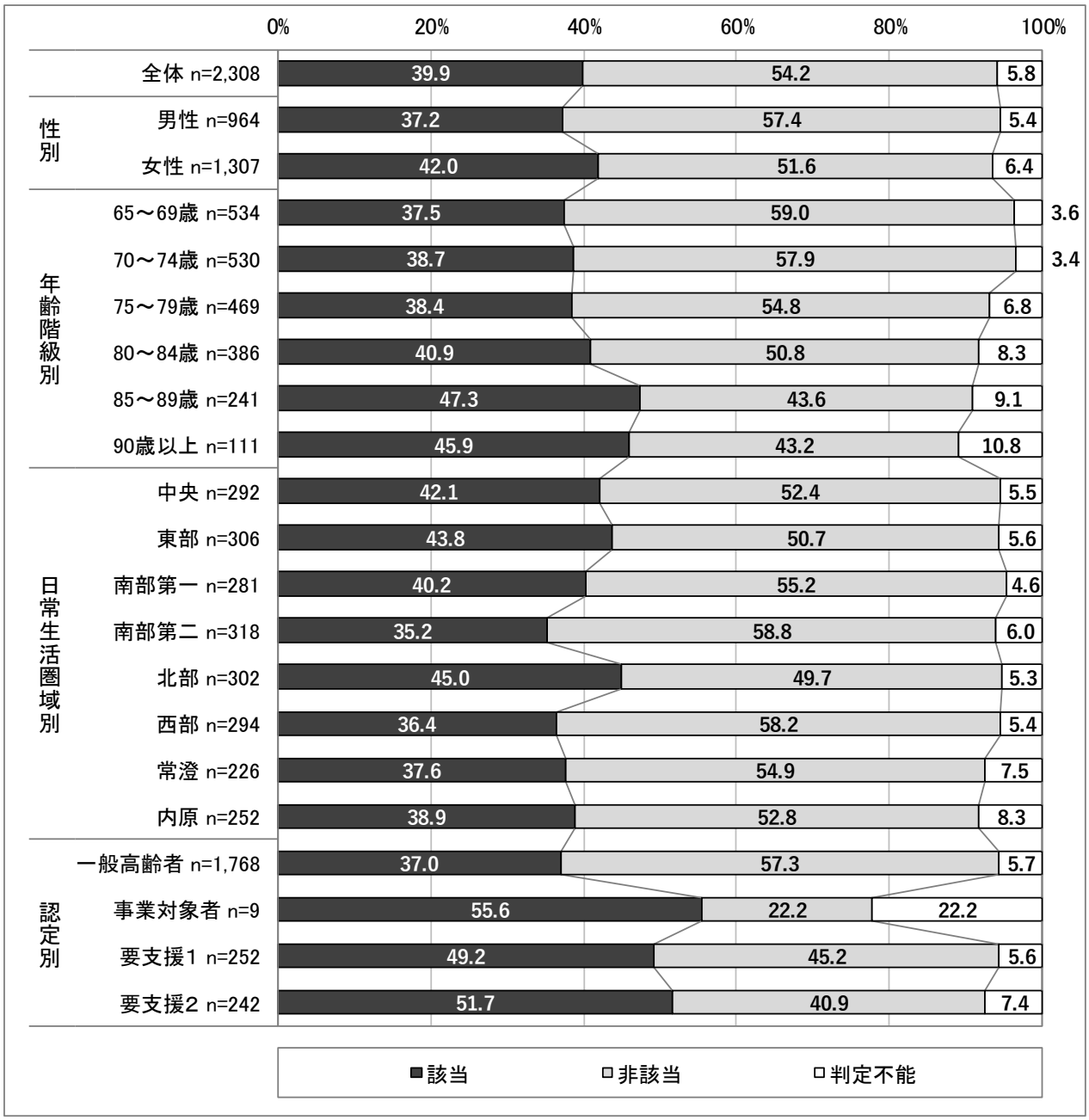
■うつ

うつについての結果をみると、うつの傾向がみられると判定された方は、全体で 39.9%となっています。

性別では、男性が 37.2%、女性が 42.0%で、女性が男性に比べ 4.8 ポイント上回っています。

年齢階級別では、該当者の割合が最も高いのは、85～89 歳で 47.3%、次いで 90 歳以上で 45.9%、80～84 歳で 40.9%となっています。

日常生活圏域別では、該当者の割合が最も高いのは、北部で 45.0%、次いで東部で 43.8%となっています。



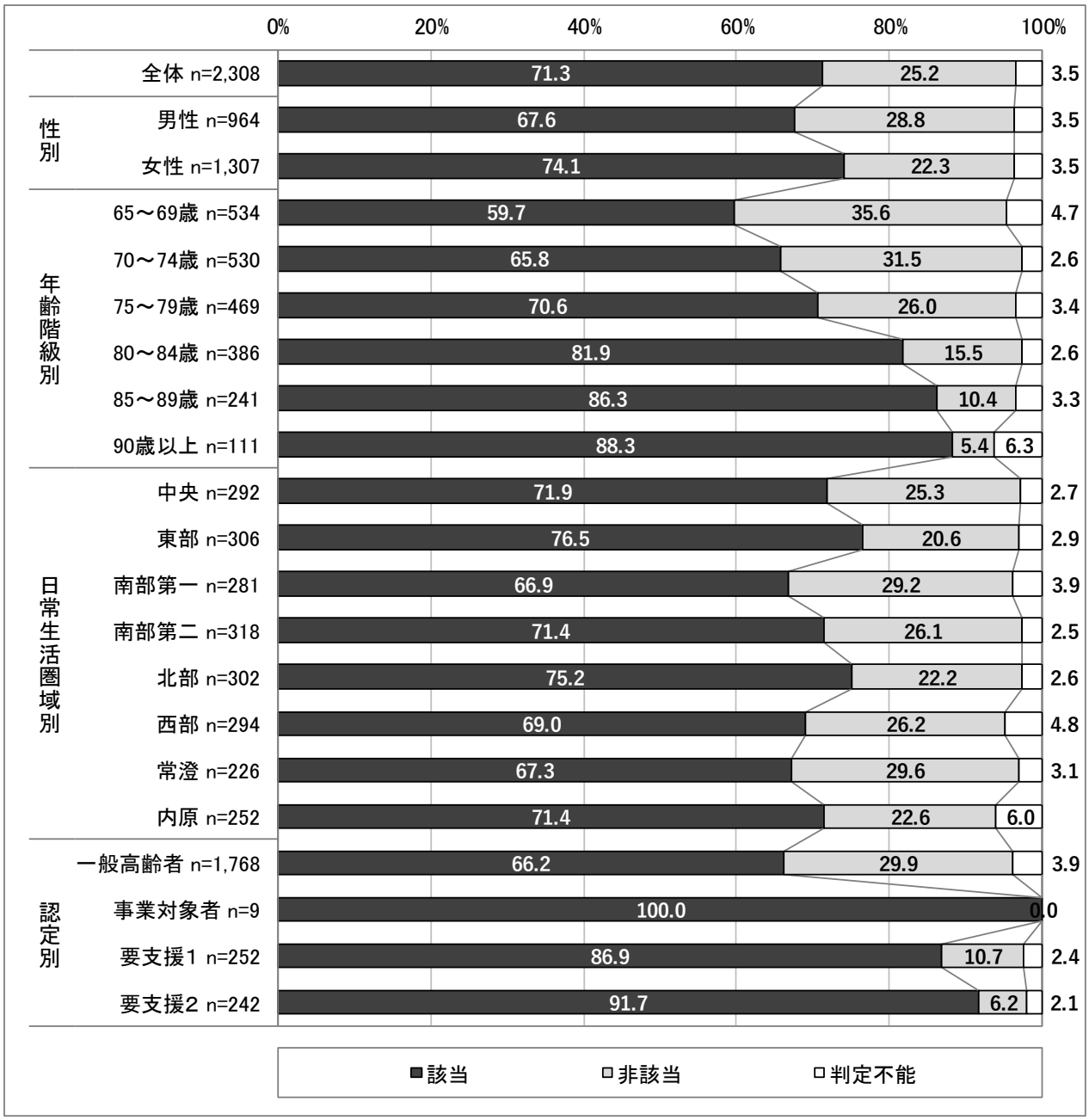
■事業対象者（７項目判定）

生活機能、運動機能、栄養状態、口腔機能、閉じこもり、認知機能、うつのいずれかに該当した方は、全体で 71.3%となっています。

性別では、男性が 67.5%、女性が 74.1%で、女性が男性に比べ 6.5 ポイント上回っています。

年齢階級別では、年齢が上がるとともに事業対象者の割合が増加し、80 歳以上では事業対象者が 8 割を超えています。

日常生活圏域別では、事業対象者の割合が最も高いのは、東部で 76.5%、次いで中央で 71.9%となっています。



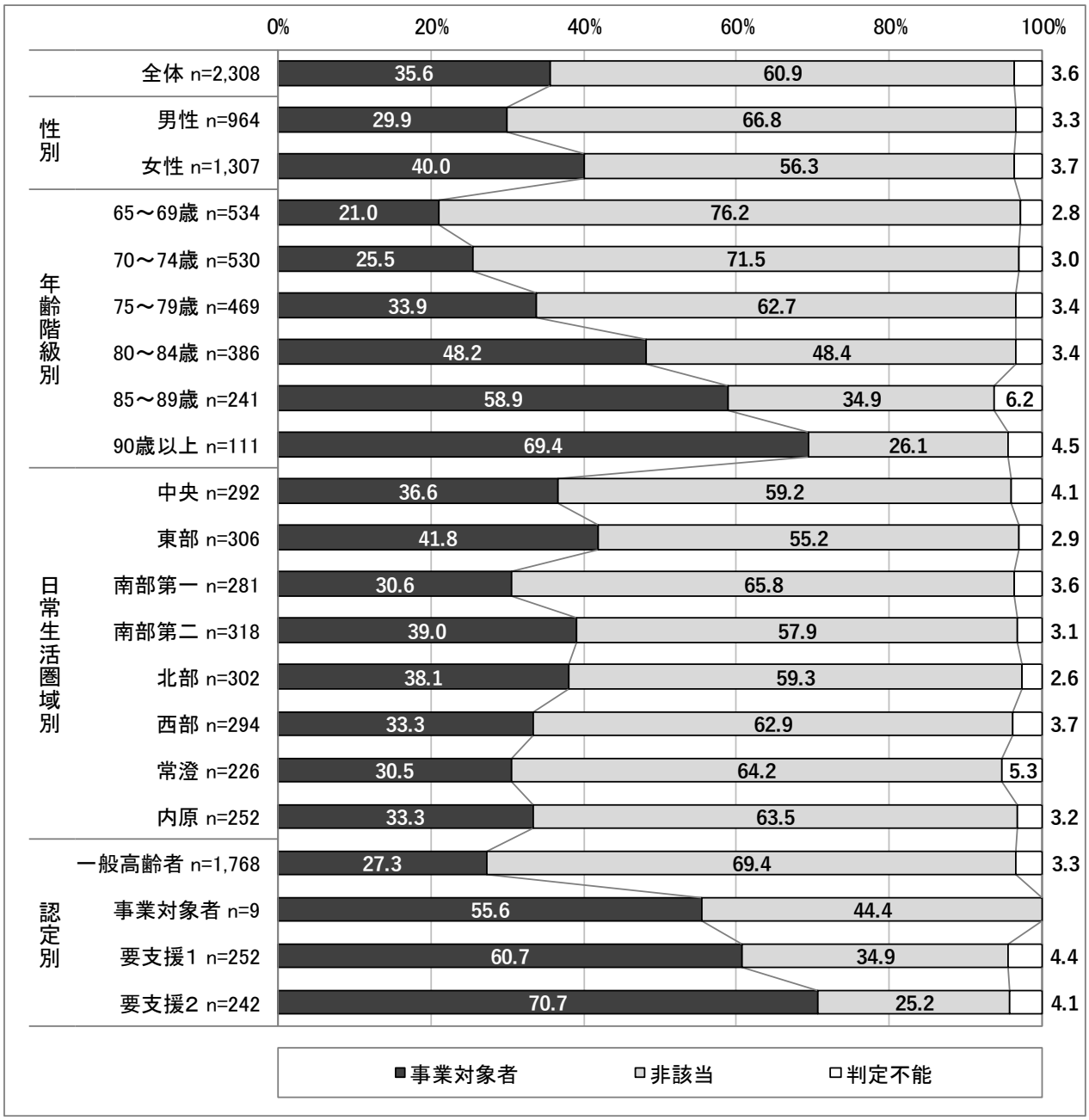
■事業対象者（４項目判定）

生活機能、運動機能、栄養状態、口腔機能のいずれかに該当した方は、全体で 35.6%となっています。

性別では、男性が 29.9%、女性が 40.0%で、女性が男性に比べ 10.0 ポイント上回っています。

年齢階級別では、年齢が上がるとともに事業対象者の割合が増加し、75 歳以上では事業対象者が 3 割を超えています。

日常生活圏域別では、事業対象者の割合が最も高いのは、東部で 41.8%、次いで南部第二で 39.0%となっています。



2. その他の生活機能判定

介護予防のための生活機能評価のほかに、本調査票には、下記の機能を評価するための設問が設けられています。

評価にあたっては、下記の評価方法で実施しています。

○各機能の評価方法

項目	評価方法	設問番号
転倒リスク	問２Ｑ４の設問において、「何度もある」「１度ある」と回答した場合、転倒リスクの該当者と判定する。	問２ からだを動かすことについて Q4
手段的自立度（ＩＡＤＬ）	高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問が 5 問設けられています。このうち、手段的自立度（ＩＡＤＬ）については、問４Ｑ４～Ｑ８について「できるし、している」「できるけどしていない」と回答した場合を 1 点とし、5 点満点を「高い」、4 点を「やや低い」、3 点以下を「低い」と評価する。	問４ 毎日の生活について Q4～Q8
知的能動性	老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が 4 問設けられています。各設問に「はい」と回答した場合を 1 点とし、4 点満点を「高い」、3 点を「やや低い」、2 点以下を「低い」と評価する。	問４ 毎日の生活について Q9～Q12
社会的役割	老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が 4 問設けられています。各設問に「はい」と回答した場合を 1 点とし、4 点満点を「高い」、3 点を「やや低い」、2 点以下を「低い」と評価する。	問４ 毎日の生活について Q13～Q16
生活機能総合評価	手段的自立度に、知的能動性、社会的役割を加えた老研指標 13 項目で評価を行う。11 点以上を「高い」、9～10 点を「やや低い」、8 点以下を「低い」と評価する。	手段的自立度 （問４　毎日の生活について　Q4～Q8） 知的能動性 （問４　毎日の生活について　Q9～Q12） 社会的役割 （問４　毎日の生活について　Q13～Q16）

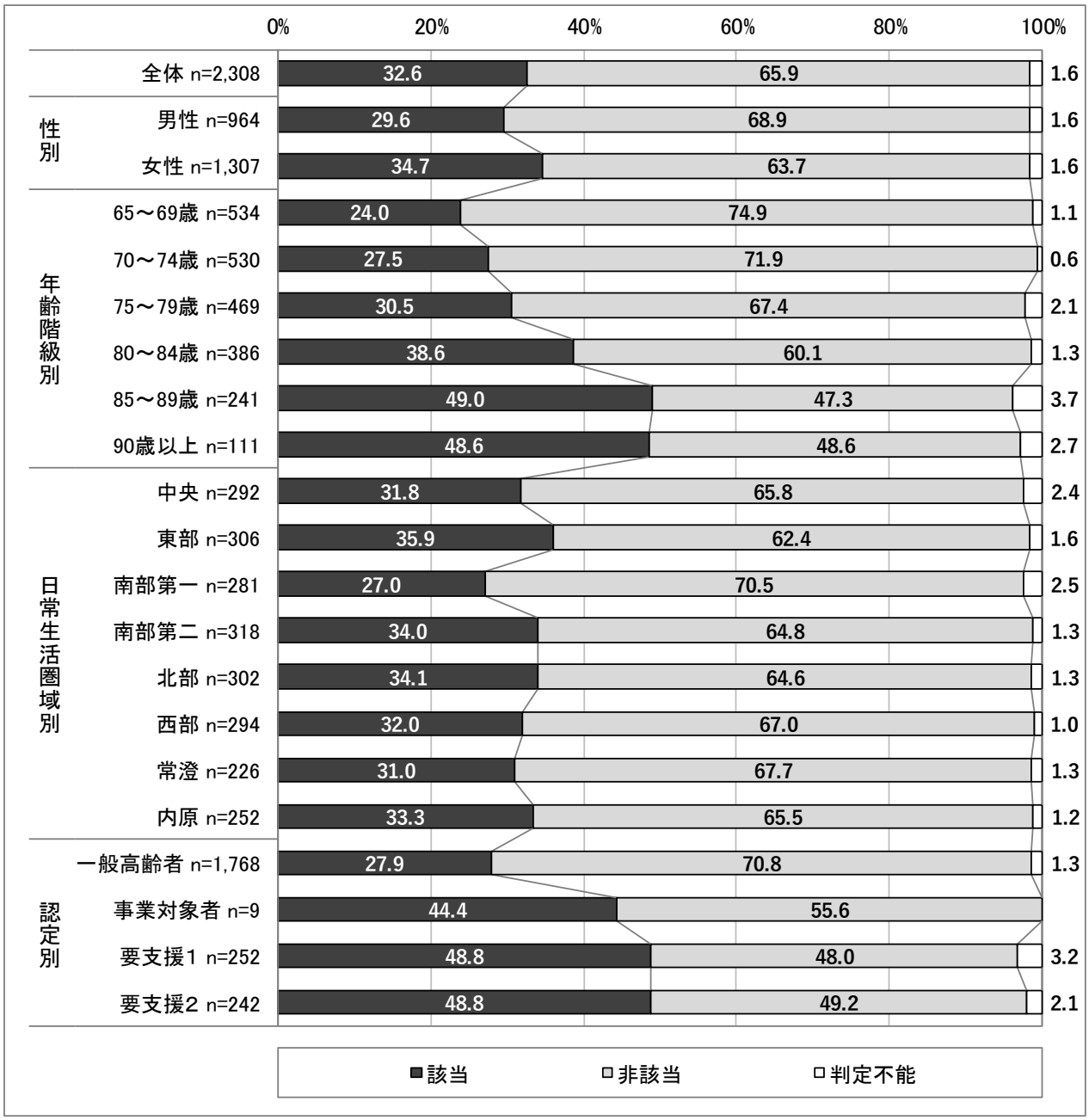
■転倒リスク

転倒リスクについての結果をみると、転倒リスクが高い傾向にあると判定された方は、全体で 32.6%となっています。

性別では、男性が 29.6%、女性が 34.7%で、女性が男性に比べ 5.1 ポイント上回っています。

年齢階級別では、年齢が上がるとともに該当者の割合が増加し、75 歳以上では該当者が 3 割を超えています。

日常生活圏域別では、該当者の割合が最も高いのは、東部で 35.9%、次いで北部で 34.1%となっています。



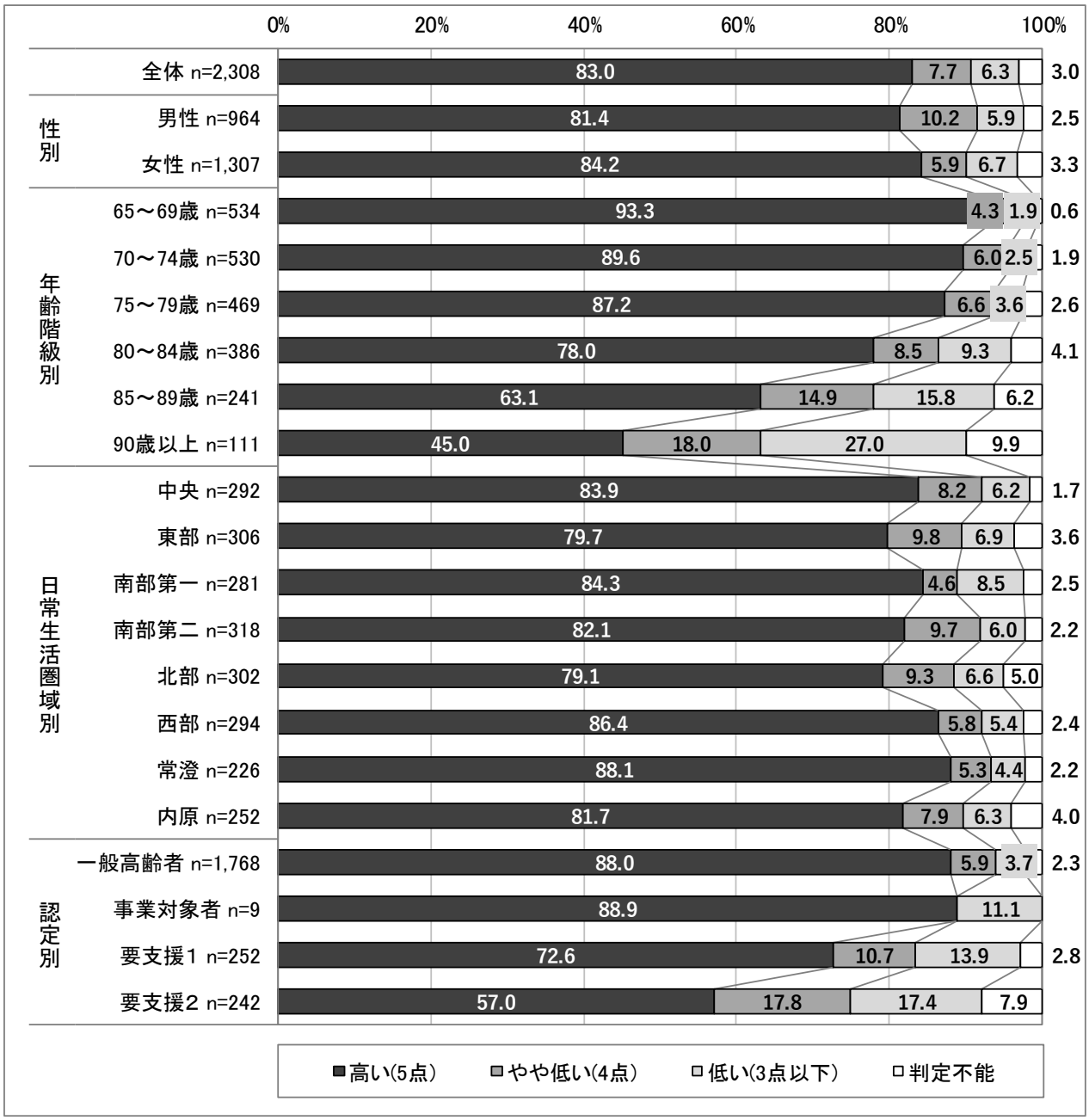
■手段的自立度（ＩＡＤＬ）

手段的自立度（ＩＡＤＬ）についてみると、手段的自立度が「高い」と判定された方は、全体で 83.0%となっています。

性別では、男性が 81.4%、女性が 84.2%で、女性が男性に比べ 2.8 ポイント上回っています。

年齢階級別では、年齢が上がるとともに「高い」の割合は減少し、85～89 歳では約 6 割となっています。

日常生活圏域別では、「高い」の割合が最も高いのは、常澄で 88.1%、次いで西部で 86.4%となっています。



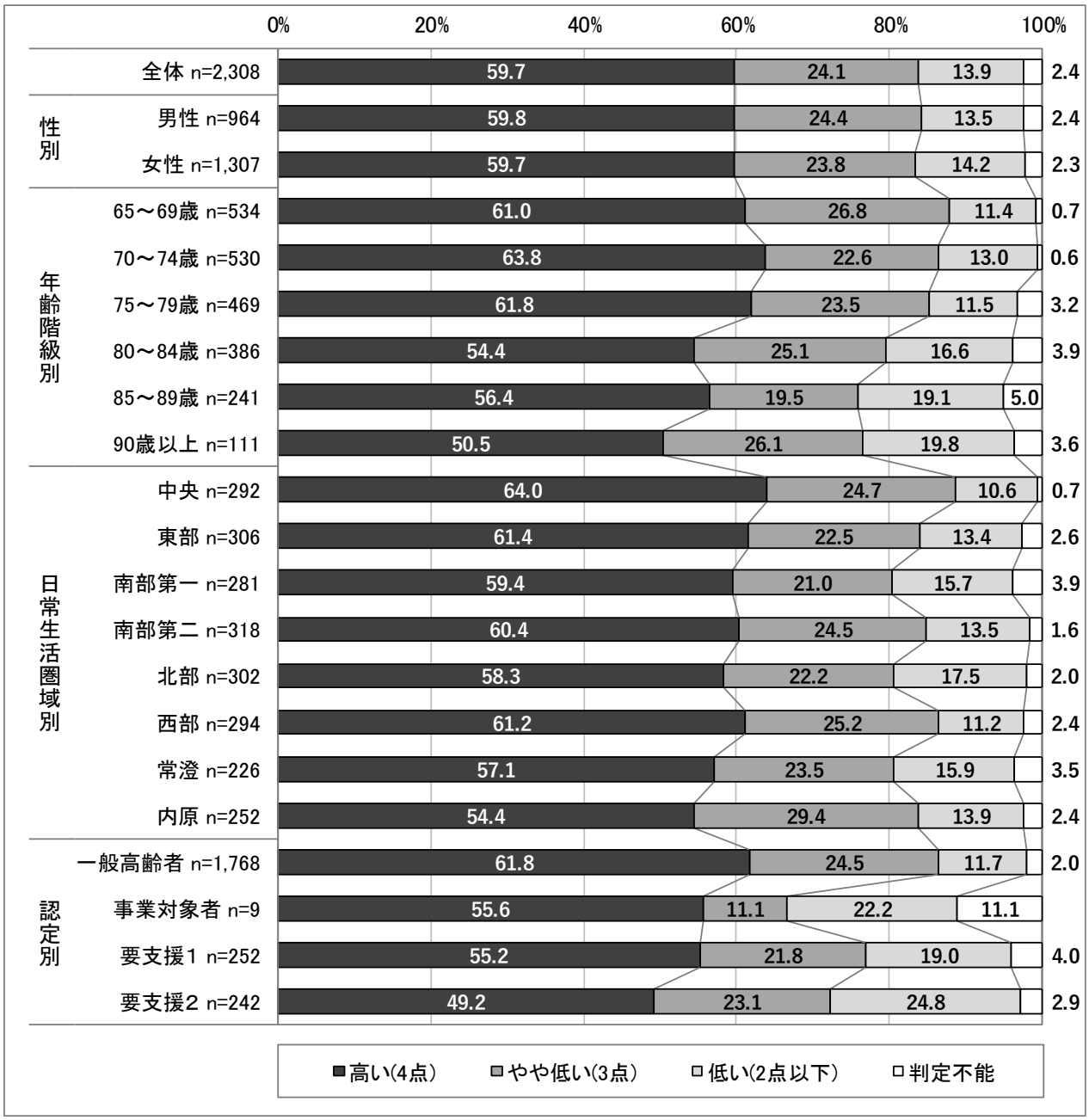
■知的能動性

知的能動性についてみると、知的能動性が「高い」と判定された方は、全体で 59.7%となっています。

性別では、男性が 59.8%、女性が 59.7%となっています。

年齢階級別では、65～79 歳では「高い」の割合が 6 割を超えている一方、80 歳以上では 5 割台となっています。

日常生活圏域別では、「高い」の割合が最も高いのは、中央で 64.0%、次いで東部で 61.4%となっています。



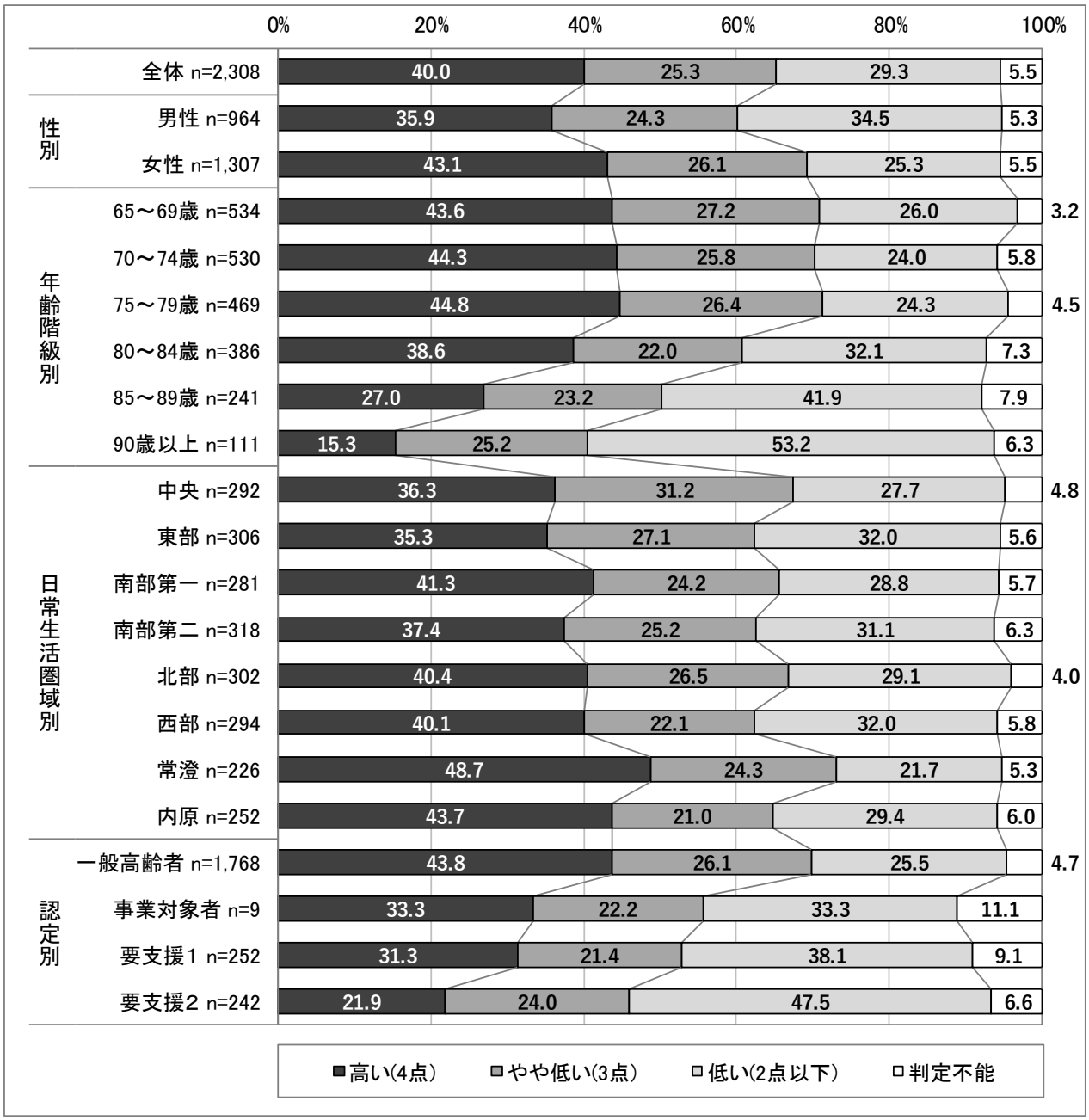
■社会的役割

社会的役割についてみると、社会的役割が「高い」と判定された方は、全体で 40.0%となっています。

性別では、男性が 35.9%、女性が 43.1%で、女性が男性に比べ 7.2 ポイント上回っています。

年齢階級別では、65～79 歳では「高い」の割合が 4 割を超えており、80～84 歳以降、高いの割合は減少しています。

日常生活圏域別では、「高い」の割合が最も高いのは、常澄で 48.7%、次いで内原で 43.7%となっています。



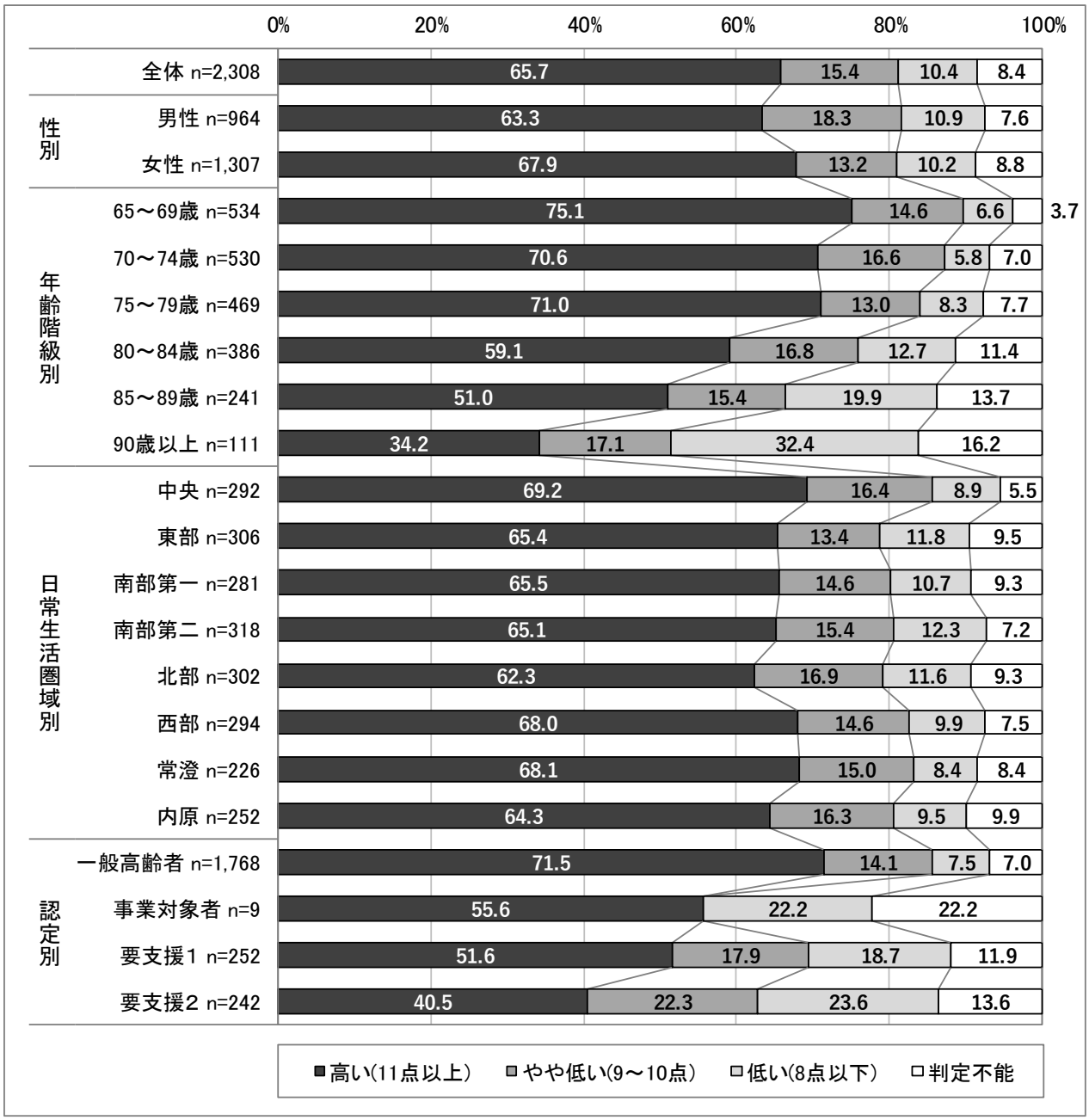
■生活機能総合評価

生活機能総合評価についてみると、生活機能総合評価が「高い」と判定された方は、全体で 65.7%となっています。

性別では、男性が 63.3%、女性が 67.9%で、女性が男性に比べ 4.6 ポイント上回っています。

年齢階級別では、65～79 歳では「高い」の割合が 7 割を超えており、80～84 歳以降、高いの割合は減少しています。

日常生活圏域別では、「高い」の割合が最も高いのは、中央で 69.2%、次いで常澄で 68.1%となっています。



第Ⅳ部　資料編（使用した調査票）

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査票

は じ め に

皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃から、水戸市高齢者福祉行政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

水戸市では、地域の高齢者の皆様の課題を的確に把握し、今後の高齢者福祉行政に反映させるため、本調査「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を実施いたします。

また、令和３年度から令和５年度までを計画年度とした「水戸市第８期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」を策定するにあたり、この調査の結果は、介護保険サービスや福祉サービスの種類や量を計画するための基礎資料となります。質問項目が多く、ご面倒をおかけしますが、福祉サービスの充実を図るため、ご理解とご協力をお願いいたします。

令和元年１２月

水戸市長　　高橋　靖

調査票記入後は、３つ折りにして、同封の返信用封筒に入れて、
令和元年１２月２０日（金）までに投函（切手不要）してください。

水戸市　保健福祉部
高齢福祉課

個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただけたものと見なさせていただきます。

【個人情報の保護および活用目的について】

1．この調査は、効果的な介護予防施策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、水戸市第８期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定の目的以外には利用いたしません。また、当該情報については、水戸市役所内で適切に管理いたします。
2．ただし、水戸市第８期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理するデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析することがあります。

記 入 に 際 し て の お 願 い

1．この調査の対象者は、令和元年１１月１日現在、水戸市にお住まいの要介護認定を受けていない６５歳以上の方から、3,000 名を無作為に抽出しています。
2．ご回答にあたっては、あて名のご本人についてお答えいただきますが、ご家族の方がご本人の代わりに回答されたり、一緒にご回答いただいても構いません。
3．ご回答にあたっては、質問をよくお読みいただき、該当する番号に○をつけてください。また、数字を記入する欄は右詰め（例 | 0 | 6 | 2 | kg）でご記入ください。
4．この調査についてのお問合せは下記までお願いいたします。

【問い合わせ先】水戸市　保健福祉部　高齢福祉課
〒３１０－８６１０　茨城県水戸市中央１丁目４番１号
電話：０２９－２９７－５９０３（直通）

質問の該当する答えの番号に○をつけ、数字記入欄は数字を記入してください

調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。

1．あて名のご本人が記入

2．ご家族が記入（あて名のご本人からみた続柄　＿＿＿＿＿＿＿＿）

3．その他

問１　あなたのご家族や生活状況について

Ｑ１．家族構成を教えてください（１つのみ）

1．１人暮らし　　2．夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）

3．夫婦２人暮らし（配偶者 64 歳以下）　　4．息子・娘との２世帯

5．その他

Ｑ２．あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか（１つのみ）

1．介護・介助は必要ない

2．何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない

3．現在、何らかの介護を受けている
（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）

【Ｑ２において「２．何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「３．現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】

①．介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（いくつでも）

1．脳卒中（脳出血・脳梗塞等）　　2．心臓病

3．がん（悪性新生物）　　4．呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）

5．関節の病気（リウマチ等）　　6．認知症（アルツハイマー病等）

7．パーキンソン病　　8．糖尿病

9．腎疾患（透析）　　10．視覚・聴覚障害

11．骨折・転倒　　12．脊椎損傷

13．高齢による衰弱　　14．その他（　　）

15．不明

【Ｑ２において「３．現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】
②．主にどなたの介護・介助を受けていますか（いくつでも）

１．配偶者（夫・妻）	２．息子	３．娘
４．子の配偶者	５．孫	６．兄弟・姉妹
７．介護サービスのヘルパー	８．その他（　　）	

Ｑ３．現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか（１つのみ）

１．大変苦しい	２．やや苦しい	３．ふつう
４．ややゆとりがある	５．大変ゆとりがある	

Ｑ４．お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか（１つのみ）

１．持家（一戸建て）	２．持家（集合住宅）
３．公営賃貸住宅	４．民間賃貸住宅（一戸建て）
５．民間賃貸住宅（集合住宅）	６．借家
７．その他	

問２　からだを動かすことについて

Ｑ１．階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか（１つのみ）

１．できるし、している	２．できるけどしていない	３．できない

Ｑ２．椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか（１つのみ）

１．できるし、している	２．できるけどしていない	３．できない

Ｑ３．１５分位続けて歩いていますか（１つのみ）

１．できるし、している	２．できるけどしていない	３．できない

Ｑ４．過去１年間に転んだ経験がありますか（１つのみ）

１．何度もある	２．１度ある	３．ない

Ｑ５．転倒に対する不安は大きいですか（１つのみ）

１．とても不安である　２．やや不安である　３．あまり不安でない　４．不安でない

Ｑ６．週に１回以上は外出していますか（１つのみ）

１．ほとんど外出しない　　２．週１回　　３．週２～４回　　４．週５回以上

Ｑ７．昨年と比べて外出の回数が減っていますか（１つのみ）

１．とても減っている　２．減っている　３．あまり減っていない　４．減っていない

Ｑ８．外出を控えていますか（１つのみ）

１．はい　　２．いいえ

【Ｑ８で「１．はい」（外出を控えている）の方のみ】
①．外出を控えている理由は、次のどれですか（いくつでも）

１．病気　　２．障害（脳卒中の後遺症など）
３．足腰などの痛み　　４．トイレの心配（失禁など）
５．耳の障害（聞こえの問題など）　　６．目の障害
７．外での楽しみがない　　８．経済的に出られない
９．交通手段がない　　10．その他（　　）

Ｑ９．外出する際の移動手段は何ですか（いくつでも）

１．徒歩　　２．自転車　　３．バイク
４．自動車（自分で運転）　　５．自動車（人に乗せてもらう）　　６．電車
７．路線バス　　８．病院や施設のバス　　９．車いす
10．電動車いす（カート）　　11．歩行器・シルバーカー　　12．タクシー
13．その他（　　）

問３　食べることについて

Ｑ１．身長・体重

身長 □□□ cm　　体重 □□□ kg

Ｑ２．半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（１つのみ）

１．はい　　２．いいえ

Ｑ３．お茶や汁物等でむせることがありますか（１つのみ）
１．はい　　２．いいえ
Ｑ４．口の渇きが気になりますか（１つのみ）
１．はい　　２．いいえ
Ｑ５．歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか（１つのみ）
１．はい　　２．いいえ
Ｑ６．噛み合わせは良いですか（１つのみ）
１．はい　　２．いいえ
Ｑ７．歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください。 （成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です）（１つのみ）
１．自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用　２．自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし ３．自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用　４．自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし
【Ｑ７で「１．自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」「３．自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」の方のみ】 ①．毎日入れ歯の手入れをしていますか（１つのみ）
１．はい　　２．いいえ
Ｑ８．６か月間で２～３kg以上の体重減少がありましたか（１つのみ）
１．はい　　２．いいえ
Ｑ９．どなたかと食事をともにする機会はありますか（１つのみ）
１．毎日ある　　２．週に何度かある　　３．月に何度かある ４．年に何度かある　　５．ほとんどない

問４　毎日の生活について

Ｑ１．物忘れが多いと感じますか（１つのみ）
１．はい　　２．いいえ
Ｑ２．自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか（１つのみ）
１．はい　　２．いいえ

Ｑ３．今日が何月何日かわからないときがありますか（１つのみ）
１．はい　　２．いいえ
Ｑ４．バスや電車を使って１人で外出していますか（自家用車でも可）（１つのみ）
１．できるし、している　　２．できるけどしていない　　３．できない
Ｑ５．自分で食品・日用品の買い物をしていますか（１つのみ）
１．できるし、している　　２．できるけどしていない　　３．できない
Ｑ６．自分で食事の用意をしていますか（１つのみ）
１．できるし、している　　２．できるけどしていない　　３．できない
Ｑ７．自分で請求書の支払いをしていますか（１つのみ）
１．できるし、している　　２．できるけどしていない　　３．できない
Ｑ８．自分で預貯金の出し入れをしていますか（１つのみ）
１．できるし、している　　２．できるけどしていない　　３．できない
Ｑ９．年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか（１つのみ）
１．はい　　２．いいえ
Q10．新聞を読んでいますか（１つのみ）
１．はい　　２．いいえ
Q11．本や雑誌を読んでいますか（１つのみ）
１．はい　　２．いいえ
Q12．健康についての記事や番組に関心がありますか（１つのみ）
１．はい　　２．いいえ
Q13．友人の家を訪ねていますか（１つのみ）
１．はい　　２．いいえ
Q14．家族や友人の相談にのっていますか（１つのみ）
１．はい　　２．いいえ
Q15．病人を見舞うことができますか（１つのみ）
１．はい　　２．いいえ

Q16. 若い人に自分から話しかけることがありますか（１つのみ）

１．はい　　２．いいえ

Q17. 趣味はありますか（１つのみ）

１．趣味あり　→　（　　）
２．思いつかない

Q18. 生きがいはありますか（１つのみ）

１．生きがいあり　→　（　　）
２．思いつかない

問５　地域での活動について

Q１. 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
※①から⑧それぞれに回答してください（それぞれに１つのみ）

	週４回以上	週２～3 回	週１回	月１～3 回	年に数回	参加していない
① ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
② スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③ 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤ 介護予防のための通いの場（元気アップ･ステップ運動、いきいき健康クラブ、脳の健康教室・エンジョイスクール、シルバーリハビリ体操など）	1	2	3	4	5	6
⑥ 高齢者クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦ 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧ 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

Ｑ２．地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか（１つのみ）

１．是非参加したい　２．参加してもよい　３．参加したくない　４．既に参加している

Ｑ３．地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（１つのみ）

１．是非参加したい　２．参加してもよい　３．参加したくない　４．既に参加している

問６　たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

Ｑ１．あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）

１．配偶者	２．同居の子ども	３．別居の子ども
４．兄弟姉妹・親戚・親・孫	５．近隣	６．友人
７．その他（　　）	８．そのような人はいない	

Ｑ２．反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

１．配偶者	２．同居の子ども	３．別居の子ども
４．兄弟姉妹・親戚・親・孫	５．近隣	６．友人
７．その他（　　）	８．そのような人はいない	

Ｑ３．あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

１．配偶者	２．同居の子ども	３．別居の子ども
４．兄弟姉妹・親戚・親・孫	５．近隣	６．友人
７．その他（　　）	８．そのような人はいない	

Ｑ４．反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）

１．配偶者	２．同居の子ども	３．別居の子ども
４．兄弟姉妹・親戚・親・孫	５．近隣	６．友人
７．その他（　　）	８．そのような人はいない	

Ｑ５．家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（いくつでも）

１．自治会・町内会・高齢者クラブ　　２．社会福祉協議会・民生委員

３．ケアマネジャー　　４．医師・歯科医師・看護師

５．地域包括支援センター・役所　　６．その他

７．そのような人はいない

Ｑ６．友人・知人と会う頻度はどれくらいですか（１つのみ）

１．毎日ある　　２．週に何度かある　　３．月に何度かある

４．年に何度かある　　５．ほとんどない

Ｑ７．この１か月間、何人の友人・知人と会いましたか
同じ人には何度会っても１人と数えることとします（１つのみ）

１．０人（いない）　　２．１～２人　　３．３～５人

４．６～９人　　５．１０人以上

Ｑ８．よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか（いくつでも）

１．近所・同じ地域の人　　２．幼なじみ

３．学生時代の友人　　４．仕事での同僚・元同僚

５．趣味や関心が同じ友人　　６．ボランティア等の活動での友人

７．その他　　８．いない

問７　健康について

Ｑ１．現在のあなたの健康状態はいかがですか（１つのみ）

１．とてもよい　　２．まあよい　　３．あまりよくない　４．よくない

Ｑ２．あなたは、現在どの程度幸せですか
（「とても不幸」を０点、「とても幸せ」を 10 点として、ご記入ください）

とても不幸										とても幸せ
０点	１点	２点	３点	４点	５点	６点	７点	８点	９点	10 点

Ｑ３．この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか（１つのみ）

１．はい　　２．いいえ

Ｑ４．この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか（１つのみ）

１．はい　　２．いいえ

Ｑ５．お酒は飲みますか（１つのみ）

１．ほぼ毎日飲む　　２．時々飲む　　３．ほとんど飲まない

４．もともと飲まない

Ｑ６．タバコは吸っていますか（１つのみ）

１．ほぼ毎日吸っている　　２．時々吸っている　　３．吸っていたがやめた

４．もともと吸っていない

Ｑ７．現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（いくつでも）

１．ない　　２．高血圧

３．脳卒中（脳出血・脳梗塞等）　　４．心臓病

５．糖尿病　　６．高脂血症（脂質異常）

７．呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）　　８．胃腸・肝臓・胆のうの病気

９．腎臓・前立腺の病気　　10．筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）

11．外傷（転倒・骨折等）　　12．がん（悪性新生物）

13．血液・免疫の病気　　14．うつ病

15．認知症（アルツハイマー病等）　　16．パーキンソン病

17．目の病気　　18．耳の病気

19．その他（　　）

問８　認知症にかかる相談窓口の把握について

Ｑ１．認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか（１つのみ）

１．はい　　２．いいえ

Ｑ２．認知症に関する相談窓口を知っていますか（１つのみ）

１．はい　　２．いいえ

問９　成年後見制度※について

Ｑ１．成年後見制度を知っていますか（１つのみ）

１．内容をよく知っている　　２．だいたいの内容は知っている

３．名前は知っているが内容は知らない　　４．まったく知らない

Ｑ２．あなたが認知症などによって物事を判断する能力が十分でなくなった場合に、成年後見制度を利用したいと思いますか（１つのみ）

１．利用したい（既に利用している）　　２．利用したくない　　３．わからない

※成年後見制度とは、認知症、知的障害、精神障害などによって物事を判断する能力が十分でない方について、家庭裁判所によって選ばれた成年後見人等が、本人の意思を尊重し、かつ本人の心身の状態や生活状況に配慮しながら、本人に代わって財産の管理や必要な契約を行い、本人の権利を守り生活を支援する制度です。

以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。
調査票を３つ折りにして、同封の返信用封筒に入れて、
令和元年１２月２０日（金）までに投函（切手不要）してください。

水戸市
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
【結果報告書】

令和２年３月

発　行：水戸市
〒310-8610　茨城県水戸市中央１丁目４番１号
電話：029-224-1111（代表）
編　集：水戸市　保健福祉部　高齢福祉課

第３回水戸市社会福祉審議会
高齢福祉専門分科会資料①－２
令 和 ２ 年 １０ 月 ２２ 日
水戸市高齢福祉課・介護保険課

在宅介護実態調査の集計結果

～第８期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和２年３月

＜水戸市＞

調査概要

（１）調査目的

本市では，令和２年度に策定する水戸市第８期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定において，「介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要か」といった観点を盛り込むため，「高齢者の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討することを目的として，「在宅介護実態調査」を実施した。

（２）調査概要

① 調査票

国が示した調査票を使用

② 対象者

在宅で生活をしている要支援・要介護認定を受けている方のうち，更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受けた方　660 人

③ 調査方法

対象者を担当する居宅介護支援事業所（主任ケアマネジャーが勤務し，特定事業所加算を算定している事業所）に，配布・回収を依頼した。

④ 調査期間

令和元年９月２日（月）　～　令和元年 10 月 31 日（木）

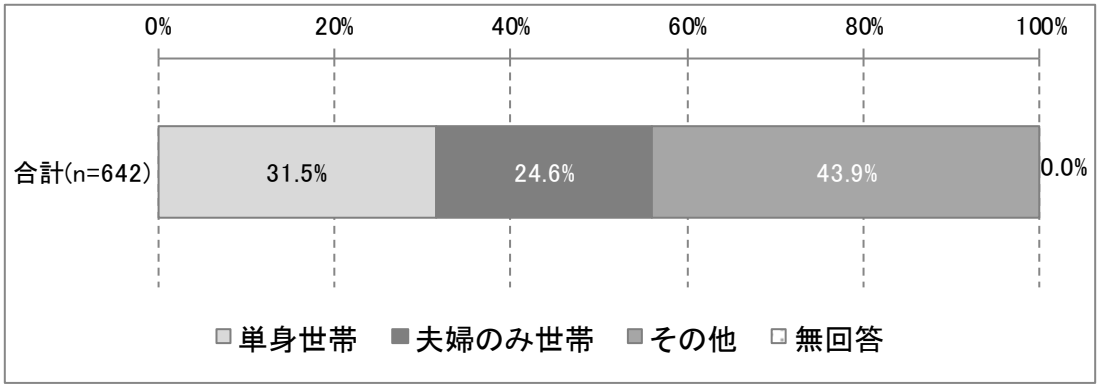
（３）対象者・回答者数

対象者数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
660	642	97.3%

1　基本調査項目（Ａ票）

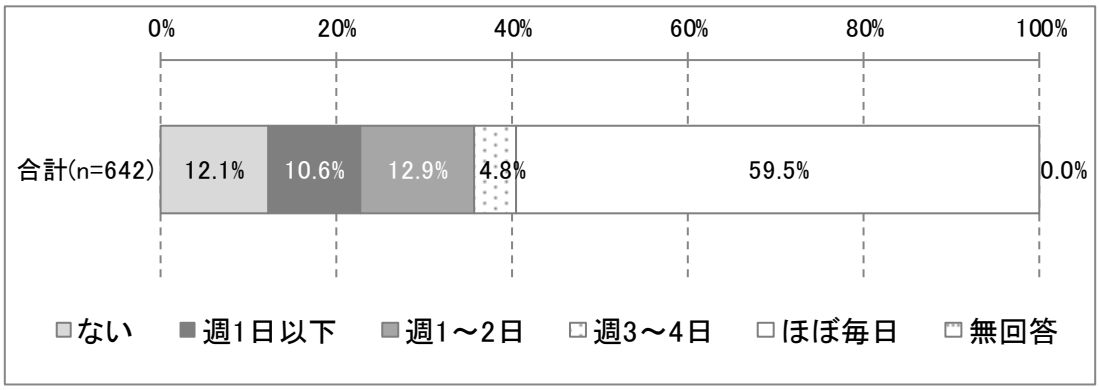
世帯類型

図表 1-1　世帯類型（単数回答）



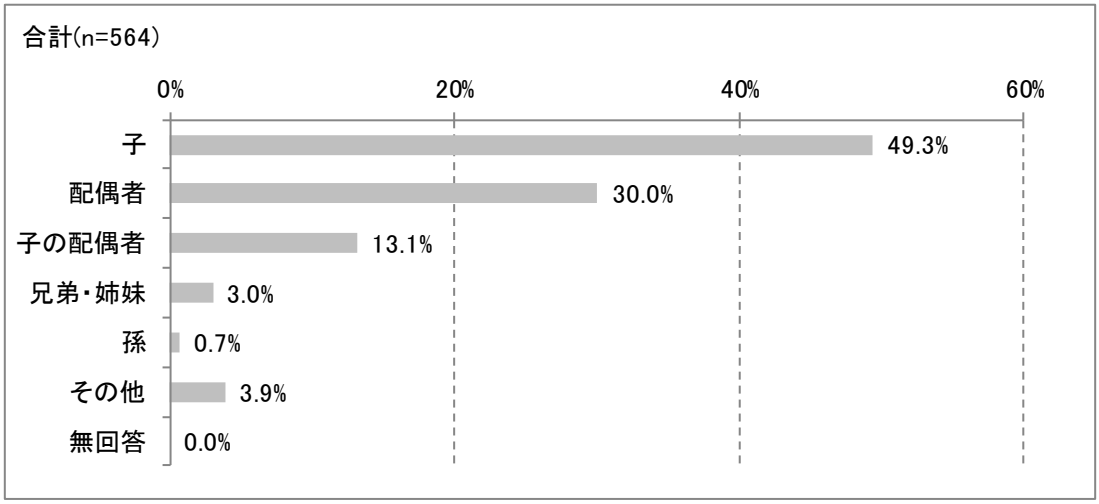
家族等による介護の頻度

図表 1-2　家族等による介護の頻度（単数回答）



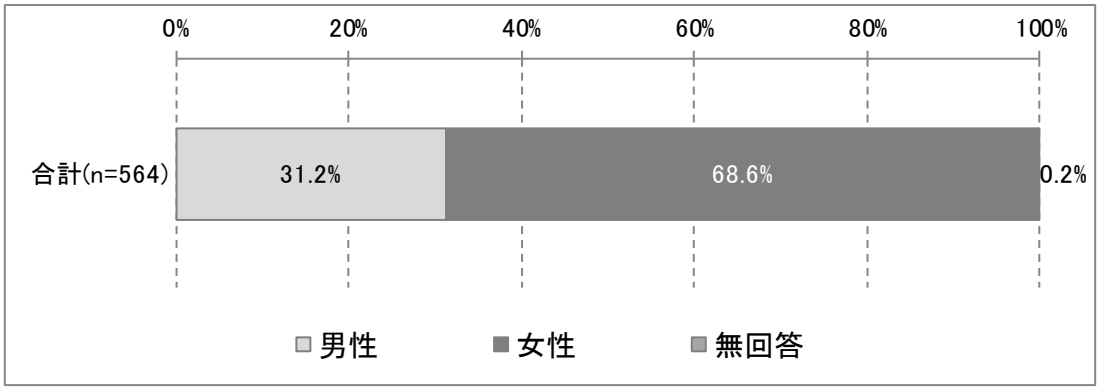
主な介護者の本人との関係

図表 1-3　主な介護者の本人との関係（単数回答）



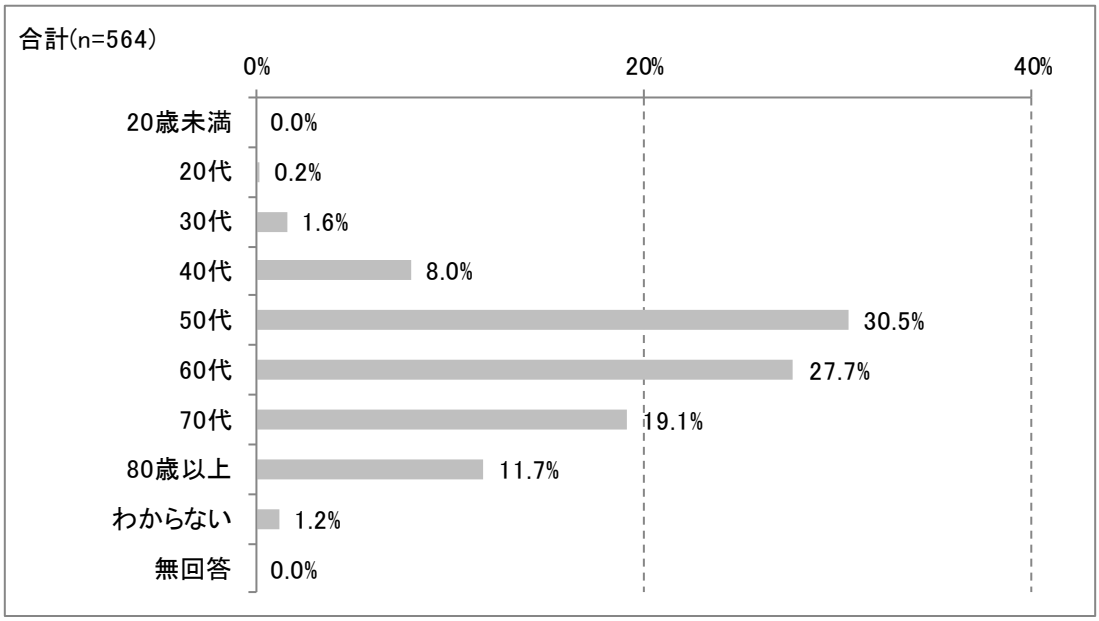
主な介護者の性別

図表 1-4　主な介護者の性別（単数回答）



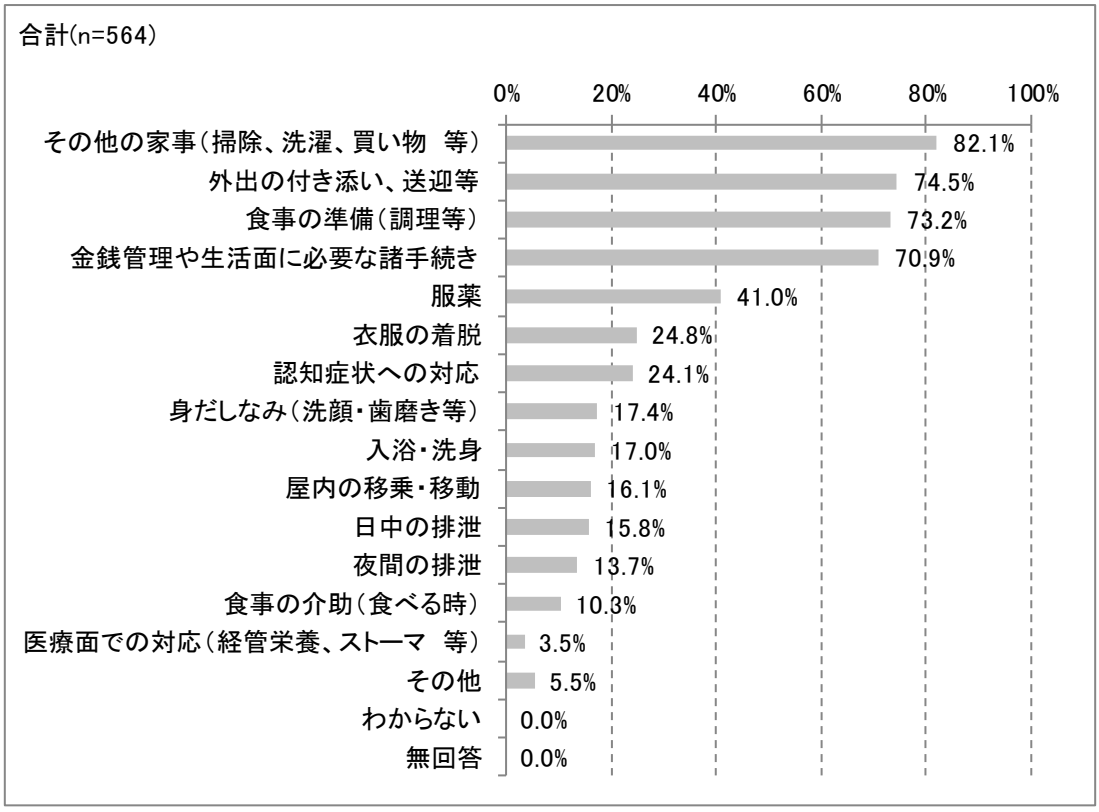
主な介護者の年齢

図表 1-5　主な介護者の年齢（単数回答）



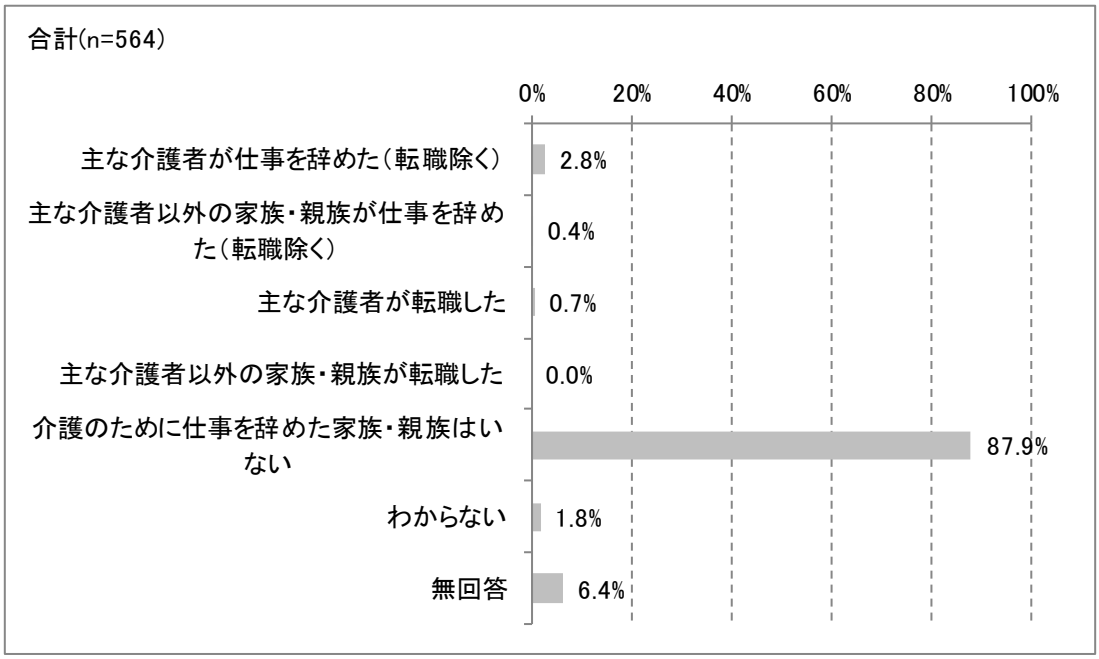
主な介護者が行っている介護

図表 1-6　主な介護者が行っている介護（複数回答）



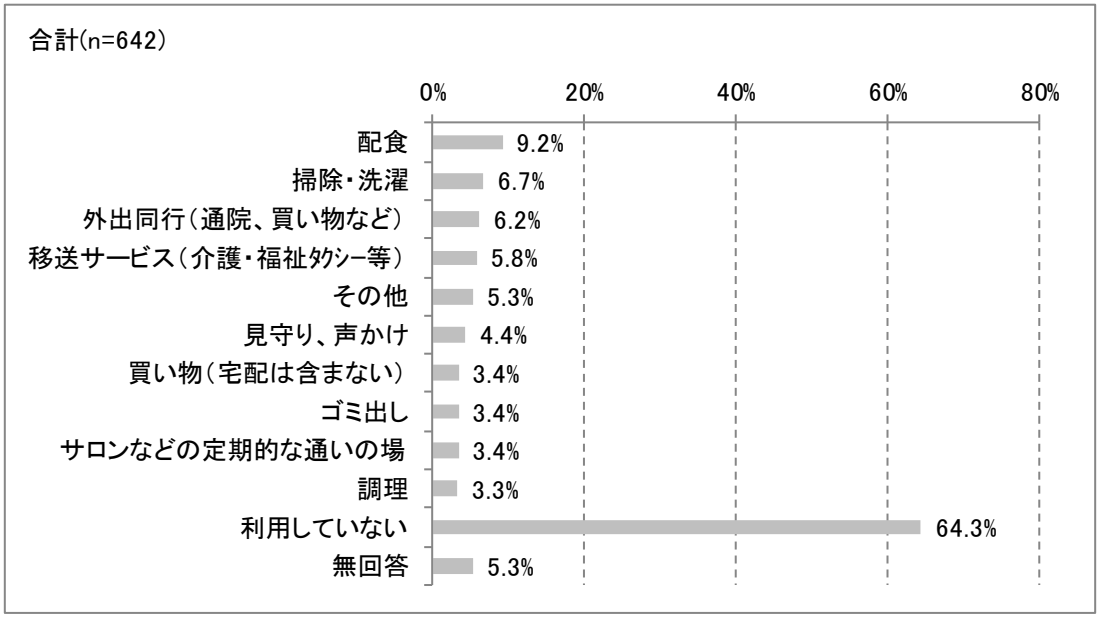
介護のための離職の有無

図表 1-7　介護のための離職の有無（複数回答）



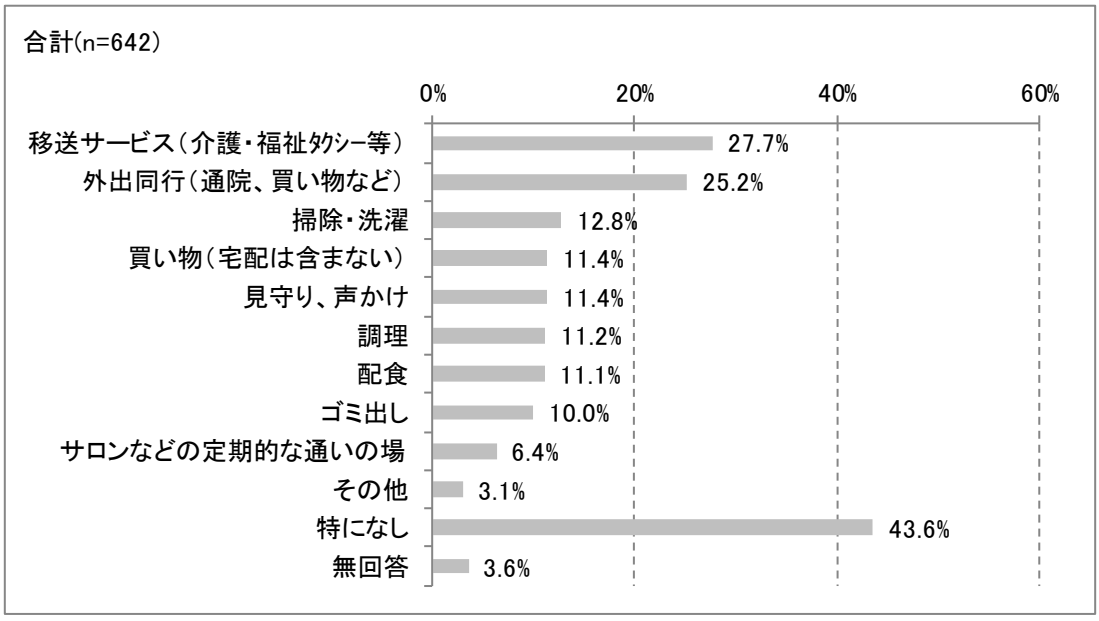
保険外の支援・サービスの利用状況

図表 1-8　保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



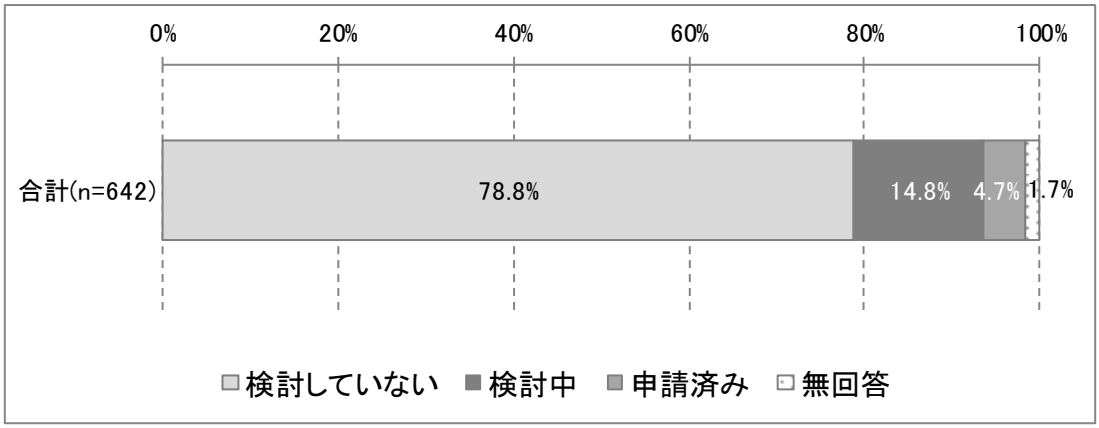
在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

図表 1-9　在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



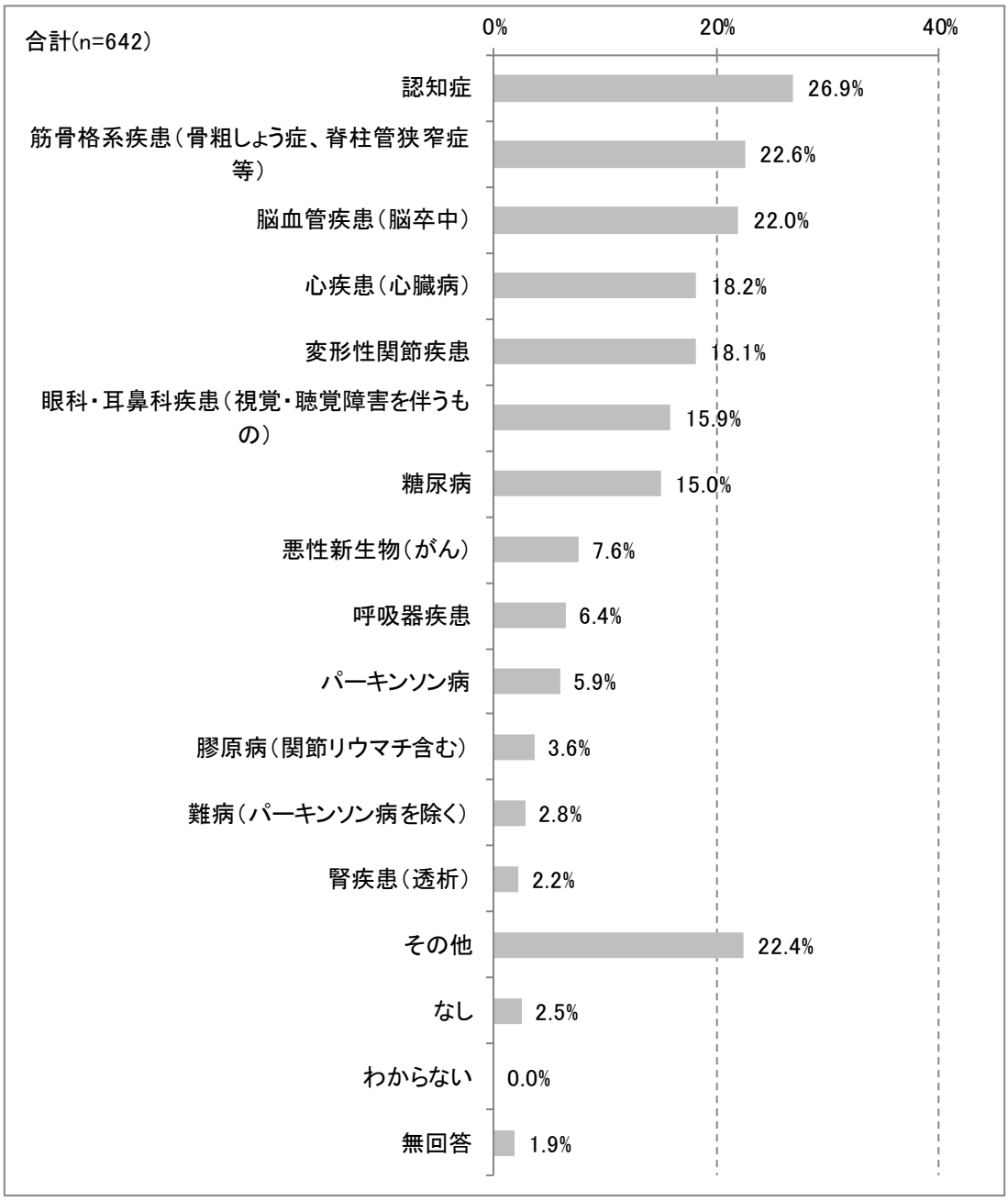
施設等検討の状況

図表 1-10　施設等検討の状況（単数回答）



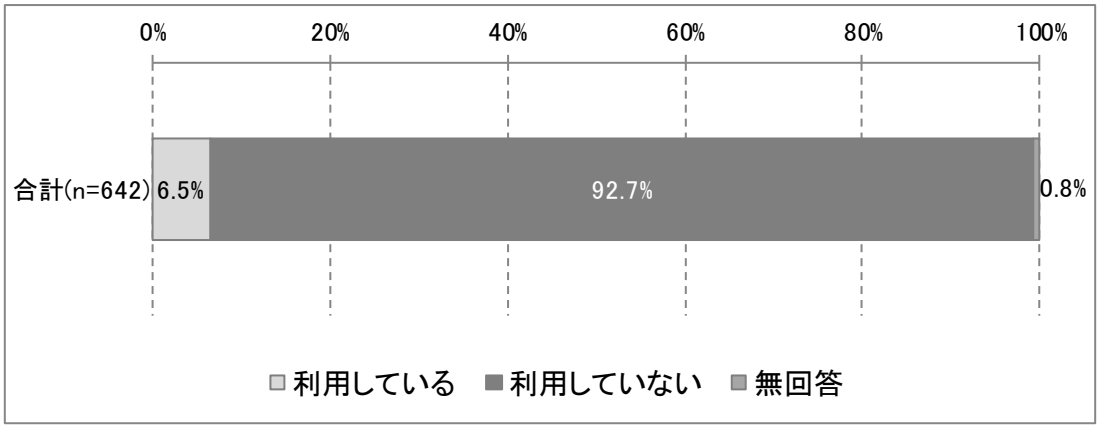
本人が抱えている傷病

図表 1-11　本人が抱えている傷病（複数回答）



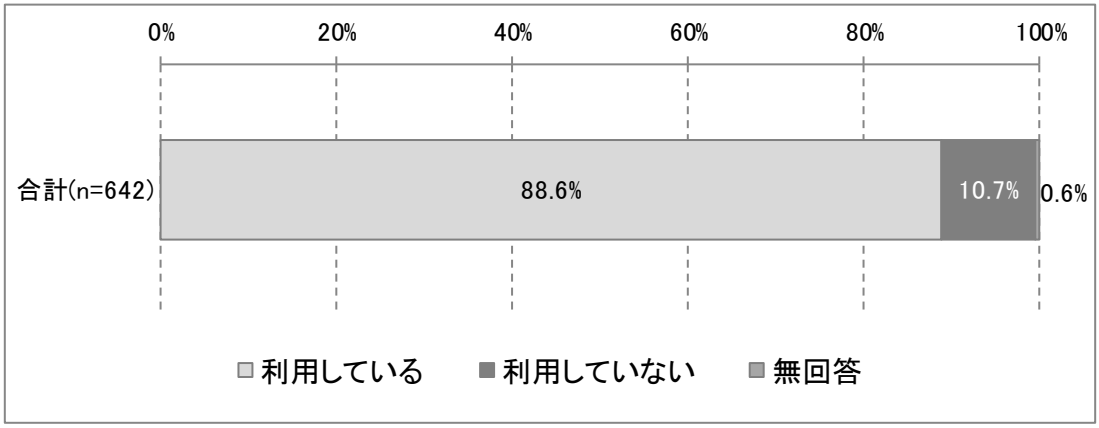
訪問診療の利用の有無

図表 1-12 訪問診療の利用の有無（単数回答）



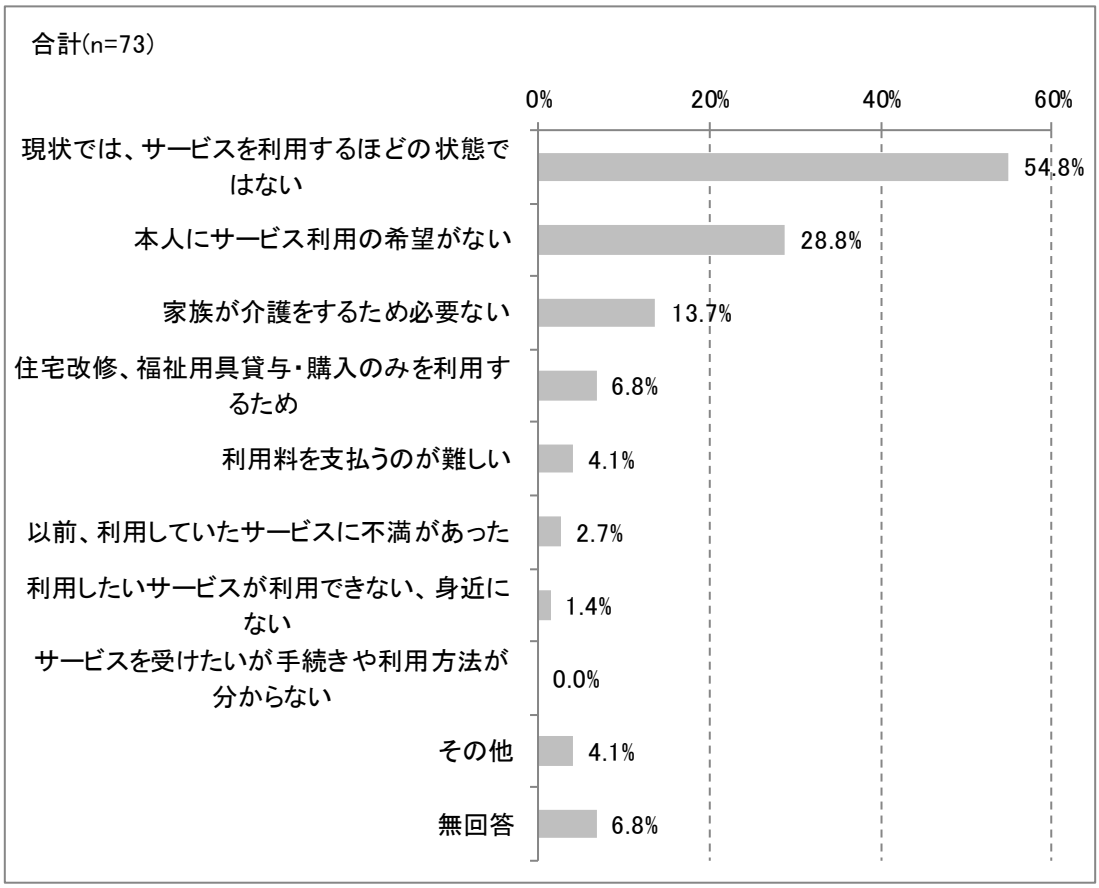
介護保険サービスの利用の有無

図表 1-13　介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



介護保険サービス未利用の理由

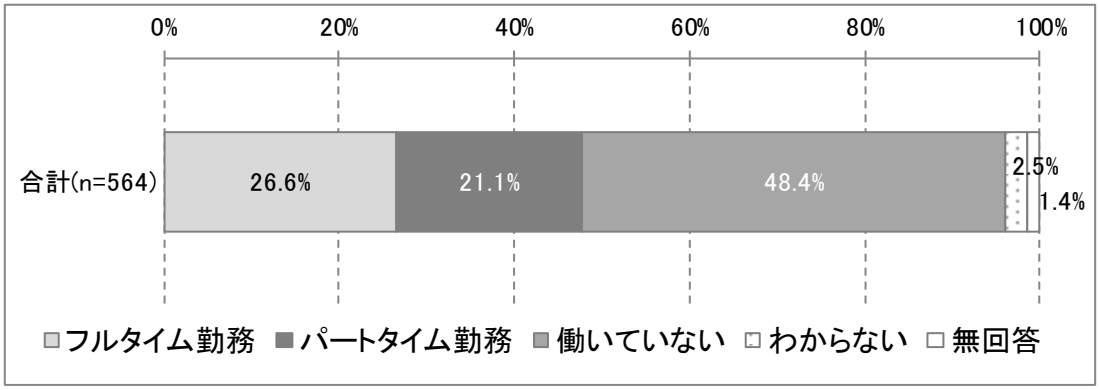
図表 1-14　介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）



2　主な介護者用の調査項目（Ｂ票）

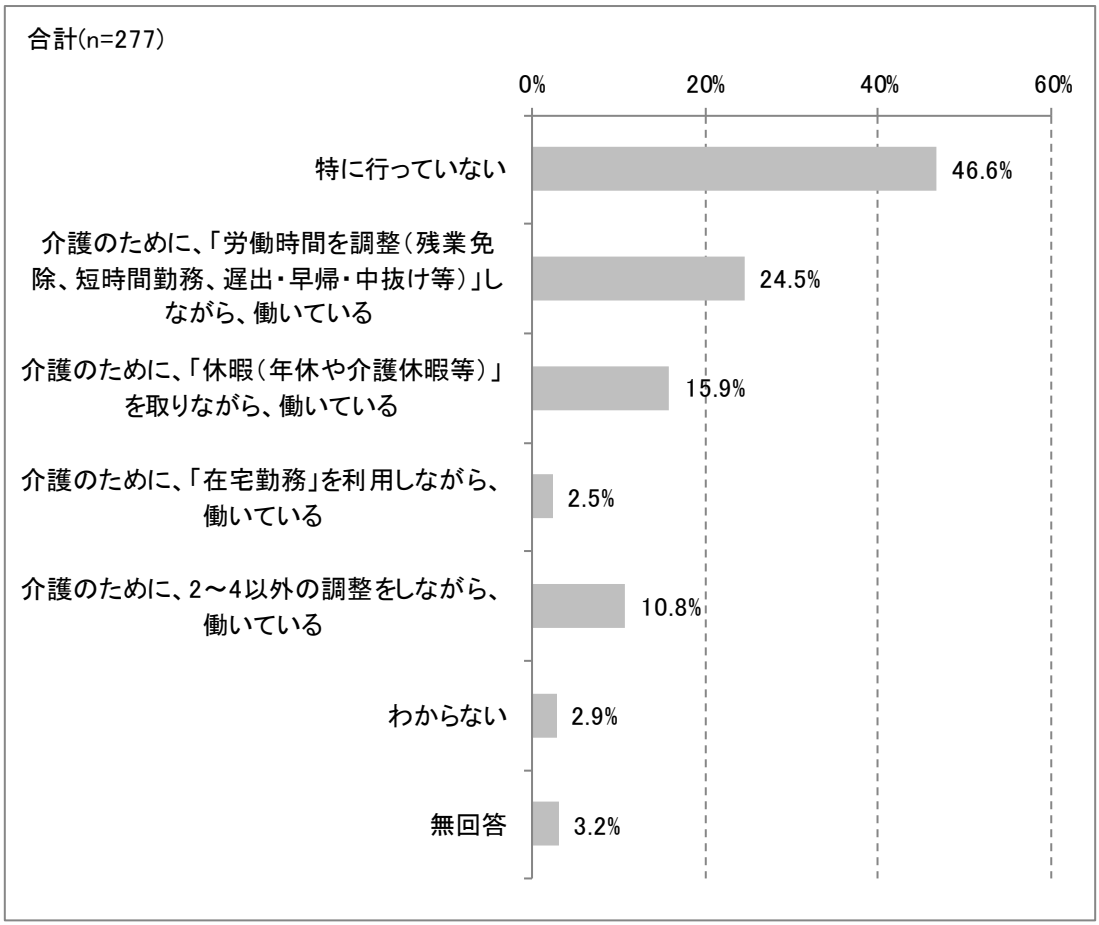
主な介護者の勤務形態

図表 2-1　主な介護者の勤務形態（単数回答）



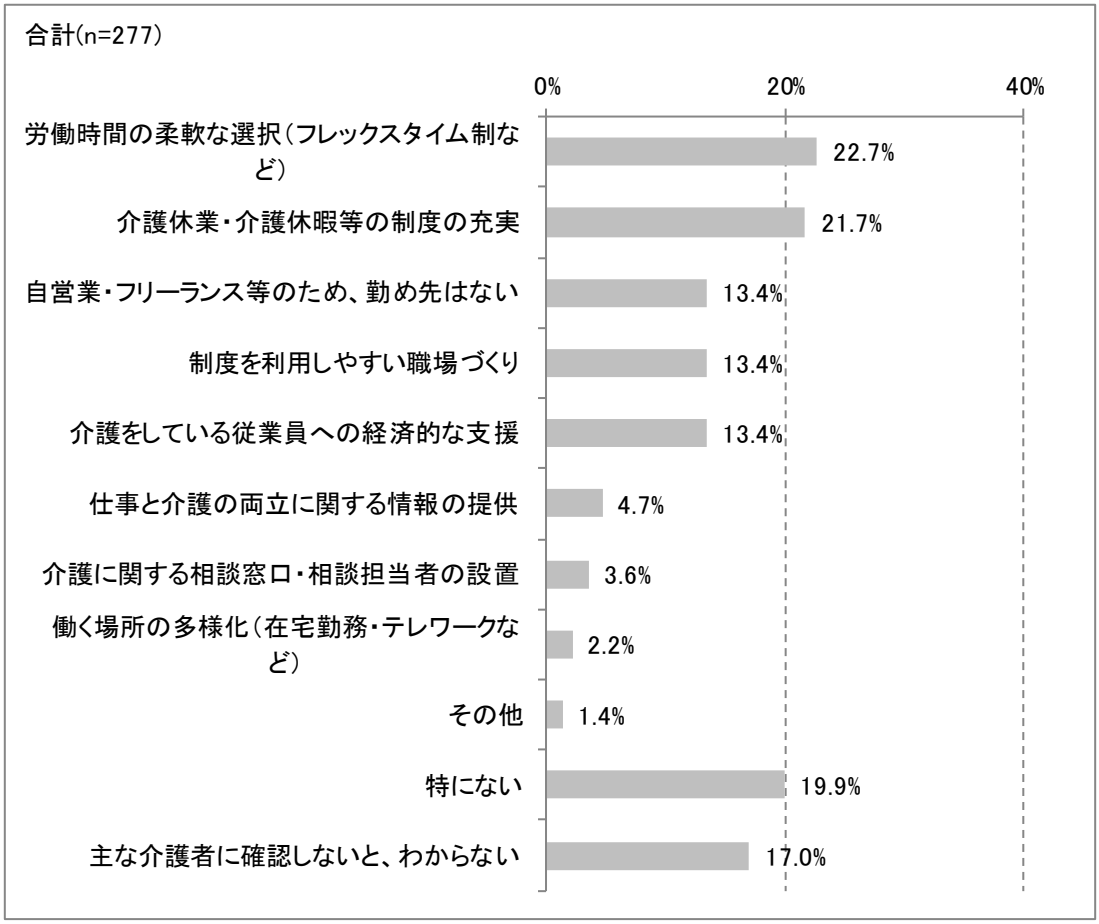
主な介護者の方の働き方の調整の状況

図表 2-2　主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



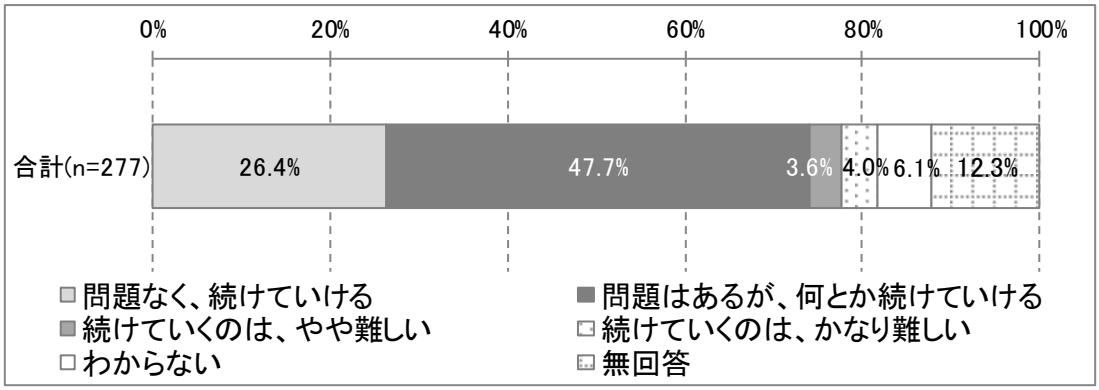
就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

図表 2-3　就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



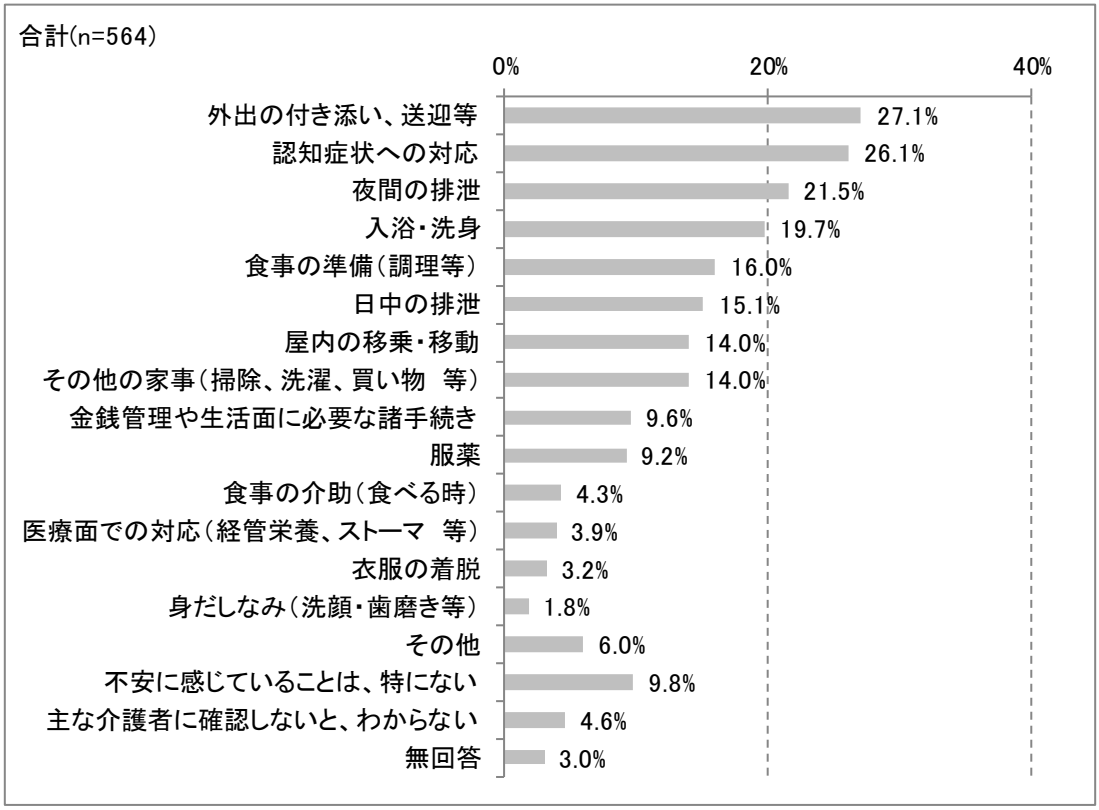
主な介護者の就労継続の可否に係る意識

図表 2-4　主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

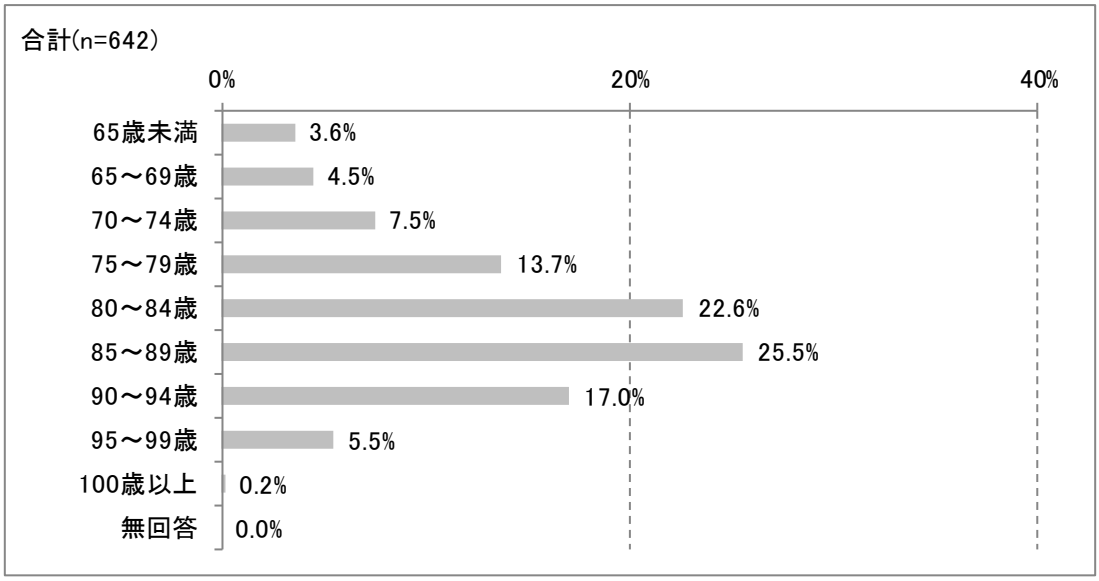
図表 2-5　今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）



3　要介護認定データ

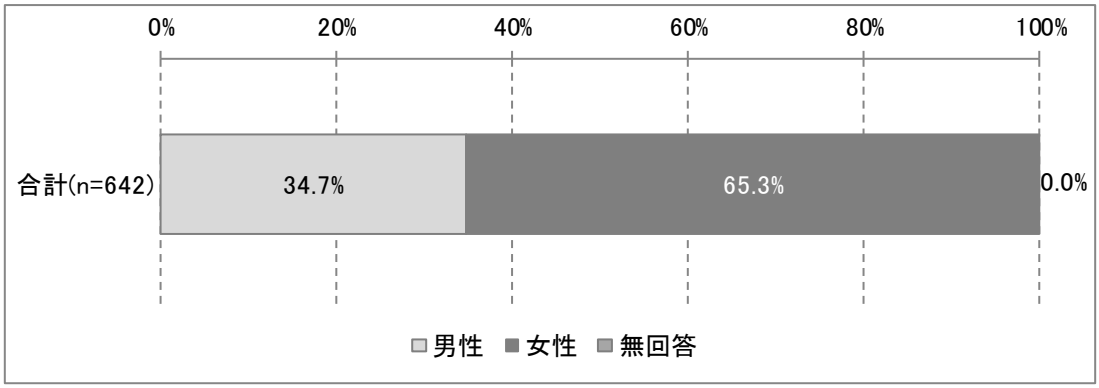
年齢

図表 3-1　年齢



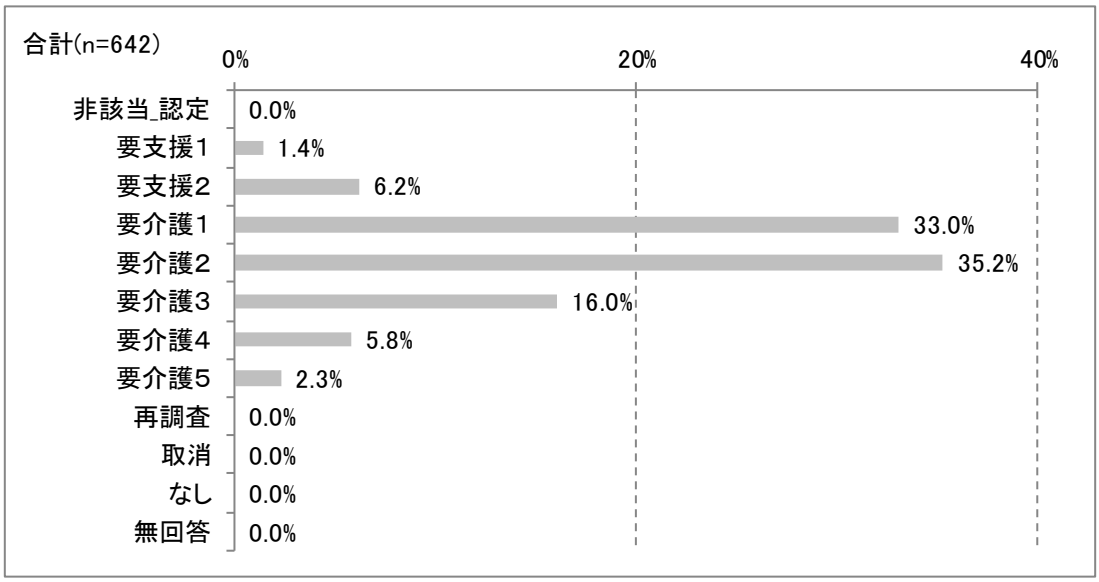
性別

図表 3-2　性別



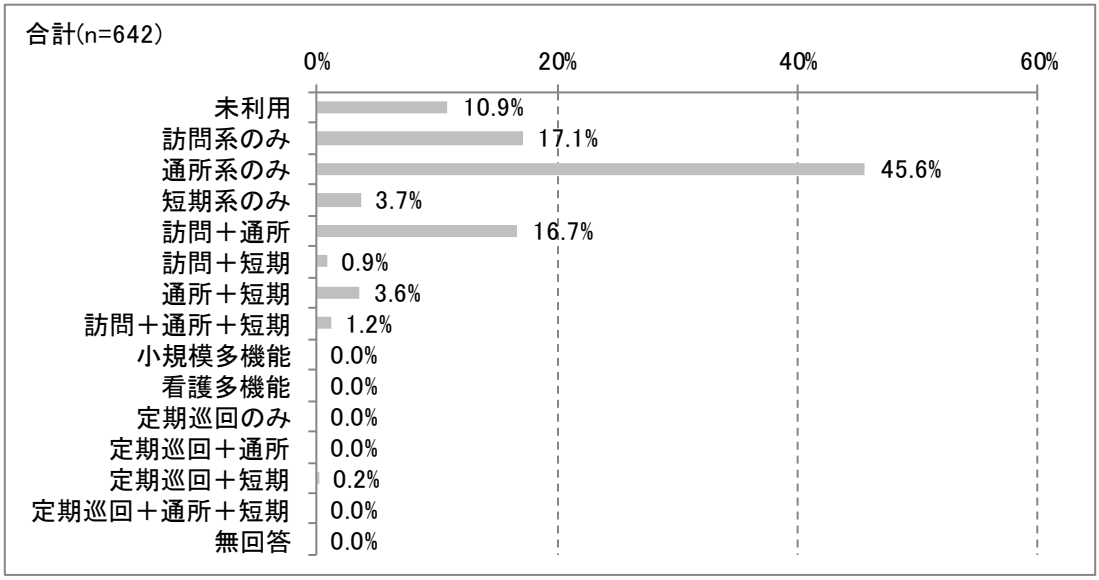
二次判定結果（要介護度）

図表 3-3　二次判定結果



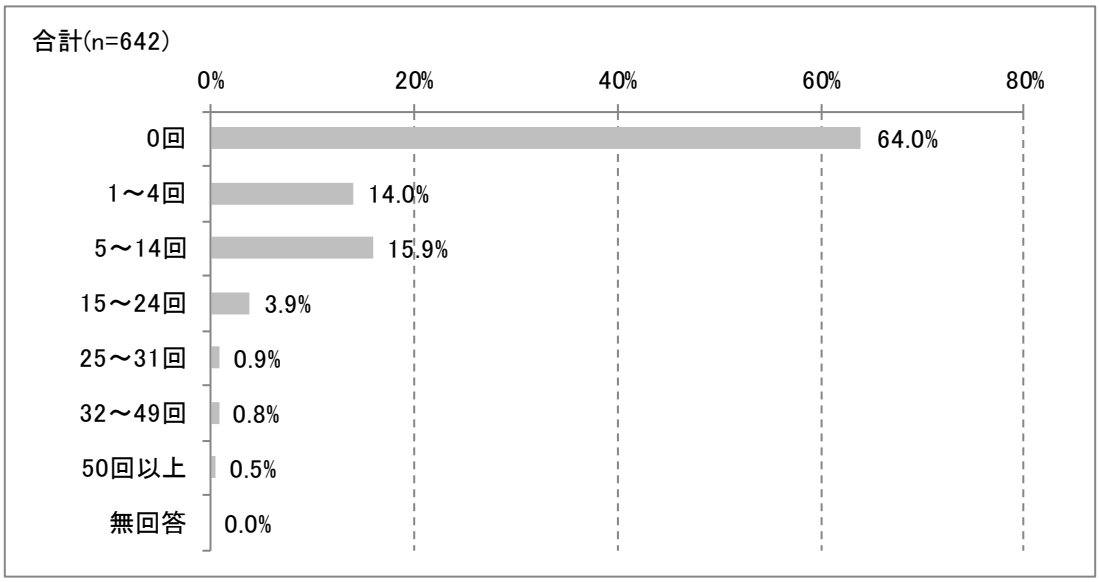
サービス利用の組み合わせ

図表 3-4　サービス利用の組み合わせ



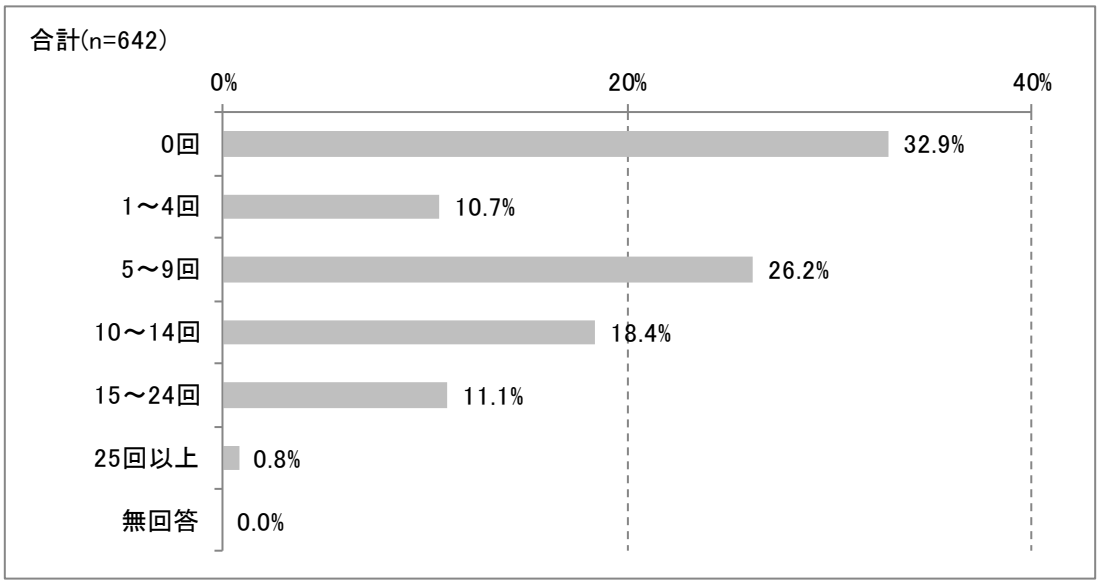
訪問系サービスの合計利用回数

図表 3-5　サービスの利用回数（訪問系）



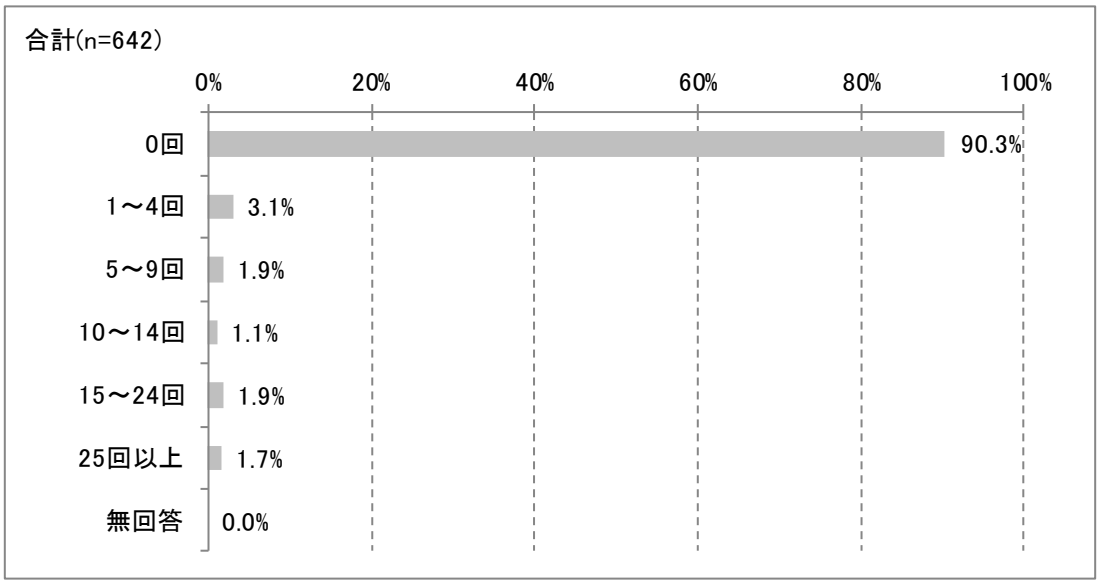
通所系サービスの合計利用回数

図表 3-6　サービスの利用回数（通所系）



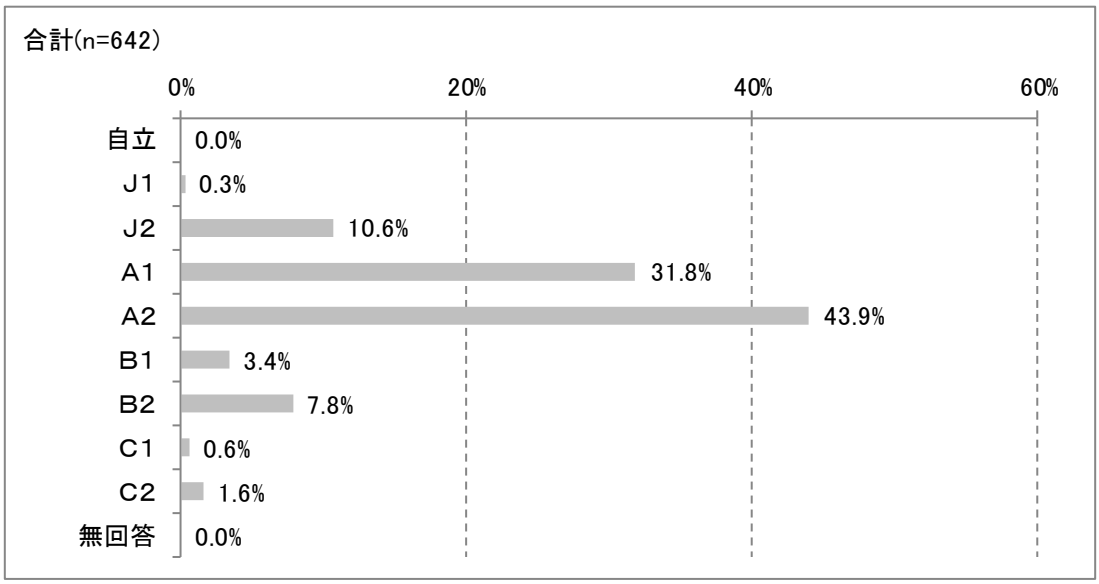
短期系サービスの合計利用回数

図表 3-7　サービスの利用回数（短期系）



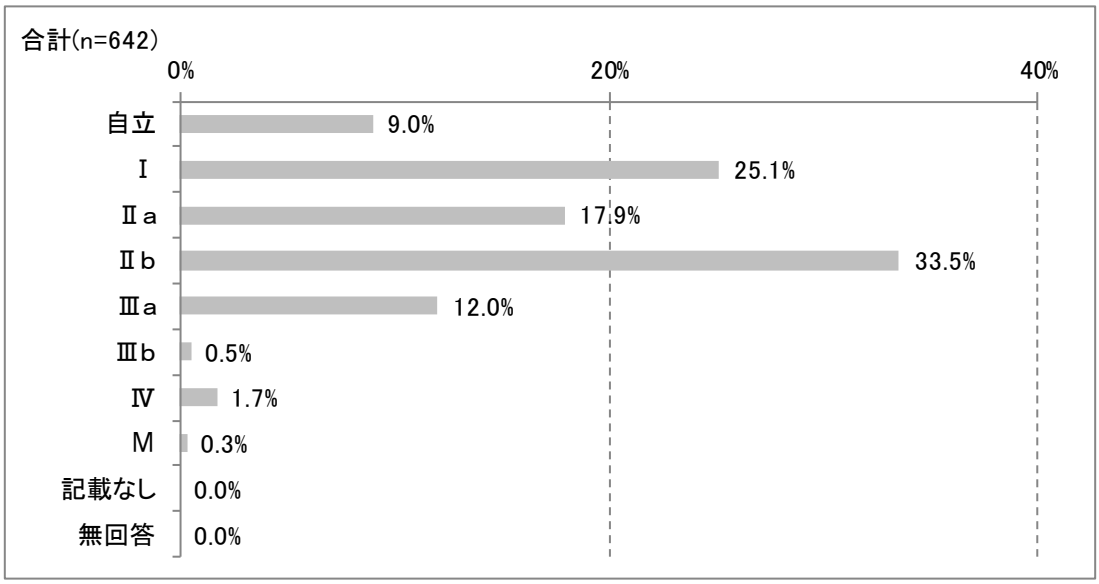
障害高齢者の日常生活自立度

図表 3-8　障害高齢者の日常生活自立度



認知症高齢者の日常生活自立度

図表 3-9　認知症高齢者の日常生活自立度



P15 障害高齢者の日常生活自立度

生活自立	ランクJ	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する 1．交通機関等を利用して外出する 2．隣近所へなら外出する
準寝たきり	ランクA	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1．介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2．外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランクB	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ 1．車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2．介助により車いすに移乗する
	ランクC	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1．自力で寝返りをうつ 2．自力では寝返りもうてない

※判定に当たっては、補装具や自助具等の器具を使用した状態であっても差し支えない。

P16 認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判断基準	見られる症状・行動の例
Ⅰ	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
Ⅱ	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
Ⅱａ	家庭外で上記Ⅱの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
Ⅱｂ	家庭内でも上記Ⅱの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の応対や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
Ⅲ	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	
Ⅲａ	日中を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。 やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
Ⅲｂ	夜間を中心として上記Ⅲの状態が見られる。	ランクⅢaに同じ
Ⅳ	日常生活に支障を来たすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクⅢに同じ
Ｍ	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷、他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

出典 『介護認定審査会委員テキスト 2009』(厚生労働省)

第３回水戸市社会福祉審議会
高齢福祉専門分科会資料①－３
令和２年１０月２２日
水戸市高齢福祉課・介護保険課

令和元年度
水戸市介護人材の確保に関する事業所実態調査
結果報告書

水　戸　市

調査概要

１ 調査目的

この調査は，本市の介護保険サービス事業所の介護人材の雇用状況等を調査することにより，今後，水戸市が介護人材の確保のための環境整備に係る施策を推進するための基礎資料とすることを目的とする。

２ 調査対象及び件数

市内介護保険サービス事業所等（特定福祉用具購入・販売事業所を除く。）

430 事業所

３ 調査内容

事業所の介護人材の確保に関する設問 20 問

４ 調査基準日

令和元年８月１日（木）

５ 調査期間

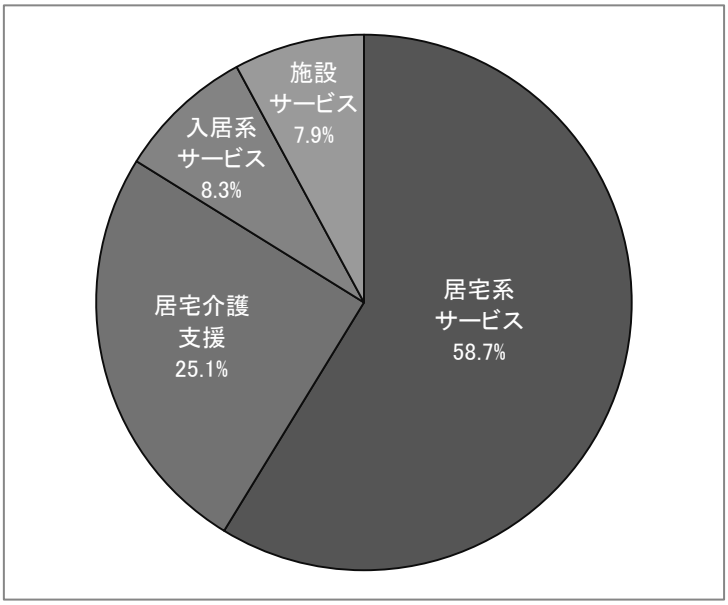
令和元年８月１日（木）から令和元年８月 23 日（金）

６ 調査票の回収状況

回収事業所 351 事業所 ／ 対象事業所 430 事業所 （回収率 81.6%）

事業所が提供するサービスの種類

問1　貴事業所(あなたが従事する事業所のこと。以下同じ。)が提供するサービスは，次のうち，どのサービスですか。当てはまる数字に○をご記入ください(回答は1つのみ)



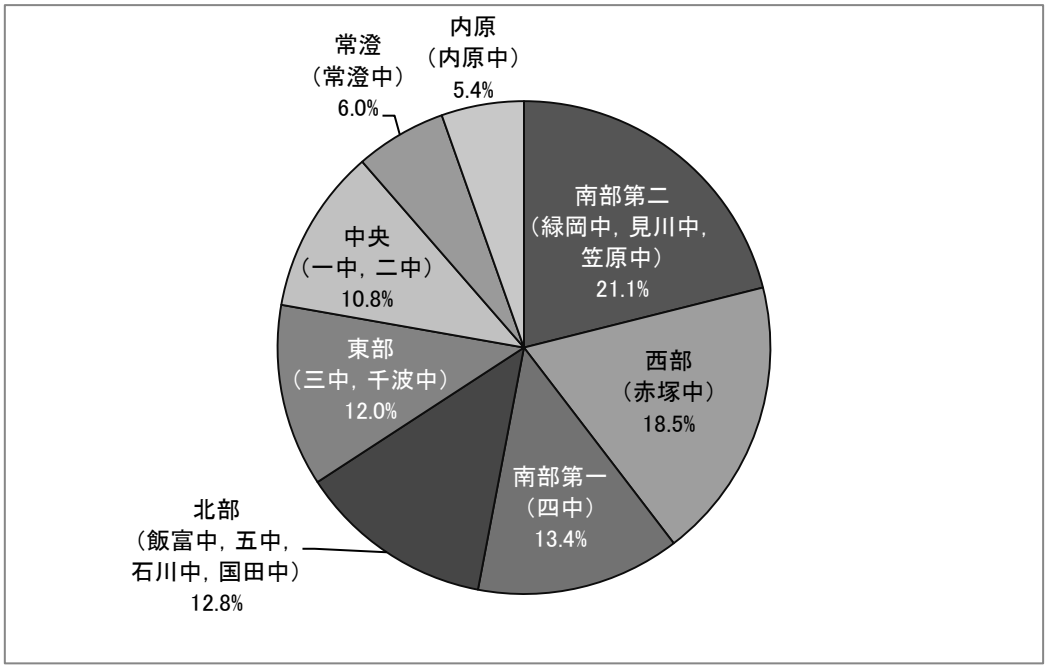
サービス種類		件数	構成割合
居宅系サービス	地域密着型通所介護	54	15.4%
	通所介護(デイサービス)	49	14.0%
	訪問介護	47	13.4%
	訪問看護	22	6.3%
	訪問リハビリテーション	8	2.3%
	通所リハビリテーション(デイケア)	5	1.4%
	短期入所者生活介護(介護老人福祉施設が提供するものを除く)	5	1.4%
	小規模多機能型居宅介護	5	1.4%
	訪問入浴介護	3	0.8%
	認知症対応型通所介護	3	0.8%
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	0.6%
	看護小規模多機能型居宅介護	2	0.6%
	夜間対応型訪問介護	1	0.3%
居宅介護支援		88	25.1%
入居系サービス	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	20	5.7%
	特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム等)	9	2.6%
施設サービス	介護老人福祉施設(短期入所及び地域密着型サービスを含む)	18	5.1%
	介護老人保健施設(短期入所を含む)	10	2.8%
合計		351	100.0%

事業所が所在する日常生活圏域

問2　貴事業所が所在する日常生活圏域は，次のどの圏域ですか。当てはまる数字に〇をご記入ください。なお，カッコ内に各日常生活圏域に該当する中学校区を表示しています。

【コメント】

本市では，高齢者が住み慣れた地域で可能な限り自立し，健やかに安心して生活できるための基盤として，中学校区をもとに，市内に8つの「日常生活圏域」を設定しています。また，日常生活圏域ごとに高齢者の相談窓口である高齢者支援センター（地域包括支援センター）を設置しています。



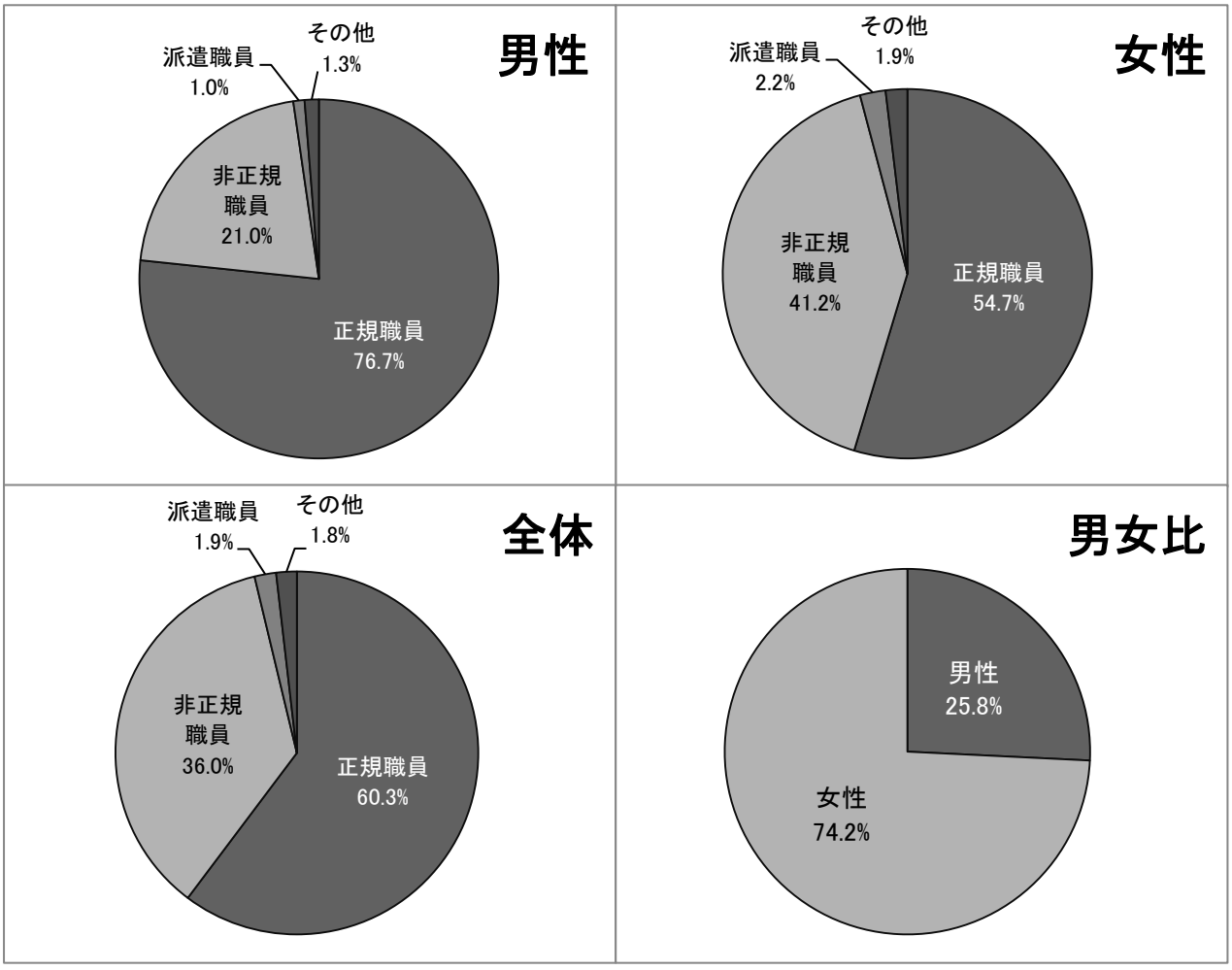
日常生活圏域（中学校区）	件数	構成割合
南部第二（緑岡中，見川中，笠原中）	74	21.1%
西部（赤塚中）	65	18.5%
南部第一（四中）	47	13.4%
北部（飯富中，五中，石川中，国田中）	45	12.8%
東部（三中，千波中）	42	12.0%
中央（一中，二中）	38	10.8%
常澄（常澄中）	21	6.0%
内原（内原中）	19	5.4%
合計	351	100.0%

職員の性別等

問3　貴事業所にて従事する方（事務職員を含む。）は男女それぞれ何人ですか。あてはまる分類ごとに人数をご記入ください。なお，1カ月以上の療休，育休・産休，介護休暇等のため，実際に従事していない方及びボランティアの人数は含めないでください。（問3，4，5ごとの合計人数は一致させてください。）（8月1日現在）

【コメント】

職員の男女比では，女性が全体の約4分の3を占めています。また，正職員は，全体の約6割となっていますが，男性の約8割が正規職員であるのに対して，女性の正規職員は，6割に至らず，さらに，非正規職員の割合が約4割と，男性の約2倍となっています。



	正規職員	非正規職員	派遣職員	その他	計
男性	1,140	313	15	19	1,487
女性	2,341	1,765	96	81	4,283
合計	3,481	2,078	111	100	5,770

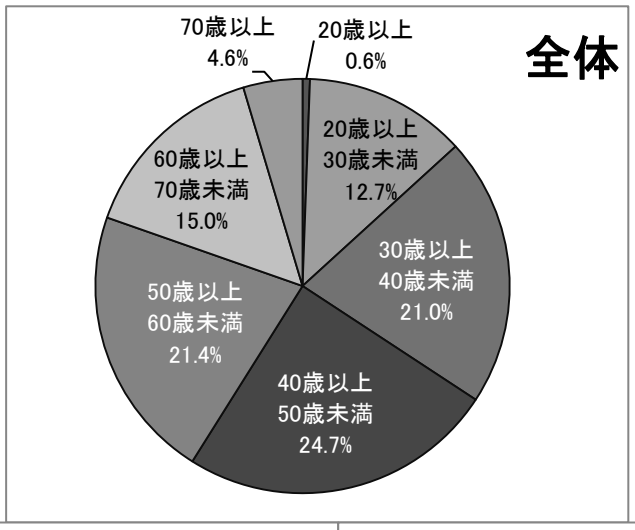
職員の年齢層等

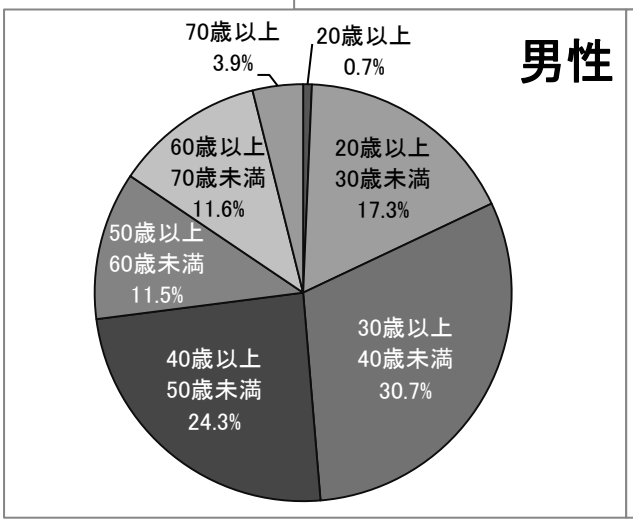
問4　貴事業所にて従事する方（事務職員を含む。）は，男女それぞれ何人ですか。あてはまる分類ごとに人数をご記入ください。なお，1カ月以上の療休，産休・育休，介護休暇等のため，実際に従事していない方及びボランティアの人数は含めないでください。（問3，4，5ごとの合計人数は一致させてください。）（8月1日現在）

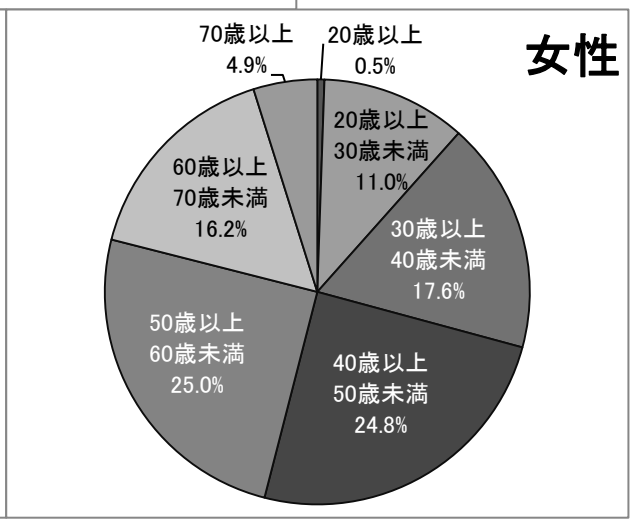
【コメント】

全体で見ると，40 歳台が最も多くなっていますが，各年齢層で概ね均衡した構成となっています。また，60 歳以上が占める割合は，約2割となっています。

次に，男女別で見ると，男性が 40 歳未満の比較的若い年齢層の割合が高く（全体の約半数），女性は男性よりも高年齢層の割合が高くなっています。







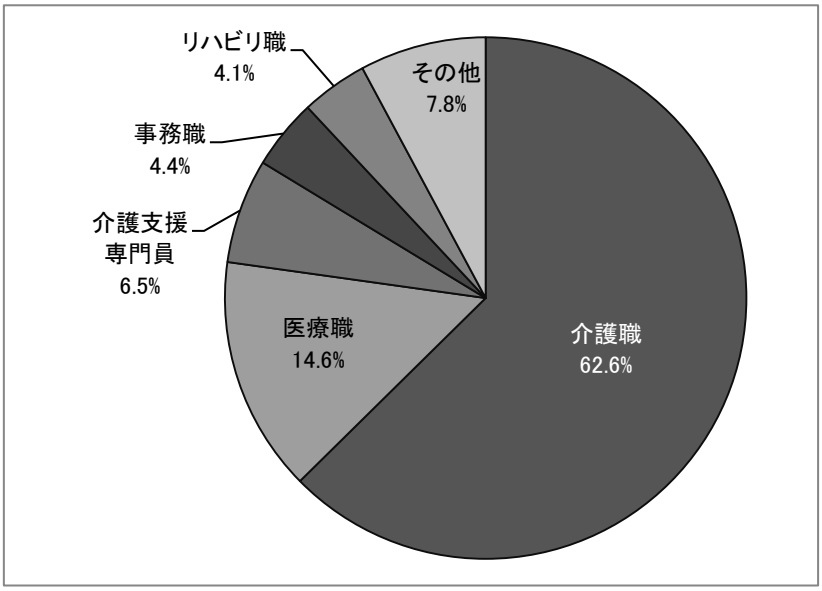
	20歳以上	20歳以上 30歳未満	30歳以上 40歳未満	40歳以上 50歳未満	50歳以上 60歳未満	60歳以上 70歳未満	70歳以上	合計
男性	10	257	456	361	172	173	58	1,487
女性	23	473	755	1,062	1,069	693	208	4,283
合計	33	730	1,211	1,423	1,241	866	266	5,770

職員の種類

問5　貴事業所にて従事する専門職（事務職員を含む。）はそれぞれ何人ですか。当てはまる資格ごとに人数をご記入ください。なお，1か月以上の療休，産休・育休，介護休暇等のため，実際に従事していない方及びボランティアの人数は，含めないでください。（複数の専門職をお持ちの方は，雇用の際，最も求められている資格をお選びください。）（問3，4，5ごとの合計人数は一致させてください。）（8月1日現在）

【コメント】

介護職の占める割合が 62.6%と最も高くなっています。また，事務職の占める割合も 4.4%となっています。



職種	人数	構成割合
介護職	3,613	62.6%
医療職（医師，看護師，准看護師，歯科医師，保健師）	842	14.6%
介護支援専門員	374	6.5%
事務職	251	4.4%
リハビリ職（理学療法士，作業療法士，言語聴覚士）	238	4.1%
その他（社会福祉主事，管理栄養士，あん摩マッサージ師，運転手等）	452	7.8%
合計	5,770	100.0%

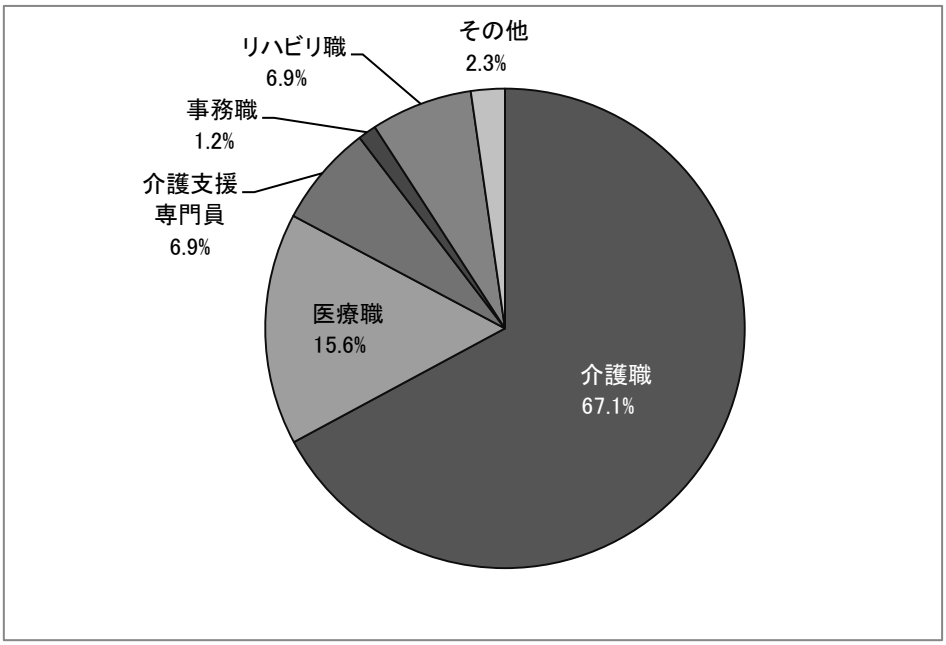
職員の募集状況

問6　貴事業所では，現在，職員の募集をしていますか。募集をしている場合は，当てはまる資格ごとに人数をご記入ください。（募集人数1人当たり，必ず1つの最も求められる資格をお選びください。なお，募集をしていない場合は，「募集をしていない」の欄に〇をお書きください。）（8月1日現在）

【コメント】

介護職の占める割合が 67.1%と，最も高くなっています。また，募集に関しては，事務職の割合は，1.2%とほかの職種に比べて低くなっています。

	事業所数	構成割合
募集をしている	189	53.8%
募集をしていない	162	46.2%
合計	351	100.0%



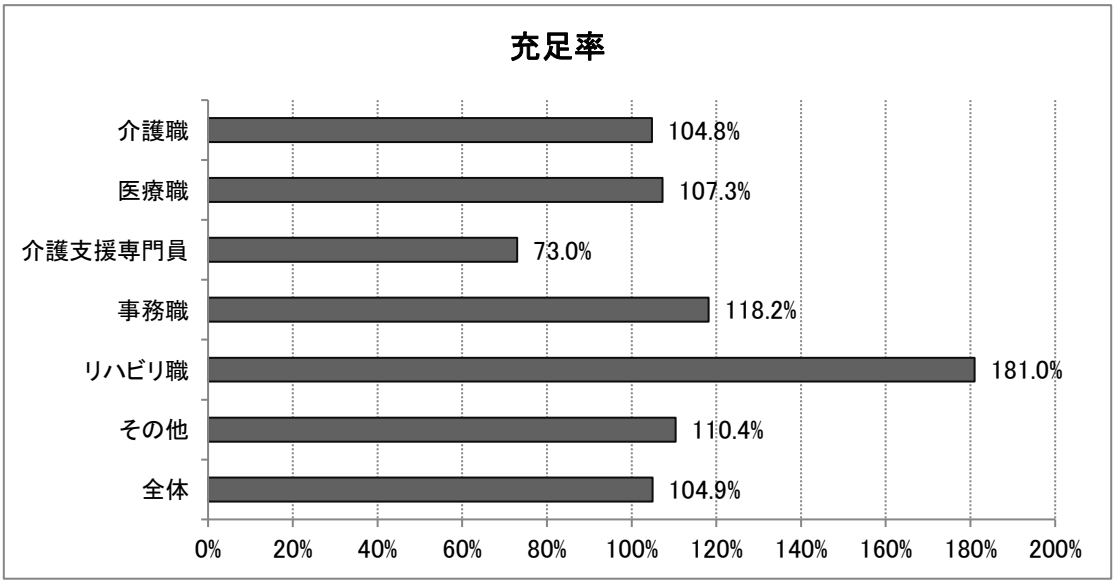
職種	人数	構成割合
介護職	382	67.1%
医療職（医師，看護師，准看護師，歯科医師，保健師）	89	15.6%
介護支援専門員	39	6.9%
事務職	7	1.2%
リハビリ職（理学療法士，作業療法士，言語聴覚士）	39	6.9%
その他（社会福祉主事，管理栄養士，あん摩マッサージ師，運転手等）	13	2.3%
合計	569	100.0%

職員の離職及び雇用の状況

問7　貴事業所では，昨年度（平成 30 年度）に離職（定年退職を含む。）した職員は何人いましたか。同じく，新たに雇用（新規採用のみで，社内異動による補充を含まない。）した職員は何人いましたか。あてはまる資格ごとに人数をご記入ください。（複数の資格をお持ちの方は，最も求められる資格をお選びください。また，派遣社員の人数は含めないでください。）

【コメント】

平成 30 年度においては，離職した者に対する雇用した者の割合（雇用/離職）を比べると，全体で104.9%の充足率ですが，介護支援専門員は 73.0%と特に低くなっています。反対に，リハビリ職は，181.0%とほかの職種よりも高い割合を示しています。



充足率＝雇用数/離職数

充足率 100%は離職した人数と雇用した人数が同数

職種	離職（A）	雇用（B）	充足率（B/A）
介護職	545	571	104.8%
医療職（医師，看護師，准看護師，歯科医師，保健師）	123	132	107.3%
介護支援専門員	74	54	73.0%
事務職	22	26	118.2%
リハビリ職（理学療法士，作業療法士，言語聴覚士）	21	38	181.0%
その他（社会福祉主事，管理栄養士，あん摩マッサージ師，運転手等）	48	53	110.4%
合計	833	874	104.9%

職員の離職理由

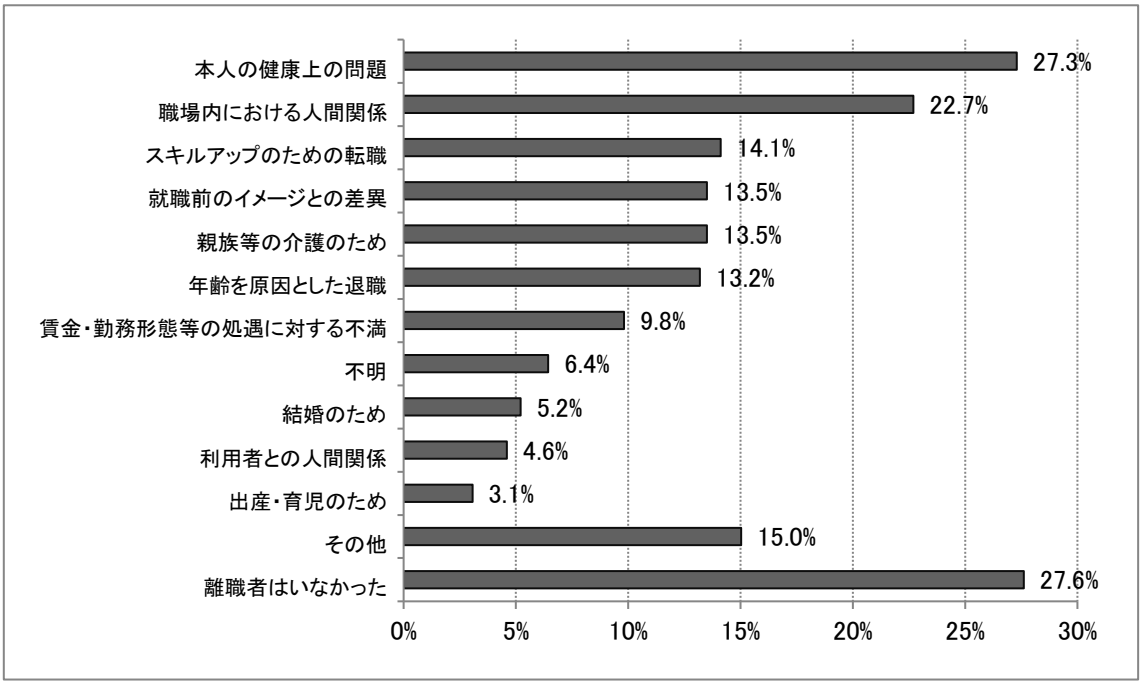
問8　貴事業所において，昨年度に離職した職員の，離職理由は主に何でしたか。（回答はあてはまるもの全て）

【コメント】

グラフは，回答があった事業所のうち，回答のあった項目の割合を示しています。

職員の離職理由は「本人の健康上の問題」「職場内における人間関係」が多くなっていますが，「スキルアップのための転職」というポジティブな場合も，次いで多くなっています。

回答事業所	326
未回答事業所	25



※回答率（%）＝回答件数/事業所数

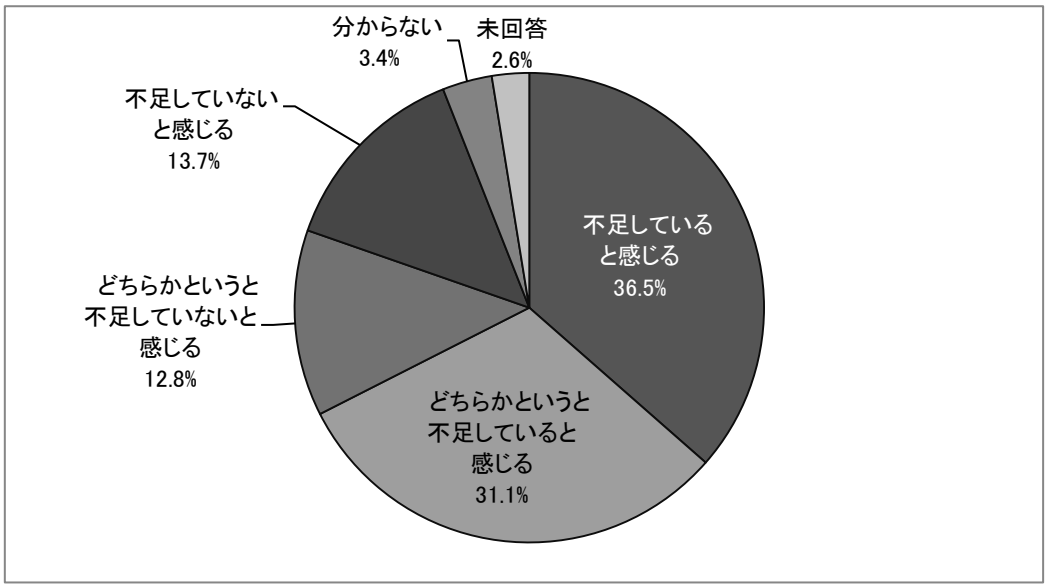
離職理由	回答 事業所数	回答率
本人の健康上の問題	89	27.3%
職場内における人間関係	74	22.7%
スキルアップのための転職	46	14.1%
就職前のイメージとの差異（思った仕事と違っていた等）	44	13.5%
親族等の介護のため	44	13.5%
年齢を原因とした退職（定年退職を含む）	43	13.2%
賃金・勤務形態等の処遇に対する不満	32	9.8%
不明	21	6.4%
結婚のため	17	5.2%
利用者との人間関係	15	4.6%
出産・育児のため	10	3.1%
その他	49	15.0%
離職者はいなかった	90	27.6%

介護人材に対する不足感

問9　貴事業所では，介護人材が不足していると感じますか。（回答は1つのみ）

【コメント】

全体で 67.6%の事業所が介護人材に対する不足感を訴えています。また「不足していないと感じる」「どちらかというと不足していないと感じる」とする事業所も 26.5%となっています。



選択肢	件数	構成割合
不足していると感じる	128	36.5%
どちらかというと不足していると感じる	109	31.0%
どちらかというと不足していないと感じる	45	12.8%
不足していないと感じる	48	13.7%
分からない	12	3.4%
未回答	9	2.6%
合計	351	100.0%

介護人材の不足により生じる問題

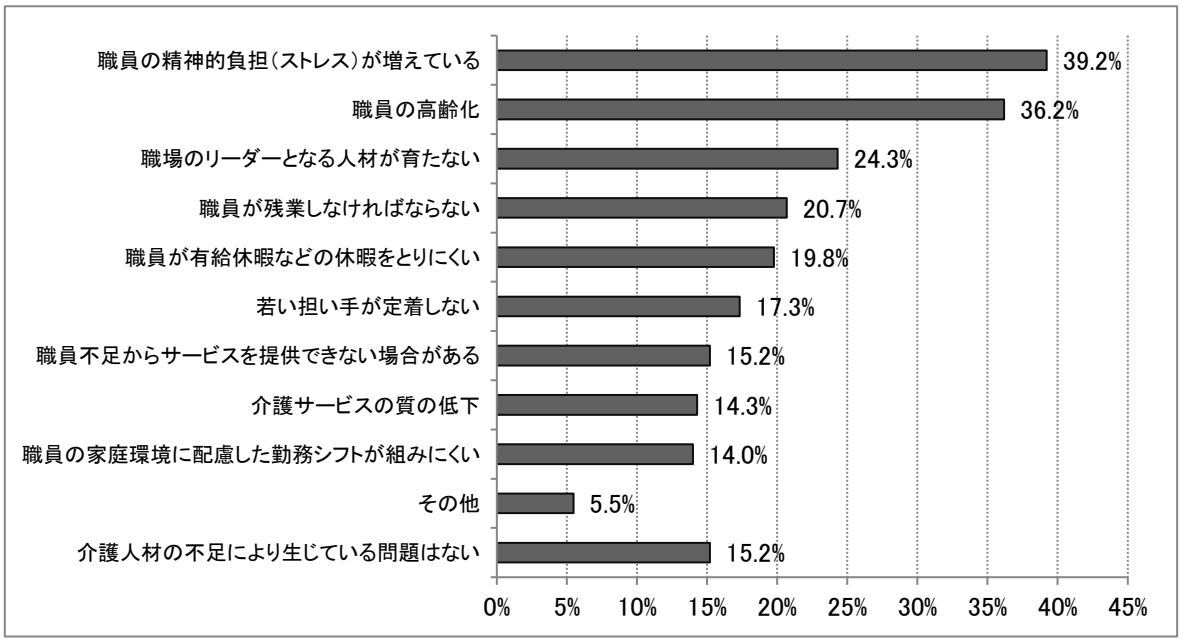
問 10　貴事業所では，介護人材の不足により生じている問題はありますか。（回答は当てはまるもの3つまで）

【コメント】

「職員の精神的負担（ストレス）が増えている」「職員の高齢化」と回答した事業所がともに 35%を超えています。

また，「介護人材の不足による問題はない」とする事業所も 15.2%となっています。

回答事業所	329
未回答事業所	22



※回答率（%）＝回答件数/事業所数

選択肢	件数	回答率
職員の精神的負担（ストレス）が増えている	129	39.2%
職員の高齢化	119	36.2%
職場のリーダーとなる人材が育たない	80	24.3%
職員が残業しなければならない	68	20.7%
職員が有給休暇などの休暇をとりにくい	65	19.8%
若い担い手が定着しない	57	17.3%
利用者（又はケアマネジャー）からのサービス依頼に対して，職員不足からサービスを提供できない場合がある。	50	15.2%
介護サービスの質の低下	47	14.3%
職員の家庭環境に配慮した勤務シフトが組みにくい	46	14.0%
その他	18	5.5%
介護人材の不足により生じている問題はない	50	15.2%

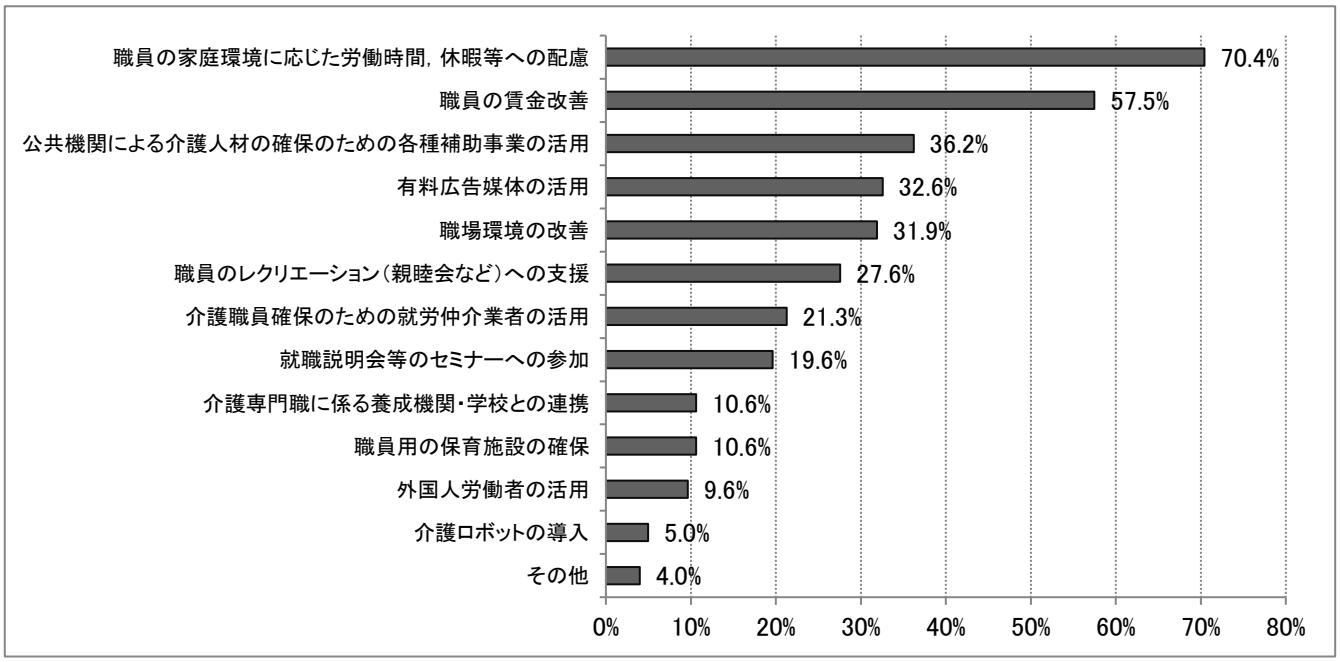
事業所における介護職員の確保策

問 11　貴事業所では，介護職員の確保のために特に取り組んでいることはありますか。（回答は当てはまるものを全て）

【コメント】

「職員の家庭環境に応じた労働時間，休暇等への配慮」「職員の賃金改善」がいずれも半数を超える回答となっています。

回答事業所	301
未回答事業所	50



※回答率（%）＝回答件数/事業所数

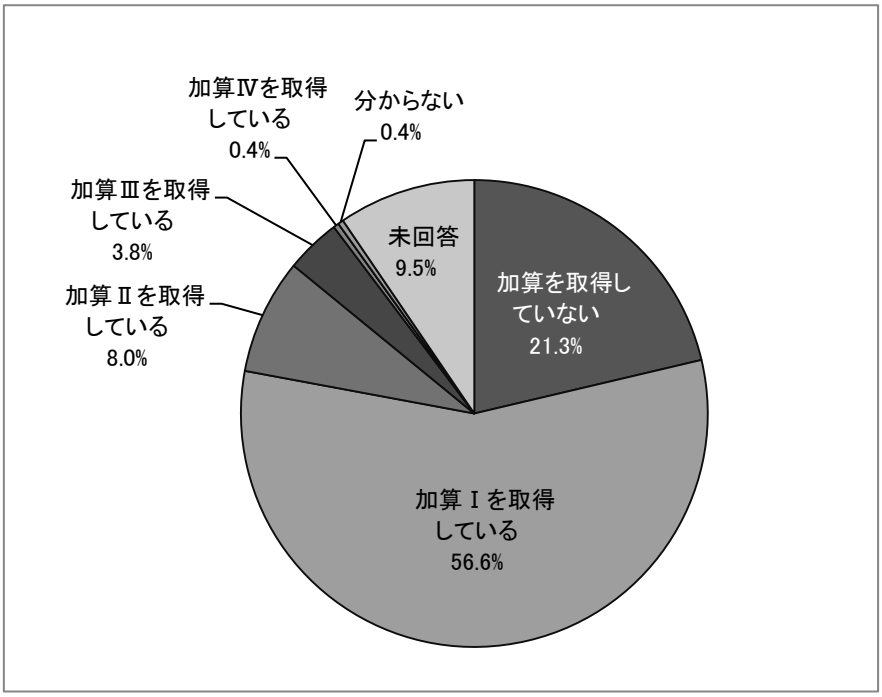
選択肢	件数	回答率
職員の家庭環境（出産・子育て・家庭介護等）に応じた労働時間，休暇等への配慮	212	70.4%
職員の賃金改善（介護職員処遇改善加算を活用したものを含む。）	173	57.5%
公共機関（ハローワーク・県社協等）による介護人材の確保のための各種補助事業の活用	109	36.2%
有料広告媒体の活用	98	32.6%
職場環境の改善（介護職員処遇改善加算を活用した賃金改善を除き，研修機会の確保や休憩設備の整備などを含む。）	96	31.9%
職員のレクリエーション（親睦会など）への支援	83	27.6%
介護職員確保のための就労仲介業者の活用	64	21.3%
就職説明会等のセミナーへの参加	59	19.6%
介護専門職に係る養成機関・学校との連携	32	10.6%
職員用の保育施設の確保	32	10.6%
外国人労働者の活用	29	9.6%
介護ロボット（センサーベッド等の見守り装置，コミュニケーションロボット，アシスト補助具等の国県補助によるものを含む。）の導入	15	5.0%
その他	12	4.0%

介護職員処遇改善加算の取得状況

問 12　貴事業所では，介護職員処遇改善加算を取得していますか。（回答は1つのみ，居宅介護支援事業所を除く）

【コメント】

全体で 68.8%の事業所が，介護職員処遇改善加算を取得しています。



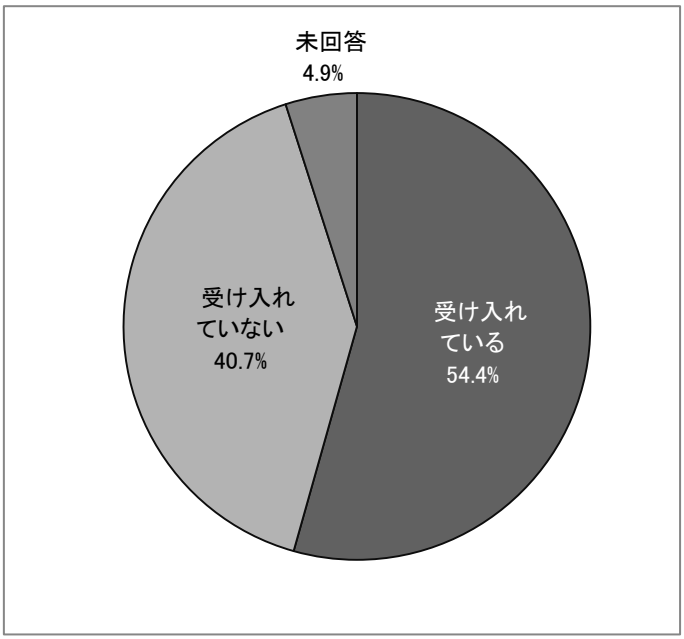
選択肢	件数	構成割合
加算を取得していない	56	21.3%
加算Ⅰを取得している	149	56.6%
加算Ⅱを取得している	21	8.0%
加算Ⅲを取得している	10	3.8%
加算Ⅳを取得している	1	0.4%
加算Ⅴを取得している	0	0.0%
分からない	1	0.4%
未回答	25	9.5%
合計	263	100.0%

ボランティアの受け入れ状況

問 13　貴事業所では，ボランティアの受け入れをしていますか。（回答は1つのみ，居宅介護支援事業所を除く）

【コメント】

ボランティアを受け入れている事業所は，全体の半数を超えています。

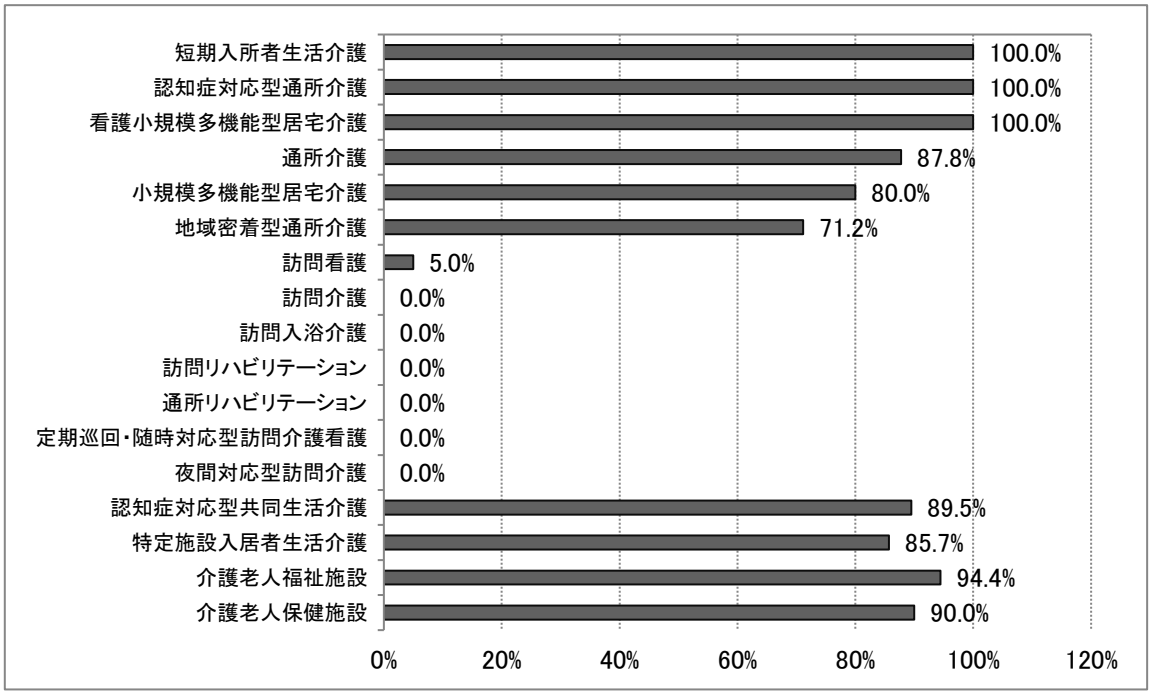


選択肢	件数	構成割合
受け入れている	143	54.4%
受け入れていない	107	40.7%
未回答	13	4.9%
合計	263	100.0%

サービス種類ごとのボランティア受け入れ状況

【コメント】

短期入所者生活介護（ショートステイ），認知症対応型通所介護，看護小規模多機能型居宅介護では，回答のあった事業所の全てでボランティアの受け入れを行っています。



※受け入れ率（%）＝ボランティアを受け入れている事業所数/事業所数

事業所種類		事業所数（A）	ボランティアを受け入れている事業所数（B）	受け入れ率（A/B）
居宅系サービス	短期入所者生活介護（介護老人福祉施設が提供するものを除く）	5	5	100.0%
	認知症対応型通所介護	3	3	100.0%
	看護小規模多機能型居宅介護	1	1	100.0%
	通所介護	49	43	87.8%
	小規模多機能型居宅介護	5	4	80.0%
	地域密着型通所介護	52	37	71.2%
	訪問看護	20	1	5.0%
	訪問介護	44	0	0.0%
	訪問入浴介護	3	0	0.0%
	訪問リハビリテーション	6	0	0.0%
	通所リハビリテーション	5	0	0.0%
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	0	0.0%
	夜間対応型訪問介護	1	0	0.0%
入居系サービス	認知症対応型共同生活介護	19	17	89.5%
	特定施設入居者生活介護	7	6	85.7%
入所系サービス	介護老人福祉施設（短期入所及び地域密着サービスを含む）	18	17	94.4%
	介護老人保健施設（短期入所を含む）	10	9	90.0%

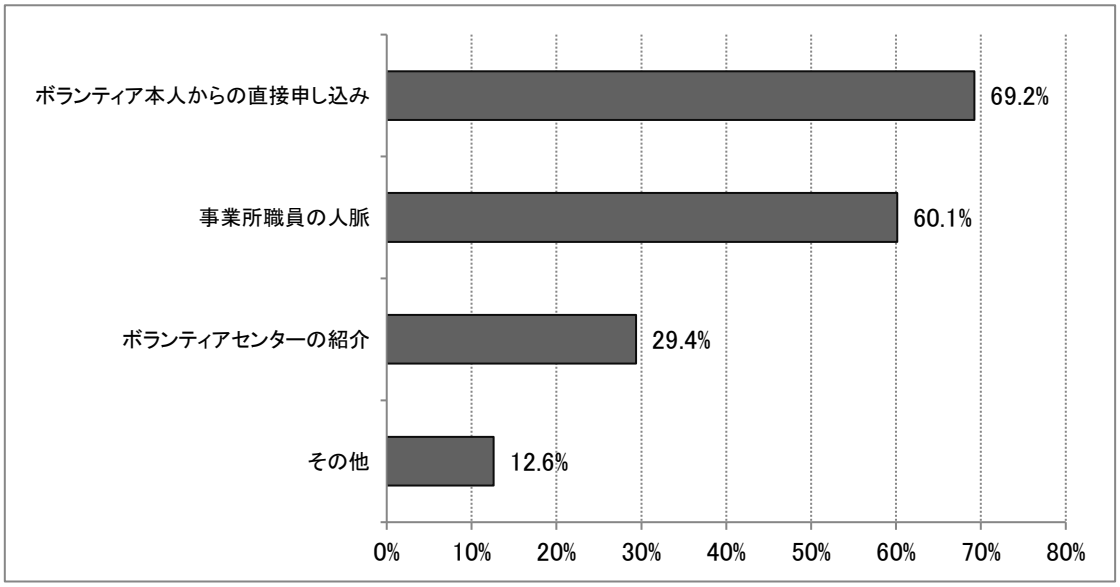
ボランティアの受け入れ経路

問 13　貴事業所ではボランティアをどのように探しましたか。（回答は当てはまるもの全て，居宅介護支援事所を除く，ボランティアを受け入れている事業所のみ回答）

【コメント】

ボランティアの受け入れについては，ボランティア本人からの直接申し込みが 69.2%と最も多くなっています。

回答事業所	143
未回答事業所	0



※回答率（%）＝回答件数/事業所数

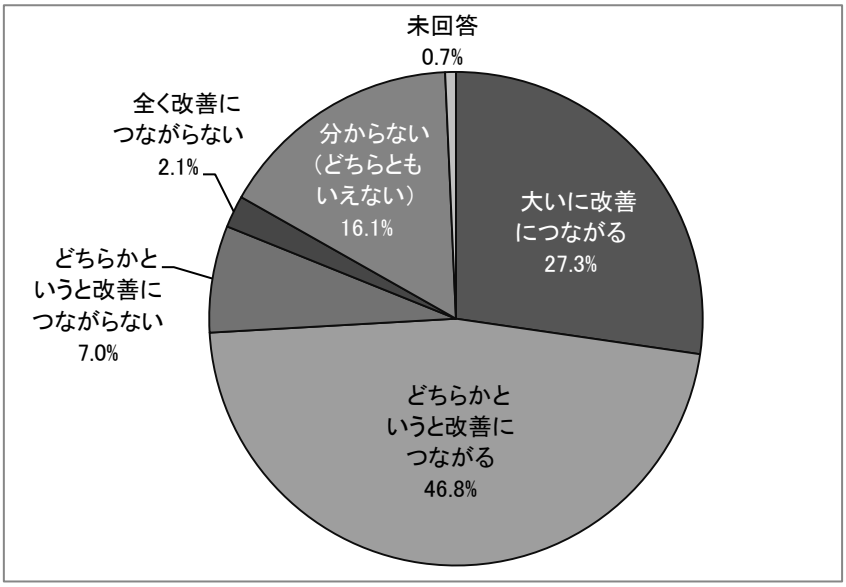
選択肢	件数	回答率
ボランティア本人からの直接申し込み	99	69.2%
事業所職員の人脈	86	60.1%
ボランティアセンターの紹介	42	29.4%
その他	18	12.6%

ボランティアによる職場環境の改善効果

問 15　貴事業所では，ボランティアを活用することで介護職員の職場環境の改善につながると考えていますか。
（回答は 1 つのみ，居宅介護支援事業所を除く，ボランティアを受け入れている事業所のみ回答）

【コメント】

ボランティアを受け入れている事業所の 74.2%が，ボランティアを活用することで介護職員の職場環境の改善につながるとしています。



選択肢	件数	構成割合
大いに改善につながる	39	27.3%
どちらかというと改善につながる	67	46.8%
どちらかというと改善につながらない	10	7.0%
全く改善につながらない	3	2.1%
分からない（どちらともいえない）	23	16.1%
未回答	1	0.7%
合計	143	100.0%

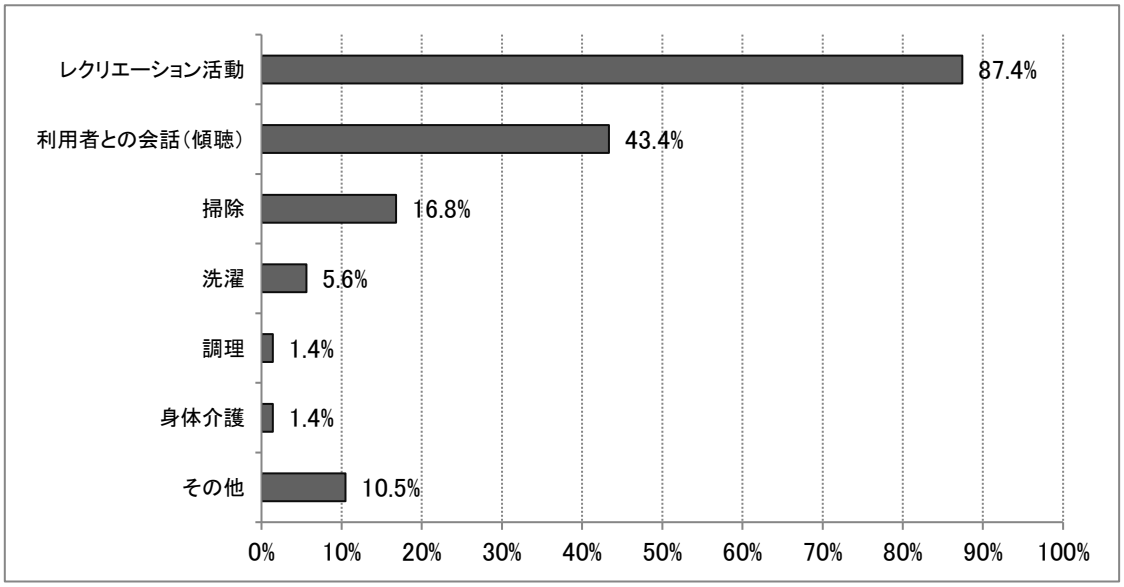
ボランティアが行う業務

問 16　貴事業所において，ボランティアはどのような業務に当たっていますか。（回答は当てはまるものを全て，居宅介護支援事業所を除く，ボランティアを受け入れている事業所のみ回答）

【コメント】

ボランティアは実際に，「レクリエーション活動」や「利用者との会話（傾聴）」などの，利用者との触れ合いに関する業務に多くあたっているようです。

回答事業所	143
未回答事業所	0



※回答率（%）＝回答件数/事業所数

選択肢	件数	回答率
レクリエーション活動	125	87.4%
利用者との会話（傾聴）	62	43.4%
掃除	24	16.8%
洗濯	8	5.6%
調理	2	1.4%
身体介護	2	1.4%
その他	15	10.5%

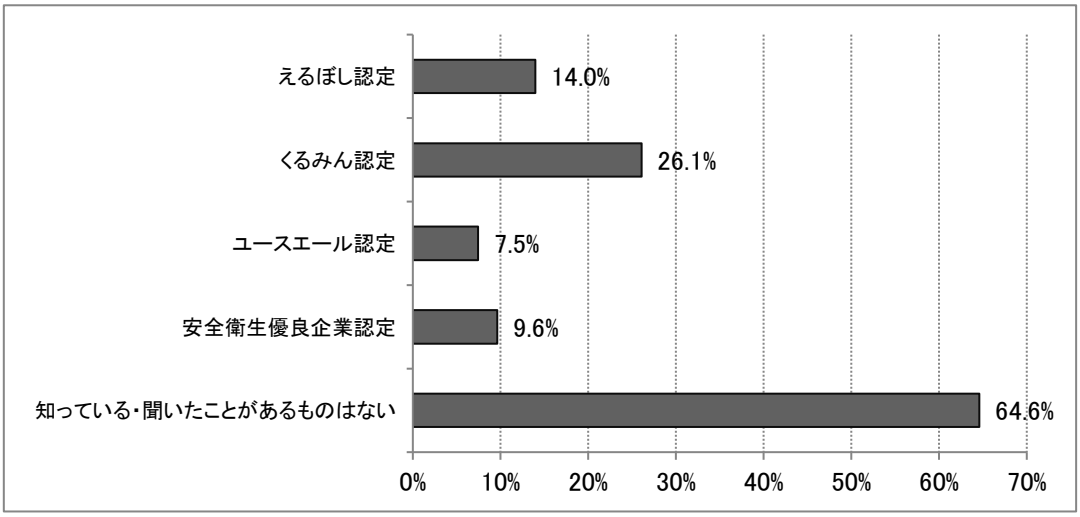
知っている認定制度

問 17　貴事業所では，労働局の認定制度の中で知っている，または聞いたことがあるものはありますか。（回答は知っている，聞いたことがあるもの全て）

【コメント】

労働局の認定制度の中では，「くるみん認定」が一番よく知られていますが，「知っている・聞いたことがあるものはない」と回答した事業所が 64.6%となっています。

回答事業所	322
未回答事業所	29



※回答率（%）＝回答件数/事業所数

選択肢	件数	回答率
えるぼし認定	45	14.0%
くるみん認定	84	26.1%
ユースエール認定	24	7.5%
安全衛生優良企業認定	31	9.6%
知っている・聞いたことがあるものはない	208	64.6%

【参考】労働局の各種認定制度

えるぼし認定	くるみん認定	ユースエール認定	安全衛生優良企業認定
女性の活躍推進に関する状況等が優良な企業として認定する制度	「子育てサポート企業」として認定する制度	若者の採用・育成に積極的で雇用管理状況などが優良な中小企業を認定する制度	高い安全衛生水準を維持・改善している企業を認定する制度

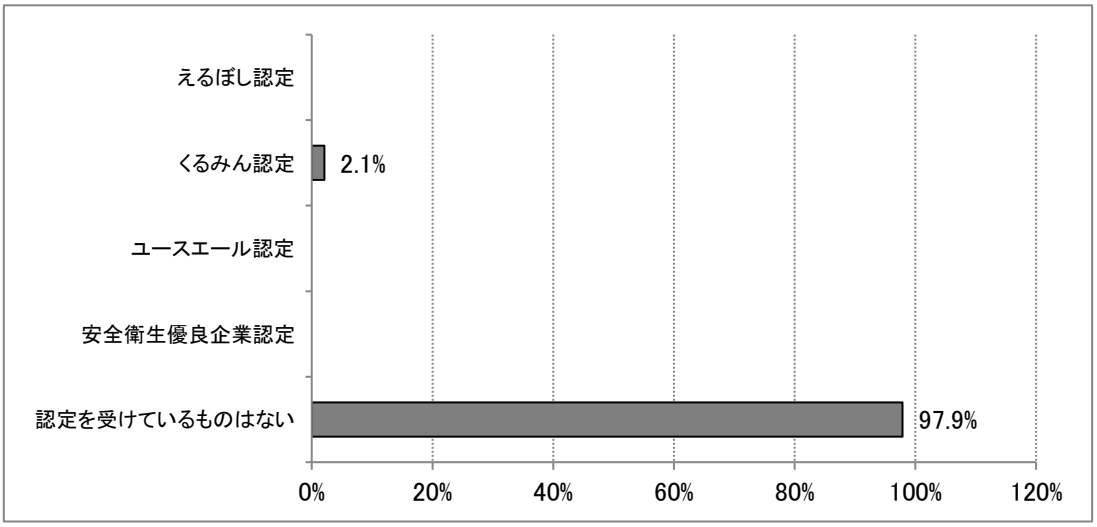
認定を受けている制度

問 18　貴事業所では，労働局の次の認定制度で受けているものはありますか。（回答は認定を受けているもの全て）

【コメント】

「くるみん認定」を受けている事業所が 2.1%となっています。認定を受けていない事業所は 97.9%となっています。

回答事業所	331
未回答事業所	20



※回答率（%）＝回答件数/事業所数

選択肢	件数	回答率
えるぼし認定	0	0.0%
くるみん認定	7	2.1%
ユースエール認定	0	0.0%
安全衛生優良企業認定	0	0.0%
認定を受けているものはない	324	97.9%

※なお，回答は，事業所数になっていますが，これらの認定は法人単位にされるものです。
法人数としては，くるみん認定を受けている法人が 3 法人となっています。

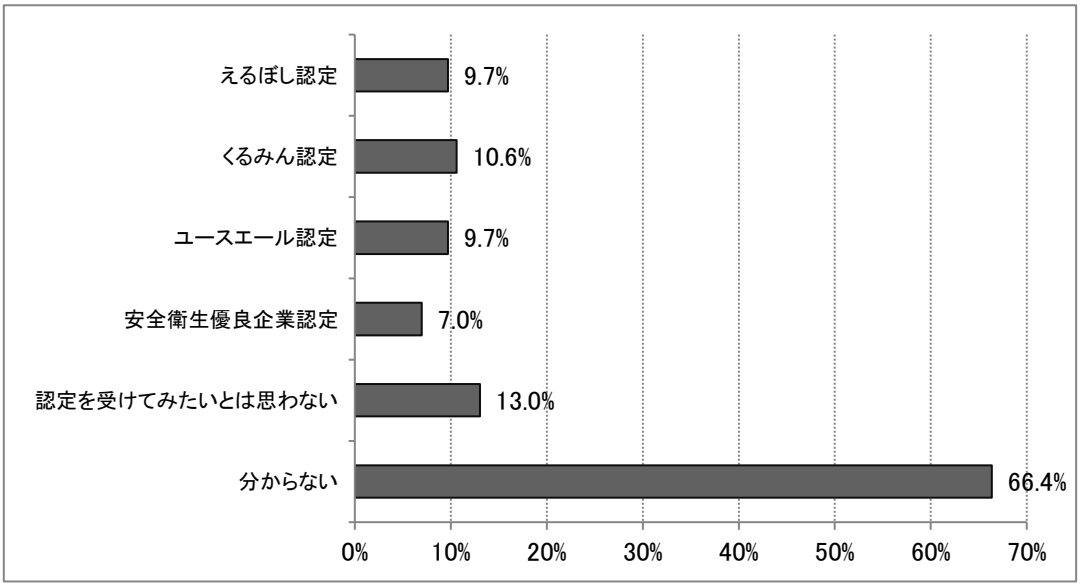
認定を受けてみたい制度

問 19　貴事業所では，労働局の次の認定制度で受けてみたいものはありますか。（受けてみたいと思うもの全て）

【コメント】

いずれの認定も受けてみたいという事業所が 10%前後あります。

回答事業所	330
未回答事業所	21



※回答率（%）＝回答件数/事業所数

選択肢	件数	回答率
えるぼし認定	32	9.7%
くるみん認定	35	10.6%
ユースエール認定	32	9.7%
安全衛生優良企業認定	23	7.0%
認定を受けてみたいとは思わない	43	13.0%
分からない	219	66.4%

第３回社会福祉審議会
高齢福祉専門分科会資料②
令和２年１０月２２日
水戸市高齢福祉課･介護保険課

各種ヒアリングの実施状況について

開催日	対象団体	主な意見
７月６日	水戸市老人福祉施設連絡会	(1) 介護相談員派遣事業について (2) 施設の整備について (3) 介護助手養成事業について (4) 情報共有について (5) 新型コロナウイルス感染症対策について
７月27日	ＮＰＯ法人水戸市地域密着型介護サービス協議会	(1) 介護職の人材確保について (2) 要介護度の改善について (3) 新型コロナウイルス感染症対策について (4) 医療と介護の情報共有について (5) 看多機，小多機の普及に向けた取組みについて (6) 行政への提出書類の簡素化等について
８月20日	茨城県介護支援専門員協会（水戸地区）	(1) 居宅サービスの現状について (2) 新型コロナウイルス感染症対策について (3) 災害対策について (4) ケアプラン点検（施設）について (5) ケアマネジメントの評価について
９月１日	公益財団法人　介護労働安定センター茨城支部	(1) これからの本市とセンターの連携のあり方について
９月	水戸市社会福祉協議会 水戸市民生委員児童委員連絡協議会 水戸市高齢者クラブ連合会 水戸市住みよいまちづくり推進協議会 水戸市地域女性団体連絡会 水戸商工会議所 水戸女性フォーラム 三の丸こだまの会	(1) 少子高齢化について (2) 計画の周知について (3) 移動支援について ※意見を聴く会（書面開催）

第３回水戸市社会福祉審議会
高齢福祉専門分科会資料③
令和２年１０月２２日
水戸市高齢福祉課・介護保険課

高齢者福祉の現状と課題を踏まえた今後の施策のあり方について

１　はじめに

第８期計画の策定に当たり，これまで実施した各種調査及びヒアリングの結果等を参考に，次のとおり本市の現状と課題及び検討の方向性を整理しました。これらの方向性について委員の皆様から御意見をいただき，最終的に審議会答申として調整を行ったのち，第８期計画に盛り込んでまいります。

２　協議事項

（１）成年後見制度の利用促進について

現状・課題	検討の方向性
今後，認知症高齢者や高齢者のみの世帯の増加が見込まれる中，判断能力が不十分で日常生活において支援が必要となった場合，成年後見制度の利用の必要性が高まっていくことが予想される。 成年後見制度を利用しつつ，地域の人々と支えあいながら，住み慣れた地域でその人らしく暮らせるよう，地域連携の仕組みを構築することが必要である。	高齢者福祉計画・介護保険事業計画に内包する形式で成年後見制度の利用促進にかかる基本計画を策定し，権利擁護支援の地域連携ネットワークの形成を早期に図ることとし，重点施策に位置付け，推進していくべきではないか。

（２）職能団体との連携によるケアプラン点検の実施について

<table>
<tr><th>現状・課題</th><th>検討の方向性</th></tr>
<tr><td>
職能団体との連携によるケアプラン点検は，職能団体との協議に基づき，毎月４事業所に対して実施（職能団体との意見交換会を開催する８月を除き年間 44 事業所）しているが，現計画の目標指標は，年間「50 件」としており，実情と異なる状況になっている。
また，ケアプラン点検は，これまで居宅介護支援事業所に対してのみ実施してきたが，介護保険施設等のケアマネジメントについての点検は行っていない。

○職能団体との連携によるケアプラン点検の実施件数
<table>
<tr><td>年度</td><td>2018</td><td>2019</td><td>2020</td></tr>
<tr><td>目標指標</td><td>50</td><td>50</td><td>50</td></tr>
<tr><td>実施値</td><td>40</td><td>43</td><td>11※</td></tr>
</table>
※コロナ禍の影響により実施できなかった期間あり（10 月現在）

○市内のケアマネジメントが存在する事業所（2020.10.1 現在）
<table>
<tr><td>事業所種別</td><td>事業所数</td></tr>
<tr><td>居宅介護支援事業所</td><td>107</td></tr>
<tr><td>特別養護老人ホーム</td><td>25</td></tr>
<tr><td>老人保健施設</td><td>12</td></tr>
<tr><td>グループホーム</td><td>27</td></tr>
<tr><td>有料老人ホーム（介護型）</td><td>11</td></tr>
<tr><td>小規模多機能型居宅介護</td><td>8</td></tr>
<tr><td>看護小規模多機能型居宅介護</td><td>3</td></tr>
</table>
</td><td>
職能団体との連携によるケアプラン点検は，今年度，３年目を迎え，円滑な運営が確保できていると考えられることから，現計画の目標指標である「職能団体との連携によるケアプラン点検の実施件数　年間 50 件」は，次期計画から廃止してはどうか。
また，職能団体との連携によるケアプラン点検は，居宅介護支援事業所において，一定の成果が見られていることから，今後は，居宅介護支援事業所以外の介護保険施設等におけるケアマネジメントについても，同様に点検を実施するべきではないか。
</td></tr>
</table>

（３）職員が１人の居宅介護支援事業所における安定したサービスの確保について

<table>
<tr><th>現状・課題</th><th>検討の方向性</th></tr>
<tr><td>
居宅介護支援事業所において職員が１人の事業所（いわゆる「ひとりケアマネ」）によるサービスの提供が見られるが，新型コロナウイルスへの感染をはじめとした緊急の事態が生じ，当該職員によるサービス提供に支障が生じた場合，安定したサービス提供の観点からリスクが認められる。

○居宅介護支援事業所において職員が１人の事業所の割合
<table>
<tr><th>年度</th><th>職員が１人の事業所の割合</th></tr>
<tr><td>2019</td><td>25%（27／108 事業所）</td></tr>
<tr><td>2020</td><td>27%（29／107 事業所）</td></tr>
</table>
※2020 年度は，９月末現在

○リスク回避策を講じていない事業所の割合（2020.10.1 現在）
76%（22／29 事業所）
※今後，職員を増やす予定だが，調査日現在，職員が１人の事業所は回避策を講じていない事業所とした。
</td><td>
居宅介護支援事業所のうち，職員が１人の事業所（いわゆる「ひとりケアマネ」）について，当該職員に緊急の事態が生じた場合，サービスの継続利用に支障が生じるなどの利用者が被るリスクを回避するため，事業所同士の業務提携による集団化を促すなど，利用者にとって安定したサービスの確保を図るべきではないか。
</td></tr>
</table>

（4）介護相談員派遣事業について

現状・課題	検討の方向性
介護相談員は，現在，居宅及び介護保険関係施設（特養，老健，グループホーム，有料老人ホーム）への訪問を実施しているが，これまで定期的な訪問はしていなかったサービス付き高齢者向け住宅等への訪問も含めて，ニーズの把握に努めることが課題となっている。	介護相談員派遣事業は，これまでの介護保険施設のほか，高齢者の居住形態の一つであるサービス付き高齢者向け住宅や宿泊サービスのあるデイサービスセンター（いわゆる「お泊りデイサービス」）への派遣についても取組むべきではないか。 また，介護相談員派遣事業が実効性あるものとするためには，行政及び事業者との意見交換の実施などにより，個々のニーズの把握に努めるべきではないか。

○介護相談員による居宅訪問件数

年度	2015	2016	2017	2018	2019
目標指標	―	―	―	1,300	1,300
実績値	1,412	1,103	1,236	1,694	1,793

○介護相談員の訪問施設数及び施設相談件数の推移

年度	2015	2016	2017	2018	2019
訪問施設数	161	130	136	126	156
相談件数	3,536	2,479	2,673	3,263	2,788

○介護相談員派遣事業に関する事業所調査（2020 年 7 月実施）

回答事業所　69　　（カッコ内の数値は回答事業所数）

設問	有効	有効でない	どちらともいえない
介護相談員の訪問は，事業所の運営において有効だと思いますか。	68%(47)	7%(5)	25%(17)
設問	続けてほしい	続けてほしくない	どちらともいえない
介護相談員の訪問について，今後も続けることについてどう思われますか。	65%(45)	6%(4)	29%(20)

現状・課題	検討の方向性
○市内入所，入居系施設等の状況（2020.4.1 現在） 事業所種別 / 施設数 / 床数 特別養護老人ホーム 24 1,621 老人保健施設 12 1,038 グループホーム 27 522 有料老人ホーム（介護型） 11 691 サービス付き高齢者向け住宅（住宅型） 33 845 宿泊サービスのあるデイサービスセンター 17 114	

（5）介護人材の確保について

現状・課題	検討の方向性
賃金の改善につながる処遇改善加算の取得の有無と離職率・充足率との間には，相関関係が認められなかった。 また，介護職員の離職理由のうち，「賃金に対する不満」を理由とするものよりも，「本人自身の問題」や「職場内の人間関係」など，賃金以外の要因を離職の理由に挙げることが多いことから，人員の定着には，賃金以外のアプローチの必要が認められる。 ○処遇改善加算取得・未取得別の離職率・充足率（水戸市介護人材の確保に関する事業所実態調査） ※処遇改善加算の取得について，「わからない」「未回答」「対象外」としたものは，含めていない。 ※処遇改善加算とは，介護職員の賃金向上を目的に，介護報酬を加算して支給する制度のこと。加算を取得した事業所は，加算額に相当する賃金改善を実施しなければならない。 ○地域密着型サービス事業所における介護職員処遇改善加算の実施率 ※2020 年度の実績値は，10 月 1 日現在	処遇改善加算の取得が，必ずしも離職率の改善や充足率の向上につながっているとは言い難いことから，現計画の目標指標「地域密着型サービス事業所における介護職員処遇改善加算の実施率」の項目は，次期計画から廃止すべきではないか。 また，介護人材の確保のためには，職員を定着させることが重要であるが，離職理由として，職場環境を挙げていることが多いことから，保険者として，職場環境の改善や職員のモチベーション向上を目指した取組を進めるべきではないか。

加算取得の別	2018 年度		2019 年度		2020 年度	
	離職率	充足率	離職率	充足率	離職率	充足率
取得	14.0%	95.1%	15.5%	107.0%	13.1%	101.5%
未取得	11.8%	89.1%	9.5%	113.6%	6.0%	69.6%

年度	2018	2019	2020
目標指標	80%	85%	90%
実績値	79%	82%	82% ※

現状・課題	検討の方向性
○職員の離職理由（水戸市介護人材の確保に関する事業所実態調査） ※複数選択式により回答。○は，回答数の多い順に順位付けしたもの。回答数の順位に，「その他」「離職者なし」「不明」は含めていない。	

離職理由（上位７つを抜粋）	2019 年度	2020 年度
本人の健康上の問題	① 27.3%	① 21.1%
職場内における人間関係	② 22.7%	② 19.6%
スキルアップのための転職	③ 14.1%	③ 17.3%
親族等の介護のため	④ 13.5%	④ 12.0%
就職前のイメージとの差異	④ 13.5%	⑤ 9.4%
賃金･勤務形態等の処遇に対する不満	⑦ 9.8%	⑥ 8.8%
年齢を原因とした退職	⑥ 13.2%	⑦ 7.9%

（6）介護離職防止に向けたサービスの普及促進について

<table>
<tr><th>現状・課題</th><th>検討の方向性</th></tr>
<tr><td>定期巡回・随時対応型訪問介護看護及び看護小規模多機能型居宅介護は，補助金を活用した基盤整備により普及が進んでいるが，介護をする家族が離職することなく，安心して生活できるよう，引き続き高齢者を 24 時間体制で支えるサービス基盤の確保を図る必要がある。

○定期巡回・随時対応型訪問介護看護の利用推移
<table><tr><td>年度</td><td>2015</td><td>2016</td><td>2017</td><td>2018</td><td>2019</td></tr><tr><td>事業所数</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>利用回数</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>1,439</td><td>9,123</td></tr></table>
○看護小規模多機能型居宅介護の利用推移
<table><tr><td>年度</td><td>2015</td><td>2016</td><td>2017</td><td>2018</td><td>2019</td></tr><tr><td>事業所数</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>利用回数</td><td>5,374</td><td>4,926</td><td>5,379</td><td>10,112</td><td>15,796</td></tr></table></td><td>定期巡回・随時対応型訪問介護看護及び看護小規模多機能型居宅介護は，24 時間切れ目のないサービスを提供するものであり，基盤整備によりサービスが順調に伸びている。親族を介護するための介護離職を防止する観点から，今後も，サービス基盤の確保に向けて，公募による基盤整備を進めるべきではないか。</td></tr>
</table>